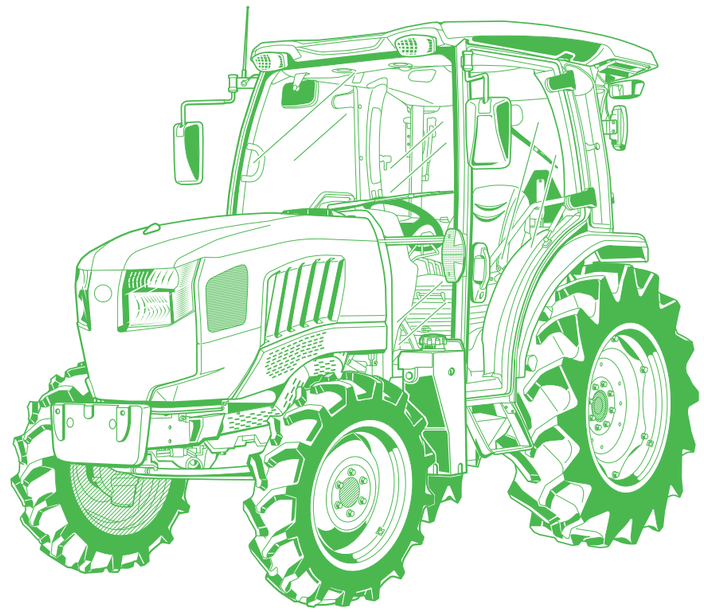
トラクタ

取扱説明書

GJE 33・33H



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために，操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですので良く理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

異常警告	高速又は高
エンジン異常警告	低速又は低
火気厳禁	３点リンク（上げ）
ディーゼル軽油	３点リンク（下げ）
アワメータ（積算時間計）	作業灯（フロントサイド）
グロー	作業灯
バッテリ充電異常	ワイパ（前）
エンジンオイル圧力	ワイパ（後）
エンジン水温	再生状態
エンジン回転	再生禁止
シートベルト	駐車再生
メンテナンス	駐車再生要求
ホーン	ブレーキ
ハザードランプ	クラッチ
方向指示器	モンロシリンダ上げ
ヘッドライト（下向）	モンロシリンダ下げ
ヘッドライト（上向）	
駐車ブレーキ	

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは，下記の点を明確にして，お買いあげ先へお問合わせください。

●ご使用機の型式と機械番号（製造番号）は…？

型　　式

機械番号（製造番号）

キーナンバー

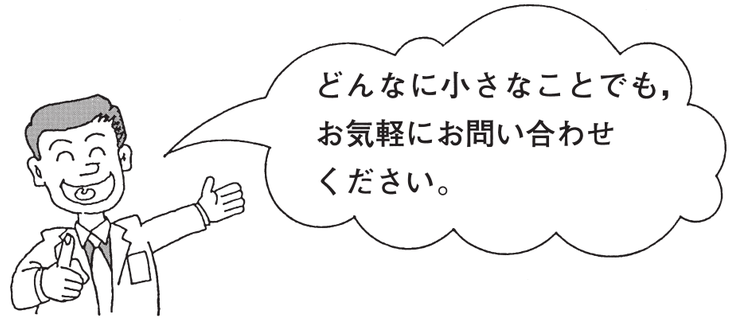
●ご使用状況は…？

（何速で，どんな作業のとき）

●どのくらい使用されましたか？

（約 _____ アール使用後）

●トラブルが発生したときの状況を，できるだけ詳しくお教えください。



（ご相談窓口）お買いあげ先

TEL　　（　　）

はじめに

このたびは，三菱マヒンドラ農機製品をお買上げいただきありがとうございます。
製品をご使用になる前に本書をよくお読みいただき，正しくお使いください。本書は，いつでもご覧頂ける場所に，大切に保管してください。なお，予告なく製品の仕様が変更されることがあります。本書の内容が，製品と一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠ 安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げの購入先に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠ **危　険**	注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
⚠ **警　告**	注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠ **注　意**	注意事項を守らないと，ケガを負うおそれのあるものを示します。
重　要	注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。
補　足	その他，使用上役立つ補足説明を示します。

仕様について

この取扱説明書では，仕様の異なる製品を下記のように表示していますので，お買上げの製品の仕様をお確めのうえ，お間違いのないようお願いいたします。
なお，説明はGJE33 安全キャブ仕様を基本とし，GJE33 と取扱いが異なる場合はその都度追加説明してあります。

- 走行速度（ギヤ比）によって ..... ハイスピード［高速走行］(H) 仕様
- 安全キャブ付き ..... 安全キャブ仕様
- 安全フレーム付き ..... 安全フレーム仕様
- パワクロ仕様 ..... K 仕様
- 小径タイヤ仕様 ..... S 仕様

本書の見方

この取扱説明書には必要な情報が容易に検索できるよう，一般目次以外に下記３つの目次を掲載しています。
目的に応じ使い分けの上，必要な情報の検索にご活用ください。

1. 目的目次　　困った事，知りたい事などから関連する項目の説明ページが検索できます。

2. 絵目次　　レバーやスイッチの名称が分からなくても，イラストから確認したいレバーやスイッチの説明ページが検索できます。

3. 索引（巻末）　　調べたい名称から掲載ページが検索できます。
例えば［エンジンオイルの交換のしかた］のページを調べたい場合，「あ行」の［エンジンオイルの交換］で説明ページが検索できます。

その他について

商標について

商　標	商標権者について
AdBlue®	AdBlue はドイツ自動車工業会（VDA）の登録商標です。

本書に記載されている会社名，製品名，サービス名は，それぞれ各社の商標または登録商標です。本文中では，それらの名称には必ずしも商標表示（™，®）を付記していません。

目　次

⚠安全に作業するために

安全キャブ，安全フレームについて... ⚠-1
運転前に... ⚠-2
始動時に... ⚠-3
運転時に... ⚠-3
作業機使用時に... ⚠-6
道路走行時に... ⚠-7
駐車，格納時に... ⚠-8
点検・給油・整備時に... ⚠-9
パワクロ仕様の場合... ⚠-13
運転時に... ⚠-13
あゆみ板使用時に ... ⚠-14
安全ラベルと貼付け位置... ⚠-15
安全ラベルの手入れ... ⚠-20

サービスと保証／小型特殊自動車としての取扱い

サービスと保証... 1
ご相談窓口 ... 1
補修用部品の供給年限について ... 2
取扱説明書の収納 ... 2
農機型式一覧表 ... 3
小型特殊自動車としての取扱い... 4
小型特殊自動車取得の届出と標識（ナンバープレート）の取付け ... 4
低速車［SMV］マーク ... 4
運転免許 ... 5
損害賠償保険について ... 5
公道走行時の注意 ... 5
輪距 ... 5

運転のしかた

運転前の点検... 6
排ガス後処理装置... 6
ディーゼル・パーティキュレート・フィルタ（DPF）マフラ... 6
取扱いポイント ... 7
液晶モニタの表示 ... 7
DPF マフラの再生方式... 8
再生操作手順 ... 10
PM 堆積の警告レベルと必要な処置... 11
操作手順 ... 12
PM 堆積の警告レベルと必要な処置... 13
DPF の再生に関する豆知識... 15
エンジンの始動と停止... 15
始動のしかた ... 16
キースイッチ ... 17
オートグロー ... 18
モニタランプ ... 19
停止のしかた ... 21
寒冷時の暖機運転... 22
バッテリあがりの処置... 23
ならし運転（最初の約 50 時間）... 23
運転席周りの調節 ... 23
シート... 23
安全キャブ・安全フレームとシートベルト 24
チルトステアリングハンドル... 25
バックミラー... 26
灯火類の操作 ... 26
ヘッドライトスイッチ... 26
ウインカスイッチ... 26
ハザードスイッチ... 27
ホーンボタン... 27
フロントサイド作業灯... 27
バックランプ... 28
ブレーキランプ... 28
車幅灯・尾灯... 28
外部電源取出端子 ... 28
外部電源・信号取出端子... 28
トレーラカプラ電源... 29
発進・走行 ... 30
停車・駐車 ... 31
ブレーキペダル... 32
クラッチペダル... 33
各変速レバーの取扱い ... 34
主変速レバー... 34
クリープレバー... 37
シャトルレバー... 38
走行モード切換スイッチ... 39
アクセルレバーとアクセルペダル... 41
駐車ブレーキ... 41
省エネ運転のしかた ... 41
メータパネル表示... 41
電子メータパネル ... 43
電子メータ... 43
液晶表示... 44
表示の切替え... 47
電子メータメッセージのリセット法... 49
電子メータパネル（その他表示）... 50
メンテナンス表示... 50
作業条件メモ... 51
エンジン始動セキュリティ機能 ... 52
暗証番号の入力方法... 53
エンジン始動セキュリティ機能の［入］/［切］設定方法（工場出荷時：OFF に設定）... 54
暗証番号の変更方法... 55
電子エンジン制御 ... 56
エンジン回転メモリ設定... 56
エンジン回転メモリ操作方法... 57
e-アシスト旋回 ... 57
時刻合わせと表示・非表示の設定... 60
運転中の作動確認 ... 60
イージーチェッカ... 60
燃料計... 61

目　次

エンジン回転計 61
水温計 62
状況に応じた操作 62
デフロックの使い方 62
旋回のしかた 63
坂道での運転 63
ほ場への出入り時の注意 63
道路走行中の注意 64
トラックへの積み・降ろし 65
パワーステアリングの取扱い 66
パワクロ仕様の運転のしかた 66
ローダ作業 68

作業のしかた

作業機昇降装置 69
油圧（ポジションコントロール）レバー .. 69
三点リンク高さ規制ダイヤル 69
ポンパレバー / ポンパスイッチ（安全キャブ仕様のみ） 70
オートアップスイッチ 72
バックアップスイッチ 73
作業機落下速度の調整 73
モンローマチック・オート 75
各部の名称 75
ワンタッチ耕うんモードスイッチ 76
3P 切換スイッチ 77
モンロースイッチ 78
切換スイッチ 80
モンロー角度調節ダイヤル 81
オートスイッチ 81
耕深調節ダイヤル 82
モンロー手動スイッチ 82
作業機の取扱い 82
三点リンク 83
各部の名称 83
オートワイヤ 84
ロアリンク取付け穴の選択 84
トップリンク 85
チェックチェーン 85
作業機を取付けないときの注意 86
けん引ヒッチ（別売） 86
けん引フック 87
PTO 87
あんしん PTO スイッチ 87
PTO 変速レバー 89
PTO 軸カバー，PTO 軸キャップ 90
タイヤ 90
タイヤの空気圧 90
輪距の調整 91
前輪 91
後輪 91
後輪輪距 92
ウエイト（オプション） 93
前部ウエイト（オプション） 93
一般的な耕うん要領 94
隣接耕うんのしかた 94
一うねおき耕うんのしかた 94
トラクタの方向転換のしかた 94

安全キャブ装備品の取扱い

ドア・窓の開閉とロック 95
ドア 95
リヤウインド 96
クォータウインド 96
ルームランプ 97
ルームランプ 97
ワイパ 97
フロントワイパ・ウォッシャスイッチ 97
リヤワイパ・ウォッシャスイッチ 97
寒冷時のワイパの使用 98
作業灯 98
作業灯スイッチ 98
作業灯 98
その他のアクセサリ 98
サンバイザ［ハイスピード (H) 仕様のみ］. 98
ルームミラー［ハイスピード (H) 仕様のみ］99
オートエアコン 99
空気の流れ 99
風向調整 100
コントロールパネル 100
ヒータ使用上の注意 101
CD/MP3 プレーヤの取扱いについて［安全キャブ仕様のみ］ 102
お問合せについて 102
プレーヤ機器の電源が入らない時の対応. 102
本機で利用できないプレーヤ機器の機能について 102
プレーヤ機器本体の外し方 102
アンテナ 103
作業機の装着 103
作業機用操作ボックスの取付 103

トラクタの簡単な手入れと処置

廃棄物の処理について 104
洗車時の注意 104
定期点検箇所一覧表 106
給油（水）一覧表 109
トラクタの給油（水） 109
推奨オイル・グリース一覧表 110
エンジンオイル・ミッションオイル 110
グリース 110
ボンネットの開閉及びサイドカバーの外し方 111
ボンネットの開閉 111
サイドカバーの取り外し 111
日常点検 112
前日の異常箇所 112

目　次

トラクタの周りを歩いて 112
エンジンオイルの量及び汚れ 112
ミッションオイルの量及び汚れ 113
冷却水の量 113
セパレータの確認 113
ウォータセパレータの水の排出 114
バキュエータバルブの清掃 114
ワイヤハーネス，バッテリ（＋）コードの点検・交換 114
タイヤの空気圧，及び摩耗，損傷 115
防虫網の清掃 115
DPF の点検..... 116
ブレーキペダルの遊び・点検 117
駐車ブレーキの作動点検 117
クラッチペダルの遊び・点検 117
メータ・ランプ類の作動 118
燃料の補給 119
エンジンの始動確認 119
エンジンの排気の状態 119
燃料給油時の便利な機能と装置..... 119
満タンお知らせブザーの取扱い 119
日常点検［パワクロ仕様］..... 119
日常点検箇所一覧 120
ゴムクローラの張り調整 120
30 時間ごとの点検・整備 121
グリースの注入 121
50 時間ごとの点検・整備 122
グリースの注入 122
エンジン始動システムの点検 123
タイヤ取付けボルトの点検 123
クラッチハウジングの水抜き 124
パワーステアリングホースの点検 124
燃料ホースの点検 125
100 時間ごとの点検・整備 126
バッテリ電解液の点検 126
エアクリーナエレメントの清掃 128
ファンベルトの点検・調整 128
ブレーキペダルの点検・調整 129
クラッチペダルの点検・調整 129
エキゾーストパイプ及びマフラの状態 ... 129
200 時間ごとの点検・整備 130
エンジンオイルの交換 130
エンジンオイルフィルタカートリッジの交換 131
ラジエータホースの点検 131
オイルクーラホースの点検 132
オイルセパレータホースの点検 132
吸気ホースの点検 132
トランスミッションオイルフィルタカートリッジの交換 133
ステアリングジョイント部の点検 133
トーイン調整・タイロッドの点検 133
内気フィルタの清掃 134
外気フィルタの清掃 134
エアコンコンデンサの詰まり 135
エアコンベルトの張り 136
クローラガイドの点検..... 136
転輪・遊輪の点検..... 136
スプロケットの点検..... 136
ゴムクローラの点検..... 136
300 時間ごとの点検・整備 136
前車軸ケースオイルの交換..... 136
400 時間ごとの点検・整備 137
ミッションオイルの交換..... 137
燃料フィルタカートリッジの交換..... 138
セパレータの清掃..... 138
600 時間ごとの点検・整備 139
前部デフケースの前後遊びの調整..... 139
800 時間ごとの点検・整備 139
エンジンバルブクリアランスの点検..... 139
1500 時間ごとの点検・整備 139
燃料インジェクタの点検..... 139
オイルセパレータエレメントの交換..... 139
EGR クーラの点検・清掃 139
3000 時間ごとの点検・整備 140
サプライポンプの点検..... 140
EGR システムの点検・清掃 140
DPF マフラの清掃 140
３ヵ月ごとの点検・整備 140
エアコン機器の簡易点検..... 140
１年ごとの点検・整備 140
エアクリーナエレメントの交換..... 140
ヒータ配管，ウォータホースの点検..... 140
エアコン配管，ホースの点検..... 140
エキゾーストマニフォールドの点検..... 140
DPF 差圧センサパイプの点検 140
EGR パイプの点検 140
２年ごとの点検・整備 141
冷却水の交換..... 141
ラジエータの洗浄..... 142
ラジエータホースの交換..... 142
パワーステアリングホースの交換..... 142
吸気ホースの交換..... 142
燃料ホースの交換..... 142
モンローシリンダホースの交換..... 142
メインシリンダホースの交換..... 142
オイルクーラホースの交換..... 142
オイルセパレータホースの交換..... 142
DPF 差圧センサホースの交換 142
ブーストセンサホースの交換..... 142
必要に応じた点検・整備 143
燃料の空気抜きのしかた..... 143
ヒューズの交換..... 143
スローブローヒューズの交換..... 144
ヘッドランプの交換..... 144
ランプ一覧..... 145
ホーン接点のグリース塗布..... 145
注油..... 145
ウォッシャ液の補充..... 145
冷媒（ガス）量の点検..... 146
スプロケットの交換..... 146

目　次

ゴムクローラの交換 146
格納 147
長期格納時の手入れ 147
作業機を装着しているトラクタの保管について 148
長期格納後の運転 148
不調と処置 149
エンジンの不調と処置 149
トラクタの故障と処置 151

付表

主要諸元 156
トラクタの主要諸元 156
走行速度表 158
標準付属品 160
主な消耗部品一覧表（純正部品を使いましょう） 161
パワクロ仕様足回り交換部品一覧表 163
アタッチメント一覧表（純正部品を使いましょう） 164
インプルメント一覧表 167
センサリンク取付要領 168
作業ごとの一般的な調整要領 169
インプルメントの大きさの上限について 171

索引

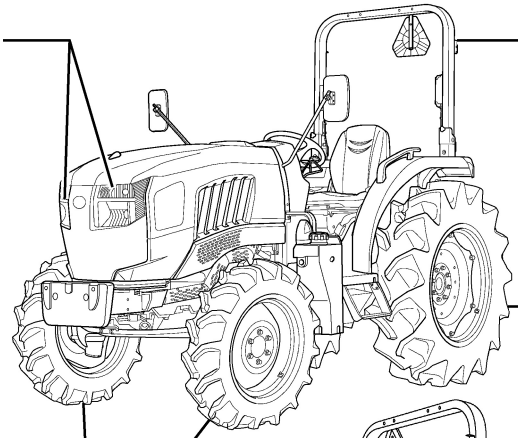
索引 172

困ったときには

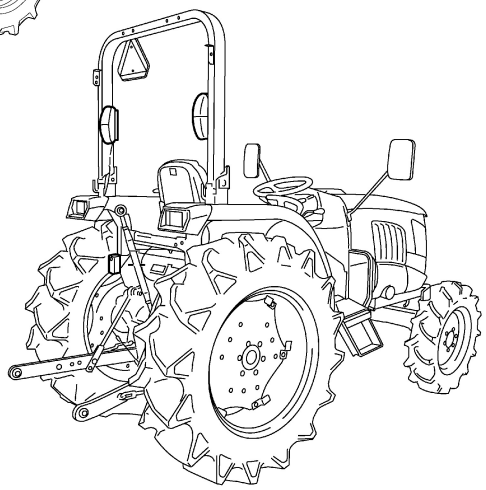
目的目次

	目的・場面	項目	参照ページ
エンジン始動時に	寒冷時暖機運転時間がどの程度必要か	寒冷時の暖機運転	22
	スタータモータが回らない	エンジンの始動と停止	15
道路走行時に	2WD，4WD，倍速，AD を切換えるには	走行モード切換スイッチ	39
	インプルメントの落下防止を施すには	作業機落下速度の調整	73
	トレーラ用電源コンセントを接続するには	トレーラ用カプラ	29
作業時に	省エネ運転をするには	省エネ運転のしかた	41
	PTO 回転数を変更するには	PTO 変速レバー	89
	インプルメントを取付けるには	三点リンク	83
	インプルメント用電源や車速信号を取出すには	外部電源取出端子	28
	インプルメント用操作ボックスを取付けるには	作業機用操作ボックスの取付	103
	タイヤがスリップする	デフロックの使い方	62
	モンロー／オートをワンタッチで設定するには	ワンタッチ耕うんモードスイッチ	76
	エンジン回転数を記憶させるには	エンジン回転数メモリ設定	56
	モンロー／オートの設定を任意変更するには	ワンタッチ耕うんモードスイッチ	76
	モンロー／オートの一般的な調整要領を知りたい	作業ごとの一般的な調整要領	169
	ロータリカバーを上げた状態でオートを使うには	オートスイッチ	81
	作業機の上げ高さを規制するには	三点リンク高さ規制ダイヤル	69
	旋回時，自動的にロータリを上げるには	オートアップスイッチ	72
	後進時，自動的にロータリを上げるには	バックアップスイッチ	73
	ロータリを上げた時，自動的に PTO の回転を止めるには	あんしん PTO スイッチ	87
	電子メータにメッセージが表示された時には	電子メータパネル	43
	電子メータ内の赤色ランプが点灯（点滅）した時には	運転中の作動確認	60
	電子メータの表示内容を変更するには	表示の切替え	47
メンテナンス時に	ボンネットの開け方を知りたい	ボンネットの開閉	111
	日常点検ですべきことは	日常点検	112
	オイル，冷却水量を知りたい	給油（水）一覧表	109
	適切なオイルの種類を知りたい	推奨オイル・グリース一覧表	110
	電球が切れた時には	主な消耗部品一覧表	161
	燃料切れでエンジンが止まった	燃料の給油・空気抜きのしかた	119，143
	トラクタのマイコンでメンテナンスの時間管理を行なうには	電子メータパネル（その他表示）	50
	時計の時刻を合わせたい	電子メータパネル（その他表示）	50，60
	パワクロメンテナンス項目を知るには	日常点検**［パワクロ仕様］** パワクロ仕様の点検・交換手順	119

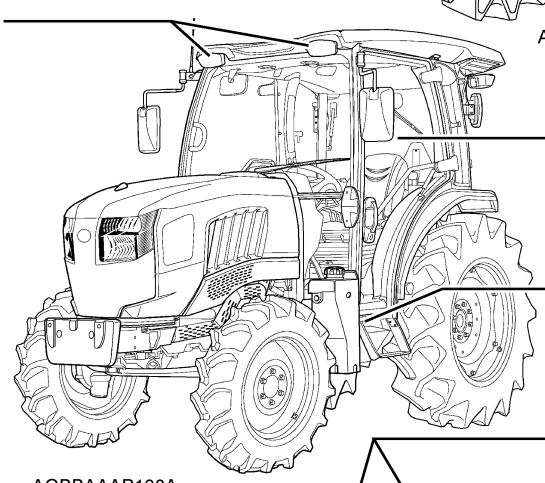
■ 外観



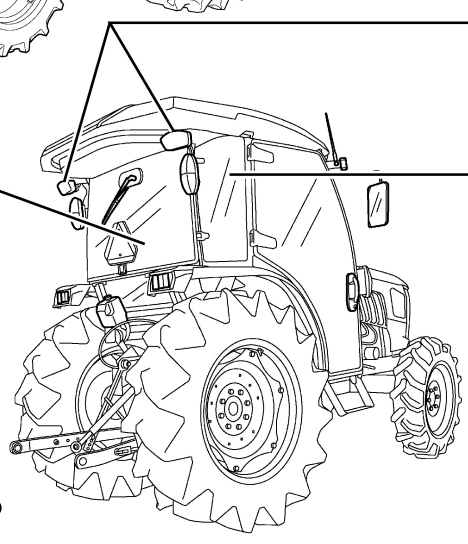
1AGBBAAAP178A



AGBBAAAP179A

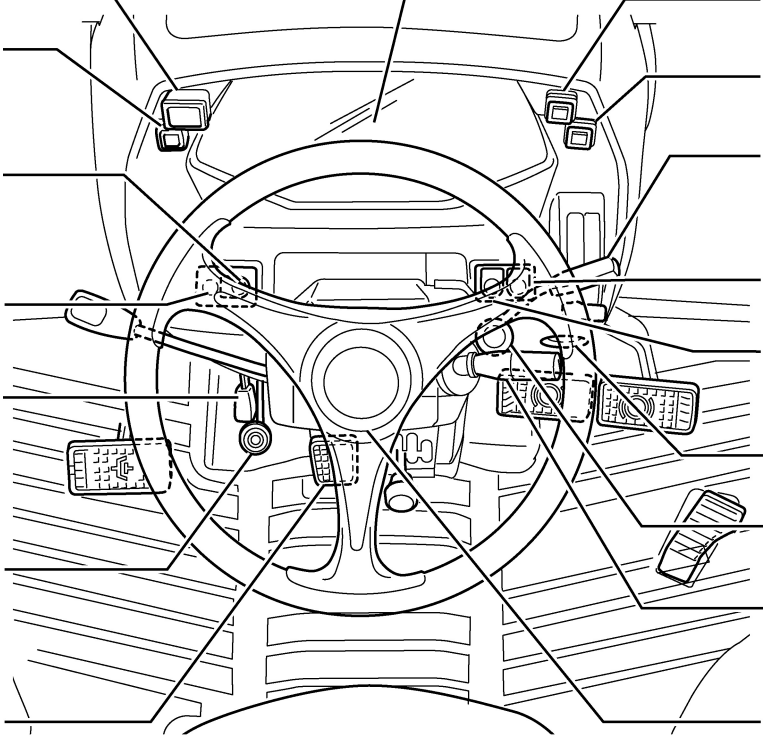


AGBBAAAP180A



1AGBBAAAP004D

■ ハンドル部



ハザードスイッチ
(27 頁)

フロントサイド
作業灯スイッチ
(27 頁)

走行モード
切換スイッチ
(39 頁)

表示切換スイッチ
(47 頁)

連結解除ペダル
ロックレバー
(16, 32 頁)

チルトペダル
(25 頁)

連結解除ペダル
(16, 32 頁)

電子メータパネル
(43 頁)

再生禁止スイッチ
(13 頁)

駐車再生スイッチ
(15 頁)

ポンパレバー
(70 頁)

eアシスト旋回スイッチ
(57 頁)

エンジン回転
メモリスイッチ
(56 頁)

キースイッチ
(17 頁)

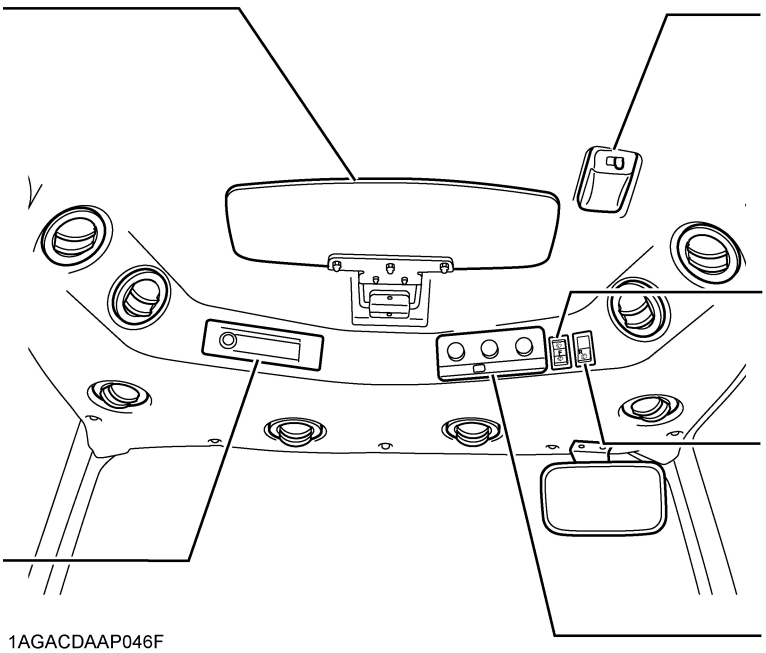
駐車ブレーキグリップ
(31 頁)

ヘッドライトスイッチ
ウインカスイッチ
(26 頁)

ホーンボタン
(27 頁)

1AGBBAAAP182A

■ 安全キャブ部



サンバイザ
(98 頁)

CD/MP3 プレーヤ
(102 頁)

ルームランプ
(97 頁)

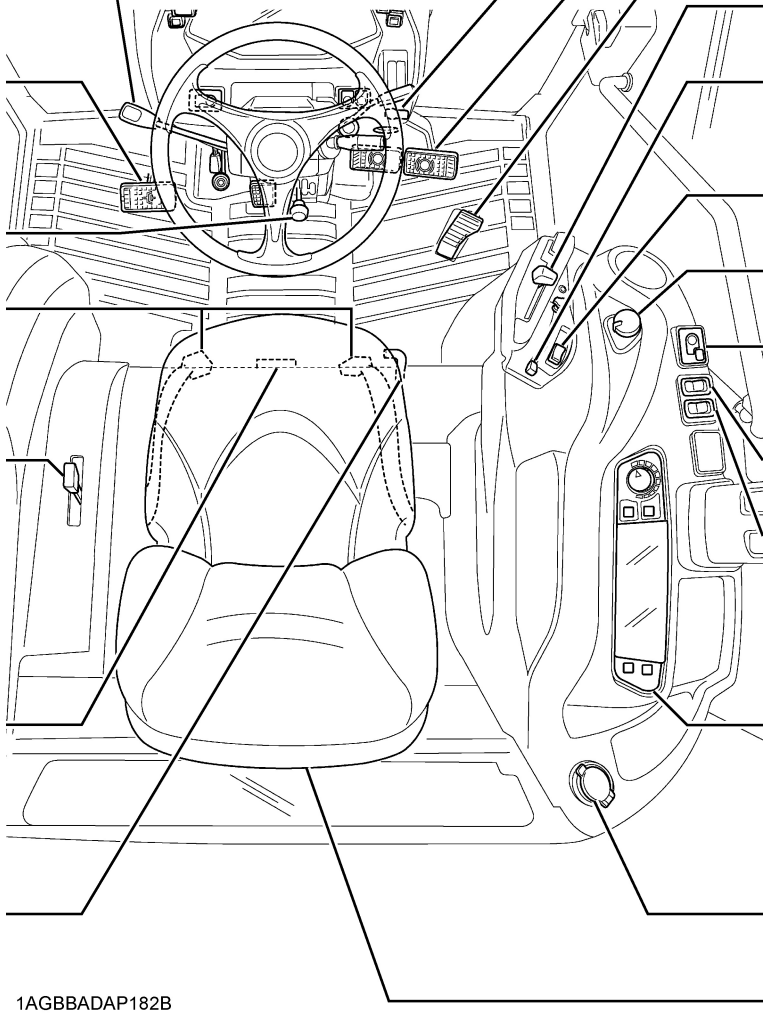
フロントワイパ・
ウォッシャスイッチ
(97 頁)

リヤワイパ・
ウォッシャスイッチ
(97 頁)

オートエアコン
コントロールパネル
(100 頁)

1AGACDAAP046F

[安全キャブ仕様]



シャトルレバー
(38 頁)

クラッチペダル
(33 頁)

PTO 変速レバー
(89 頁)

シートベルト
(24 頁)

クリープレバー
(37 頁)

落下速度調整グリップ
(73 頁)

デフロックペダル
(62 頁)

アクセルレバー
(41 頁)

ブレーキペダル
(32 頁)

アクセルペダル
(41 頁)

主変速レバー
(34 頁)

油圧（ポジション コントロール）レバー
(69 頁)

ポンパスイッチ
(70 頁)

あんしん PTO スイッチ
(87 頁)

ワンタッチ耕うん モードスイッチ
(76 頁)

作業灯（前）スイッチ
(98 頁)

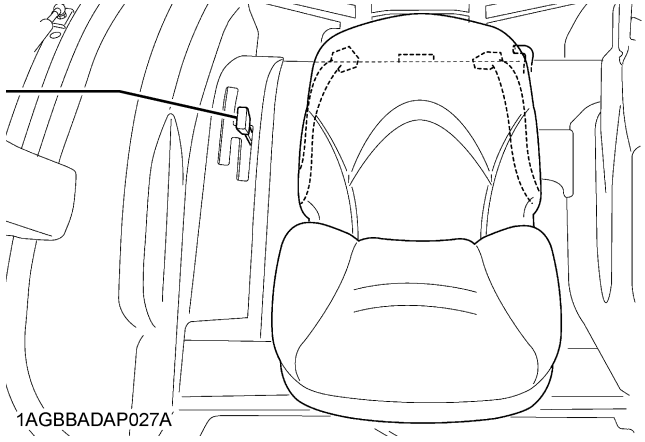
作業灯（後）スイッチ
(98 頁)

MA スイッチ（モンローマチック・オート）
(75 頁)

外部電源 (シガライタタイプ)
(28 頁)

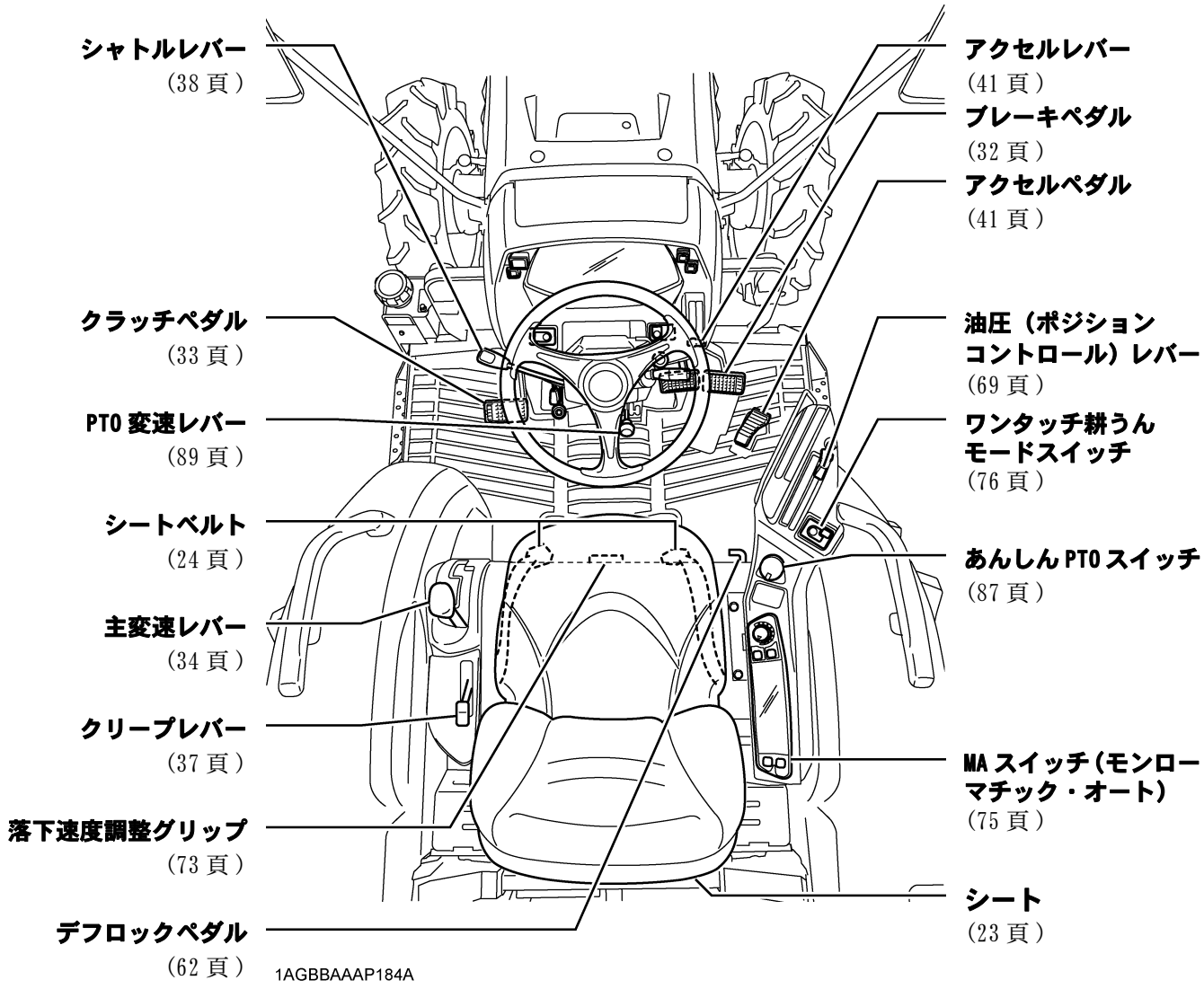
シート
(23 頁)

[ハイスピード (H) 仕様]

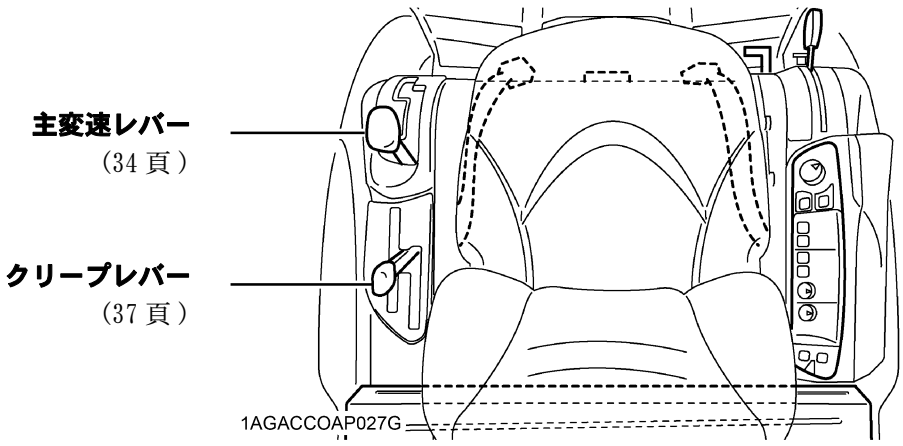


クリープレバー
(34 頁)

[安全フレーム仕様]

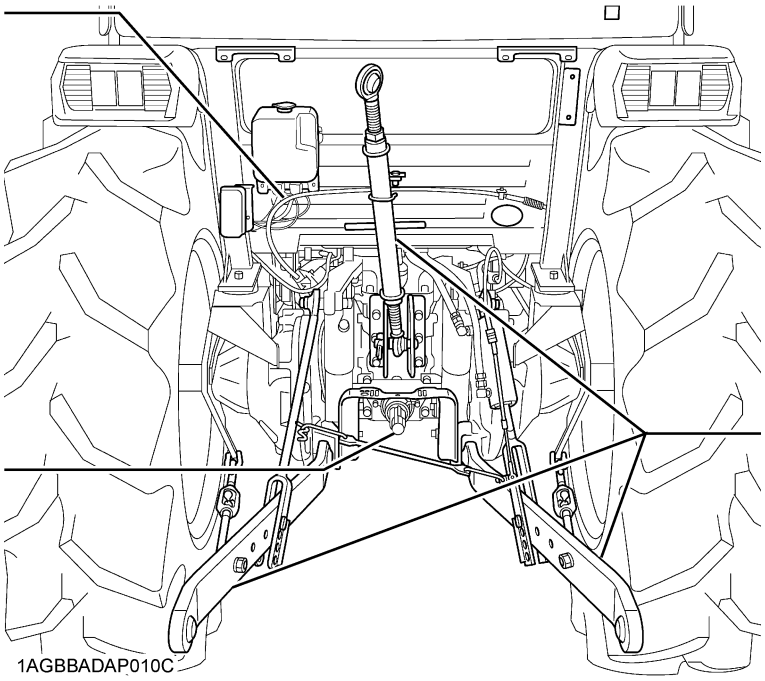


[ハイスピード (H) 仕様]



■ 三点リンク

オートワイヤ
（84 頁）

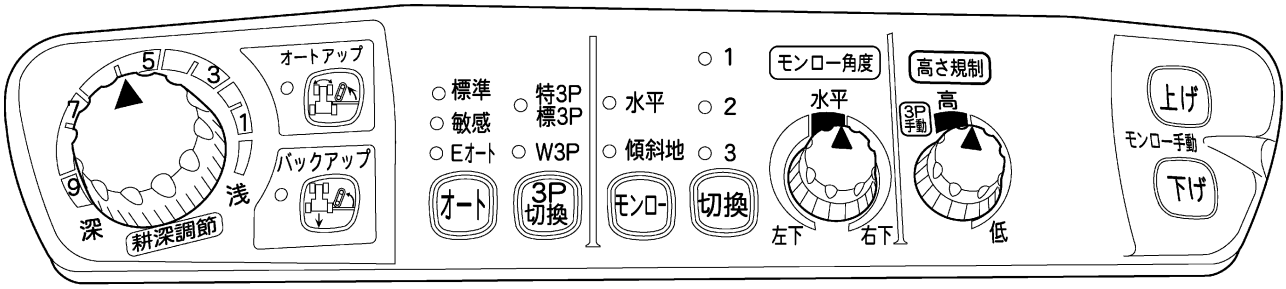


三点リンク
（83 頁）

PTO
（87 頁）

■ モンロー操作パネル

詳細は［モンローマチックオートの取扱い］の項参照（75 頁）

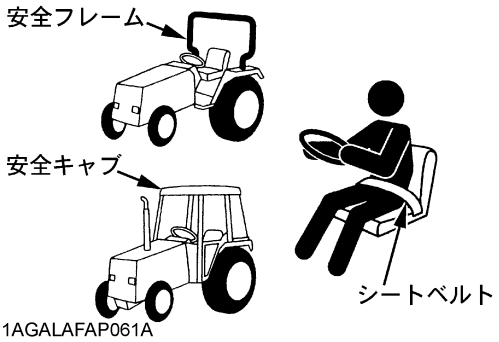


⚠ 安全に作業するために　必ず読んでください

本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で⚠危険・⚠警告・⚠注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

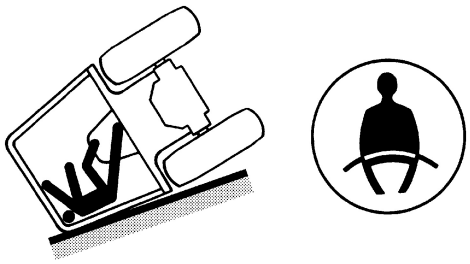
安全キャブ，安全フレームについて

安全キャブ，安全フレームは，万一トラクタが転倒したとき事故の被害を軽減するものであって，転倒事故を防止するものではありません。
注意事項を守って，安全運転を心がけてください。

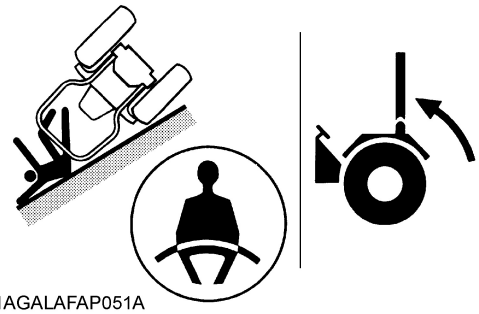


1AGALAFAP061A

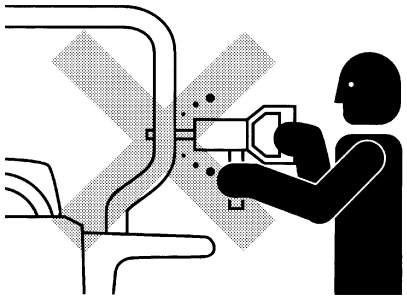
1. 運転時は安全キャブ又は安全フレームとシートベルトを常に使用するようにしてください。


1AGALAFAP050A

2. 安全フレームを取外して運転しないでください。
3. 納屋への出入り等，安全フレームが当たる場合を除き，運転時はいつも安全フレームを立て，確実にロックして使ってください。
   安全フレームを折りたたんだ状態では，万一トラクタが転倒したとき，安全フレームの役目をしません。
4. 安全フレームを立てたときは，運転時シートベルトを常に使用してください。折りたたんだ状態では，シートベルトを使用しないでください。
5. 安全フレームを折りたたんだり，立てたりするときは，平坦な場所で，必ず作業機を地面に降ろし，エンジンを停止し，駐車ブレーキをかけてから行なってください。


1AGALAFAP051A

6. 安全キャブ又は安全フレームを改造しないでください。又，強度に影響する破損，曲がりなどが発生した場合，交換してください。


1AGALAFAP034B

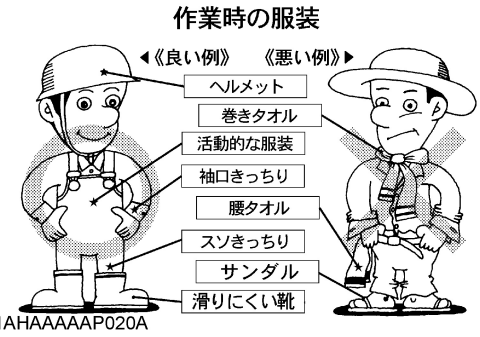
運転前に

1. トラクタを動かす前に，トラクタ及び装着している作業機の取扱説明書と機械に貼ってある安全ラベルをよく読み，理解した上で運転してください。
2. トラクタ，作業機を他人に貸すとき，又，運転させるときは，事前に運転のしかたを教え，本書を読ませてください。
3. 本書及びラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させないでください。
4. 飲酒時や体調が悪いとき，病気や妊娠しているときは，トラクタを運転しないでください。



1AGALAFAP035A

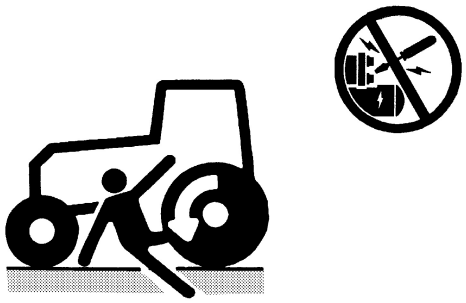
5. ダブダブの衣服やかさばった衣服を着用しないでください。
   回転部分や操縦装置にひっかかり事故の原因になります。
   安全のため，ヘルメット，滑りにくい靴を着用し，必要に応じて安全靴，保護めがねや手袋などを使ってください。
6. トラクタを改造しないでください。改造すると，トラクタの機能に影響を及ぼすばかりか人身事故にもつながります。
7. 安全カバー類を外した状態でトラクタ，作業機を使用しないでください。
   紛失したり損傷した部品は交換してください。
   ブレーキ，クラッチ，ステアリングや安全装置などの日常点検を行ない摩耗や損傷している部品があれば，交換してください。
   又，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。（詳細は**［トラクタの簡単な手入れと処置］**の章を参照。）
8. トラクタは常に清掃しておいてください。
   バッテリ，配線，マフラやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着などがあると火災の原因になります。



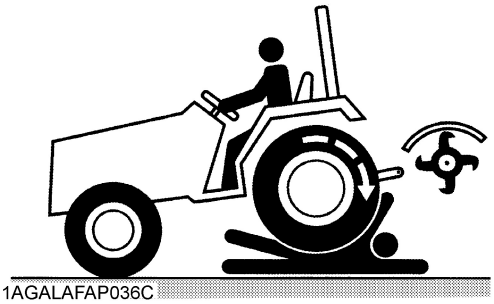
1AHAAAAAP020A

始動時に

1. エンジンを始動する前に，必ずシートに座り，シャトルレバー・PTO 変速レバーが**［中立］**かどうか，あんしん PTO スイッチが**［切］**かどうか，また駐車ブレーキが掛かっているかを確認してください。
2. 地上に立ってエンジンを始動したり，スタータ端子や安全スイッチを直結してエンジンを始動しないでください。
   トラクタが突然動き出すおそれがあります。

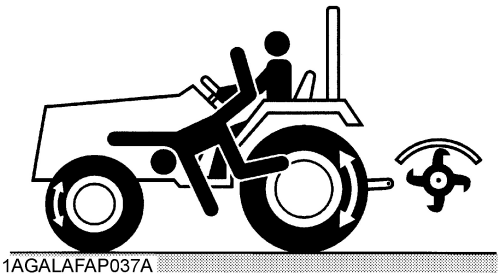

1AGALAFAP058B

3. トラクタを始動，運転するときは前後左右をよく確認し，付近に人（特に子供）を近づけないでください。
   もし変速ギヤーが入っていると車体が動いたりロータリが回転したりして事故になるおそれがあります。
   又，安全キャブや安全フレームに当たる障害物がないかも確認してください。

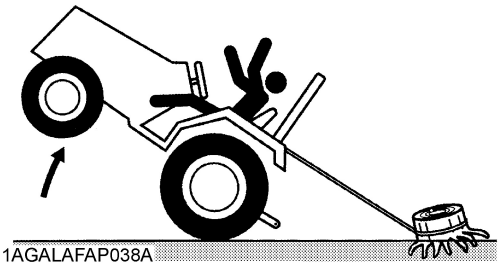

1AGALAFAP036C

運転時に

1. 子供はもちろん運転者以外の人を乗せてトラクタを運転しないでください。
   又，必ずシートに座って運転してください。


1AGALAFAP037A

2. けん引作業には，けん引ヒッチ（別売）を用い，絶対に車軸やトップリンクブラケットなどで引張らないでください。
   トラクタの破損や転覆の原因となります。

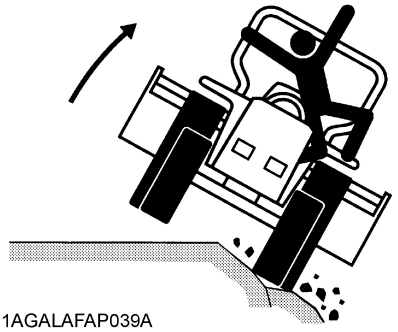

1AGALAFAP038A

3. 換気が不十分な所では，暖機運転や作業はしないでください。
排ガスにより一酸化炭素中毒のおそれがあります。



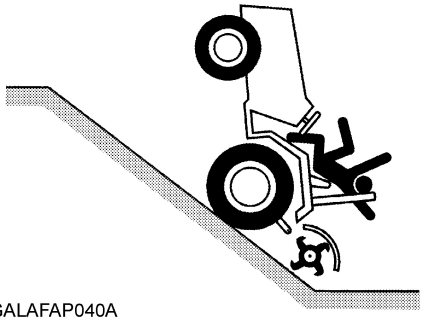
1AGALAFAP052A

4. 溝や穴の近く，路肩などトラクタの重みでくずれやすい所では運転しないでください。
また，草の繁ったところや水たまりなどには，隠れて見えない窪地がある場合があり，トラクタが落ち込むと転倒することがあります。そういう所は必ずトラクタから降りて確認してください。



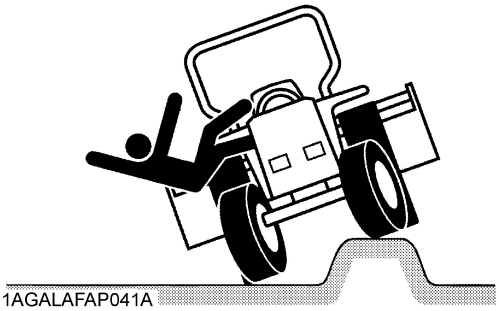
1AGALAFAP039A

5. 溝やぬかるんだ所から前進で脱出したり，急な坂を前進で登るとトラクタが後方に転覆する危険があります。このような所では，バックで運転してください。
6. 共同で作業をするときは，声をかけあって，お互いにしようとしていることを知らせてください。



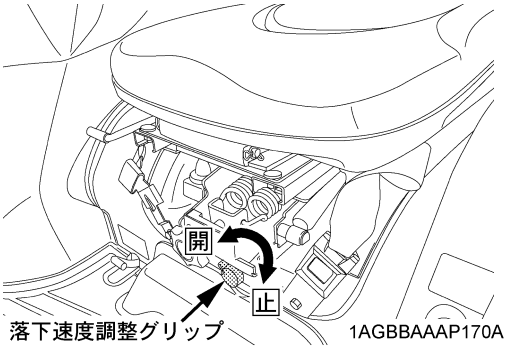
1AGALAFAP040A

7. ほ場の出入りなどで，急傾斜の上り降りや溝越えは，低速にして直角に進行してください。その際，必ず連結解除ペダルロックレバーを**【ロック】**位置にするとともに，デフロックの解除を確認してください。

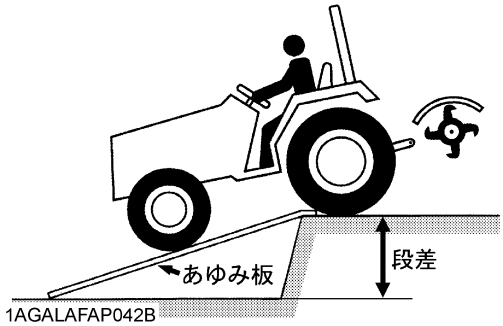


1AGALAFAP041A

8. ほ場外では，落下速度調整グリップで油圧ロック（停止）をして作業機の落下を防止してください。
【遅い】方向に締めきるとロック（停止）します。



9. ほ場の出入りなどで，高低差の大きい急傾斜の登り降りや，溝越えが必要な場合，あゆみ板を使用し，確実に固定してから低速で行なってください。
あゆみ板は段差の４倍以上の長さのものを使用してください。
10. 急な坂道・車両への積込み積降ろし・ほ場への出入り・畦の乗越えなどでは途中で変速すると危険ですので，あらかじめ安全な遅い変速位置に入れて運転してください。

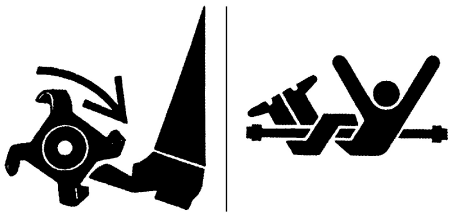


11. ほ場以外や高速走行時，倍速ターン及び AD 倍速ターンを使用すると，旋回時急に回り事故を引起こすおそれがあります。
必ず走行モード切換スイッチを**【2WD】**又は**【4WD】**に切換えてください。


1AGALAFAP059A

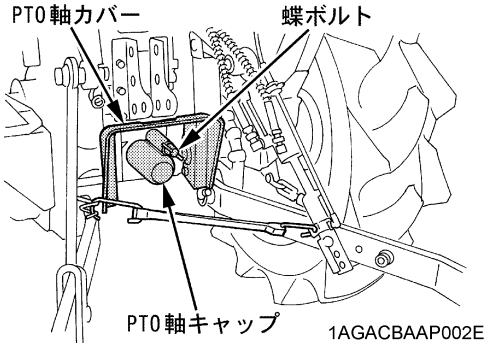
作業機使用時に

1. 作業機の着脱は，平坦で安全な場所で行なってください。
2. トラクタから降りるときや，ロータリなどPTO作業機の装着・取外し・調整・掃除又は修理をするときは，作業機が完全に止まるまで待ってください。



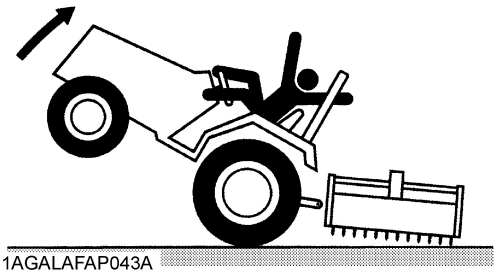
1AGALAFAP054A

3. PTO を使用しないときは，PTO 軸キャップを装着しておいてください。
4. PTO軸カバーは常に取付けておいてください。
5. PTO作業機は，その作業機で定められたPTO回転以上で使用しないでください。
   機械の破損や人身事故のおそれがあります。



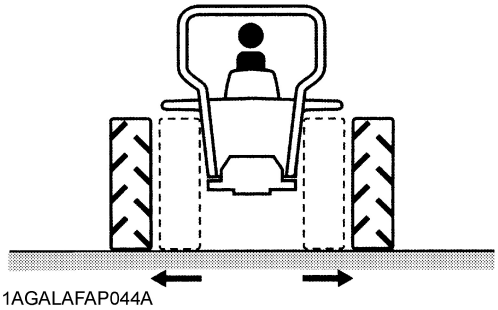
1AGACBAAP002E

6. トラクタ後部用作業機を装着したとき，かじ取り車輪（前輪）にかかる荷重が総重量の 20％以上になるようにバランスウエイトを装備し，使用してください。
   前部が軽くなりすぎると，操縦が難しくなり転倒事故のおそれもあります。
7. 作業機はトラクタに推奨されているものを使用してください。
   大きすぎたり，小さすぎたりしてバランスの悪い作業機は機械の破損や人身事故にもつながります。
   詳細は購入先にご相談ください。



1AGALAFAP043A

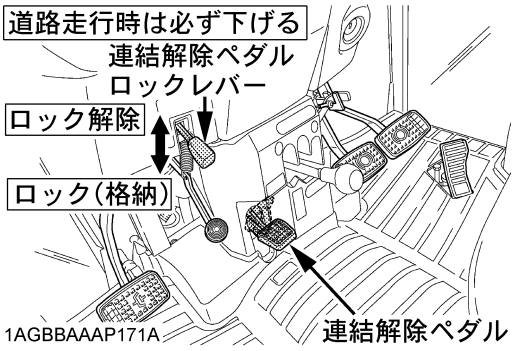
8. 傾斜地作業，フロントローダ作業などでは，安定を良くするために，支障のない範囲で輪距（タイヤ中心間の距離）を大きくしてください。



1AGALAFAP044A

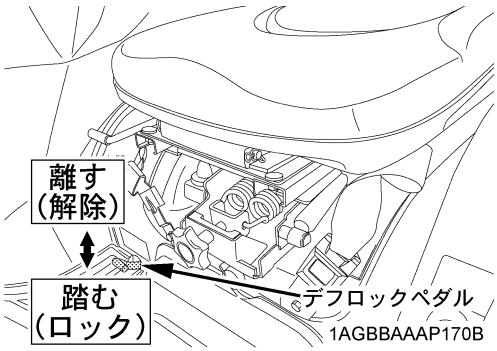
道路走行時に

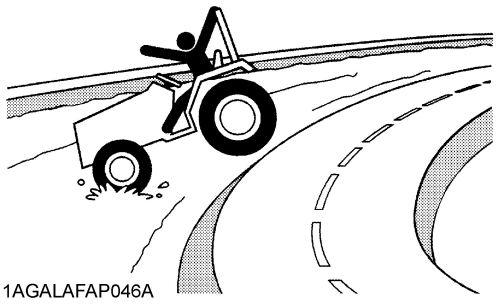
1. 道路走行時は，連結解除ペダルロックレバーを**［下げ］**，連結解除ペダルが踏めないことを確認してください。
   高速走行で誤って片ブレーキをかけるとトラクタが振られ，転倒や交通事故のおそれがあります。
2. 信号待ちなどの一時停止時はブレーキペダルを踏んだままにしてください。



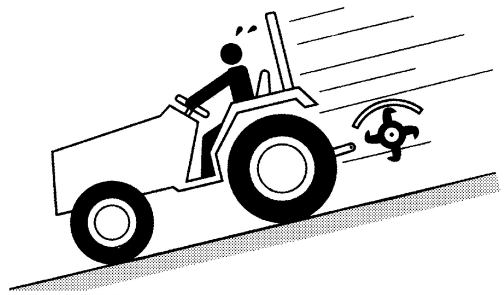

1AGALAFAP045A

3. 道路走行時は絶対にデフロックを使用しないでください。
   ハンドル操作が出来なくなります。
4. 旋回する前にはトラクタの速度を落としてください。
   高速で旋回するとトラクタが転倒するおそれがあります。

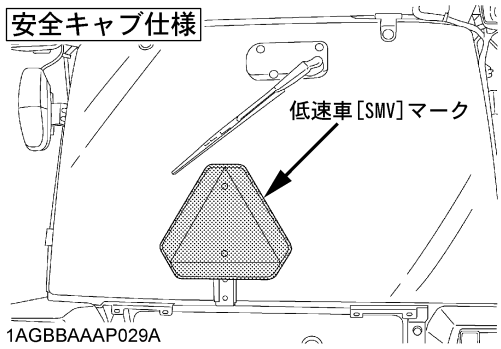



1AGALAFAP046A

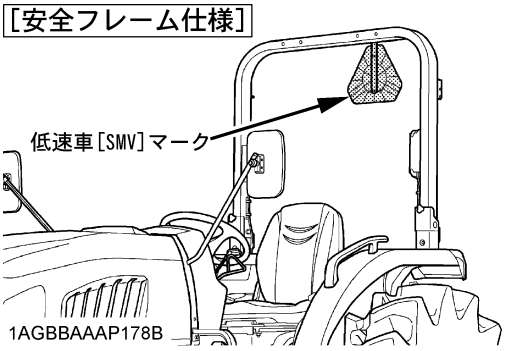
5. 坂を降りるとき，クラッチを切ったり，変速を**［中立］**にして惰性で走行しないでください。
   操縦ができなくなるおそれがあります。
6. インプルメントやアタッチメントを装着した状態では，**［道路運送車両法の保安基準］**を満たしていなければ道路走行することはできません。インプルメントやアタッチメントと，トラクタとの組み合わせごとに，**［保安基準］**を満たしていることの確認が必要です。
7. 交通や安全規則を守ってください。
   運転免許証は，必ず携行してください。


1AGALAFAP047A

8. 公道走行時は後続車に低速農耕車が走行している事を知らせる**低速車［SMV］マーク**を取付けてください。また，夜間ヘッドライトに**低速車［SMV］マーク**がよく反射するように，マークは常に清掃しておいてください。



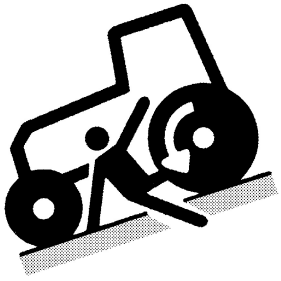
1AGBBAAAP029A



1AGBBAAAP178B

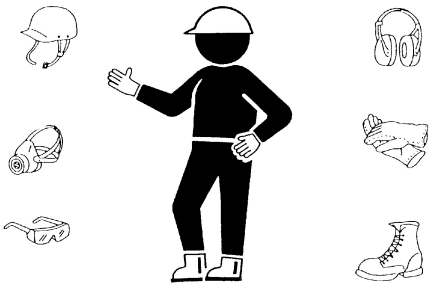
駐車，格納時に

1. 駐車するときは，平坦でトラクタが安定する場所を選び，PTO を**［切］**，作業機を**［下げ］**，各変速レバーを**［中立］**，駐車ブレーキを**［掛け］**，エンジンを**［停止］**してキーを**［抜いて］**ください。
   やむをえず坂道で駐車する場合は，タイヤに車止めをしてください。
2. 乾いた草やワラなど可燃物の堆積した場所には，駐車しないでください。
3. 格納などでトラクタにシートをかける場合は，マフラやエンジンが充分冷えてから行なってください。


1AGALAFAP053A

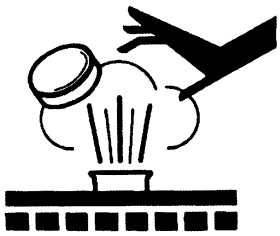
点検・給油・整備時に

1. 点検整備には帽子と安全な服装を着用してください。作業内容によってはヘルメット，安全靴，保護めがね，防塵マスク，防音具，保護手袋などの保護具を着用してください。
   各保護具は使用前に機能を確認してください。
2. エンジンを停止し，キーを抜き安全を確認してから作業を行なってください。



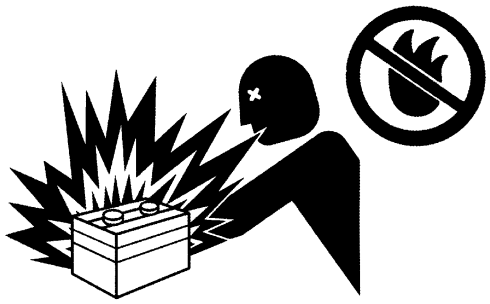
1AGADAPAP122A

3. 平たんな場所に駐車し，作業機を**［下げ］**，駐車ブレーキを**［掛け］**，各変速レバーを**［中立］**にし，そしてエンジンを**［停止］**してキーを抜いてください。
4. エンジン・マフラ・ラジエータなどがじゅうぶん冷えてから点検整備してください。ヤケドのおそれがあります。

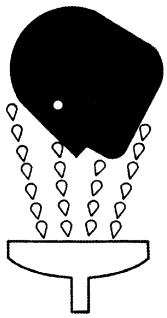


1AGALAFAP055A

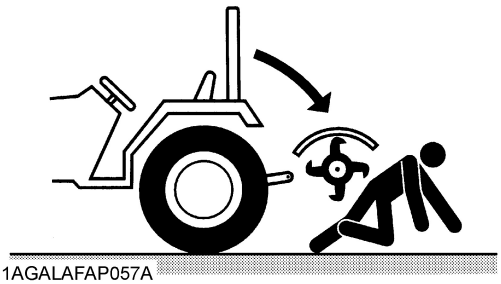
5. 燃料を補給するときやバッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり，火を近づけないでください。バッテリは充電中可燃性ガスが発生し，引火爆発のおそれがあります。
6. 放電したバッテリにブースタケーブルなどを接続して始動するときは，取扱方法をよく読みそれに従ってください。
（**［運転のしかた］**の章の**［バッテリあがりの処置］**の項を参照。）


1AGALAFAP048A

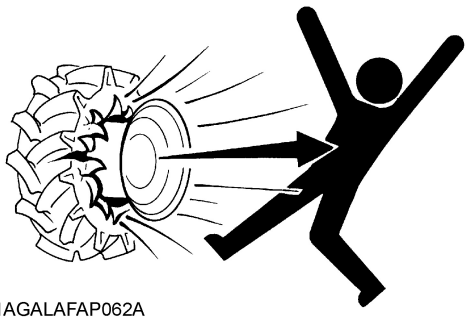
7. バッテリは液面が LOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。
LOWER 以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。
すぐに UPPER LEVEL（上限）と LOWER LEVEL（下限）の間に補水してください。（補水可能なバッテリ）
8. バッテリを外すときは，短絡事故を防ぐため，最初にバッテリのマイナスコードを外し，接続するときは最後に接続してください。
9. バッテリ液は希硫酸なので扱いには注意し，体や衣服に付けないようにしてください。もし目や体に付着した場合はすぐ水で洗って，すみやかに医師の診療を受けてください。


1ARAEABAP014B

10. 3 点リンク作業機を上げた状態で点検整備を行なう場合，必ず落下速度調整グリップで作業機が落下しないようにロック（停止）してください。ロック（停止）するとともに適切なジャッキ又はブロックで歯止めをし，落下防止を行なってください。


1AGALAFAP057A

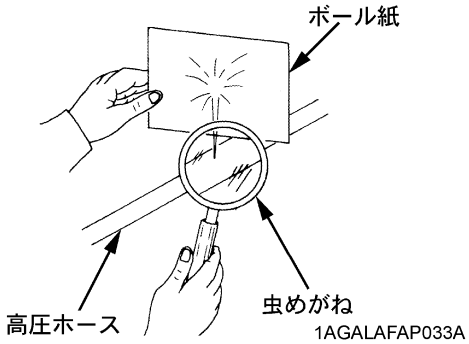
11. タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。
空気の入過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引起こす原因になります。
12. タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は，使用しないでください。
タイヤ破裂のおそれがあります。
13. タイヤ・チューブ・リムなどの交換・修理は，必ず購入先にご相談ください。
（特別教育を受けた人が行なうように，法で決められています。）


1AGALAFAP062A

14. 圧力がかかり噴出した油は，皮膚を貫通する程の力があり，傷害の原因になります。油圧部品を外すときは，必ず残圧を抜いてください。


1BAACAAAP010D

15. 見えない小さな穴からの油漏れを探すときは，保護めがねをかけ，ボール紙などを利用してください。
万一，油が皮膚を貫通したときは，強度のアレルギーを起こすおそれがあるので，すぐ医師の診療を受けてください。



1AGALAFAP033A

16. 点検・整備時に，後輪だけを地面から浮かせた状態にしてエンジンを始動させないでください。ブレーキを踏むと前後輪を連結状態にする機構になっていますので前輪が回転し，トラクタが動き出すおそれがあります。

17. 廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。
＊ 機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。
＊ 地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。
＊ 廃油，燃料，冷却水（不凍液），尿素水（AdBlue），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者等に相談して，所定の規則に従って処理してください。


1BJABAAAP018D

18. コモンレール仕様エンジンには高電圧や高圧力の燃料が通る部分があります。
次の注意事項を守らないと，感電事故や高圧燃料のもれによるケガをするおそれがあります。
＊ 掃除などでエンジンを制御する電子部品や，そのコネクタ，ハーネスをさわる場合は，キースイッチを **[切]** にしてください。
＊ エンジンの高圧燃料が通る部品は，分解や修理を行なわないでください。
付近のボルト・ナット類もゆるめないでください。
高圧燃料が通るのは，燃料噴射ポンプからインジェクタの間です。
＊ エンジンの不調時は，購入先にご相談ください。

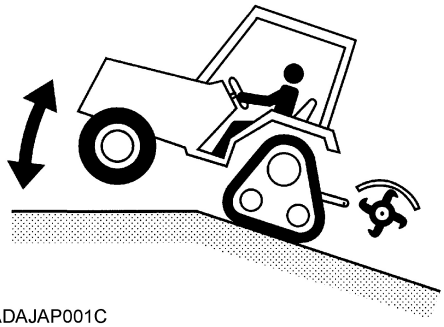
19. ディーゼル・パーティキュレート・フィルタ（以下本文中では DPF と表記します）再生中は排ガスや DPF が高温になります。やけどや周囲のわらくず，異物等の発火、溶解に注意してください。
20. 高温の排ガスがあたらないようにトラクタの周囲に人や可燃物を近づけないようにしてください。
21. 火災防止のため，DPF マフラの周囲は可燃物を取除き常にクリーンにしておいてください。
22. DPF 再生中は白煙が発生する場合がありますので，換気の悪い場所では再生を行なわないでください。
23. DPF 再生中はトラクタから離れないでください。

パワクロ仕様の場合

以下の内容は**［パワクロ仕様］**の場合の特別な注意事項を記載しています。前述の注意事項と合わせてよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。

■運転時に

1. 凹凸やカーブの多い所では絶対に高速走行をしないでください。ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。
2. クローラ部が凸部を乗越えるときは，急に姿勢が変わりますのでじゅうぶん注意してください。



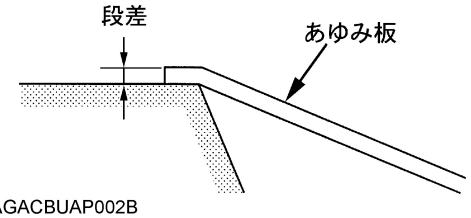
1AGADAJAP001C

■あゆみ板使用時に

1. あゆみ板は左右の先端をそろえ，前後にずれないように確実に固定してください。
2. あゆみ板とあゆみ板をかけた面との段差が大きい場合，運転には特に注意してください。
3. 途中で変速すると危険ですので，あらかじめ安全な遅い変速位置に入れて低速で運転してください。
4. あゆみ板は，十分な強度・幅・長さ（傾斜が 15 度以下になる長さ：トラックの荷台高さ，あるいはほ場乗入れ部高さの 4 倍以上）のあるすべり止め及び爪付きのものを使用し，パワクロの重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。

◆ ほ場への出入り

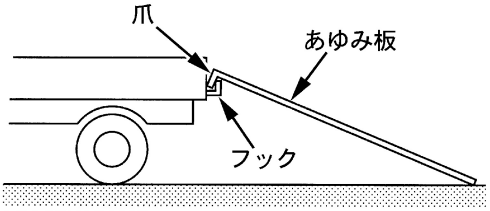
1. クローラの片側だけが段差に引っかかり乗りあがらない状態になった場合，いったん車両を元に戻し，あゆみ板をかけ直してはじめからやり直してください。



1AGACBUAP002B

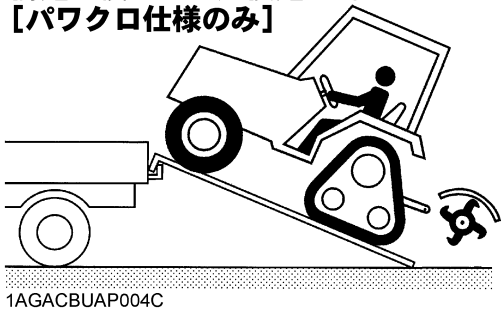
◆ トラックへの積み・降ろし

1. トラックは荷台後部にあゆみ板の爪をかけるフックが付いた物を使用してください。
2. トラックへの積み・降ろしは，必ず左右のブレーキペダルを**［連結］**し，**前進で積み込み，後進で降ろして**ください。前進で降りると，クローラがあゆみ板の段差ですべり，前輪が浮いて車体が旋回し，転倒事故につながるおそれがあります。



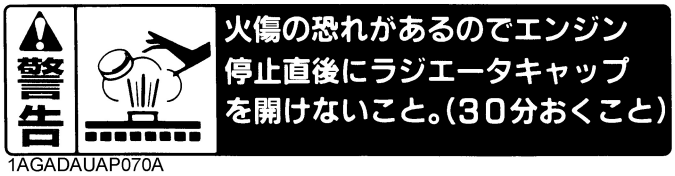
1AGACBUAP003B

前進で積み込み，**後進**で降ろす
［パワクロ仕様のみ］


1AGACBUAP004C

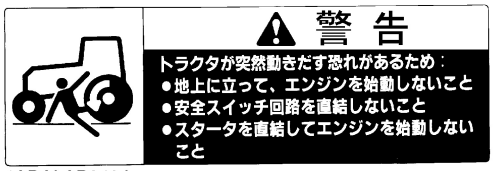
安全ラベルと貼付け位置

(1)品番　99870005881



1AGADAUAP070A

(2) 品番　99660027950



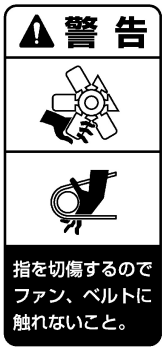
1ADALAP249J

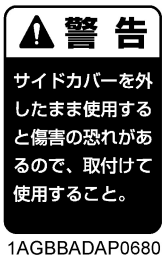
(3)品番　99790002351［MF（メンテナンスフリー）バッテリ］



1AGBBAAAP1850

(4)品番　95340000670





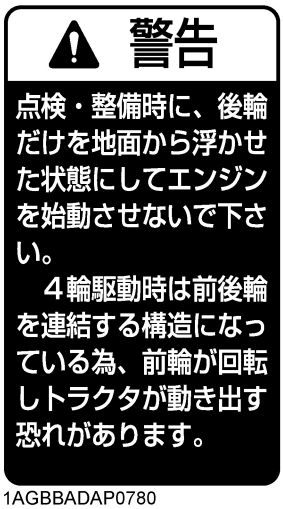
1AGBBADAP0680

(5)品番　95340000680

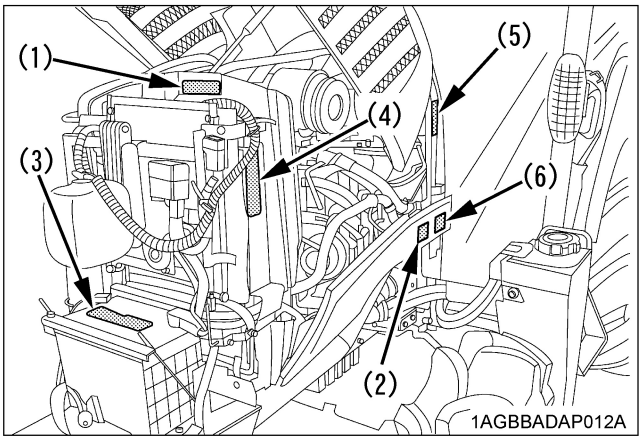


1AGBBAAAP015J

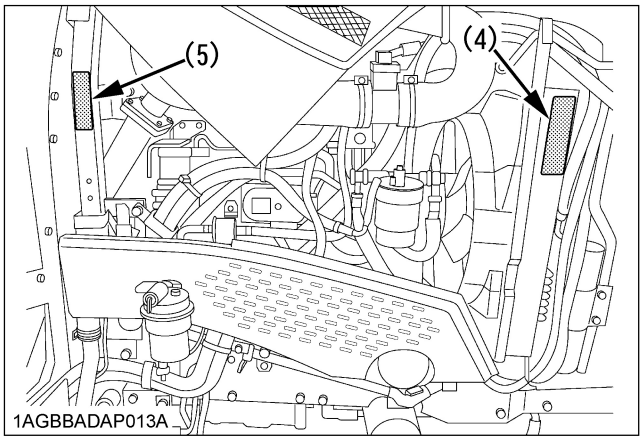
(6)品番　95340000540



1AGBBADAP0780



1AGBBADAP012A



1AGBBADAP013A

(1) 品番　95340000730
［安全キャブ仕様］

⚠ 警　告

傷害事故防止のため、取扱説明書を読み理解して正しい取扱いをしてください
始動時
・シートにすわり、ＰＴＯ及び各変速レバーを中立にすること
・前後左右に人がいないことを確認すること
運転時
・運転者以外に人を乗せないこと
・排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあるので換気の不十分な所で使用しないこと
・溝や穴のちかく、路肩など重みでくずれやすい所では運転しないこと
・急な坂道、積込み積降ろし、圃場の出入り、畦の乗越え等では遅い車速で運転し、途中で変速しないこと
・道路走行時はデフロックを使用しないこと
・道路走行時は低速車マークを装着すること
・道路走行は道路運送車両の保安基準に適合すること（詳細は取扱説明書を参照）
駐車時
・ＰＴＯ及び各変速レバーを中立にし、作業機を地面に降ろし、駐車ブレーキを掛け、エンジンをとめること
点検、整備時
・エンジンをとめ、機械の各部が停止してから行うこと
・３点リンクで作業機持ち上げ時は油圧ロックをすること

1AGBBAAAP020J

(2) 品番　99900007651
［安全キャブ仕様］

⚠ 警 告



転倒、転落による死傷事故軽減のために、運転時は必ずシートベルトを着用すること。

1AGACCBAP126J

(3) 品番　95340000690

⚠ 警　告

ポンパは圃場内作業のみに使用すること。作業時以外は作業機の昇降を油圧レバーで行うこと

1AGBBAAAP021J

(4) 品番　95340000740
［安全キャブ仕様］

⚠ 警 告

巻き込まれによる死傷事故を防ぐためアップオフPTO入りの時は作業機に近づかないこと。（油圧ロックで作業機が下がらなくてもポンパ、油圧レバーの下降操作でPTOが回転します）

⚠ 警 告

・アップオフPTOは圃場内作業以外切りにすること。
・アップオフPTOはロータリ、ハロー作業のみに使用すること。

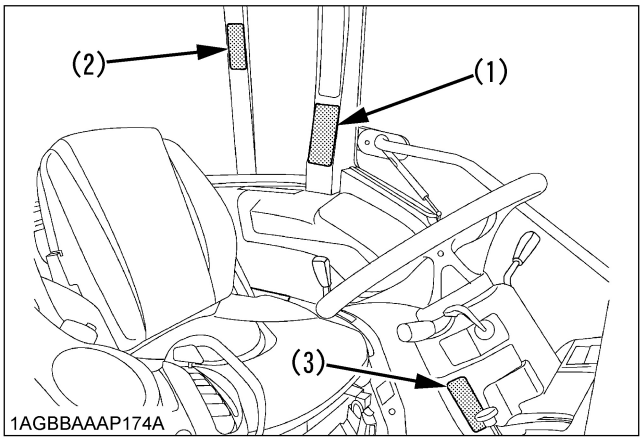
1AGBBADAP0690

(5) 品番　95340000560
［安全キャブ仕様］

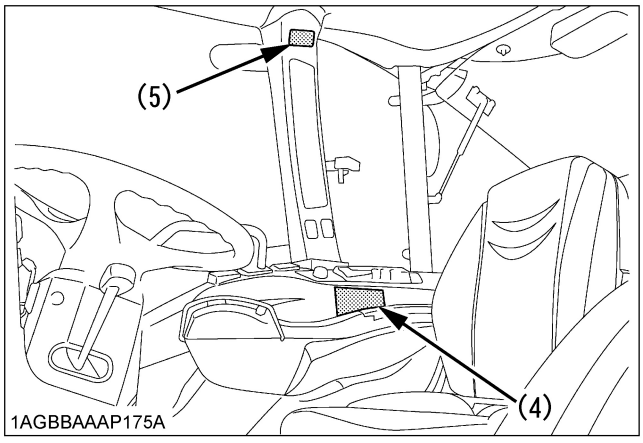
⚠ 注　意

作業機用コントローラを掛けない時は、掛け金具（上下共）を取り外して下さい。

1AGBBADAP0710

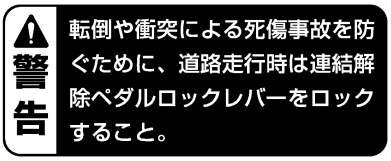


1AGBBAAAP174A



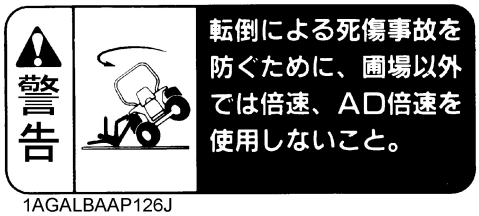
1AGBBAAAP175A

(1) 品番　99900007772



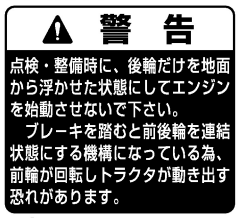
1AGBBAAAP021J

(2) 品番　99580009502



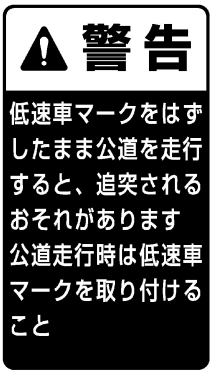
1AGALBAAP126J

(3) 品番　95340000710



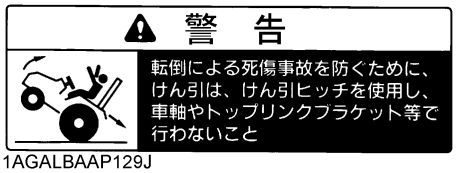
1AGBBAAAP018J

(4) 品番　95340000750
［安全キャブ仕様］



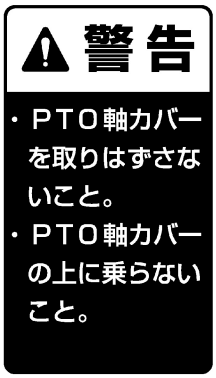
1AGBBAAAP026J

(5) 品番　KT106049591
［安全キャブ仕様］



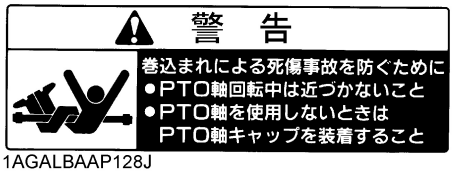
1AGALBAAP129J

(6) 品番　95340000700



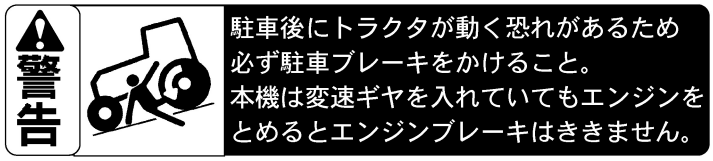
1AGBBAAAP025J

(7) 品番　KT106049591
［安全キャブ仕様］

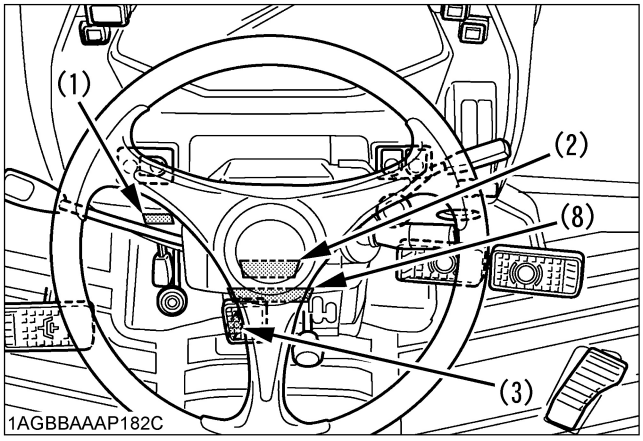


1AGALBAAP128J

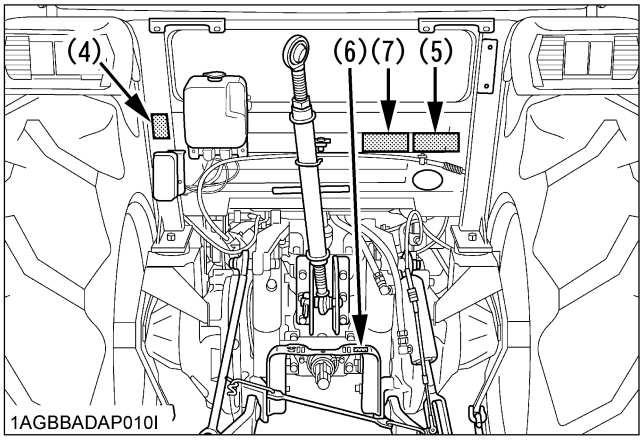
(8) 品番　95340000490



1AGBBADAP0700



1AGBBAAAP182C



1AGBBADAP010I

(1) 品番　99900007454

⚠ 警　告

本製品にはDPF(ディーゼル・パーティキュレート・フィルタ)が搭載されています。
DPFの再生処理中はマフラ、排気ガスが高温になります。
DPFの再生処理を行うときは以下のことを守ってください。

1. 納屋や倉庫など囲まれた場所で再生処理を行わないでください。
2. 再生処理中は排気管周辺から人や動植物が離れていることを確認してください。
3. 再生処理中は排気管周辺に燃えやすいものがないことを確認してください。

詳しくは取扱説明書をご覧ください。

1AGADAUAP024A

(2) 品番　95340000660



1AGBBADAP0720

(3) 品番　95340000600
［安全キャブ仕様］

⚠ 警　告

低温始動時
Uシフトでの発進遅れ
・異常ではないので変速を入れたまま降りないこと。
遅れて動き出してキケンです。

傾斜面での
Uシフト変速
・急斜面でUシフト変速を行うと、滑走するおそれがあるので低速で走行し途中変速しないこと。

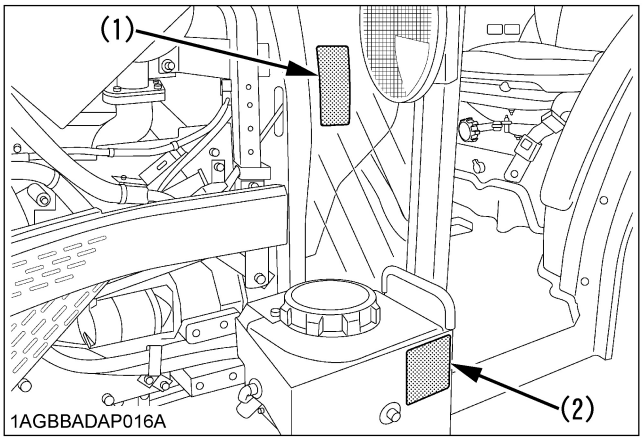
1AGBBADAP0760

(4) 品番　95340000580
［安全フレーム仕様］

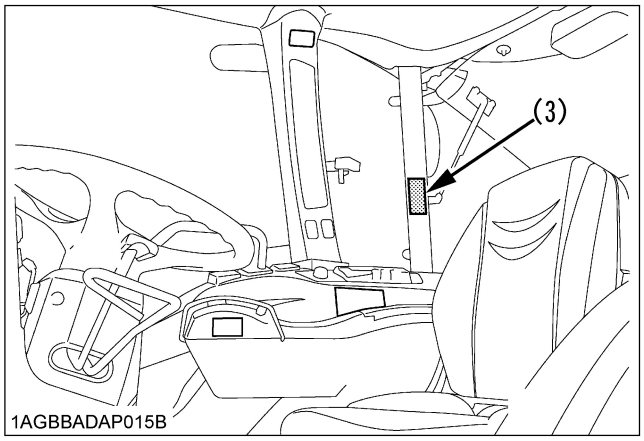
⚠ 警　告

低温始動時Uシフトでの発進遅れ
・異常ではないので変速を入れたまま降りないこと
遅れて動き出しキケンです
傾斜面でのUシフト変速
・急斜面でUシフト変速を行うと、滑走する恐れがあるので、低速で走行し、途中変速しないこと

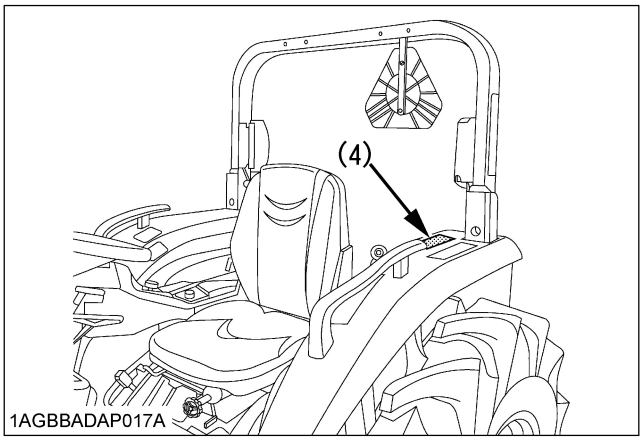
1AGBBADAP0730



1AGBBADAP016A



1AGBBADAP015B



1AGBBADAP017A

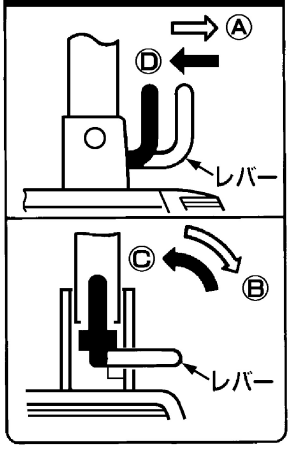
(1) 品番　95340000570
[安全フレーム仕様]

⚠ 警告

安全フレームを折りたたんだり、立てたりする時は、下記の手順を守ること。
1. エンジンを止める
2. 作業機をおろす
3. 駐車ブレーキをかける

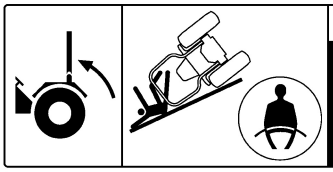
レバーの操作方法

- 安全フレームを折りたたむ時はⒶⒷの順にレバーを倒して下さい。（左右とも外側へ）
- 立てる時はⒸⒹの順にレバーを操作し、レバーを確実に前方へ押し込んで下さい。
- 詳しくは取扱説明書をよくお読み下さい



1AGBBADAP0660

(2) 品番　95340000640 [安全フレーム仕様]



⚠ 警告

転倒、転落による死傷事故軽減のために:
- 納屋の出入りなど安全フレームが当たる場合を除き，運転時は安全フレームを立て、確実にロックして使用すること。
- 安全フレームを立てたとき、必ずシートベルトを着用すること。
- 安全フレームを折った状態では、シートベルトを着用しないこと。

⚠ 警告

傷害事故防止のため、取扱説明書を読み理解して正しい取扱いをしてください

始動時
- シートにすわり、ＰＴＯ及び各変速レバーを中立にすること
- 前後左右に人がいないことを確認すること

運転時
- 運転者以外に人を乗せないこと
- 排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあるので換気の不十分な所で使用しないこと
- 溝や穴のちかく、路肩など重みでくずれやすい所では運転しないこと
- 道路走行時はデフロックを使用しないこと

運転時
- 道路走行時は低速車マークを装着すること
- 急な坂道、積込み積降ろし、圃場の出入り、畦の乗越え等では遅い車速で運転し、途中で変速しないこと
- 道路走行は道路運送車両の保安基準に適合すること（詳細は取扱説明書を参照）

駐車時
- ＰＴＯ及び各変速レバーを中立にし、作業機を地面に降ろし、駐車ブレーキを掛け、エンジンをとめること

点検、整備時
- エンジンをとめ、機械の各部が停止してから行うこと
- 3点リンク作業機持ち上げ時は油圧ロックをすること

1AGBBADAP0740

(3) 品番　95340000650 [安全フレーム仕様]

⚠ 警告

巻き込まれによる死傷事故を防ぐためアップオフＰＴＯ入りの時は作業機に近づかないこと。（油圧ロックで作業機が下がらなくてもポンパ、油圧レバーの下降操作でＰＴＯが回転します）

⚠ 警告

- アップオフＰＴＯは圃場内作業以外切りにすること。
- アップオフＰＴＯはロータリ、ハロー作業のみに使用すること。

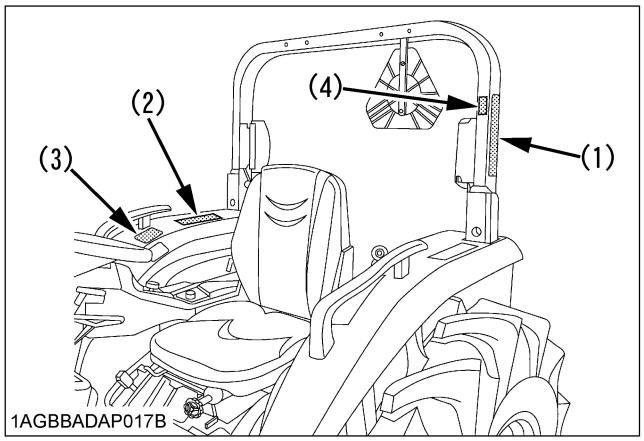
1AGBBADAP0750

(4) 品番　95340000750
[安全フレーム仕様]

⚠ 警告

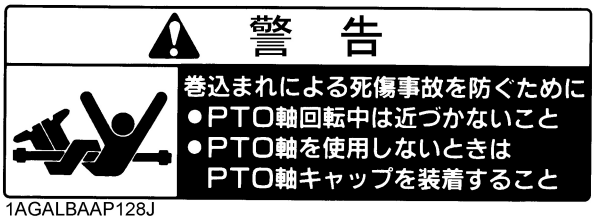
低速車マークをはずしたまま公道を走行すると、追突されるおそれがあります
公道走行時は低速車マークを取り付けること

1AGBBAAAP026J



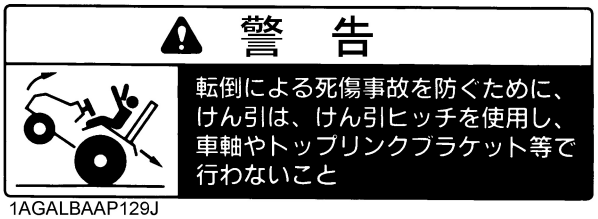
1AGBBADAP017B

(1) 品番　KT106049591 [安全フレーム仕様]

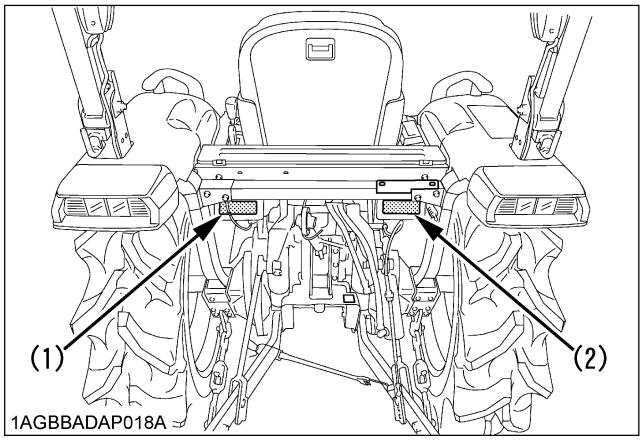


1AGALBAAP128J

(2) 品番　KT106049041 [安全フレーム仕様]



1AGALBAAP129J



1AGBBADAP018A

安全ラベルの手入れ

1. ラベルは，いつもきれいにして傷つけないようにしてください。
   もしラベルが汚れている場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布で拭いてください。
2. 高圧洗浄機で洗車すると，高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接ラベルにかけないでください。
3. 破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替えてください。
4. 新しいラベルを貼る場合は，貼付け面の汚れを完全に拭取り，乾いた後，元の位置に貼ってください。
5. ラベルが貼付けられている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換してください。

サービスと保証／小型特殊自動車としての取扱い

サービスと保証

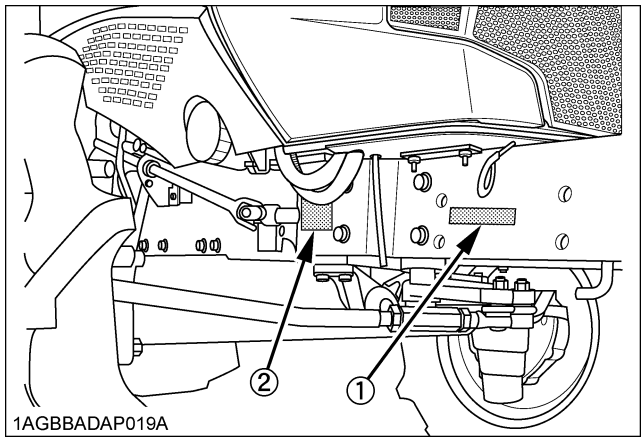
この製品には，保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

■ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいた購入先にそれぞれ**［ご相談窓口］**を設けておりますのでお気軽にご相談ください。
その際銘板に記載している
1. 型式名
2. 製造（車台）番号
を併せてご連絡ください。
なお，部品ご注文の際は，購入先に純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

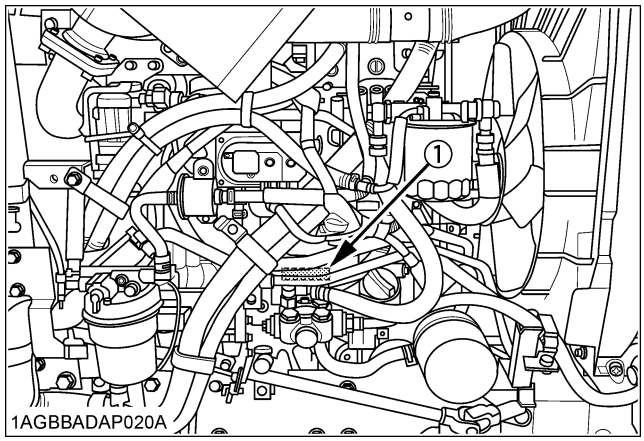
警　告

＊ 機械の改造は危険ですので，改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。

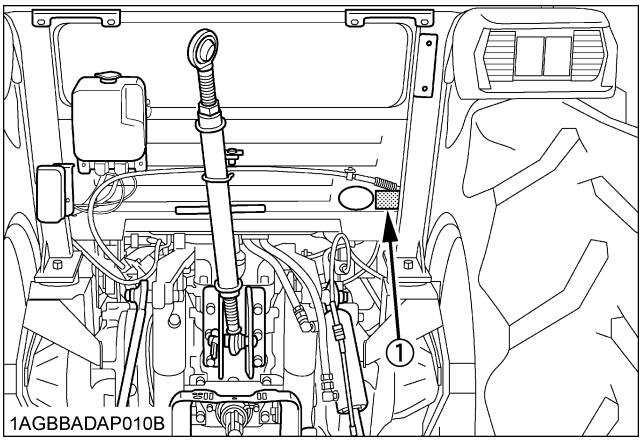




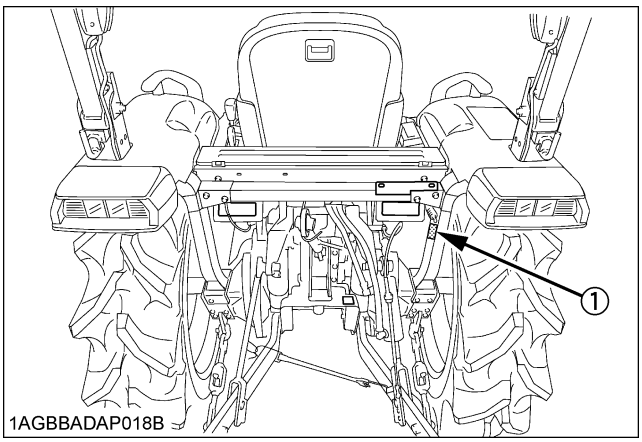
①製造（車台）番号
②銘板



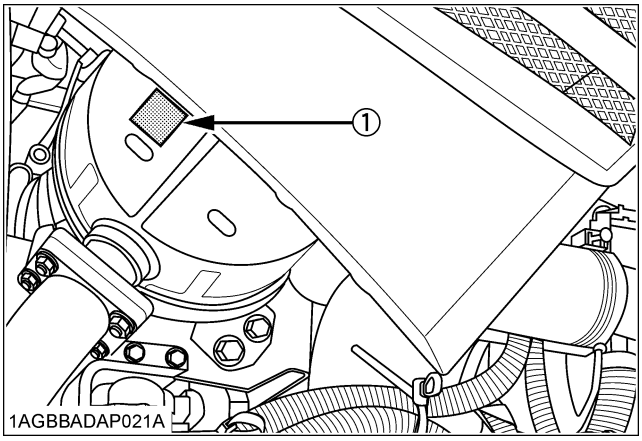
①エンジン番号



①安全キャブ銘板



①安全フレーム銘板



① DPF 番号

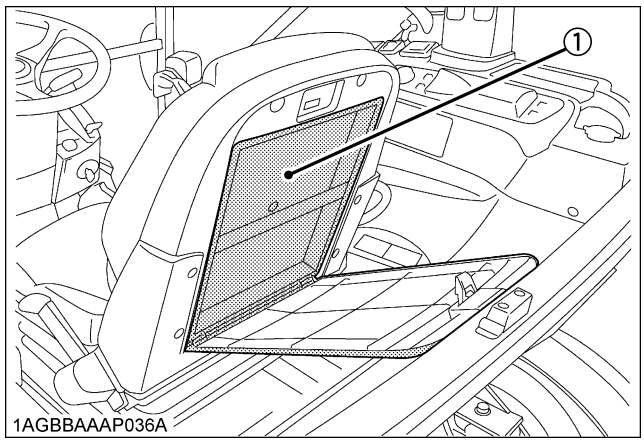
■補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期限）は製造打ち切り後 12 年といたします。
ただし，供給年限内であっても特殊部品につきましては，納期等についてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了致しますが，供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。

■取扱説明書の収納

取扱説明書類は付属のビニール袋に入れ，取扱説明書収納場所に収納し，常時携帯してください。

＊ 収納場所近辺を洗車する場合は，冊子を取出してから洗車をしてください。
＊ 紙類は吸湿により変形や変色が生じ易いため，長期格納時は室内に保管することをお奨めします。



①取扱説明書収納場所

■農機型式一覧表

型式名 （商品名）	農機型式名	安全性検査 合格番号	安全キャブ・ フレーム検査合格 型式名	小型特殊自動車 車両型式名	型式認定 番号	公道走行（トラクタ単体時）に必要な免許
GJE33	クボタ SL33L	NARO 20/147	クボタ KSF35S	クボタ YDM-SL2A	農 3470 号 改造型	小型特殊自動車 免許
GJE33H	クボタ SL33L	NARO 20/147	クボタ KSF35S	クボタ YDM-SL2A	農 3470 号 改造型	大型特殊自動車 免許
GJE33K	クボタ SL33L-PC	NARO 20/148	クボタ KSF35S-PC	クボタ YDM-SL2A	農 3470 号 改造型	小型特殊自動車 免許
GJE33KH	クボタ SL33L-PC	NARO 20/148	クボタ KSF35S-PC	クボタ YDM-SL2A	農 3470 号 改造型	大型特殊自動車 免許
GJE33X	クボタ SL33L	NARO 20/147	クボタ KSQ35S	クボタ YDM-SL2A	農 3470 号 改造型	小型特殊自動車 免許
GJE33XH	クボタ SL33L	NARO 20/147	クボタ KSQ35S	クボタ YDM-SL2A	農 3470 号 改造型	大型特殊自動車 免許
GJE33KX	クボタ SL33L-PC	NARO 20/148	クボタ KSQ35S-PC	クボタ YDM-SL2A	農 3470 号 改造型	小型特殊自動車 免許
GJE33KHX	クボタ SL33L-PC	NARO 20/148	クボタ KSQ35S-PC	クボタ YDM-SL2A	農 3470 号 改造型	大型特殊自動車 免許
GJE33S	クボタ SL33L	NARO 20/147	クボタ KSF35S	クボタ YDM-SL2A	農 3470 号 改造型	小型特殊自動車 免許
GJE33HS	クボタ SL33L	NARO 20/147	クボタ KSF35S	クボタ YDM-SL2A	農 3470 号 改造型	大型特殊自動車 免許

小型特殊自動車としての取扱い

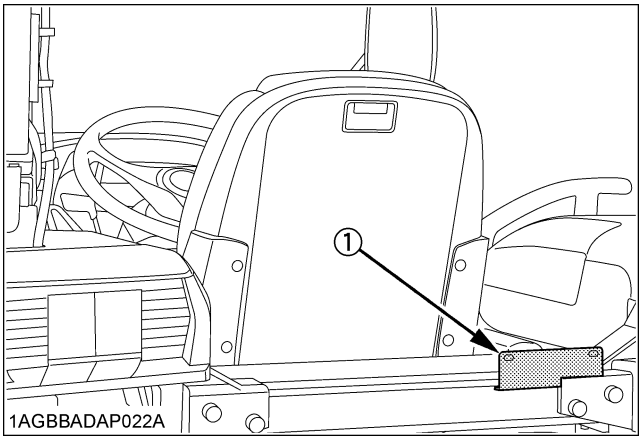
このトラクタは，道路運送車両法の小型特殊自動車に該当します。

■小型特殊自動車取得の届出と標識（ナンバープレート）の取付け

新たに小型特殊自動車の所有者となった者は，市町村条例により，その取得したことを市町村役所に届けて，標識（ナンバープレート）の交付を受けなければなりません。
手続きは市町村により，多少異なりますので詳細は，購入先にご相談ください。

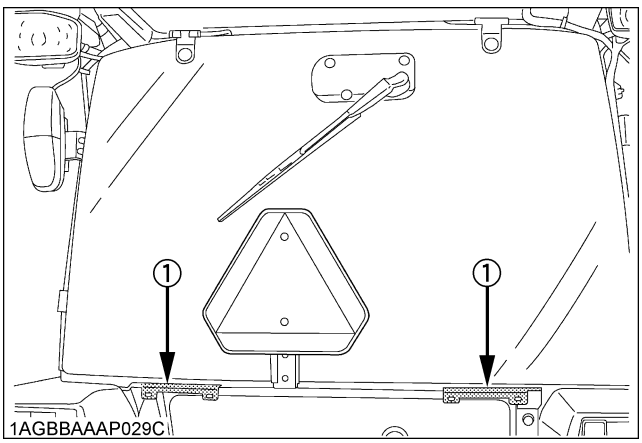
1. 小型特殊自動車を購入したときは，販売証明書など（購入先で発行）に，軽自動車税を添えて市町村役所に届出ます。
2. 届出が済むと標識（ナンバープレート）が交付されます。
3. 標識（ナンバープレート）は，車体の取付け位置に取付けてください。

◆ 安全フレーム仕様



①標識（ナンバープレート）取付け位置

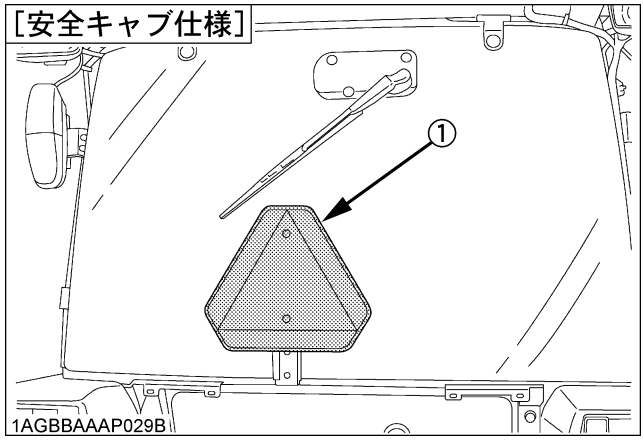
◆ 安全キャブ仕様

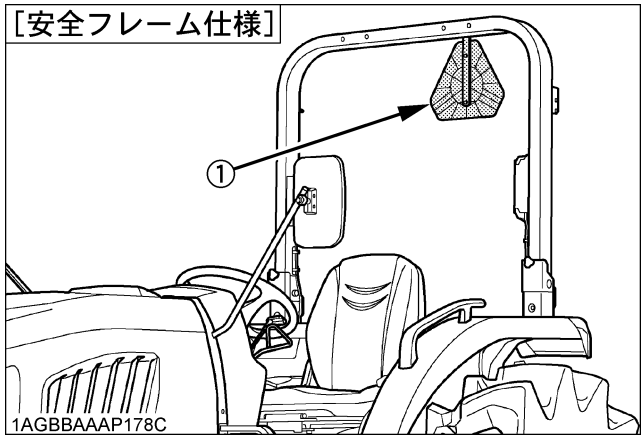


①標識（ナンバープレート）取付け位置

■低速車［SMV］マーク

公道走行時は後続車に低速農耕車が走行している事を知らせる**低速車［SMV］マーク**を取付けてください。





①低速車［SMV］マーク

■運転免許

公道を走行する場合は，次の運転免許証が必要です。必ず所持してください。

型 式	免 許 証
GJE33，GJE33K，GJE33X，GJE33KX，GJE33S	小型特殊自動車を運転できる免許証
GJE33H，GJE33KH，GJE33HX，GJE33KHX，GJE33HS	大型特殊自動車を運転できる免許証

重 要

＊ GJE33H，GJE33KH，GJE33HX，GJE33KHX，GJE33HSは道路運送車両法上の小型特殊自動車に該当しますが，**【道路交通法】**では，大型特殊自動車に該当します。従って公道を走行する場合は，**【大型特殊自動車の運転免許証】**が必要です。

■損害賠償保険について

万一の交通事故補償に備え，任意保険に加入されることをお勧めします。

重 要

＊ エンジンで封印されている所はさわらないでください。(封印が外されたと認められる場合は，一切の保証は致しません。)

■公道走行時の注意

- インプルメントやアタッチメントを装着した状態では**【道路運送車両法の保安基準】**を満たしませんので，道路走行することはできません。
- 作業灯は**【道路運送車両法の保安基準】**第42条（灯火の色等の制限）において，**【走行中に使用しない灯火】**とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。
- 農耕トラクタに関わる**【道路運送車両法の保安基準】**の運用見直しにより，直装型の作業機については，条件を満たせば装着した状態で公道を走行することができるようになりました。

■輪距

公道走行は，必ず指定の輪距で走行してください。指定の輪距どおりでない場合は**【道路運送車両法の保安基準】**違反になり，道路を走行することができません。

運転のしかた

運転前の点検

故障を未然に防ぐには，機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は一日一回，運転前に欠かさず行なってください。
（点検方法の詳細は，**［トラクタの簡単な手入れと処置］**の章を参照。）

警　告

＊ 運転前にブレーキ・クラッチ・ステアリングや安全装置などの日常点検を行ない，摩耗や損傷している部品があれば交換してください。また，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。
＊ 点検をするときは，必ず作業機を降ろしエンジンを停止してから行なってください。
＊ 燃料補給時は，くわえタバコ・裸火照明はしないでください。
＊ 燃料・オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊ 運転中及び停止直後は，ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。熱湯が噴出してヤケドをするおそれがあります。
＊ エンジン周囲のカバー類を開けて点検・整備するときは，次の手順に従ってください。
(1) エンジン停止後 30 分経過してから開ける。
(2) 点検・整備で内部に触れるときは，ヤケドのおそれがないことを確認する。

重　要

各部への給油と交換
＊ 点検するときはトラクタを水平な場所に置いて行なってください。傾いていると正確な量を示さないことがあります。
＊ 使用するエンジンオイル，ミッションオイルは，必ず**［指定オイル］**を使用してください。

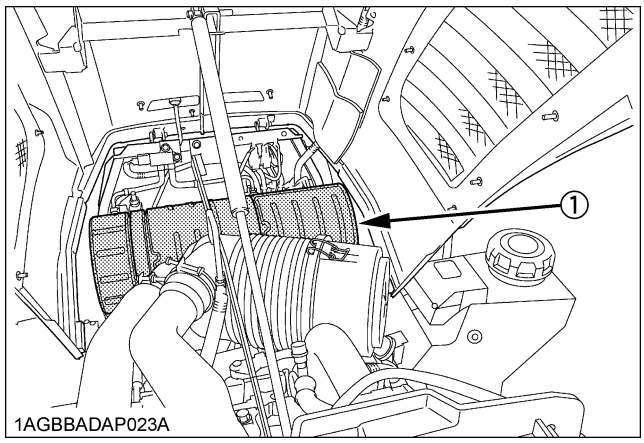
排ガス後処理装置

警　告

＊ DPF 再生中は排ガスや DPF が高温になります。火傷，可燃物への発火や溶解に注意してください。
＊ 高温の排ガスがあたらないように，トラクタを人や動物などから離してください。
＊ 再生中は白煙が発生する場合があります。換気の悪い納屋等での再生は行なわないでください。
＊ 再生中はトラクタから離れないでください。

■ディーゼル・パーティキュレート・フィルタ（DPF）マフラ

このトラクタには，ディーゼルエンジン排ガス中の炭化水素，一酸化炭素や他の有毒ガスを無害な二酸化炭素や水に酸化すると同時に，PM（微粒子状物質）をフィルターで捕集する DPF（ディーゼル・パーティキュレート・フィルタ）マフラ付きエンジンを搭載しています。
排ガス後処理装置を正しく取り扱い，環境保全にも努めてください。



① DPF マフラ

■取扱いポイント

DPF マフラ内に捕集した PM（微粒子状物質）が一定量堆積すると，PM を DPF マフラ内で燃焼させ DPF マフラをリフレッシュさせる必要があります。この燃焼作業を**【再生】**と呼びます。
この再生に到達するまでの運転時間を延ばし，DPF マフラの故障を防ぐため，必ず以下の取扱い事項を守ってください。

◆ 燃料

燃料は必ず超低硫黄ディーゼル軽油（サルファーフリー軽油）を使用してください。

重　要

＊ 超低硫黄ディーゼル軽油以外の軽油を使用した場合，エンジンや排ガス後処理装置などに悪影響を与え，故障の原因となります。また，排ガス浄化基準に適合しなくなるおそれがあります。

◆ エンジンオイル

DPF 搭載用ディーゼルエンジンオイル**（指定オイル D10W-30 DH-2）**をご使用ください。

重　要

＊ 指定のエンジンオイル以外を使用すると DPF の早期目詰まりや燃費の悪化を招くおそれがあります。

◆ 不必要なアイドリング運転の禁止

一般にエンジン回転が低いほど排ガス温度も低く，排ガス中の PM（微粒子状物質）も燃焼されず堆積しやすくなります。従って，不必要なアイドリング運転はしないでください。

◆ 再生

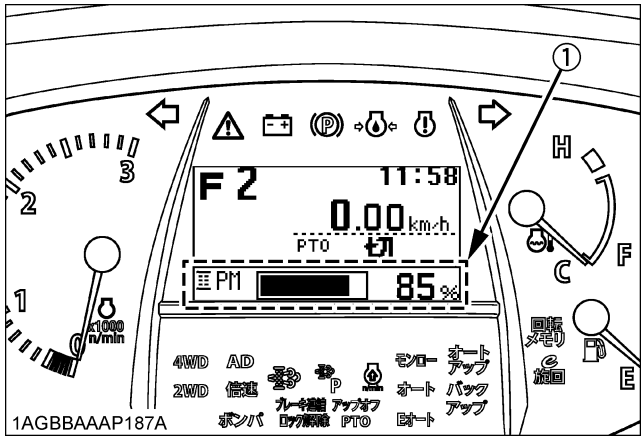
ランプやブザーで**【再生】**の指示サインが出たときは，速やかに再生を行なってください。

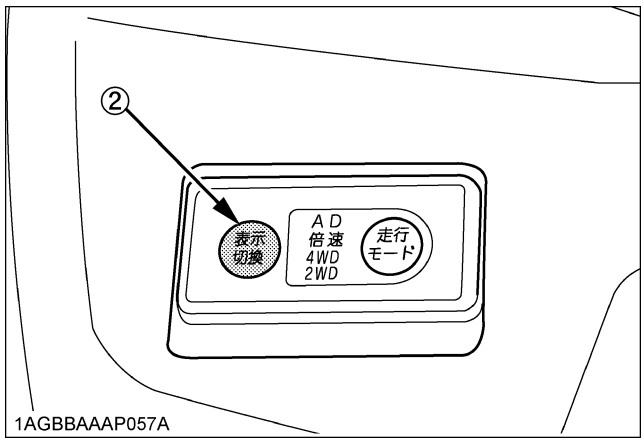
重　要

＊ 再生の中断や警告を無視して運転を続行すると，エンジンや DPF の故障の原因となります。

■液晶モニタの表示

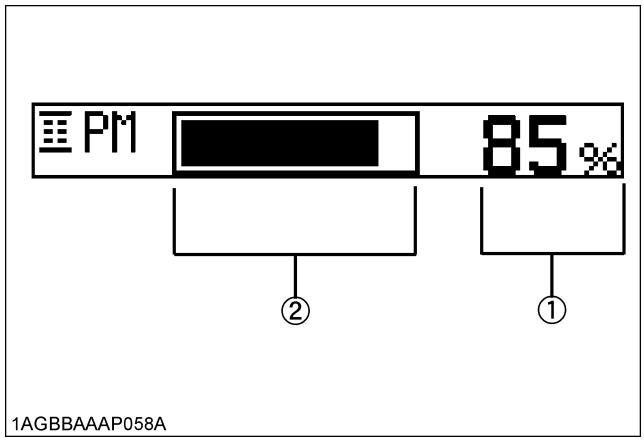
表示切換えスイッチを押して液晶モニタの画面を切替えることにより，DPF マフラ内の PM 堆積量を表示させることができます。





① PM 堆積量表示
②表示切換えスイッチ

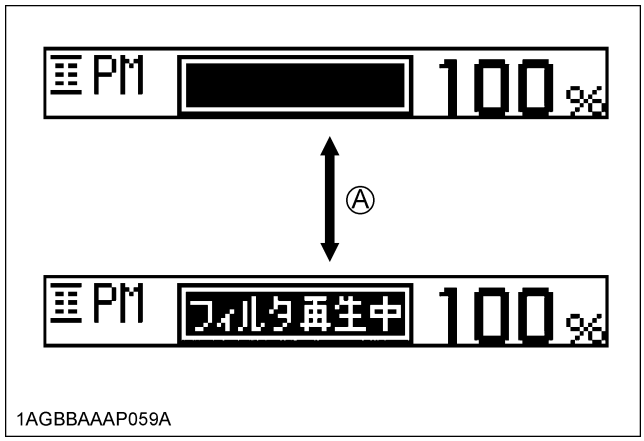
◆ 表示項目



①	PM 堆積量表示	今現在の PM 堆積割合（%）を表示します。
②	PM 堆積量目安グラフ	今現在の PM 堆積割合を目安グラフ表示します。

補　足

＊ PM 堆積量表示中に自動再生・駐車再生が実行されると，PM 堆積量目安グラフと「フィルタ再生中」の文字が交互に表示されます。



Ⓐ交互に表示

＊ 再生中の PM 堆積量目安グラフは 100％表示を継続し，再生終了時に 0％を表示します。

■ DPF マフラの再生方式

DPF マフラの再生方式は，作業に応じ**【自動再生】**又は**【再生禁止】**の何れかが選択できます。再生に伴う排ガスの高温が作業に適さない場合を除き，**【自動再生】**の使用を推奨します。

◆ 自動再生モード

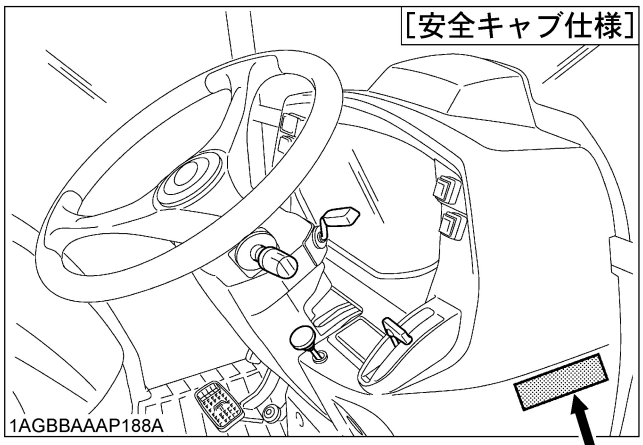
エンジンを始動すると（スイッチ類の操作不要）**【自動再生】**モードが自動的に選択されます。自動再生モードでは PM が一定量堆積し，再生に必要な条件（後述の**【DPF 再生に関する豆知識】**の項を参照）が整うと，トラクタの走行や停車に関係なく自動的に再生処理されます。
自動再生の詳細は後述の**【自動再生モードの操作手順】**の項を参照してください。

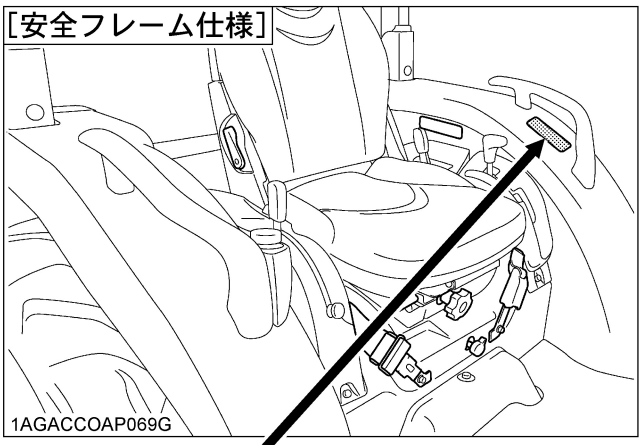
◆ 再生禁止モード

エンジン始動後，**【再生禁止スイッチ】**を押しスイッチランプを点灯させると，**【再生禁止】**モードに切替わります。このモードに切替えると，PM は DPF 内に堆積され，オペレータの意思で再生操作を行なわない限り再生されません。換気の悪いビニールハウス内作業や牛舎内作業に有効です。
再生禁止の詳細は後述の**【再生禁止モードの操作手順】**の項を参照してください。

補　足

＊ 一旦エンジンを停止すると**【自動再生】**モードに切替わります。





ディーゼル・パーティキュレート・フィルタ(ＤＰＦ)マフラの再生方法

このトラクタはＤＰＦマフラを搭載しているため、以下の手順で再生処理を行ってください。

ＤＰＦ再生方法には、作業中に行う「自動再生」と停車して行う「駐車再生」があります。再生を行う時は、屋外で可燃物が周囲にないことを確認してください。

自動再生の方法

再生禁止スイッチが点灯している時は
スイッチを押して消灯させます。

再生が必要になると再生状態ランプが点滅します。
再生が始まると点灯に変わり、完了すると消灯します。

消灯(完了)

n/min

このランプが点滅したら、消灯するまで
エンジン回転数を上げてください。

駐車再生の方法

P

このランプが点滅したら
駐車再生を行ってください。

1. 駐車ブレーキを引く
2. シャトルレバーＮ位置
3. エンジンアイドル運転
4. ＰＴＯスイッチＯＦＦ
5. 再生禁止スイッチ消灯

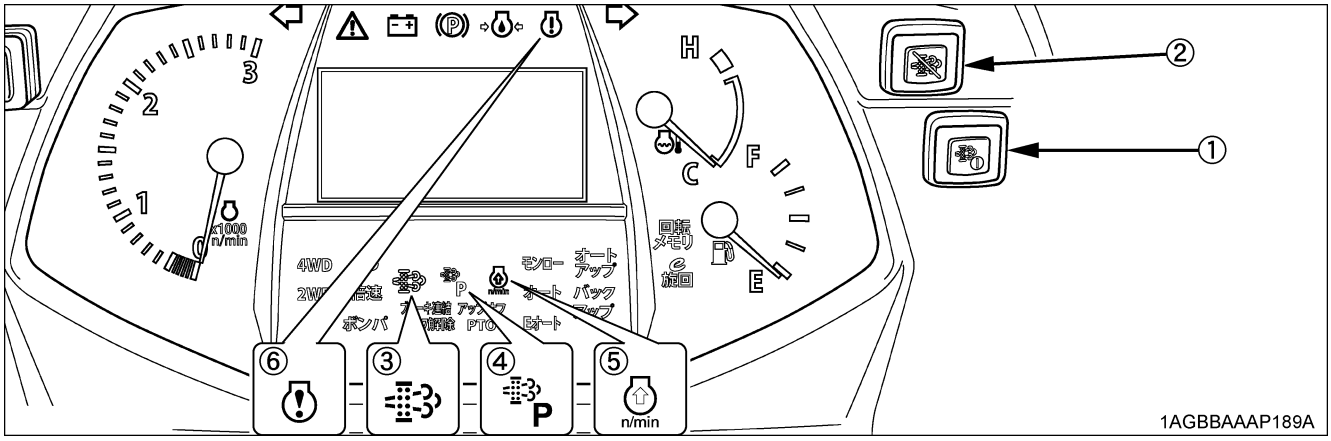
駐車再生スイッチを押すと点滅から
点灯に変わり再生が始まります。

再生が始まるとエンジン回転数が上昇します。
再生状態ランプが点灯し、完了すると消灯します。

消灯(完了)

1AGBBAAAP037G

自動再生モードの操作手順



①駐車再生スイッチ　③再生状態ランプ　⑤エンジン回転上げ要求ランプ
②再生禁止スイッチ　④駐車再生要求ランプ　⑥エンジン異常警告灯

■再生操作手順

1. エンジンを始動します。(再生禁止スイッチランプ  が消灯している事を確認する)

再生禁止スイッチランプ消灯：自動再生モード選択時
再生禁止スイッチランプ点灯：再生禁止モード選択時

補　足

＊ エンジンを始動すると自動的に**［自動再生］**モードが選択されます。
＊ 再生禁止スイッチはエンジン始動後，スイッチを押す毎に切替わります。

2. 再生状態ランプ  が点滅表示した場合：

DPF マフラに一定量の PM が堆積しています。
そのまま運転を続行してください。再生に必要な条件が整うと自動的に再生が開始されます。
DPF や排ガス温度が上昇しますので安全な場所で作業してください。

3. エンジン回転上げ要求ランプ  が点滅した場合， 消灯するまでエンジン回転を上げてください。

補　足

＊ 自動再生モードでも，トラクタの運転状態によっては，再生に必要な条件が整わず再生されない場合もあります。
＊ エンジン負荷が大きい場合，エンジン回転上げ要求ランプが点滅していても再生条件を満たす事もあります。(後述の**［DPF 再生に関する豆知識］**の項を参照してください。)

■ PM 堆積の警告レベルと必要な処置

自動再生モードで運転時，PM が一定量堆積すると自動で再生処理されますが，再生の中断や再生条件が整わなかった場合，PM の堆積レベルに応じブザー音やランプの表示を変化させ，オペレータに再生を促します。

重　要

＊ 再生が必要なレベルに達した時は，速やかに再生を行なってください。再生の中断や警告を無視して運転を続行すると，エンジンや DPF の故障の原因となります。

<table>
<tr><th colspan="3">自動再生モード</th></tr>
<tr><th colspan="2">状態</th><th>処置</th></tr>
<tr><td rowspan="3">警告レベル：1

ブザー音：無し</td><td></td><td>再生状態ランプが点滅する。</td><td>DPF マフラに一定量の PM が堆積しています。そのまま運転を続行してください。</td></tr>
<tr><td></td><td>エンジン回転数が低い時，エンジン回転上げ要求ランプが点滅する。</td><td>消灯するまでエンジン回転を上げてください。</td></tr>
<tr><td></td><td>再生状態ランプは点滅から点灯に切替わる。</td><td>再生が開始され，完了すると消灯します。</td></tr>
<tr><td>警告レベル：2-1

ブザー音：
５秒に１回鳴る</td><td colspan="2">再生の中断や再生条件が整わないと警告レベル２になります。</td></tr>
<tr><td></td><td>再生状態ランプが点滅する。</td><td>上記の警告レベル１を参照し【再生】を行なってください。</td></tr>
<tr><td>警告レベル：2-2

ブザー音：
３秒に１回鳴る</td><td>
</td><td>エンジン回転数が低い時，エンジン回転上げ要求ランプが点滅する。
駐車再生要求ランプも点滅する。</td><td>駐車再生要求ランプが点滅時，駐車再生も可能です。
再生条件が整わない場合は【駐車再生】を行なってください。
＊ 駐車再生操作は【駐車再生の操作手順】の項を参照してください。</td></tr>
<tr><td>警告レベル：3

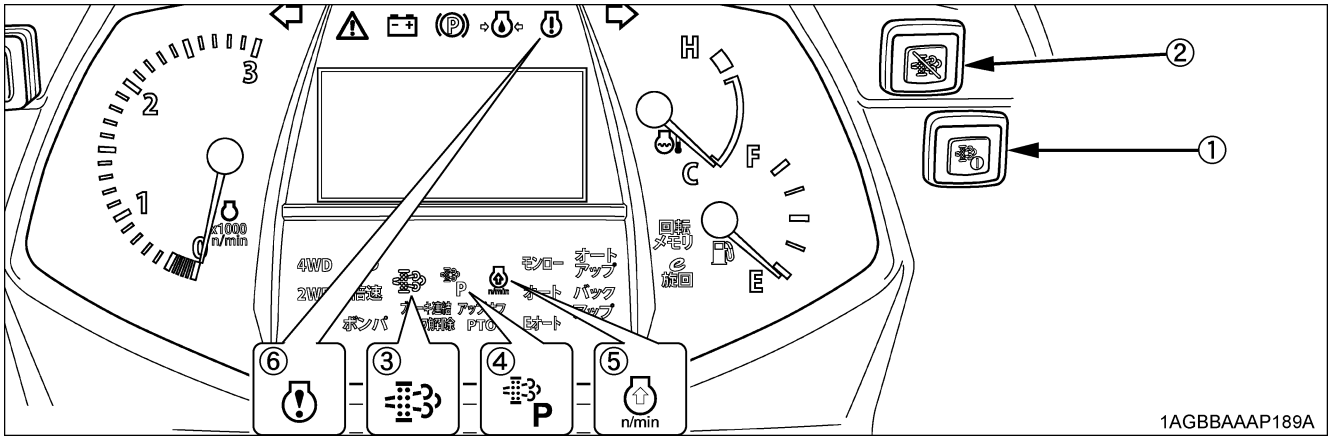
ブザー音：
１秒に１回鳴る

エンジン出力：
50％に制限されます</td><td colspan="2">警告レベル２での再生ができなかった場合</td></tr>
<tr><td>
</td><td>エンジン異常警告灯が点滅する。
駐車再生要求ランプも点滅する。</td><td>DPF マフラに多量の PM が堆積しています。直ちに作業を中断し【駐車再生】を行なってください。
＊ 駐車再生操作は【駐車再生の操作手順】の項を参照してください。
この段階では【自動再生モード】は作動しません。
これ以上運転を続けると再生操作ができなくなります。</td></tr>
<tr><td>警告レベル：4

ブザー音：
１秒に１回鳴る

エンジン出力：
50％に制限されます</td><td colspan="2">警告レベル３での駐車再生を中断，又は無視をして運転を続行した場合</td></tr>
<tr><td></td><td>エンジン異常警告灯が点灯する。</td><td>直ちにトラクタを安全な場所に移動させ運転を中断し購入先へ連絡してください。
これ以上運転を続行すると，DPF やエンジンに致命的なトラブルが生じますので絶対に運転しないでください。</td></tr>
</table>

再生禁止モードの操作手順



①駐車再生スイッチ　③再生状態ランプ　⑤エンジン回転上げ要求ランプ
②再生禁止スイッチ　④駐車再生要求ランプ　⑥エンジン異常警告灯

■操作手順

1. エンジンを始動します。

2. 再生禁止スイッチ  を押し，スイッチランプを点灯させます。

   再生禁止スイッチランプ点灯：再生禁止モード選択時
   再生禁止スイッチランプ消灯：自動再生モード選択時

3. 運転中，駐車再生要求ランプ  が点滅表示した場合， DPF マフラに一定量の PM が堆積しています。
   トラクタを安全な場所に移動させ，**［駐車再生の操作手順］**に従い DPF マフラの再生を行なってください。

■ PM 堆積の警告レベルと必要な処置

再生禁止モードで運転時，PM の堆積レベルに応じブザー音やランプの表示を変化させ，オペレータに再生を促します。

重　要

＊ 再生が必要なレベルに達した時は，速やかに再生を行なってください。再生の中断や警告を無視して運転を続行すると，エンジンや DPF の故障の原因となります。

<table>
<tr><th colspan="3">再生禁止モード</th></tr>
<tr><td colspan="2">状態</td><td>処置</td></tr>
<tr><td>警告レベル：1

ブザー音：無し</td><td></td><td>再生状態ランプが点滅する。</td><td>DPF マフラに一定量の PM が堆積しています。このまま運転を続行してもかまいません。</td></tr>
<tr><td>警告レベル１，２
共通項目</td><td colspan="2">
警告レベルが［1 ～ 2-2］の範囲内であれば，再生禁止スイッチを自動再生モードに切替え，自動再生を行なうことも可能です。</td></tr>
<tr><td>警告レベル：2-1

ブザー音：
５秒に１回鳴る</td><td rowspan="2">
再生状態ランプが点滅する。


駐車再生要求ランプも点滅する。</td><td rowspan="2">トラクタを安全な場所に移動し，【駐車再生】を行なってください。
＊ 駐車再生操作は【駐車再生の操作手順】の項を参照してください。</td></tr>
<tr><td>警告レベル：2-2

ブザー音：
３秒に１回鳴る</td></tr>
<tr><td rowspan="2">警告レベル：3

ブザー音：
１秒に１回鳴る

エンジン出力：
50％に制限されます</td><td colspan="2">警告レベル２での再生ができなかった場合</td></tr>
<tr><td>
エンジン異常警告灯が点滅する。


駐車再生要求ランプも点滅する。</td><td>DPF マフラに多量の PM が堆積しています。直ちに作業を中断し，トラクタを安全な場所に移動し，【駐車再生】を行なってください。
＊ 駐車再生操作は【駐車再生の操作手順】の項を参照してください。
これ以上運転を続行すると再生操作ができなくなります。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">警告レベル：4

ブザー音：
１秒に１回鳴る

エンジン出力：
50％に制限されます</td><td colspan="2">警告レベル３での駐車再生を中断，又は無視をして運転を続行した場合</td></tr>
<tr><td>
エンジン異常警告灯が点灯する。</td><td>直ちにトラクタを安全な場所に移動させ運転を中断し購入先へ連絡してください。
＊ これ以上運転を続行すると，DPF やエンジンに致命的なトラブルが生じますので絶対に運転をしないでください。</td></tr>
</table>

駐車再生の操作手順

1. トラクタを建物，人や動物から離れた安全な場所に停車させます。

2. 駐車ブレーキを掛けます。(①)

3. シャトルレバーを中立位置にします。(②)

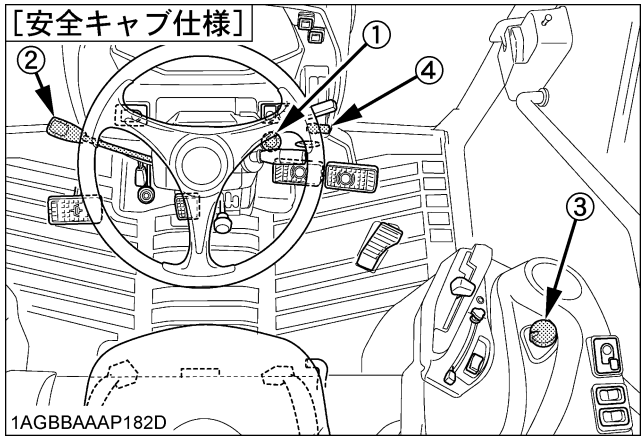
4. あんしん PTO スイッチを **[切]** にします。(③)

5. エンジン回転をアイドリングにします。(④)

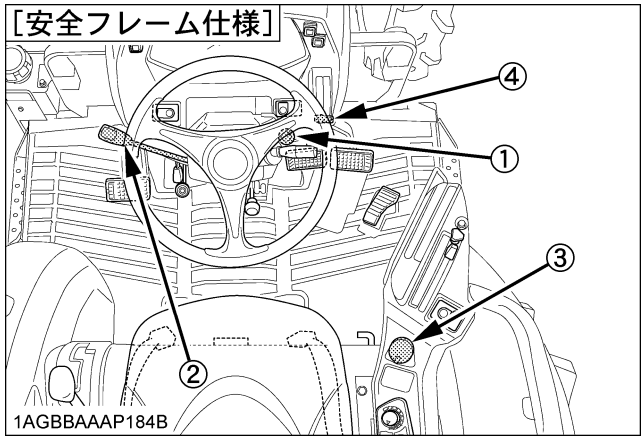
6. 作業機を下げます。

7. 再生禁止スイッチ(ランプ)  を押し **[消灯]** させます。

[安全キャブ仕様]



[安全フレーム仕様]



8. 駐車再生手順（上記２～５と７）が整うと駐車再生スイッチランプ  が点滅します。

9. 駐車再生スイッチ  を押し， 再生を開始します。（スイッチランプは点灯に変わる。）

10. エンジン回転が自動的に上昇し，再生が開始されます。

11. 再生中は  ランプが点灯し，再生が終了すると消灯します。

12. ランプが消灯後，作業を開始してください。
なお，**[再生禁止]** モードで運転する場合，再生禁止スイッチを押しスイッチランプを点灯させてください。

補　足

＊ 緊急時以外，再生中は上記レバーやスイッチ（手順２，３，４），エンジン回転数を操作しないでください。もし操作すると，再生が中断されます。
＊ 駐車再生中はトラクタから離れないでください。
＊ 駐車再生を中断させた場合，約 30 秒間エンジン回転がアイドリングで固定されます。この 30 秒間はアクセルレバーやアクセルペダルをアイドリング位置で保持し操作しないでください。30 秒経過後は正常に作動します。

■ DPF の再生に関する豆知識

- **運転**
  エンジンは高速，高負荷運転するほど，排ガス温度は高温となるため，排ガス中の PM（微粒子状物質）は DPF マフラ内で燃焼します。その結果，DPF マフラは**【再生】**に到達するまでの運転時間が長くなります。逆にエンジン回転が低く負荷も低いほど，排ガス温度も低くなるため，排ガス中の PM（微粒子状物質）は，DPF マフラ内で燃焼されず堆積しやすくなります。その結果，DPF マフラは**【再生】**に到達するまでの運転時間が短くなるので，不必要なアイドリング運転等は推奨しません。

- **【再生】に必要な条件**
  下記条件がすべて整うと再生が始まりますが，再生途中に１つでも条件から外れると中断します。
  (1) エンジン冷却水温が充分暖まっているとき
  (2) DPF 温度が高温になっているとき
  (3) エンジン回転数が約1200 rpm以上のとき

- 再生は通常15～20分で終了します。(再生時間は外気温度，排ガス温度やエンジン回転数により異なります。)

- 再生は，エンジンが充分に暖まっているときに行なうことを推奨します。

- 不必要な再生・中断操作を繰返し行なわないでください。エンジンオイルに微量の燃料が混ざり，オイルの質を低下させます。

- DPF 再生時は,エンジンの空気流入量を自動的に制限し，排気温度が高くなるように制御されています。このとき，エンジン音が変化しますが異状ではありません。

- 再生終了直後は,DPF マフラが高温になっていますので，約５分程度エンジンを継続して運転することを推奨します。

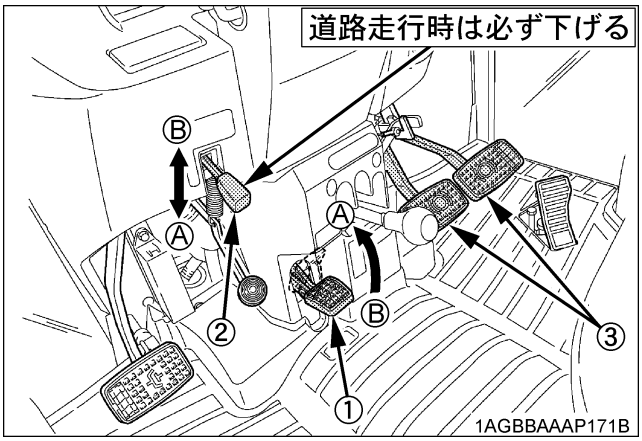
エンジンの始動と停止

警　告

＊ この取扱説明書前編の黄色のページの［安全に作業するために］の内容を必ずお読みください。
＊ トラクタに貼ってある安全ラベルの内容を必ずお読みください。
＊ エンジンを始動する前に，必ずシートに座り，シャトルレバーや PTO 変速レバーが［中立］（N）かどうか，また駐車ブレーキが掛かっているかを確認してください。
＊ あんしん PTO スイッチを［切］にしてください。
＊ トラクタが突然動き出すおそれがあるため，地上に立ってエンジンを始動したり，スタータ端子や安全スイッチを直結してエンジンを始動しないでください。
＊ 室内やビニールハウス内などで運転する場合は，換気を十分に行なってください。
換気が不十分であると排ガスにより，一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

■始動のしかた

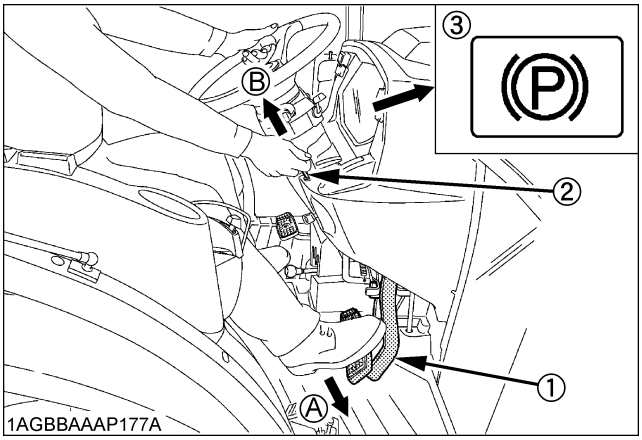
1. 連結解除ペダルロックレバーを［下げ］，連結解除ペダルが踏めないことを確認してください。



①連結解除ペダル　Ⓐ“ロック（格納）”
②連結解除ペダルロックレバー　Ⓑ“ロック解除”
③ブレーキペダル

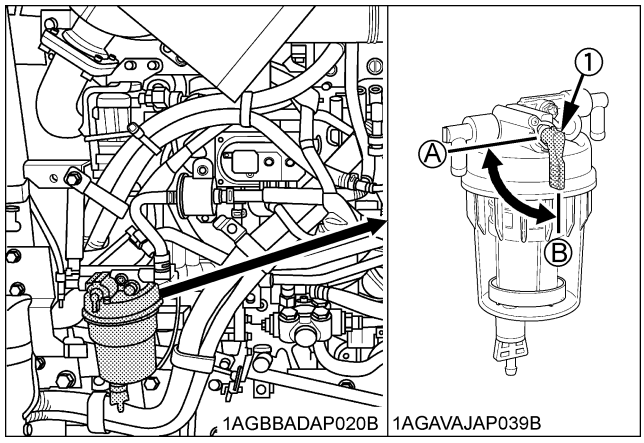
2. 駐車ブレーキをかけます。

左右を連結したブレーキペダルを踏込み，グリップを**［引い］**たまま足をはなすと駐車ブレーキが掛かります。
キースイッチ**［入］**時，駐車ブレーキを掛けると，メータパネル内の(Ⓟ)ランプが点灯します。



①ブレーキペダル　Ⓐ“踏込む”
②駐車ブレーキグリップ　Ⓑ“引く”
③駐車ブレーキランプ

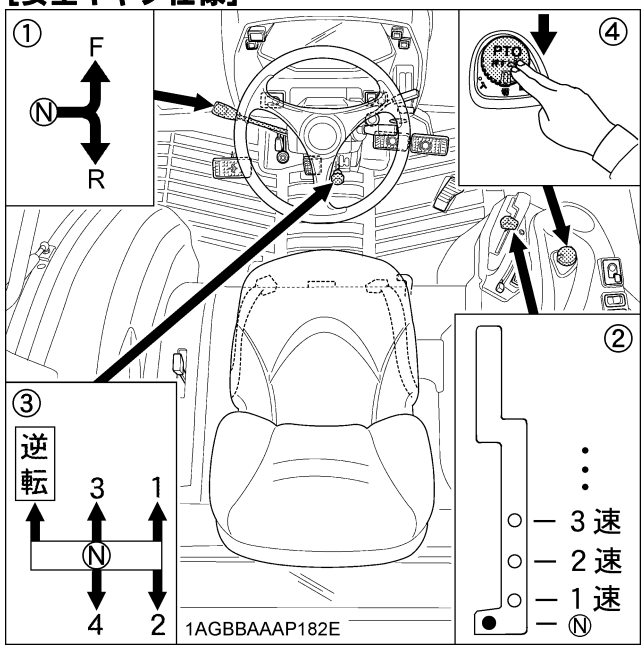
3. 燃料コックを［開］にします。



①燃料コック　Ⓐ“閉”
Ⓑ“開”

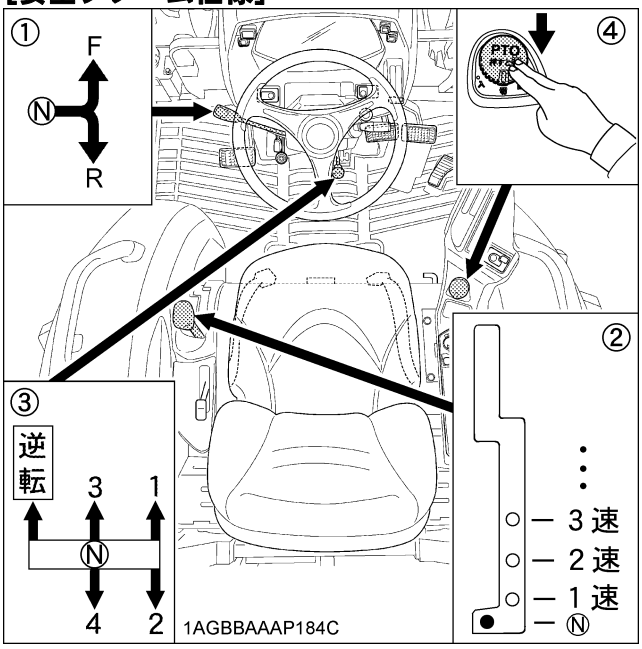
4. 主変速レバー，シャトルレバー，PTO 変速レバーを［中立］（N）にします。あんしん PTO スイッチを［切］にします。あんしん PTO スイッチはスイッチを軽く押すと［切］に戻ります。

［安全キャブ仕様］



①シャトルレバー　Ⓕ“前進”
②主変速レバー　Ⓝ“中立（N）”
③ PTO 変速レバー　Ⓡ“後進”
④あんしん PTO スイッチ

[安全フレーム仕様]



①シャトルレバー
②主変速レバー
③ PTO 変速レバー
④あんしん PTO スイッチ
Ⓕ“ 前進 ”
Ⓝ“ 中立（N）”
Ⓡ“ 後進 ”

補　足

＊ シャトルレバーを**［中立］（N）**，あんしん PTO スイッチを**［切］**にしないと，安全スイッチが作動してエンジンは始動しません。

5. キースイッチにキーを差込み［入］位置にします。

液晶（メッセージ）表示部に暗証番号入力画面が表示された場合は，表示切換スイッチ／走行モード切換スイッチで3桁の暗証番号を入力してください。

補　足

＊ 工場出荷時は，セキュリティ機能は**［切］**になっています。
＊ セキュリティ機能の**［入］**と**［切］**の切替えや暗証番号入力方法や変更についての詳細は，**［運転のしかた］**の章の**［エンジン始動セキュリティ機能］**の項を参照してください。
＊ 暗証番号を連続して 10 回誤入力すると，液晶（メッセージ）表示部に **“ 暗証番号エラー購入先へ連絡してください ”** と表示され，エンジン始動が不可能となります。この場合は購入先に連絡してください。
＊ エンジン停止後，10 分以内であれば，エンジン再始動が可能です。

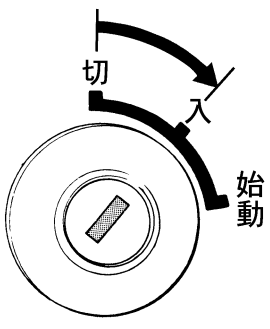
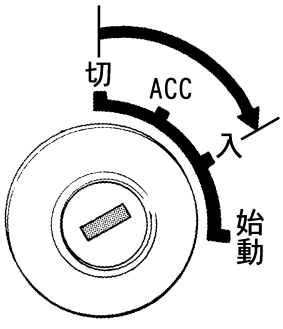
■キースイッチ

切 ..... エンジンが停止し，キーが抜き差しできる位置。

ACC..... **（安全キャブ仕様）** エンジン停止中，CD/MP3 プレーヤが使えます。（この位置で，長時間使用しないでください。バッテリあがりの原因になります。）

入 ..... 燃焼室内を予熱する位置。エンジン回転中の位置，すべての電気装置が使えます。

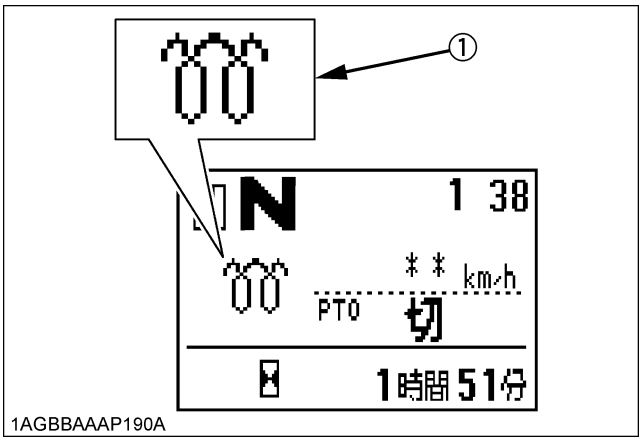
始動 ..... エンジンを始動する位置。手を離せば自動的に**［入］**に戻ります。

安全フレーム仕様	安全キャブ仕様
	

1AGBBADAP077A

■オートグロー

冷却水温が低いとき，キースイッチを**【入】**にすると，エンジン予熱ランプが点灯し，予熱が完了すると，自動的に消灯します。
寒冷時はエンジン予熱ランプが**【消灯】**したことを確認し，セルモータを回してください。



①エンジン予熱ランプ

■モニタランプ

キースイッチ【入】時，下記ランプが点灯又は消灯しているか確認してください。

点灯ランプ …… ②③④
1. ③ランプが消灯しているときは，駐車ブレーキを掛けてください。

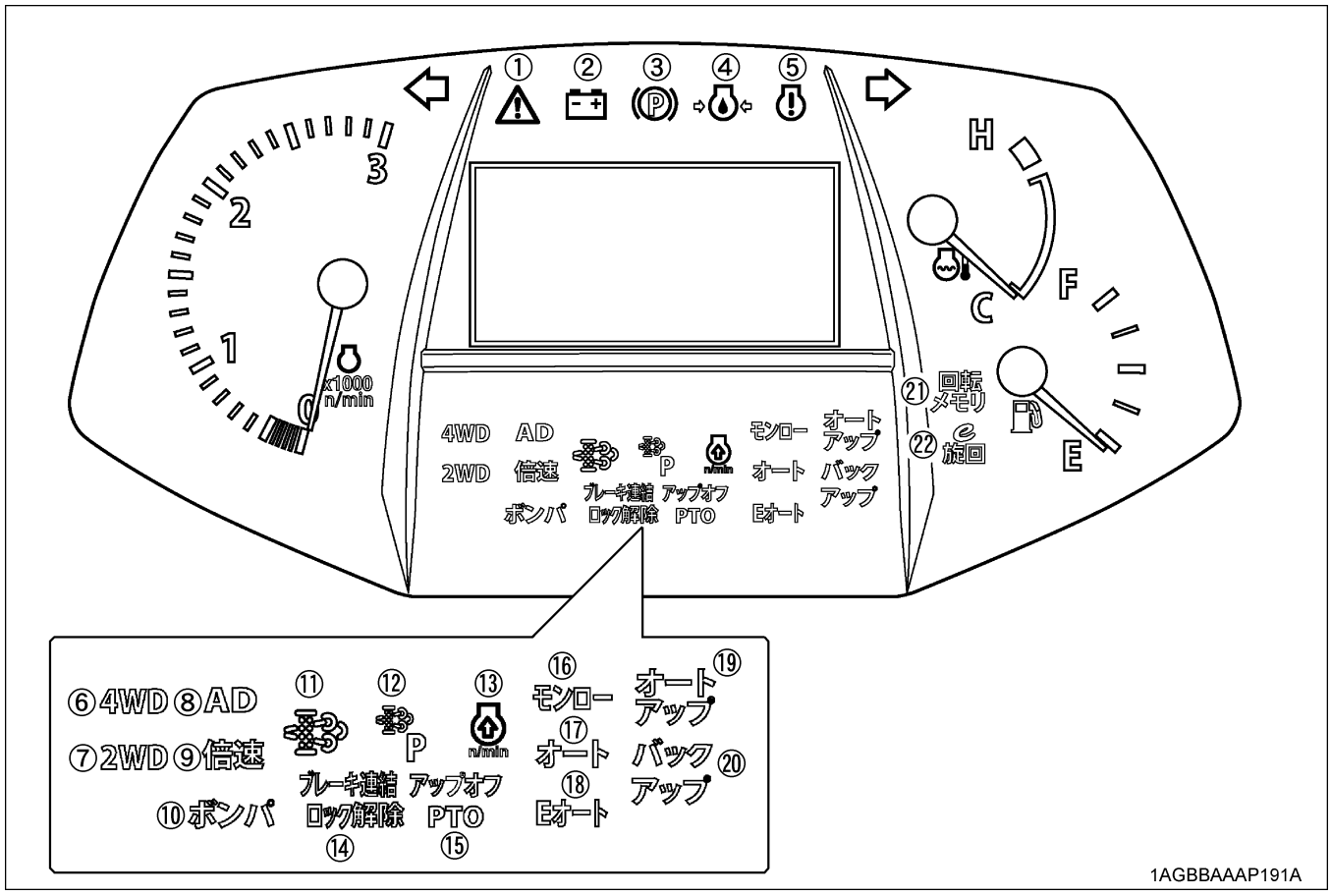
消灯ランプ …… ①⑤⑭⑮
1. ⑭ランプが点灯しているときは，連結解除ペダルロックレバーを【下げ】てください。
2. ⑮ランプが点灯しているときは，PTO スイッチを【切】にしてください。

重　要

＊ ランプに異常があるときは，購入先に点検・整備を依頼してください。

補　足

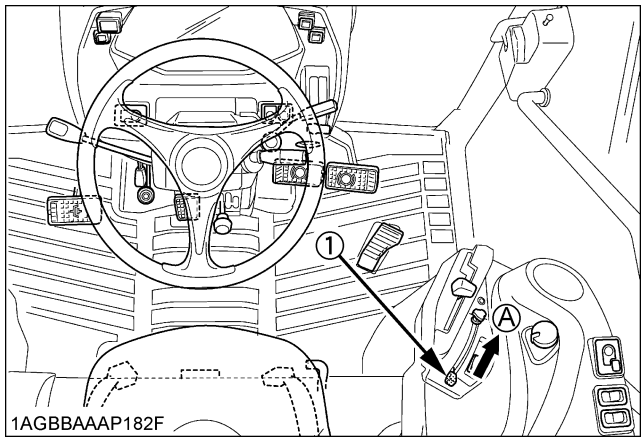
＊ レバーやスイッチの位置により，点灯又は点滅するランプもあります。(仕様により異なります)



①警告灯
②充電異常警告灯（チャージランプ）
③駐車ブレーキ警告灯
④エンジンオイル油圧警告灯
⑤エンジン異常警告灯
⑥ 4WD ランプ
⑦ 2WD ランプ
⑧ AD ランプ
⑨倍速ランプ
⑩ボンパランプ
⑪再生状態ランプ
⑫駐車再生要求ランプ
⑬エンジン回転上げ要求ランプ
⑭ブレーキ連結ロック解除警告灯
⑮アップオフ PTO ランプ
⑯モンローランプ
⑰オートランプ
⑱ E オートランプ
⑲オートアップランプ
⑳バックアップランプ
㉑回転メモリランプ
㉒ e アシスト旋回ランプ

6. 作業機を下げます。

油圧レバーを前方に倒すと作業機が下がります。

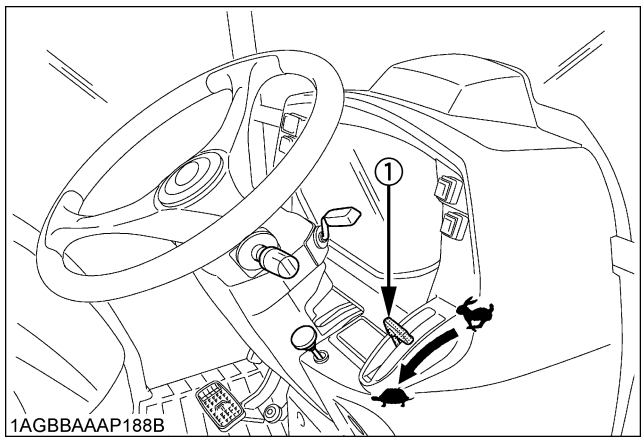


①油圧レバー **Ⓐ“下げ”**

補　足

＊ 油圧ロックされている場合は下がりません。（**［作業のしかた］**の章の**［作業機昇降装置］**の項を参照。）

7. アクセルレバーを［低速］側に合わせます。



①アクセルレバー **：“高速”**
：“低速”

8. クラッチペダルを［踏込み］ます。

補　足

＊ エンジンはクラッチペダルを踏込まなくても始動できますが，安全確保のため踏込んでください。

9. キーを［始動］位置に回します。

電子メータメッセージ

＊ エンジン始動時，下記のメッセージが表示されると，エンジンは始動できません。メッセージに従って操作してください。

PTOスイッチを
「切」にして下さい

シャトルレバーを
「中立」にして下さい

PTOスイッチを「切」に
シャトルレバーを
「中立」にして下さい

重　要

＊ セルモータは，大電流を消費しますので，10秒以上の連続使用は避けてください。
10秒以内で始動しなかった場合は，いったんスイッチを切って，30秒以上休止してから同じ操作をくり返してください。

10. エンジンが始動したら，キーから手をはなしてください。

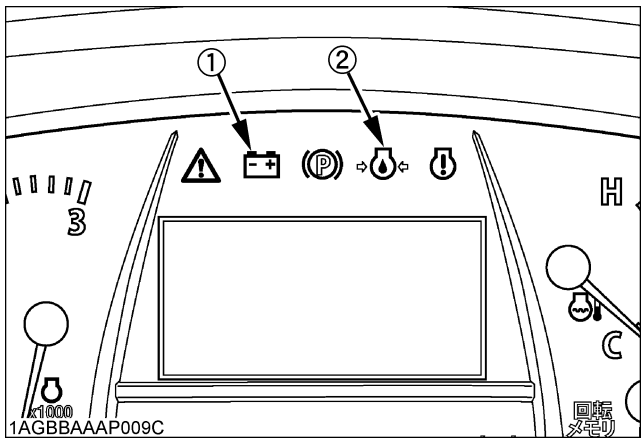
自動的に**［入］**にもどります。

重　要

＊ エンジン回転中は，キーを始動位置にしないでください。セルモータの故障原因になります。

11. 以下のランプが［消灯］したか確認します。

もし，ランプが消灯しない場合は，エンジンを停止し，点検してください。



エンジン始動後消灯するランプ：①，②

12. エンジン回転を下げ，クラッチペダルからゆっくり足を離し，そのまま 5 分程度暖機運転しましょう。

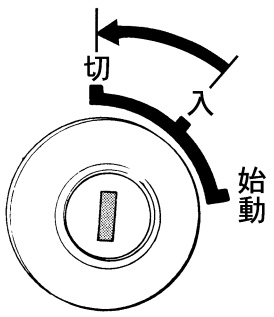
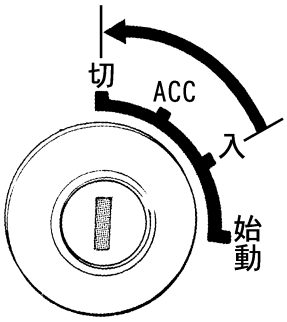
重　要

＊ エンジン回転中にキーを**［入→切→入］**と素早く操作するとエンジンは**［停止せず］**，電源系のみが一瞬**［停止状態］**になるため，マイコンがスイッチなどの故障と判断し，PTO スイッチ，電子メータなどの作動に異常をきたすことがあります。
この場合機械の故障ではないので，いったんエンジンを**［停止］**したあと，エンジンを再始動してください。

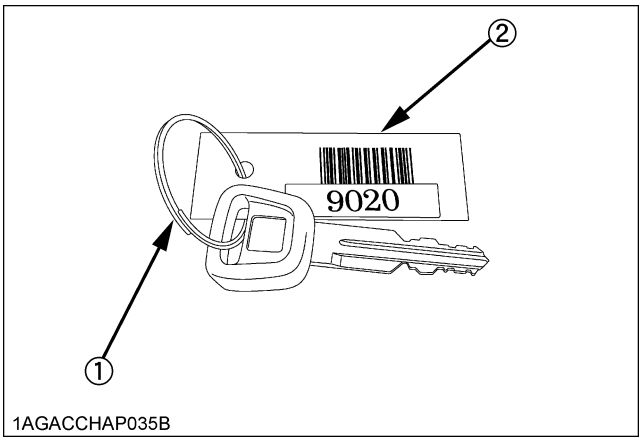
■停止のしかた

1. アクセルレバーを手前に［引き］，アイドリング状態にします。

2. キースイッチのキーを［切］の位置にすると，エンジンは停止します。

安全フレーム仕様	安全キャブ仕様
	

3. キーは必ず［抜き］ましょう。



①キーリング
②キーナンバー票

重　要

＊ キースイッチの切り忘れによるバッテリあがり防止のため，必ずキーを**［抜いて］**ください。
＊ キーリングに付属しているキーナンバー票は，キーを紛失した際必要となります。キーナンバーを裏表紙のおぼえに記入し控えておくか，キーナンバー票を大切に保管してください。
＊ バッテリあがりの原因になりますので，ルームランプは消灯してください。**［安全キャブ仕様］**

■寒冷時の暖機運転

警　告

＊ 換気が不十分な所では，暖機運転はしないでください。
換気が不十分であると排ガスにより，一酸化炭素中毒のおそれがあります。
＊ 暖機運転中は必ず駐車ブレーキを掛けてください。

始動後，約５～ 10 分間は負荷をかけずにアイドリングで暖機運転をしてください。オイルを各部にじゅうぶんゆきわたらせるためで，始動してからすぐ負荷をかけると，焼付きや破損など故障の原因になりますのでご注意ください。
このトラクタには油圧クラッチが採用されており，油圧オイルはトランスミッションオイルを兼用しています。そのためアイドリングでの暖機運転終了後は，アクセルレバーを**［低速］**側にして必ず下記の要領で暖機運転を行ない，トランスミッションオイルを暖めてください。暖機運転を行なわないと，満足な性能が得られないばかりか故障の原因になります。

気　　温	暖機運転時間
-10 ℃以上	５分間
-10 ～ -20 ℃	５～ 10 分間
-20 ℃以下	20 分間以上

補　足

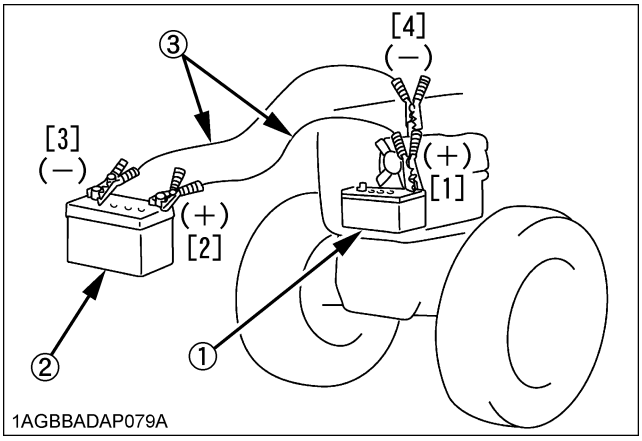
＊ エンジン始動後，エンジン回転を安定させるため，自動的に回転数が上がることがあります。
＊ 寒冷時の暖機運転では，マフラパイプ内で結露した水分が，水滴となって飛散することがあります。
アイドリング以外で暖機運転をすると，水滴の飛散量が多くなります。

■バッテリあがりの処置

ブースタケーブル（別売）があれば，他車のバッテリを電源としてエンジンを始動することができます。

1. ブースタケーブルを図の番号順で接続します。

＊ トラクタのキースイッチを**【切】**にします。
＊ バッテリの（＋）端子同士を接続します
＊ マイナスケーブルの他端**【4】**の接続位置は，バッテリから離れたエンジン本体又は車体に接続します。
（マイナスケーブルの他端**【4】**を直接バッテリの（－）端子に接続すると，バッテリから発生する可燃ガスに引火するおそれがありますので接続しないでください。）



①放電したトラクタバッテリ
②救援車バッテリ
③ブースタケーブル

2. 救援側の車を始動し，少しエンジン回転を高めに保ちます。
3. トラクタのエンジンを始動します。
（始動手順は**【エンジンの始動と停止】**の項を参照）
4. ブースタケーブルを接続順序の逆で外します。

重　要

＊ 救援車は必ず12 Vバッテリ車を使用してください。
＊ ケーブル接続の際には，（＋）と（－）端子を絶対に接触させないでください。
＊ ケーブルが冷却ファンなどに巻込まれないようにしてください。
＊ ケーブル接続の際には，（＋）と（－）をよく確認し，絶対に逆に接続しないでください。逆に接続すると，トラクタや救援車の電子機器類が破損する場合があります。
＊ 救援車にこのトラクタを使用する場合は，必ず作業機を降してください。

■ならし運転（最初の約 50 時間）

この期間中は，特に次のことを厳守してください。

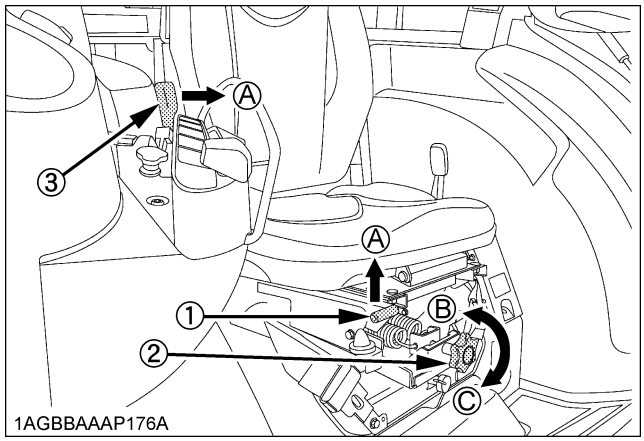
1. 急なスタート，急ブレーキは慎んでください。
2. 必要以上のスピードや負荷をかけないようにしましょう。
3. 運転は，エンジンがじゅうぶん暖まってから行なうようにしましょう。
4. 悪路や傾斜地では，速度を落とし安全を確認しながら走行しましょう。
5. 50 時間使用後，**【定期点検箇所一覧表】**に従い各部の点検，オイル交換などを行なってください。

運転席周りの調節

■シート

◆ 調整方法

1. 前後調節レバーでロックを**【解除】**すると，前後位置が調節できます。
2. リクライニング調節レバーを**【前に倒す】**と，背もたれの角度が調節できます。
3. 体重調整ハンドルを**【回す】**と，クッションの強さが調節できます。
4. 雨のときはシートを前に倒しておくと，ぬれる心配がありません。**【安全フレーム仕様】**



①前後調節レバー　　**Ⓐ“解除”**
②体重調整ハンドル　　**Ⓑ“強くなる”**
③リクライニング調節レバー　　**Ⓒ“弱くなる”**

補　足

＊ 体重調整ハンドルの回動が固い場合，ネジ部に少量のグリースを塗布してください。
＊ シートサスペンションのスムーズな作動のために，スプリングのフック部に適宜グリースを塗布してください。

■安全キャブ・安全フレームとシートベルト

警　告

転倒・転落による死傷事故防止のため，下記のことを守ってください。

- **＊ トラクタを使用するときは，安全フレームを外して運転しないでください。**
- **＊ 納屋の出入りやハウス作業など，安全フレームが当たる場合を除き，運転時はいつも安全フレームを取付けて立て，確実に固定し，必ずシートベルトを着用してください。**
- **＊ 安全フレームを折りたたんだ状態では，シートベルトを絶対にしないでください。折りたたみ式安全フレームは，折りたたんだ状態では安全フレームの役目をしません。**
- **＊ 安全キャブ又は安全フレームの改造を絶対にしないでください。また，強度に影響する破損，曲がりなどが発生した場合，交換してください。**
- **＊ 安全フレームを立てたときは，左右のレバーを押込んで確実に固定してください。また日常点検時，レバーにガタがないか確認してください。**
- **＊ 安全フレームが確実に固定されているか確認してください。**
- **＊ シートベルトは作業者の身体に合わせ長さを調節してください。**
- **＊ 安全フレームを折りたたんだり，立てたりするときは，平坦な場所で必ず作業機を地面に降ろし，エンジンを止め，駐車ブレーキを掛けてから行なってください。**

補　足

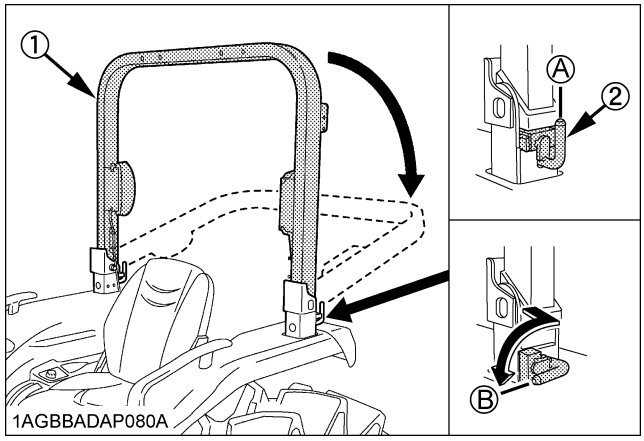
＊ 安全キャブや安全フレームは，万一のときに少しでも被害を軽くするためのものであって，すべての傷害を防げるものではありません。

◆ 折りたたみ方法

1. レバーを後方へ引き，そのまま外側に倒します。(左右共)
2. 安全フレームをゆっくりと後方へ折りたたみます。

補　足

＊ 安全フレームを折りたたむと，作業機の状態によっては安全フレームと作業機が接触する場合があります。接触しないことを確認して折りたたんでください。

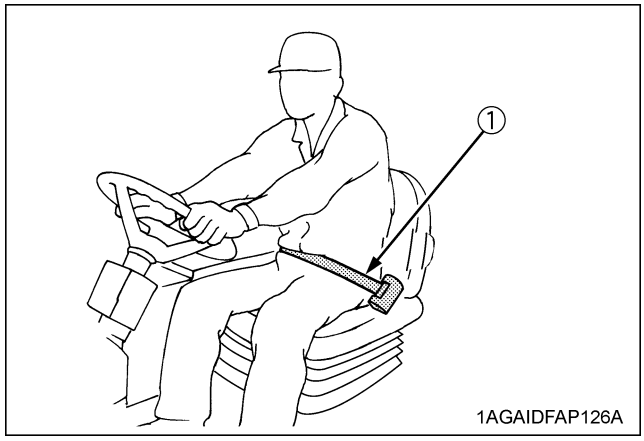


①安全フレーム　Ⓐ“ 固定位置 ”
②レバー　Ⓑ“ 折りたたみ位置 ”

◆ 起こす方法

1. 安全フレームを前方へ動かなくなる位置まで完全に起こします。
2. レバーを立ててそのまま前方へ確実に押し込みます。(左右共)
3. 安全フレームにガタがないか確認してください。

◆ シートベルト



①シートベルト

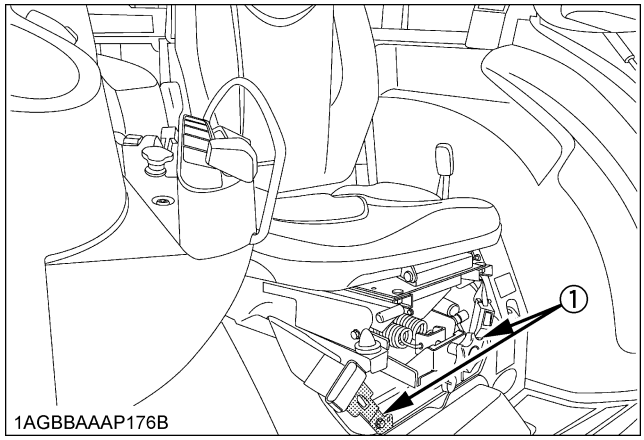
電子メータメッセージ

＊ エンジン始動時下記のシンボルマークとメッセージが３秒間表示されます。シートベルトを正しく装着してください。



◆ シートベルトホルダ

降車後は，シートベルトをシートベルトホルダに収納してください。



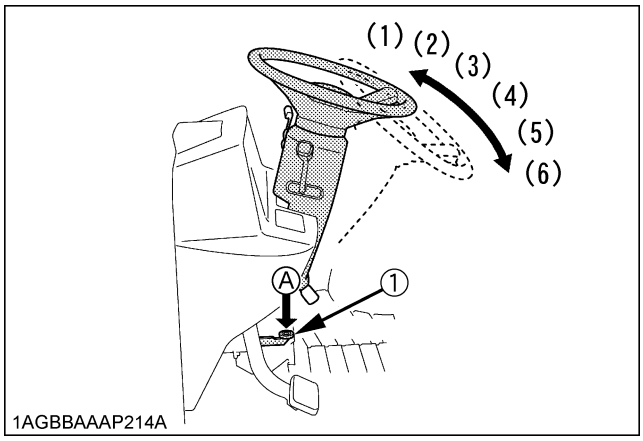
①シートベルトホルダ

■チルトステアリングハンドル

注　意

＊ 走行中の調節はしないでください。
＊ 調節後，ハンドルがロックされていることを確認してください。

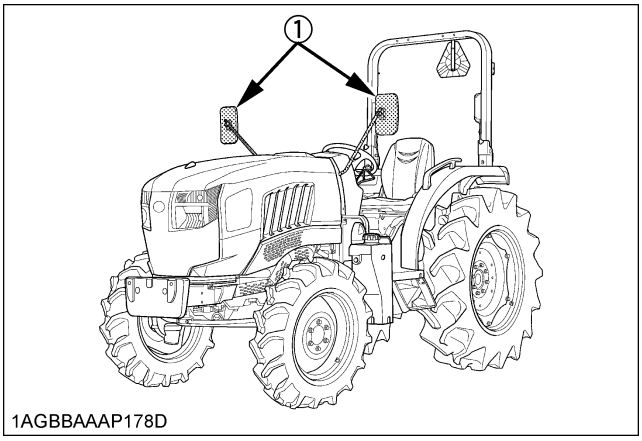
チルトステアリングハンドルの操作はチルトペダルを踏み込んで(1) ～ (6) の適当な位置でペダルをはなして位置を決めてください。
(1)…… 乗り降り時の位置
(2) ～ (6)…… 運転操作位置



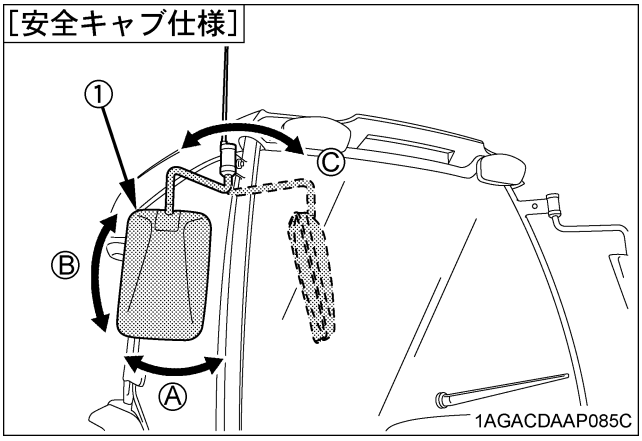
①チルトペダル　　Ⓐ“ 踏み込む ”

■バックミラー

1. バックミラーは，上下・左右に角度調節できますので，運転席に座って見やすい位置に調節してください。
2. バックミラーは，格納できますので狭い場所ではぶつからないように格納してください。
   ［安全キャブ仕様］



①バックミラー



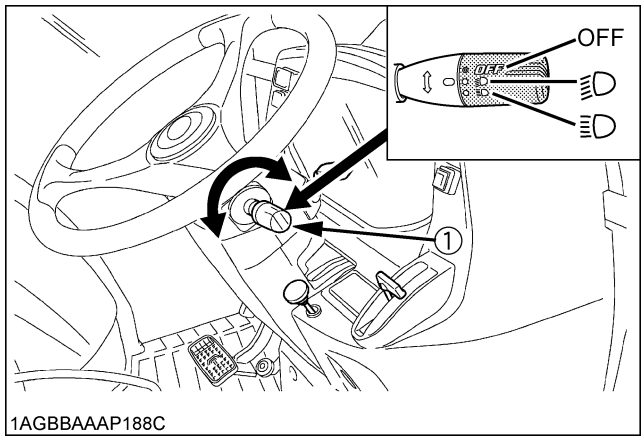
①バックミラー

Ⓐ“ 左右 ”
Ⓑ“ 上下 ”
Ⓒ“ 格納位置 ”

灯火類の操作

■ヘッドライトスイッチ

ノブを回すとスイッチが入り，位置によって次のランプが点灯します。



①ヘッドライトスイッチ

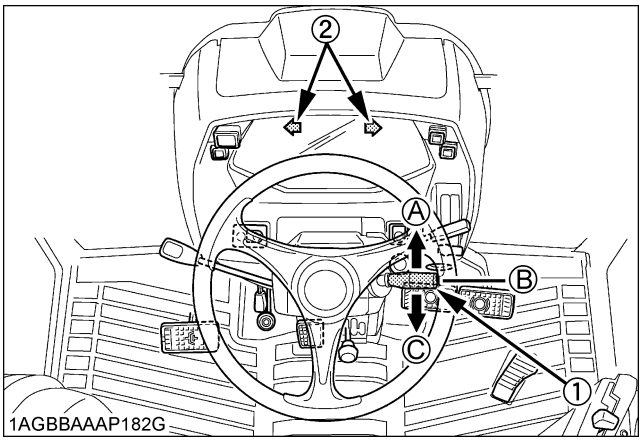
OFF…… ヘッドライト消灯位置
≣D…… ヘッドライト下向き照射位置
≣D…… ヘッドライト上向き照射位置

補　足

＊ ヘッドライトスイッチを入れると，ウインカパイロットランプ，警告ランプ以外のランプ類，電子メータ液晶画面等の明るさが変化し暗くなります。

■ウインカスイッチ

1. スイッチを前後操作すると，ウインカランプ及びメータパネル内のパイロットランプが点滅します。
   前 …… 左折
   後 …… 右折
2. スイッチはハンドルを戻すと，自動的に**［中立］**に戻る，オートリターン機構になっています。



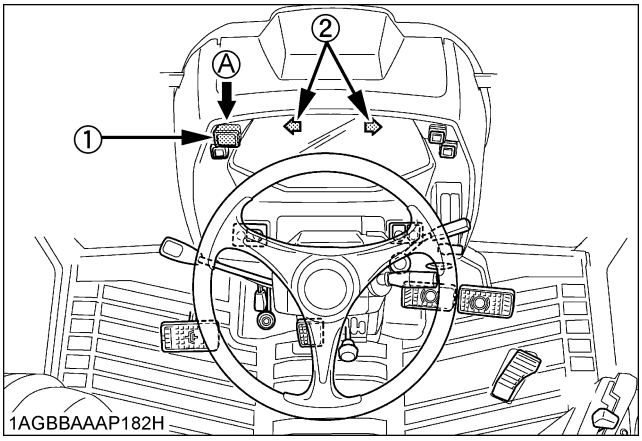
①ウインカスイッチ
②パイロットランプ
Ⓐ“左折”
Ⓑ“中立”
Ⓒ“右折”

補　足

＊ ハンドルを切る角度が小さいとレバーが**【中立】**に戻らない場合があります。戻らないときは手で戻してください。

■ハザードスイッチ

非常停止した場合，事故を防止するために使用します。スイッチを押すと，ウインカ前後及び電子メータ内のウインカ作動パイロットランプが点滅し，非常停止中を知らせます。
再度スイッチを押すと消灯します。



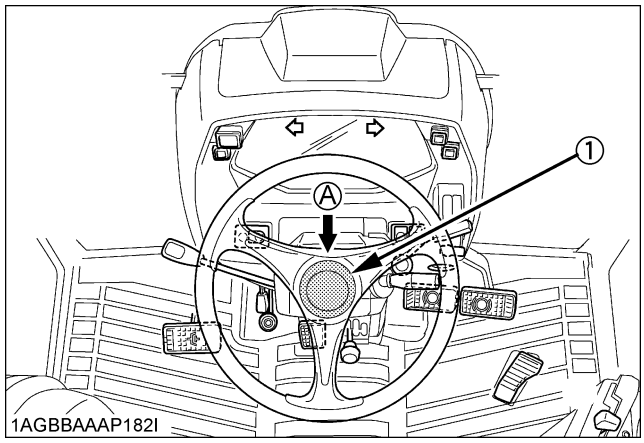
①ハザードスイッチ
②パイロットランプ
Ⓐ“ON/OFF”

補　足

＊ ハザードランプはキースイッチ**【切】【ACC】**位置では作動しません。

■ホーンボタン

ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。



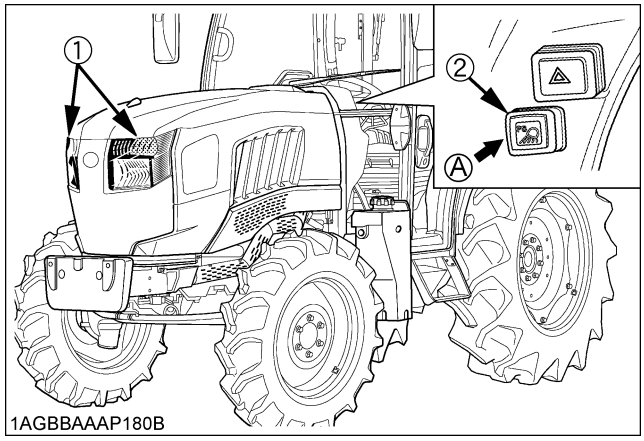
①ホーンボタン
Ⓐ“押す”

補　足

＊ ホーンはキースイッチ**【切】【ACC】**の位置では作動しません。

■フロントサイド作業灯

スイッチを押すとフロントサイド作業灯が点灯します。再度スイッチを押すと消灯します。
作業灯の点灯を示すインジケータランプがスイッチに内蔵されています。



①フロントサイド作業灯
②フロントサイド作業灯スイッチ（インジケータランプ）
Ⓐ“ON/OFF”

補　足

＊ 作業灯はフロントサイド作業灯を含め**【道路運送車両法の保安基準】**第 42 条（灯火の色等の制限）において，**【走行中に使用しない灯火】**とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。
道路走行時は消灯してください。

■バックランプ
シャトルレバーを**［後進］**の位置に入れると，バックランプが点灯します。
（**［日常点検］**の**［メータ・ランプ類の作動］**の項を参照。）

■ブレーキランプ
ブレーキペダル左右を連結し，ブレーキペダルを踏むと，ブレーキランプが点灯します。
（**［日常点検］**の**［メータ・ランプ類の作動］**の項を参照。）

■車幅灯・尾灯
ヘッドライトに連動して点灯します。
（**［日常点検］**の**［メータ・ランプ類の作動］**の項を参照。）

外部電源取出端子

■外部電源・信号取出端子
各種電源取出しやインプルメントに車速信号を伝達する車速信号カプラを備えています。

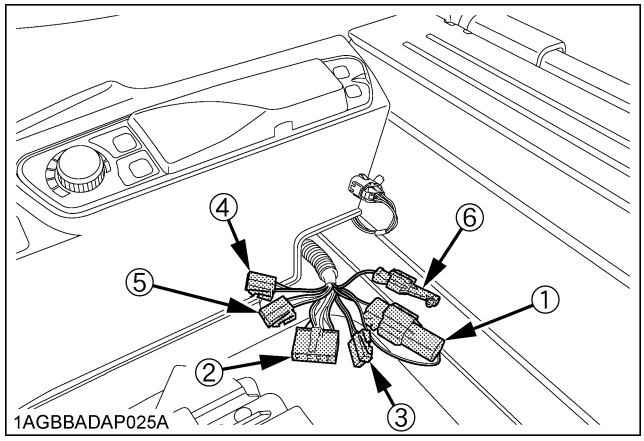
重　要

＊ 配線の損傷を防止するため，外部電源を使用する場合や，使用した場合には，可動部（シートなど）にケーブルが接触しないように配線してください。
＊ 配線の損傷を防止するため，トラクタから作業機を取外す際，インプルメント用ケーブルは必ずトラクタ側の電源取出しカプラ部から取外し，作業機側のケーブルをトラクタ側に持込まないでください。外部電源取出しが可動部に接触しないように，元の場所に収納してください。
＊ 損傷したケーブルは使用しないでください。短絡等により機械が故障する原因となります。

補　足

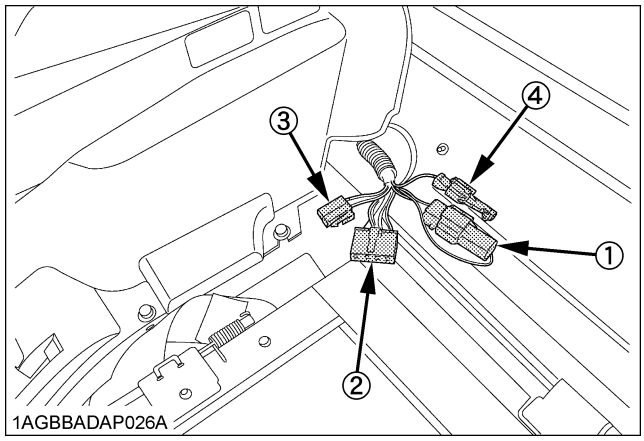
＊ 車速信号カプラ・作業機用大容量コネクタ（30A）にはキャップが付いています。故障を防ぐため使用しないときは必ずキャップを装着してください。

［安全フレーム仕様］

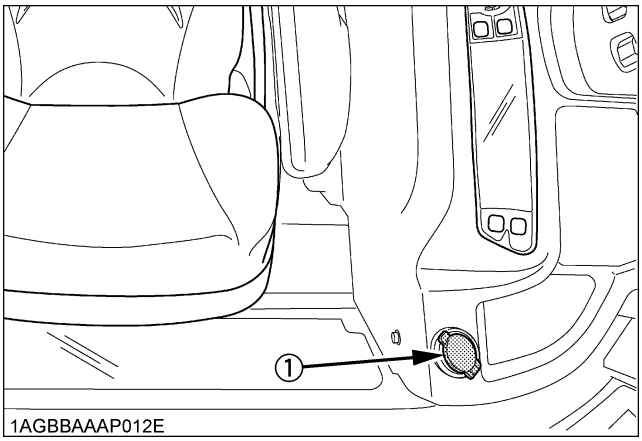


①	作業機用大容量コネクタ（30A）	2P カプラ（黒色）
②	トレーラ	8P カプラ（白色）
③	作業灯（5A）	2P カプラ（緑色）
④	作業機（ローダ）（20A）	2P カプラ（黒色）
⑤	予備電源（作業機電源と合わせて 20A）	2P カプラ（白色）
⑥	車速信号カプラ	1P カプラ（灰色）

［安全キャブ仕様］

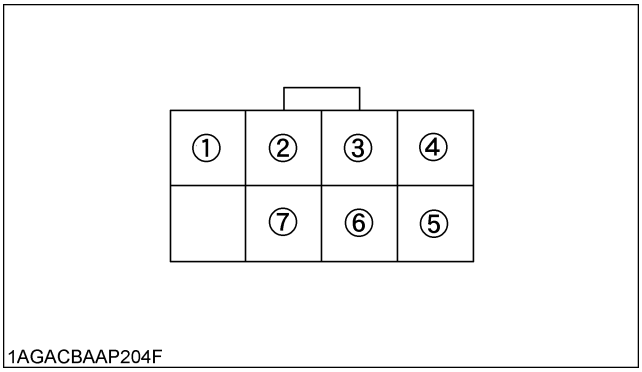


①	作業機用大容量コネクタ（30A）	2P カプラ（黒色）
②	トレーラ	8P カプラ（白色）
③	作業機（ローダ）（20A）	2P カプラ（黒色）
④	車速信号カプラ	1P カプラ（灰色）



①外部電源（シガライタタイプ）（10A）

■トレーラカプラ電源



電源	配線色
①アース	黒
②駐車灯（8W）	青白
③フラッシャ左（23W）	緑青
④ブレーキランプ（23W×2）	緑
⑤フラッシャ右（23W）	緑赤
⑥テールランプ（8W）	青白
⑦バックランプ（10W）	紫

運転のしかた

発進・走行

警　告

- トラクタを発進するときは前後左右をよく確認し，付近に人（特に子供）を近づけないでください。また，安全キャブや安全フレームに当たる障害物がないかも確認してください。
- 子供はもちろん，運転者以外の人を乗せてトラクタを運転しないでください。また，必ずシートに座って運転してください。
- 溝や穴の近く，路肩などトラクタの重みでくずれやすい所では運転しないでください。
  転落事故のおそれがあります。
- 急な坂道の登坂はバックで行なうか，作業機をできるだけ下げ，転倒防止に心がけてください。
- 下り坂は，エンジンブレーキを使用してください。ブレーキペダルを踏むだけで降りないでください。
- 負荷の大きいけん引をする場合や湿田脱出の場合には，徐々に発進し，トラクタが後へ転倒しないように注意してください。
- 高速で旋回すると，横転するおそれがあります。
  デフロックペダルの解除を確認して，必ずスピードを落としてゆっくりと回ってください。
- 後進は前進とほぼ同じ速度が出ます。
  周囲の状況をよくみて，安全であることを確認してからシャトルレバーを後進位置に入れて，安全な速度で後進してください。
  また後進中は，特に周囲の状況によく注意して運転してください。
- 運転席足元に空缶，部品などの物を置くとブレーキペダルやクラッチペダルの下にはさまり，ブレーキ操作，クラッチ操作ができなくなり危険です。

1. ブレーキ連結解除ペダルが踏めないことを確認します。

● **[道路走行時]**は連結解除ペダルロックレバーを必ず**[下げ]**て，連結解除ペダルが踏めないことを確認してください。

2. 駐車ブレーキを確認し，エンジンを始動します。(**[運転のしかた]**の章の**[エンジンの始動と停止]**の項を参照。)
3. 油圧レバーを**[後方に引き]**作業機を上げます。(**[作業のしかた]**の章の**[作業機昇降装置]**の項を参照。)
4. 走行モードを確認します。(**[作業のしかた]**の章の**[作業機昇降装置]**の項を参照。)
5. クラッチペダルを踏込みます。
6. 作業に応じ必要なレバー類を操作します。(**[運転のしかた]**，**[作業のしかた]**の章を参照。)
7. エンジン回転を調整します。
8. 駐車ブレーキを解除します。
9. 主変速レバーを**[1 速]**に入れます。
10. シャトルレバーを**[前進]**又は**[後進]**に入れ，クラッチをゆっくりはなすとトラクタが動き始めます。
11. 主変速レバーを 1 段ずつ変速したい位置まで変速してください。

電子メータメッセージ

＊ 連結解除ペダルロックレバーを**[ロック解除]**位置にしたまま，車速が 10 km/h を超えると，下記メッセージが表示されますので，すみやかにトラクタを止め，連結解除ペダルロックレバーを**[ロック]**位置にしてください。



停車・駐車

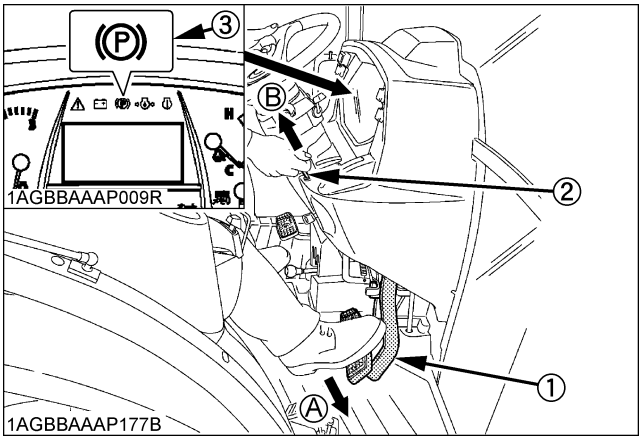
警 告

＊ 本機は油圧ミッションのため，変速ギヤーを入れてエンジンを止めても，エンジンブレーキはききません。駐車後トラクタが動き出さないよう，必ず駐車ブレーキを［掛けて］ください。
＊ 駐車するときは，平たんでトラクタが安定する場所を選び，各変速レバーを［中立］（N），作業機を［下げ］，駐車ブレーキを［掛け］，エンジンを［停止］してキーを抜いてください。やむをえず坂道で駐車する場合は，タイヤに車止めをしてください。
＊ 乾いた草やワラなど可燃物の堆積した場所には駐車しないでください。
＊ 格納などでトラクタにシートをかける場合は，マフラやエンジンが十分冷えてから行なってください。
火災の原因になります。
＊ トラクタから降りるときは，ロータリなどの PTO 作業機が完全に止まるまで待ってください。

1. アクセルレバーを手前側に引いて，エンジン回転をアイドリング状態にします。
2. クラッチ及びブレーキペダルを**[踏込み]**ます。
3. 完全に停止してから，シャトルレバー，主変速及び PTO 変速レバーを**[中立]**(N)，あんしん PTO スイッチを**[切]**にします。
4. 作業機を取付けている場合は，油圧レバーをゆっくり**[前方に倒し]**作業機を下げます。
5. 駐車ブレーキを確実に掛けてください。
6. キースイッチを**[切]**にして，エンジンを停止します。

◆ 駐車ブレーキの掛け方

1. ブレーキ連結金具を掛ける。
2. ブレーキペダルを踏込む。
3. 駐車ブレーキグリップを引く。



①ブレーキペダル
②駐車ブレーキグリップ
③駐車ブレーキランプ
Ⓐ“踏込む”
Ⓑ“引く”

■ブレーキペダル

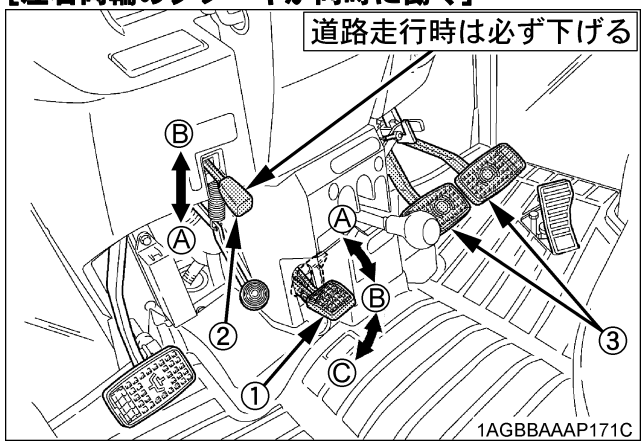
警 告

＊ 道路走行中・登り坂・下り坂及びあぜ越え中は，連結解除ペダルロックレバーを下げ，連結解除ペダルが踏めないことを確認してください。
道路走行中に片ブレーキを踏むと車体が振られ，転倒や交通事故のおそれがあります。

ブレーキは，強制的に機体を停止させる装置です。
本機の場合，一般車両と異なり，ブレーキペダルは左右それぞれ独立しています。連結解除ペダルを踏み込まないときは，左右のブレーキペダルは連結されており，左右両輪のブレーキが同時に働きます。
連結解除ペダルロックレバーを上げて，連結解除ペダルを踏込んだときのみ，後輪の片輪だけにブレーキをかけることができます。

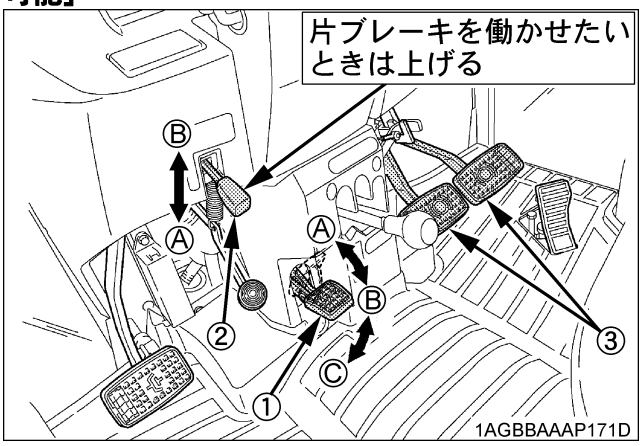
連結解除ペダルロックレバーを下げた状態
…… 道路走行時。
連結解除ペダルロックレバーを上げた状態
…… 農作業時。

[左右両輪のブレーキが同時に働く]



①連結解除ペダル
②連結解除ペダルロックレバー
③ブレーキペダル
Ⓐ“ロック（格納）”
Ⓑ“ロック解除”
Ⓒ“連結解除”

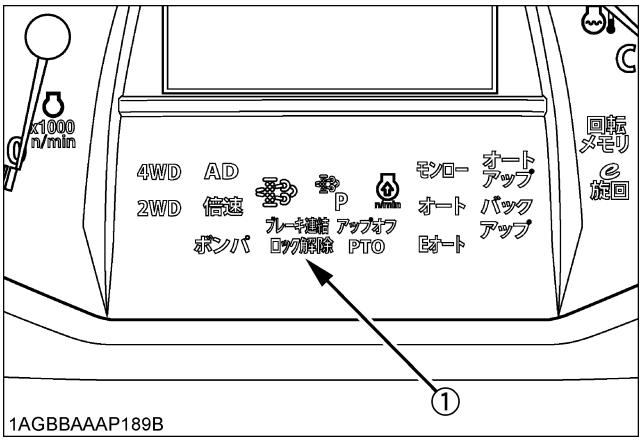
[連結解除ペダルを踏込めば，片ブレーキ操作が可能]



①連結解除ペダル
②連結解除ペダルロックレバー
③ブレーキペダル
Ⓐ“ロック（格納）”
Ⓑ“ロック解除”
Ⓒ“連結解除（踏込む）”

◆ 連結解除ペダルロックレバー解除警告灯

連結解除ペダルロックレバーを上げると**ブレーキ連結ロック解除警告灯**が点灯します。
道路走行時などでは連結解除ペダルロックレバーを下げて，連結解除ペダルロックレバー解除警告灯の消灯を確認してから，走行してください。



①ブレーキ連結ロック解除警告灯

電子メータメッセージ

＊ 連結解除ペダルロックレバーを**[ロック解除]**位置にしたまま，車速が 10 km/h を超えると，下記メッセージが表示されますので，すみやかにトラクタを止め，連結解除ペダルロックレバーを**[ロック]**位置にしてください。



■クラッチペダル

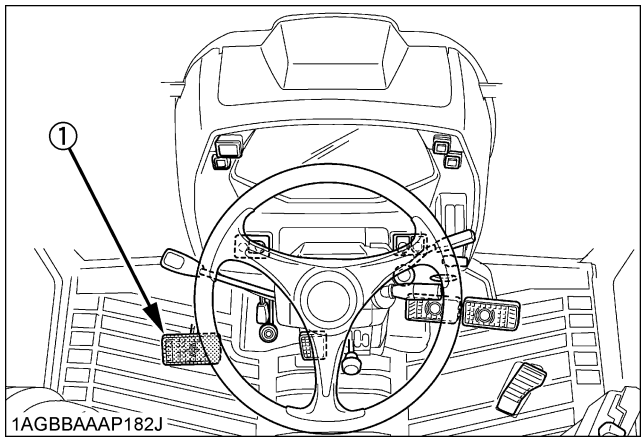
警 告

＊ 急にクラッチを離すと，急に飛出すおそれがあります。
ゆっくり行なってください。

クラッチは，エンジンの動力を各作動部に断続する装置です。
ペダルを踏込む …… クラッチが切れる
ペダルから足を離す …… クラッチがつながる

補 足

＊ 下記レバーを操作するときは，必ずクラッチペダルを踏みトラクタを完全に停止させてから行なってください。
- クリープレバー
- PTO 変速レバー



①クラッチペダル

重 要

＊ クラッチの寿命を伸ばすため，半クラッチの使用時間・回数を少なくするように，次の点にご注意ください。
- 速度調節はクラッチで行なわないようにしてください。
- 作業に応じた車速及びエンジン回転を選択してください。
- クラッチペダルの上に足を乗せたまま運転しないでください。知らないうちに半クラッチを使用していることになります。

各変速レバーの取扱い

下記レバーを組合わせて，各作業に適した速度にします。

- 主変速レバー
- シャトルレバー
- クリープレバー

各作業に適した速度（目安）

作業名	速度　km/h
トレンチャ	～0.3
プランタ	0.2～0.6
ロータリ	0.5～3.0
代かき	2.9～4.1
プラウ	4.0～6.5
モーア	6.0～9.5
走行	10.0～

（**［付表］**の章の**［走行速度表］**の項を参照）

■主変速レバー

警　告

＊ 急発進はしないでください。
＊ 安全のため，急激な変速は避けてください。変速は１段ずつ行なってください。
＊ 緊急停止時や，作業機の取付け・取外しなど狭い場所での作業時には，クラッチを使用してください。
＊ 走行中は，主変速レバーに手を置いたままにしないでください。
＊ 急な坂道，車両への積み・降ろし，ほ場への出入り，あぜの乗り越えなどでは，途中で変速すると危険ですので，あらかじめ安全な遅い変速位置に入れておいてください。
＊ 低温始動時，ミッションオイルが暖まるまでは，主変速レバーで発進するとき，変速レバーを入れてから発進までに時間がかかる場合があります。（発進遅れ）
- **じゅうぶんに暖機運転をしてください。もし暖機運転をする時間がない場合は，シャトルレバーで発進するかクラッチを操作して発進してください。**
- **低温時の発進遅れは異常ではないので，主変速レバーを変速に入れたままトラクタから降りないでください。遅れて動き出すおそれがあります。**

重　要

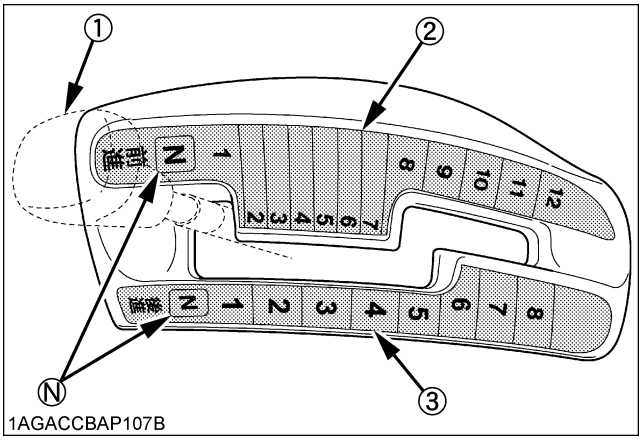
＊ 油圧クラッチ・シンクロの寿命を保つため，次の点に注意してください。

1. 作業に合った車速とエンジン回転を選んでください。
2. 急激なシフトダウンは避けてください。
3. トラクタの使い始めの変速時に，油圧クラッチのつながり音がする場合がありますが，油温が上がってくると正常になります。

◆ 変速操作

[GJE33・GJE33K 安全フレーム仕様]
[GJE33 S 仕様]

1. 主変速レバーは，停止・走行中に関係なくノンクラッチで変速できます。
2. シャトルレバーとクリープレバーの組合せにより
   前進→ 24 段
   後進→ 16 段　の車速が得られます。



1AGACCBAP107B

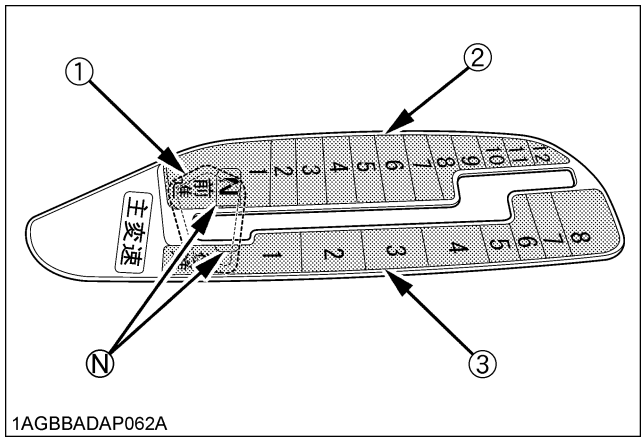
①主変速レバー
②前進速度ラベル
③後進速度ラベル
Ⓝ［中立］位置

補　足

＊ 後進時，主変速レバーが後進ラベルの１速から４速の範囲内では，各２段階ありますが，後進速度は変化しません。

[GJE33・GJE33K 安全キャブ仕様]

1. 主変速レバーは，停止・走行中に関係なくノンクラッチで変速できます。
2. シャトルレバーとクリープレバーの組合せにより
   前進→ 24 段
   後進→ 16 段　の車速が得られます。



1AGBBADAP062A

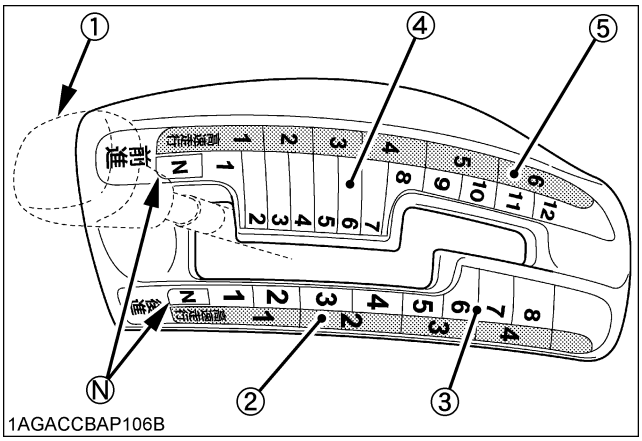
①主変速レバー
②前進速度ラベル
③後進速度ラベル
Ⓝ［中立］位置

補　足

＊ 後進時，主変速レバーが後進ラベルの１速から４速の範囲内では，各２段階ありますが，後進速度は変化しません。

[GJE33H・GJE33KH 安全フレーム仕様]
[GJE33H S 仕様]

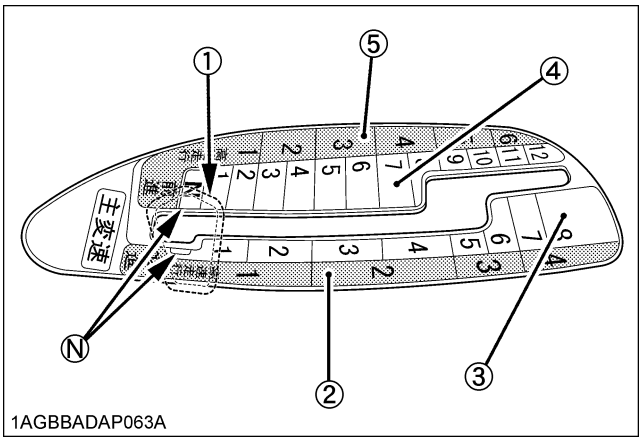
1. 主変速レバーは，停止・走行中に関係なくノンクラッチで変速できます。
2. シャトルレバーとクリープレバーの組合せにより
   前進→ 30 段
   後進→ 20 段　の車速が得られます。



①主変速レバー
②後進速度ラベル（高速走行用）
③後進速度ラベル（クリープレバー低・高速用）
④前進速度ラベル（クリープレバー低・高速用）
⑤前進速度ラベル（高速走行用）
Ⓝ［中立］位置

[GJE33H・GJE33KH 安全キャブ仕様]

1. 主変速レバーは，停止・走行中に関係なくノンクラッチで変速できます。
2. シャトルレバーとクリープレバーの組合せにより
   前進→ 30 段
   後進→ 20 段　の車速が得られます。



①主変速レバー
②後進速度ラベル（高速走行用）
③後進速度ラベル（クリープレバー低・高速用）
④前進速度ラベル（クリープレバー低・高速用）
⑤前進速度ラベル（高速走行用）
Ⓝ［中立］位置

補　足

＊ 主変速レバーの変速段数は，クリープレバーが **［低］**と**［高］**速位置では内側ラベル（3）（4）**［高速走行］**位置では外側ラベル（2）（5）を参考にしてください。
＊ 高速走行時，主変速レバーは各変速域とも各２段階ありますが，速度は変化しません。
＊ 後進時，主変速レバーが後進ラベルの１速から４速の範囲内では，各２段階ありますが，後進速度は変化しません。

■クリープレバー

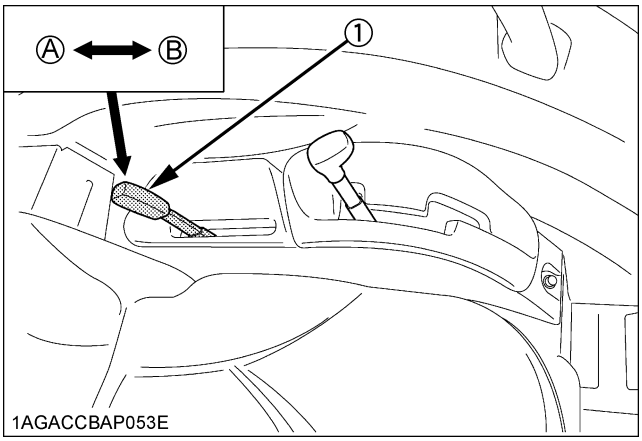
警　告

＊ クリープ速度では車軸の回転力が非常に強くなるので，ブレーキペダルを強く踏んだだけではブレーキはききません。

[GJE33・GJE33K]

【低】位置で超低速（クリープ速度），**【高】**位置で高速が得られます。

クラッチペダルを踏込み操作します。



①クリープレバー　　**Ⓐ“高”**
Ⓑ“低”

補　足

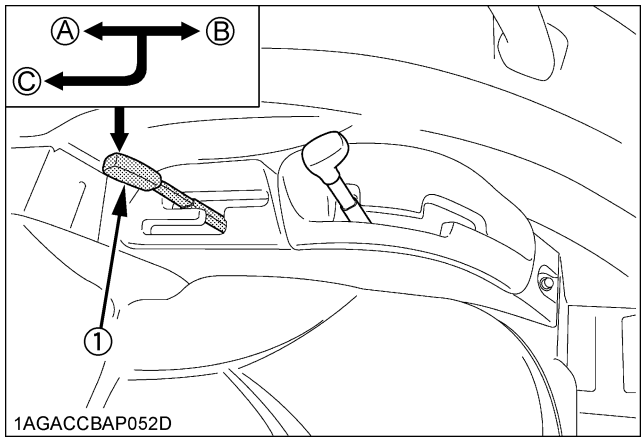
＊ 上の図は安全フレーム仕様ですが，安全キャブ仕様のクリープレバーも同じ操作です。

[GJE33H・GJE33KH]

【低】位置で超低速（クリープ速度），**【高】**位置で高速が得られます。

【高速走行】位置では，移動走行に便利な高速が得られます。

クラッチペダルを踏込み操作します。



①クリープレバー　　**Ⓐ“高”**
Ⓑ“低”
Ⓒ“高速走行”

補　足

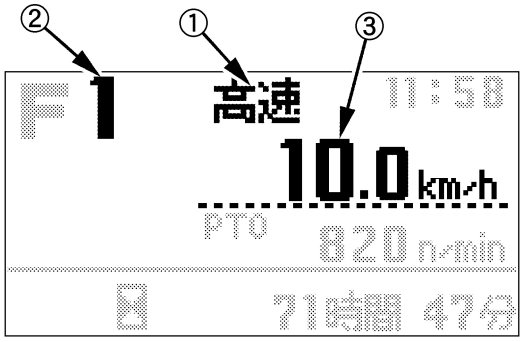
＊ 上の図は安全フレーム仕様ですが，安全キャブ仕様のクリープレバーも同じ操作です。

＊ メータパネルには，下記３種類のデータが表示されます。

①クリープレバーで，高速走行を選択時に表示。
※**[ハイスピード（H）仕様]**のみ。

②主変速レバーで選択した変速段数を表示。
中立等は（N）。
（変速段数は仕様により異なります）

③走行実車速を表示（停止時は 0.00km/h，クリープレバー**[中立]**時は ＊＊ km/h を表示）



◆ クリープの使い方

クリープ速度は，使用する作業と取扱い方を誤ると故障の原因になります。
次のことに注意してお使いください。

1. 使用できる作業
   - ロータリでの深耕・細土耕うん作業。
   - ロータリで，ほ場がかたく標準速度で耕うんできない場合。
   - プランタによる移植作業。
   - 農業用トレンチャによる作業（農業用に限る）。
   - 車への積み・降ろしをするとき。
2. 使用できない作業（故障の原因になります）。
   - 湿田での沈没状態から脱出する作業。
   - けん引・トレーラ作業。
   - フロントローダ作業。
   - フロントブレード作業（除雪作業）。
   - 土木作業。
   - ほ場への出入り。
3. クリープ速度を使用するときは，必ず次のことを守ってください。
   - 変速は，クラッチペダルをいっぱい踏込んでから行なってください。
   - 発進は，必ず駐車ブレーキを外してから行なってください。
   - クリープ速度では車軸の回転力が非常に強くなるので，ブレーキペダルを強く踏んだだけではブレーキはききません。
     停止は，必ずクラッチを切ってからブレーキをかけてください。

重　要

＊ クリープ速度でブレーキペダルをあまり強く踏むと故障の原因になります。
＊ クリープ速度では，けん引作業をしないでください。
超低速で無理な負荷をかけると故障の原因になります。

補　足

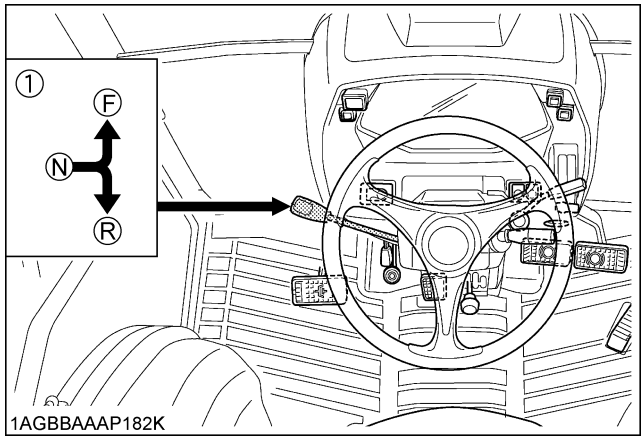
＊ クリープレバー操作時，レバー操作が重くなるときがあります。
そのときは，クラッチペダルを踏み直し，再度クリープレバーを操作してください。
＊ また，クラッチペダルを踏み直してもまだレバー操作が重いときは，いったん主変速レバーを**［中立］（N）**にしてから操作してください。

■シャトルレバー

警　告

＊ 急発進を避けるため，エンジン回転を下げてからシャトルレバーを操作してください。
＊ ［前進］←→［後進］のシフト操作は，いったん［中立］位置にして，トラクタの停止を確認してから操作してください。
＊ 後進は前進とほぼ同じ速度が出ます。
後進する場合は，周囲の状況が安全であることを確認してからシャトルレバーを［後進］位置に入れて，安全な速度で後進してください。
また後進中は，特に周囲の状況をよく注意して運転してください。
＊ 急傾斜地で前進・後進の切換えをシャトルレバーのみの操作で行なうと，前進・後進が切換わるときトラクタの自重で自走し，危険な場合が予想されます。必ずクラッチペダル・ブレーキペダルを踏込んで切換えを行ない，クラッチペダルで発進してください。

レバーを持上げ，前に押して**［前進］**，手前（後）に引いて**［後進］**です。レバー操作は，クラッチペダルを踏まなくても（ノンクラッチ）変速することができます。



①シャトルレバー　　**Ⓕ“前進”**
Ⓝ“中立”
Ⓡ“後進”

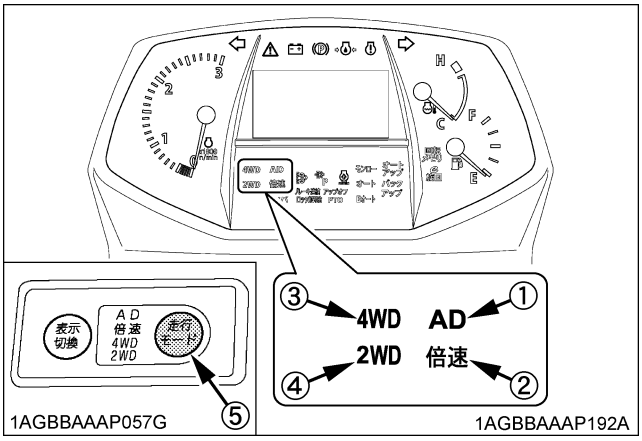
■走行モード切換スイッチ

スイッチを押すごとに
[AD 倍速⇒ 2WD ⇒ 4WD ⇒倍速⇒ AD 倍速]
の順に切換わります。
選択状態はモニタランプで表示されます。
なおスイッチは，クラッチ操作や走行・停止中に関係なく操作できます。

補　足

＊ 通常道路走行時は **[2WD]**，ほ場への出入りや作業時は作業内容に応じ適切なモードを下記スイッチで選択してください。

	モニタランプ
AD 倍速	**[4WD]**，**[AD]** と **[倍速]** ランプが点灯し，旋回時に倍速ターンが作動すると同時に，AD も作動します。
倍　速	**[4WD]** と **[倍速]** ランプが点灯し，旋回時に倍速ターンが作動します。
4WD	**[4WD]** ランプが点灯し，４輪駆動になります。
2WD	**[2WD]** ランプが点灯し，２輪駆動になります。



① AD ランプ　　**④ 2WD ランプ**
②倍速ランプ　　**⑤走行モード切換スイッチ**
③ 4WD ランプ

◆ ４輪駆動の使い方

警　告

＊ 舗装道路や高速走行時の４輪駆動は避けてください。思わぬ事故の原因にもなります。走行モード切換スイッチを［2WD］に切換えてから走行してください。
また，タイヤの摩耗を早める原因にもなります。

４輪駆動は，次のような場合に威力を発揮します。

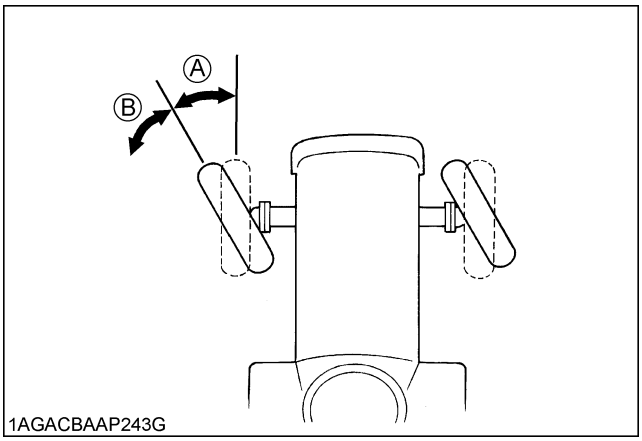
1. 傾斜地，湿田，トレーラの運搬・フロントローダ作業時で，けん引力が必要な場合。
2. 砂地で作業をする場合。
3. 固いほ場で，ロータリ耕うん時の飛出しを防止する場合。
4. ほ場への出入り及び，あぜ越えを行なう場合。

◆ 倍速ターンの使い方

警　告

＊ 倍速ターンに入れたままでは，ほ場以外を走行しないでください。ほ場から出る前に走行モード切換スイッチを［2WD］又は［4WD］に切換えてください。
＊ 倍速ターンは，畑，水田などのロータリ作業に役立ちますが，使用法を誤ると転倒などのおそれや故障の原因にもなります。

倍速ターンの作動は下図のようになっています。
［倍速］モードで旋回動作に入り，ステアリングハンドルを切っていくと，前輪の切れ角が，直進状態からある一定の角度になるまでは，通常の４輪駆動の回転数で前輪が駆動されます。更にステアリングハンドルを切ると，倍速ターンが作動し，前輪の回転数がそれまでの約２倍の回転数で駆動され，小さくスムーズな旋回が行なえます。



Ⓐ“通常の４輪駆動”
Ⓑ“倍速ターン作動”

重　要

＊ トレーラけん引作業などの速度の速い作業には，使用しないでください。
＊ フロントローダを装着した場合は，使用しないでください。

補　足

＊ 倍速は，危険防止のため，旋回開始時の車速が約 0.2 ～ 5 km/h の範囲のときのみ作動します。
また，倍速旋回中は車速が変わっても，倍速の作動を保持します。

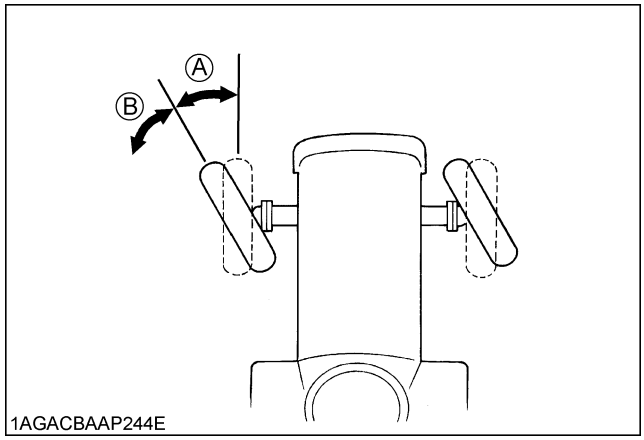
◆ AD 倍速ターンの使い方

警　告

＊ AD 倍速［入］のままでほ場以外を走行すると，旋回時急に回り事故の原因になります。ほ場から出る前に走行モード切換スイッチを［2WD］又は［4WD］に切換えてください。

隣接耕うん作業をする場合に，枕地で軽く片ブレーキを踏み，旋回を小さくする操作が行なわれますが，AD 倍速はこの操作を自動的に行なうものです。

AD 倍速ターンの作動は下図のようになっています。
［AD 倍速］モードで旋回動作に入り，ステアリングハンドルを切っていくと前輪の切れ角が直進状態からある一定の角度になるまでは，通常の４輪駆動の回転数で前輪が駆動されます。
更にステアリングハンドルを切ると，AD が作動し，内側後輪に軽くブレーキがかかるとともに，倍速ターンが作動し，前輪の回転数がそれまでの約２倍の回転数で駆動され，小さくスムーズな旋回が行なえます。



Ⓐ“通常の４輪駆動”
Ⓑ“AD 倍速ターン作動”

補　足

＊ AD 倍速は，危険防止のため，旋回開始時の車速が約 0.2 ～ 3.5 km/h の範囲の時のみ作動します。（約 3.5 ～ 5 km/h までは倍速のみ作動します。）
また，AD 倍速旋回中は車速が変わっても，AD 倍速の作動を保持します。

■アクセルレバーとアクセルペダル

◆ アクセルレバー

主に農作業時に使用する。


……レバーを前側に押すと，エンジン回転が上がる。

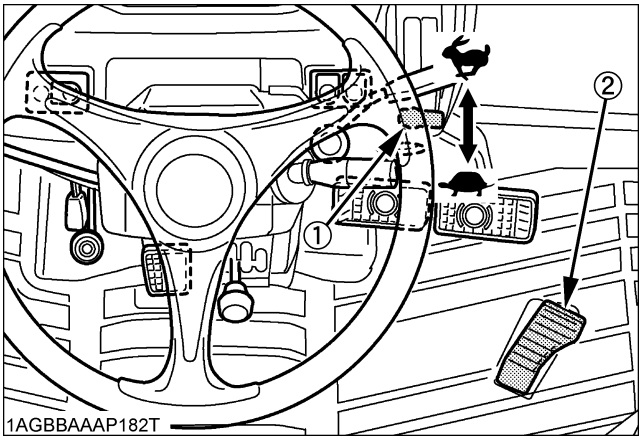

……レバーを手前側に引くと，エンジン回転が下がる。

◆ アクセルペダル

主に道路走行時に使用する。

ペダルを踏込む……　エンジン回転が上がる。

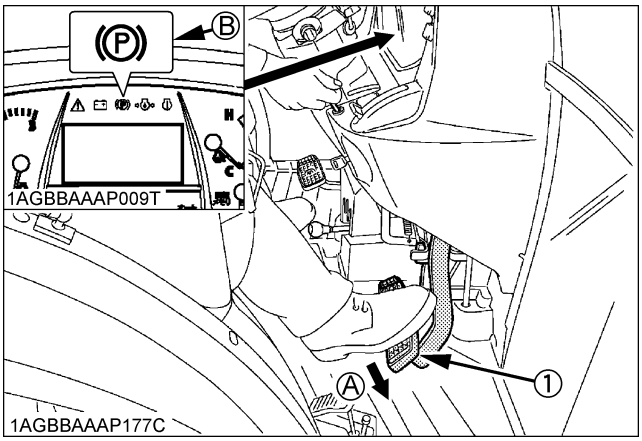
ペダルから足を離す…　アクセルレバーで設定したエンジン回転まで下がる。



①アクセルレバー　　**：“高速”**
②アクセルペダル　　**：“低速”**

■駐車ブレーキ

ブレーキペダルを**［踏込む］**と駐車ブレーキが解除され，メータパネル内の(Ⓟ)ランプが消灯します。



①ブレーキペダル　　**Ⓐ“踏込む”**
Ⓑ“駐車ブレーキランプ消灯”

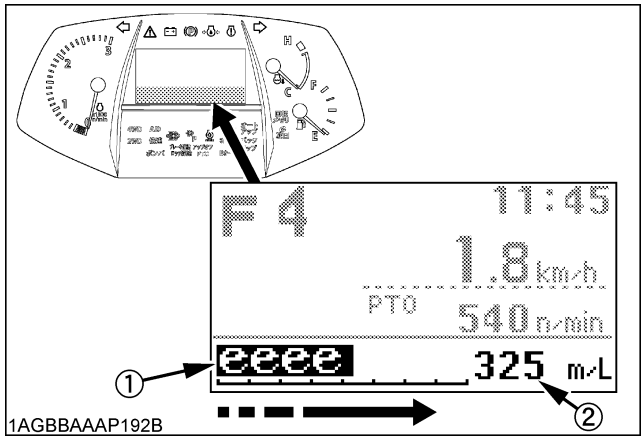
省エネ運転のしかた

メータパネルに表示される，**［距離燃費］・［瞬間燃費］・［平均燃費］・［積算量］**で現在の運転状態を確認することができます。
上手に取扱い，省エネ運転に心掛けてください。

■メータパネル表示

◆ 距離燃費表示

燃料１リットル当たりの作業距離を，作業状態に応じ瞬時に**［燃費グラフ］**と**［数値］**で表示します。燃費グラフは右方向に伸びる程燃費が良いことを示します。



①距離燃費表示グラフ
②距離燃費（m/L）

補　足

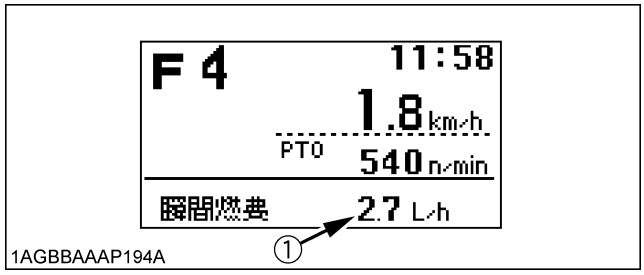
＊ メータパネルに距離燃費を表示させたい場合は，**［運転のしかた］**の章の**［電子メータパネル］**の項を参照ください。
＊ トラクタが停止中のときには，距離燃費表示や瞬間燃費表示は**［*］**（アスタリスク）マークが表示されます。

［ハイスピード（H）仕様のみ］

＊ クリープレバーを**［高速走行］**に入れると，単位表示が m/L から km/L に切換わります。

◆ 瞬間燃費表示

現在の作業状態を続けた場合，1時間当たりの燃料消費量を**［数値］**で表示します。数値が小さい程燃費が良いことを示します。



①瞬間燃費（リットル / 時間）

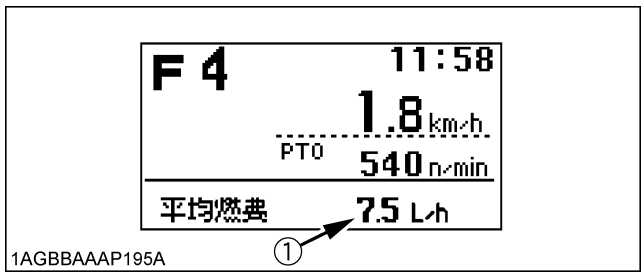
補　足

＊ 瞬間燃費は給油タイミングなどの参考にしてください。燃料の節約を目的として確認するときは，距離燃費表示を参考にしてください。

＊ 燃料表示は運転状態からの推定値のため，実際の燃費と誤差が生じる場合もあります。表示データは参考値として活用ください。

◆ 平均燃費表示

リセット後，今現在までに消費した燃料を1時間当たりの燃料消費に換算して表示します。



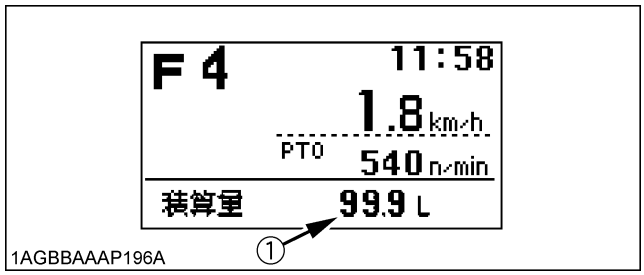
①平均燃費（リットル / 時間）

補　足

＊ 平均燃費は，表示されているときに表示切替スイッチを2秒間押すとリセットされます。

◆ 積算量表示

リセット後，今現在までに消費した総燃料を表示します。（最大表示は 999.9 L まで）



①積算量（リットル）

補　足

＊ 積算量は，表示されているときに表示切替スイッチを2秒間押すとリセットされます。

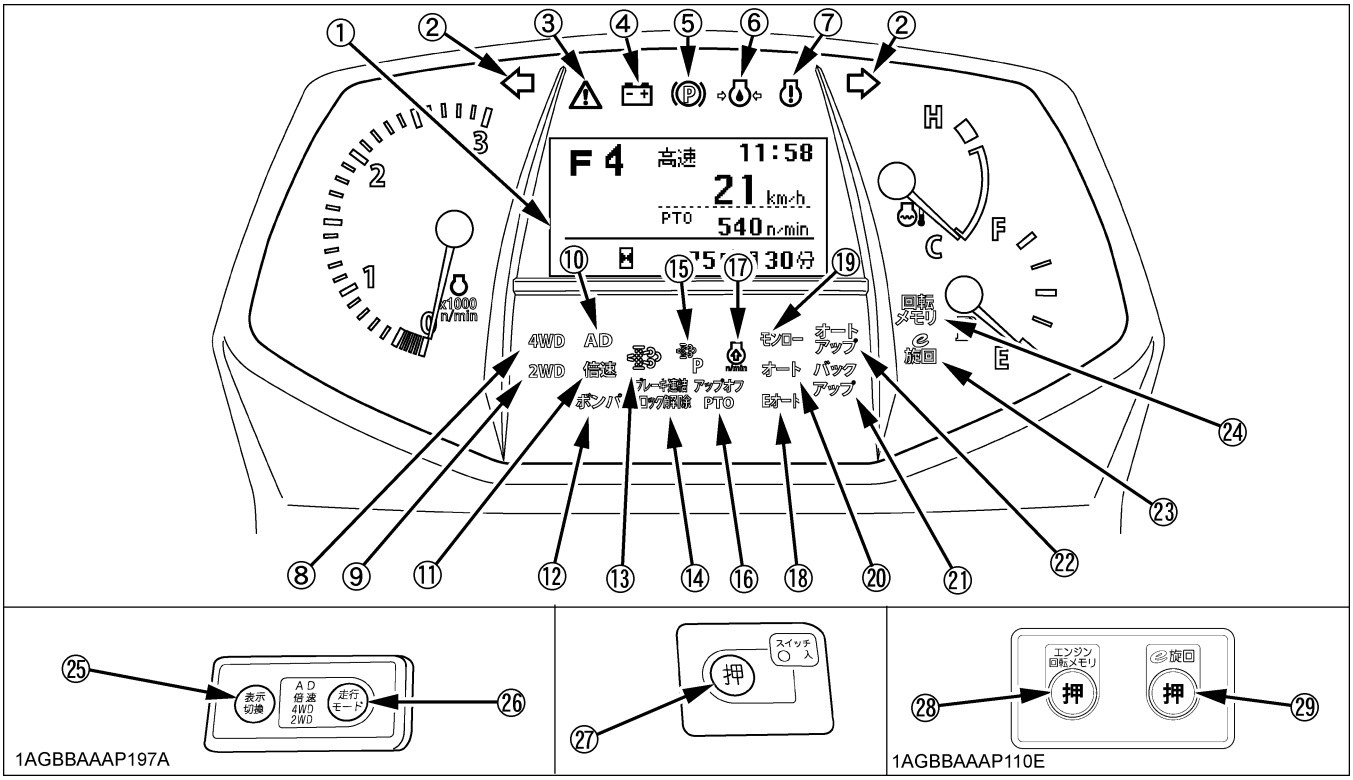
電子メータパネル

■電子メータ

電子メータは，トラクタの運転に必要な各種情報を的確なタイミングでオペレータに提供するとともに，誤操作時の操作指示，各種警報や万一故障した場合にも故障箇所や緊急使用時の取扱いなどを，メッセージとグラフィックで表示しますので，表示に従って正しく取扱ってください。なお，次表のメッセージ以外が表示された場合は，**［トラクタの簡単な手入れと処置］**の章の**［不調と処置］**の項を参照してください。

補　足

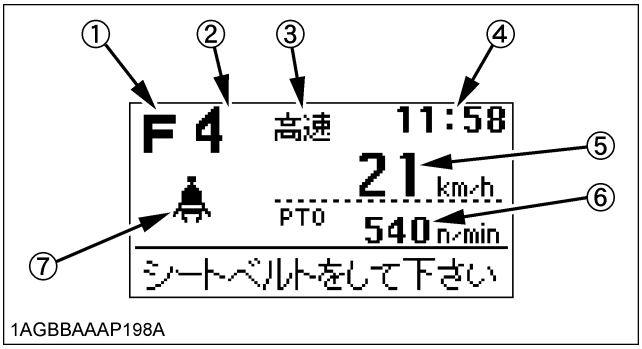
＊ メータパネルカバー（透明樹脂）を，市販のワックスで手入れすると表面が曇ってくる場合があります。ワックスは使用しないでください。



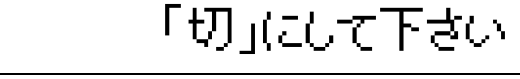
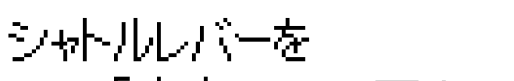
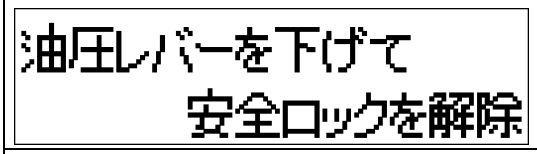
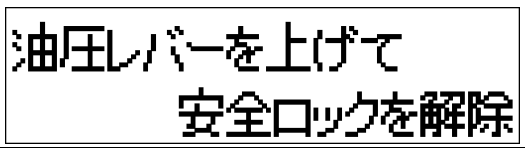
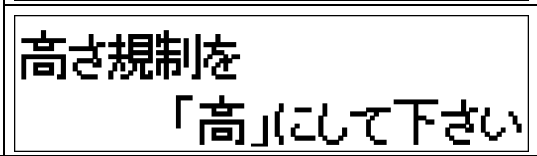
1AGBBAAAP197A　　1AGBBAAAP110E

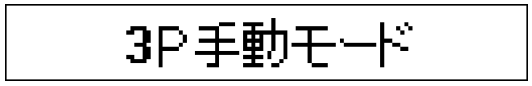
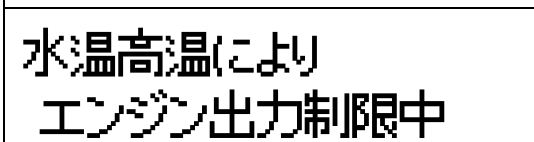
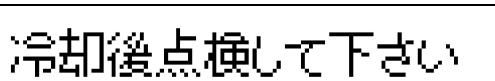
①液晶表示部（メッセージ）
②ウインカパイロットランプ
③警告灯
④充電異常警告灯（チャージランプ）
⑤駐車ブレーキ警告灯
⑥エンジンオイル油圧警告灯
⑦エンジン異常警告灯
⑧ 4WD ランプ
⑨ 2WD ランプ
⑩ AD ランプ
⑪倍速ランプ
⑫ポンパランプ
⑬再生状態ランプ
⑭ブレーキ連結ロック解除警告灯
⑮駐車再生要求ランプ
⑯アップオフ PTO ランプ
⑰エンジン回転上げ要求ランプ
⑱ E オートランプ
⑲モンローランプ
⑳オートランプ
㉑バックアップランプ
㉒オートアップランプ
㉓e アシスト旋回ランプ
㉔回転メモリランプ
㉕表示切換スイッチ
㉖走行モード切換スイッチ
㉗ワンタッチ耕うんモードスイッチ
㉘エンジン回転メモリスイッチ
㉙e- アシスト旋回スイッチ

■液晶表示



No.	メッセージ	内容	参照ページ
①	F, R 又は N	シャトルレバー位置が表示されます。 前進→ F, 後進→ R, 中立→ N	34 37 38
②	N 又は 1 ～ 12	主変速レバーで選択した変速段数が表示されます。 中立時は N（変速段数は仕様により異なります）	34
③	高速	クリープレバーで高速走行を選択時表示されます。（ハイスピード仕様のみ）	37
④	0：00～11：59	時刻が表示されます。（時計） （－－：－－が表示されているときは，時刻設定を行なってください。非表示に設定されているときは何も表示されません。）	60
⑤	0.00 ～ 34	走行車速が表示されます。 （けん引作業などでタイヤがスリップしている場合の車速表示は実車速と異なります）	--
⑥	540, 切 又は 停止中	PTO の回転数が表示されます。 PTO 停止時→切， アップオフPTOモードでPTOが停止時→停止中と表示されます。	87

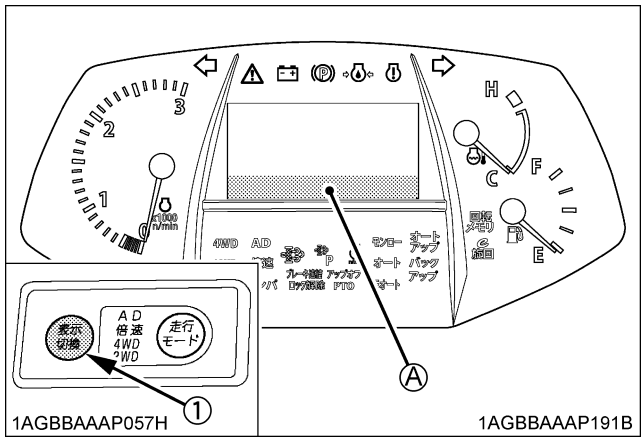
No.	メッセージ	内容	参照ページ
⑦		冷却水温が低いとき表示されます。 表示が消えてからエンジンを始動してください。	18
		エンジン始動時３秒間表示されます。 シートベルトを装着してください。	24
		燃料が約 11L 未満になると表示されます。 すぐ燃料を補給してください。 空にすると燃料系統に空気が入るので，空気抜きが必要です。(**[トラクタの簡単な手入れと処置]** の章の **[燃料の空気抜きのしかた]** の項を参照)	119
		エンジン始動時左記メッセージが表示された場合，メッセージに従って操作してください。	87
			34 37 38
			34 37 38 87
		油圧安全ロック作動時に表示されます。 メッセージに従って操作してください。	69
			69
		エンジン始動時，三点リンク高さ規制ダイヤルが **[3P 手動]** にセットされていれば表示されます。メッセージに従って操作してください。	69

No.	メッセージ	内容	参照ページ
⑦		エンジン始動後，三点リンク高さ規制ダイヤルを**[3P 手動]**にセットすると表示されます。	69
		駐車ブレーキを掛けたまま走行し，車速が 0.1km/h を超えると表示されます。メッセージに従って操作してください。	41
		車速が 10km/h 以上時，左記レバー類が正しくセットされていないとき表示されます。メッセージに従って操作してください。	32 64
			87
			69
		アップオフ PTO モード **[入]** でポンパレバーを **[上げ]** 又は油圧レバーを **[最上昇位置]** にすると，PTO が停止しメッセージが表示されます。	69
		耕深調節ダイヤルで耕深を変更したとき，約５秒間表示されます。	82
		エンジンがオーバーヒートすると，メータパネルに ⓘ 警告灯（赤色）が点灯し，メッセージが表示されます。メッセージに従って操作・点検してください。	62
			113
		セパレータに分離された水が排出レベルまでたまると表示されます。水の排出が必要です。(**[トラクタの簡単な手入れと処置]** の章の **[セパレータの水の排出]** の項を参照)	114

（上記メッセージ以外が表示された場合は，巻末の **[不調と処置]** の章を参照してください。）

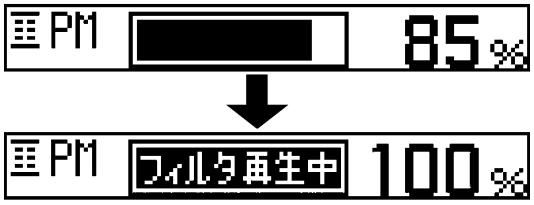
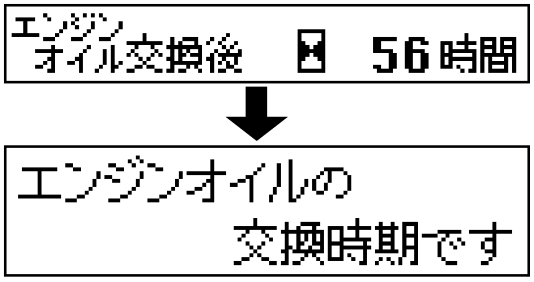
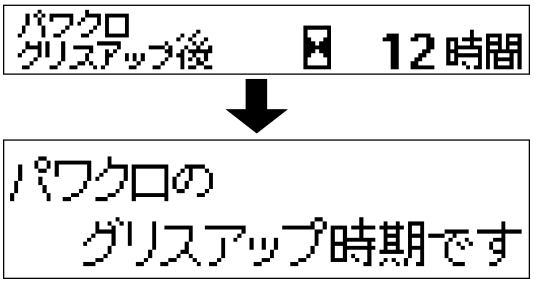
■表示の切替え

電子メータパネルの液晶表示部（下部）は，表示切換スイッチを押すごとに表示が下表の順に切換わります。省エネ運転やメンテナンスの参考等に応じ，適切な表示に切換えてください。



①表示切換スイッチ　　**Ⓐ“液晶表示部（下部）”**

No.	メッセージ	内容	参照ページ
表示１ アワーメータ	75時間30分	トラクタの総使用時間を表示します。 (リセットはできません)	--
表示２ トリップ時間	トリップ 71時間47分	リセットしてから今現在までの使用時間を表示します。 表示切換スイッチを２秒間押すとトリップ時間はリセットされます。	--
表示３ 距離燃費	325m/L	燃料１L当たりの作業距離を表示します。	41
表示４ 瞬間燃費	瞬間燃費 2.7 L/h	今現在の瞬間的に消費している燃費を１時間当たりの燃料消費量に換算し表示します。	49
表示５ 平均燃費	平均燃費 7.5 L/h	リセット後，今現在までに消費した総燃料を１時間当たりの燃料消費量に換算し表示します。 表示切換スイッチを２秒間押すと平均燃費はリセットされます。	49
表示６ 積算量	積算量 99.9 L	リセット後，今現在までに消費した総燃料を表示します。(最大表示は 999.9L まで) 表示切換スイッチを２秒間押すと積算量はリセットされます。	49

No.	メッセージ	内容	参照ページ
表示 7 PM 堆積量表示		DPF マフラ内の PM 堆積量の割合を表示します。 DPF 再生中は**［フィルタ再生中］**の文字が表示されます。	7
表示 8 エンジン オイル交換用 トリップ時間		前回エンジンオイル交換後の運転時間を表示します。 オイルの交換時期に達すると，左記メッセージが表示されます。 (初回 50 時間以降 200 時間ごとに表示)	130
表示 9 パワクロ グリス アップ用 トリップ時間		前回グリスアップ後の運転時間を表示します。 グリスアップ時期に達すると，左記メッセージが表示されます。 (30 時間ごとに表示)	121

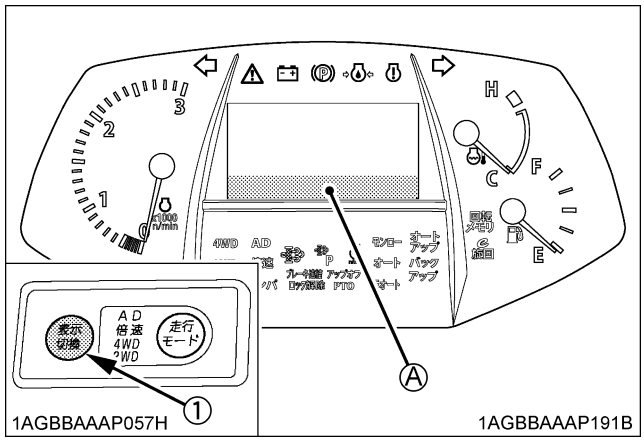
■電子メータメッセージのリセット法

1. エンジンオイル交換時又は，パワクロのグリスアップメンテナンス時，下記手順でメッセージ表示時間を**0時間**に戻してください。正しくリセットしておくと，オイル交換時期又はパワクロのグリスアップメンテナンス時期に達すると，電子メータメッセージが表示され大変便利です。（表示例１）
   (1) 表示切換スイッチを押し，**[エンジンオイル交換用トリップ時間]**又は，**[パワクログリスアップ用トリップ時間]**表示モードにする。
   （表示例２）
   (2) 表示例２の状態で表示切換スイッチを２秒間押すと，メッセージ表示が**0時間**にリセットされます。（表示例３）

補　足

＊ 新車時，アワーメータの表示時間が 20 時間未満で**[エンジンオイルの交換後トリップ時間]**をリセットすると，50 時間運転後メッセージが表示されます。（表示例１）

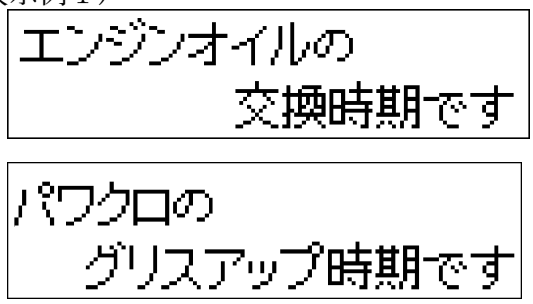
＊ 正しくリセットしないと，エンジン始動後５秒間，表示例２のメッセージが表示されます。



①表示切換スイッチ　　**Ⓐ“液晶表示部”**

電子メータメッセージ

（表示例１）



（表示例２）



（表示例３）



電子メータパネル（その他表示）

下記スイッチ操作により
1. エンジンオイルフィルタ等 6 項目のメンテナンス管理
2. 運転に必要な PTO 回転や車速等作業メモの記憶
3. 盗難防止機能の設定
4. 時計の時刻合わせ

ができます。

重　要

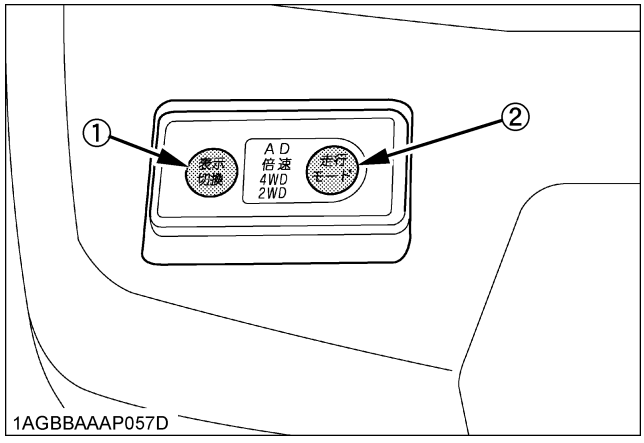
＊ 取説表記と異なる操作を行なうと，下記選択画面と異なる表示が出る場合があります。下記設定以外の操作は行なわないでください。誤って操作すると電子メータ液晶ディスプレイに正しく表示されないだけでなく，故障の原因になります。

◆ 操作手順

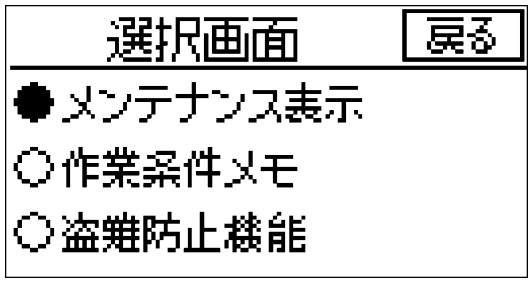
1. キースイッチ**【入】**後，下記スイッチを同時に長押し（約３秒）すると，液晶モニタに下記選択画面が表示されます。
2. 表示切換スイッチを押すごとに**【●】**が移動します。必要項目を選択後，スイッチを長押しで確定させます。
3. **【戻る】**を選択後，スイッチを長押しする。又は，キースイッチを**【切】**にするとリセットされます。

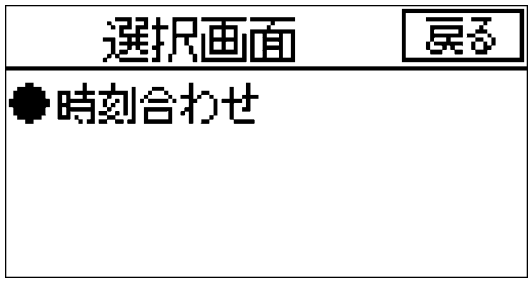
補　足

＊ スイッチを押すごとにブザーが鳴ります。
＊ バッテリを外すと時計がリセットされますので，再セットが必要です。



①表示切換スイッチ
②走行モード切換スイッチ





■メンテナンス表示

下記表示画面で示す6項目のメンテナンス時間の管理を行なうことができます。

◆ 操作手順

1. 選択画面で**【メンテナンス表示】**を選択後，再度表示切換スイッチを長押しで確定させると，下記画面が表示されます。
2. 表示切換スイッチを押すごとに**【●】**が下方向へ移動し，項目が順次表示されます。

◆ 表示画面の見方

メンテナンス項目ごとに表示される時間は，前回交換後の使用時間です。
数字部が白黒反転している項目は，点検や交換時間に達しています。速やかに点検・交換作業を行なった後，リセットしてください。

補　足

＊ 交換後リセットしなかった場合正しく表示されません。（表示時間は 999 で停止します。）

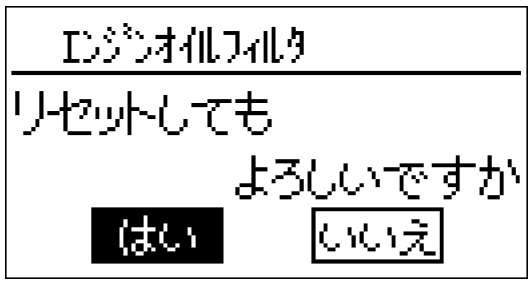




◆ 表示時間のリセット方法

点検や交換を行なった項目は下記手順でリセットしてください。

1. 表示切換スイッチでリセットさせる項目に●を移し，再度スイッチを長押しで確定させると下記画面が表示されます。



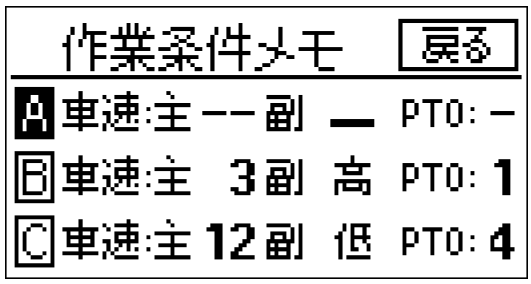
2. 表示切換スイッチで**【はい】**を選択後，再度スイッチを長押しすると，時間が**【0】**にリセットされます。**【いいえ】**を選択後，再度スイッチを長押しするとメンテナンス画面に戻ります。

■作業条件メモ

トラクタでの作業条件を3種類記憶させることができます。例えば，春起こし・代かき・秋起こしの作業条件を入れておけば便利です。

◆ 設定手順

1. 選択画面で**【作業条件メモ】**を選択後，再度表示切換スイッチを長押しで確定させると，下記画面が表示されます。
2. 表示切換スイッチで，入力したいメモに■を移し，再度スイッチを長押しで確定させます。
3. 表示切換スイッチで，メモの項目（主変速・副変速・PTO）を選択します。
4. 走行モード切換スイッチで，メモする値を選択します。（下記補足を参照。）
5. 全てのメモを入力後，表示切換スイッチを長押しで確定させます。



補　足

＊ 作業メモは**【走行モード切換スイッチ】**を押すごとに，下表の値が繰返し表示されます。
＊ 主変速の作業メモは車速を表示しています。

メモの項目	初期状態	選択値
主変速	--	1 ～ 35，--
副変速	-	低，高，高速，-
PTO	-	1,2,3,4，逆，-

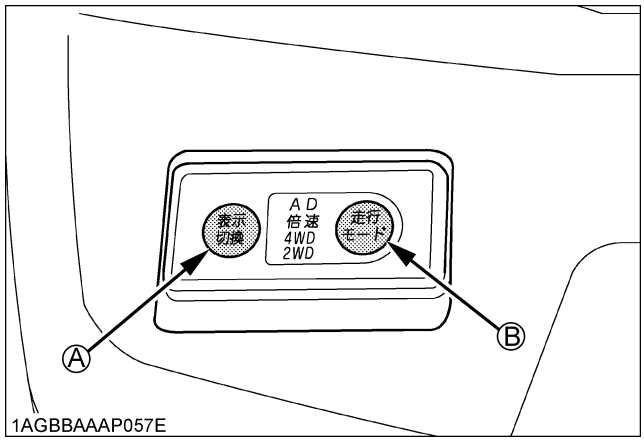
エンジン始動セキュリティ機能

本機能はお客様があらかじめ設定した暗証番号を入力しないとエンジンが始動しないシステムで，トラクタを自走させての盗難を抑制するのに効果があります。

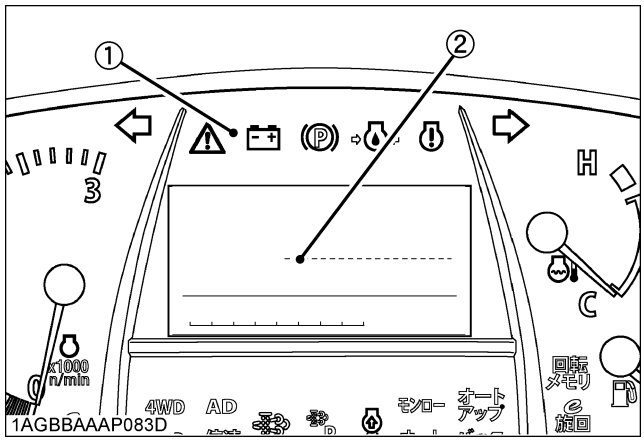
重　要

＊ 本機能はトラクタ盗難そのものを防止するものではありません。本機能が作動している（**[入]**）にも関わらず，トラクタ盗難が発生したとしても当社では責任を一切負いかねますのでご了承ください。
＊ 本機能は **[入]** / **[切]** 切替えが可能であるため，**[切]** 状態ではトラクタを自走させての盗難を抑制する効果はありません。
＊ 暗証番号を連続して 10 回誤入力すると，暗証番号入力を拒否しエンジンを始動することができなくなります。この状態になったり，暗証番号を忘れた場合は，お客様では対応できませんので，購入先に連絡してください。
＊ 暗証番号入力によってエンジン始動セキュリティを解除したあとは，キースイッチを **[切]** にしても 10 分間は本機能が解除状態になり，暗証番号を入力しなくても再始動が可能となります。ただし，バッテリを取外した場合は 10 分以内でも暗証番号の入力が必要です。
＊ 本機能の **[入]** / **[切]** を確認する場合は，**[エンジン始動セキュリティ機能の［入］/［切］の設定方法]** の項を参照してください。
＊ 暗証番号は定期的に変更し，他者から類推されやすい数字を避けるなどしていただくと，盗難を抑制するのに効果的です。また暗証番号そのものや簡単に推測できるものをトラクタに貼付けるなどの表示をしないように注意してください。

操作や設定は表示切換スイッチと走行モード切換スイッチで行ない，暗証番号やメッセージは電子メータパネルの液晶（メッセージ）表示部に表示されます。



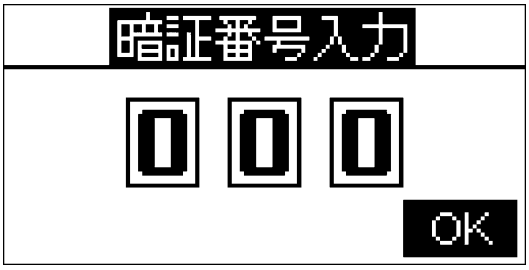
Ⓐ表示切換スイッチ
Ⓑ走行モード切換スイッチ



①電子メータパネル
②液晶（メッセージ）表示部

■暗証番号の入力方法

1. キースイッチを**【入】**にすると暗証番号入力画面が液晶表示部に表示されます。



2. 暗証番号を 100 の位から順番に入力します。なお，暗証番号は３桁の数字になります。

走行モード切換スイッチの短押し …… 数字の入力（スイッチを 1 回押すたびに，数字が 1 つ繰り上がります。）

表示切換スイッチの短押し …… 位の送り（スイッチを 1 回押すたびに，入力できる位が変わります。）

例：暗証番号を「123」に設定している場合。

(1) 走行モード切換スイッチを短押しして 100 の位に「１」を入力します。



(2) 表示切換スイッチを短押しして，10 の位に送ります。

(3) 走行モード切換スイッチを短押しして10の位に「２」を入力します。



(4) 表示切換スイッチを短押しして，１の位に送ります。

(5) 走行モード切換スイッチを短押しして１の位に「３」を入力します。

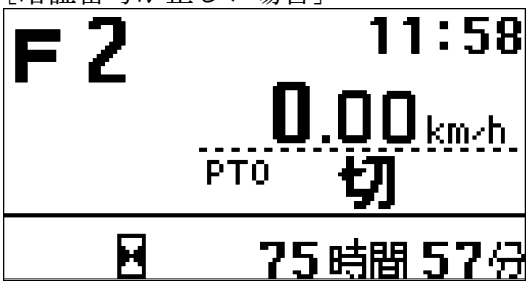


3. 表示切換スイッチを短押しして**【OK】**を選択し，走行モード切換スイッチを短押しして，暗証番号を確定します。

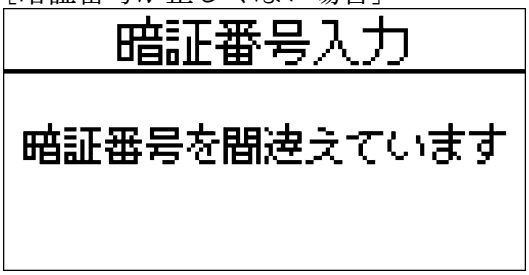


4. 暗証番号が一致すると，通常表示に戻り，エンジンを始動することができます。
暗証番号が一致しないと，**“暗証番号を間違えています”** と表示され，その後液晶表示部は手順 1. の状態になります（数字は誤入力した数字）ので，暗証番号が一致するまで手順 2. 以降の操作を繰返してください。
なお，暗証番号は初回を含めて 10 回入力が可能ですが，連続して 10 回間違えると，暗証番号入力を拒否しエンジンを始動することができなくなり，液晶表示部は **“暗証番号エラー購入先へ連絡して下さい”** と表示されます。この場合お客様では対応できませんので，購入先に連絡してください。

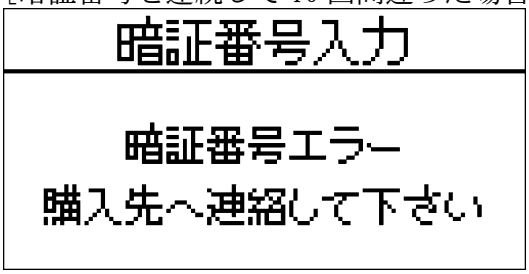
［暗証番号が正しい場合］



［暗証番号が正しくない場合］



［暗証番号を連続して 10 回間違った場合］



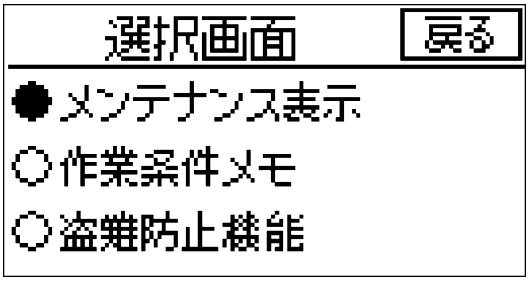
■エンジン始動セキュリティ機能の［入］/［切］設定方法（工場出荷時：OFF に設定）

エンジン始動セキュリティ機能の**【入】**と**【切】**は下記の状態となります。

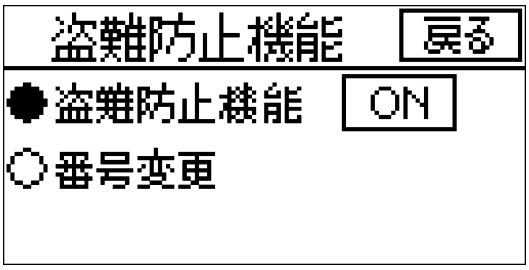
【入】の場合：暗証番号を入力しないとエンジンは始動しません。ただし，キースイッチを**【切】**にしてから 10 分以内であれば暗証番号を入力しなくても再始動が可能です。

【切】の場合：暗証番号入力を必要とせず，キースイッチを**【入】**にしてからすぐにエンジンの始動が可能です。

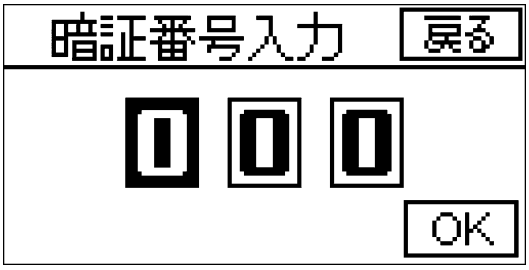
1. 暗証番号入力後の電子メータパネル通常画面にて，表示切換スイッチと走行モード切換スイッチを同時に長押しし，機能選択画面を表示させます。



2. 表示切換スイッチを短押しして，盗難防止機能を選択します。
   表示切換スイッチを長押しして，盗難防止機能画面を表示させます。

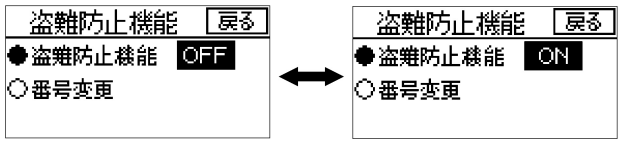


3. 盗難防止機能を選択している状態で，表示切換スイッチを長押しします。
4. 暗証番号入力画面になりますので，**【暗証番号の入力方法】**の項の手順にしたがって暗証番号を入力します。



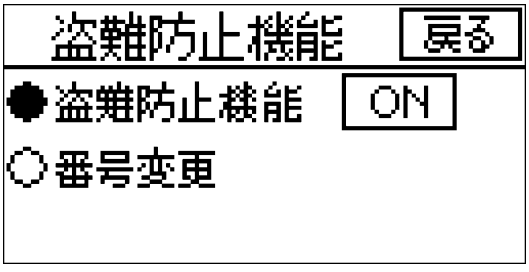
5. 盗難防止画面になり，ON 又は OFF が白抜き反転し，切換え機能が有効になります。
6. ON と OFF の選択は，走行モードスイッチを短押しします。
7. 決定は，表示切換スイッチを長押しします。

- セキュリティ機能を OFF にするときは，**【OFF】**の点灯を確認します。
- セキュリティ機能を ON にするときは，**【ON】**の点灯を確認します。



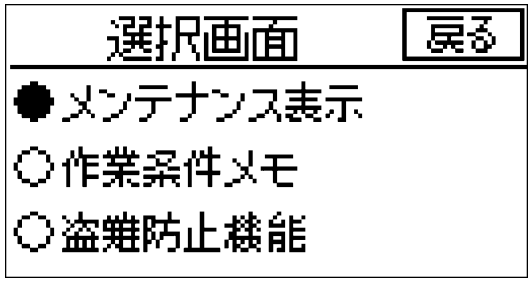
1AGBBAAAP118A

8. 設定が完了すると，盗難防止機能画面に戻ります。

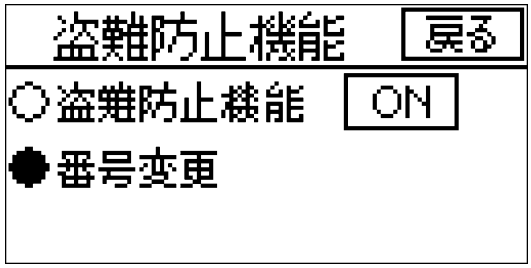


■暗証番号の変更方法

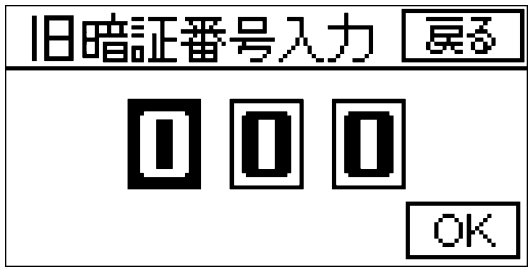
1. 暗証番号入力後の電子メータパネル通常画面にて，表示切換スイッチと走行モード切換スイッチを同時に長押しし，機能選択画面を表示させます。



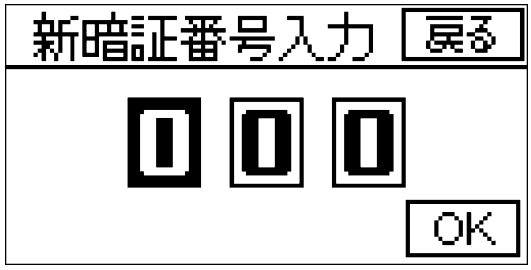
2. 表示切換スイッチを短押しして，盗難防止機能を選択します。
   表示切換スイッチを長押しして，盗難防止機能画面を表示させます。



3. 番号変更を選択して，表示切換スイッチを長押しします。
4. 旧暗証番号の入力画面になりますので，**【暗証番号の入力方法】**の項にしたがって暗証番号を入力し確定します。



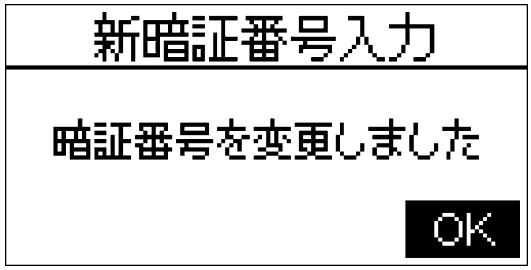
5. 新暗証番号入力画面になりますので，**【暗証番号の入力方法】**の項にしたがって暗証番号を入力します。



6. 確認のため，新暗証番号を再入力する画面が表示されます。
   【暗証番号の入力方法】の項にしたがって暗証番号を入力し確定します。



7. １回目，２回目の番号が同一となれば，変更完了画面が表示されます。
   走行モード切換スイッチを短押しすると，盗難防止機能画面に戻ります。

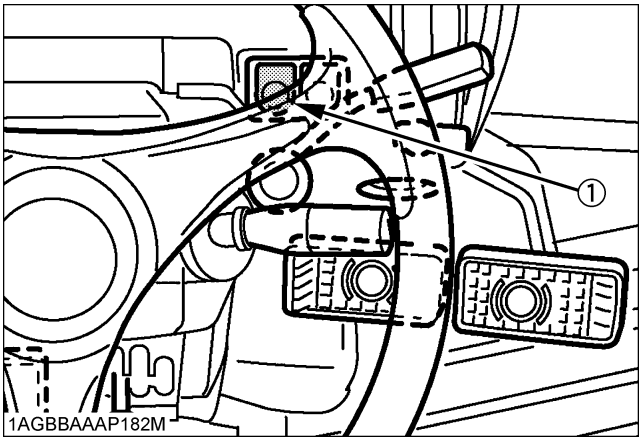


電子エンジン制御

このトラクタに搭載している電子制御式エンジンは下記の制御を行なっています。
必要に応じ正しく設定の上ご使用ください。

■エンジン回転メモリ設定

エンジン回転メモリスイッチに，エンジン回転数をワンタッチで設定することができ，面倒なアクセル操作が不要となります。



①エンジン回転メモリスイッチ

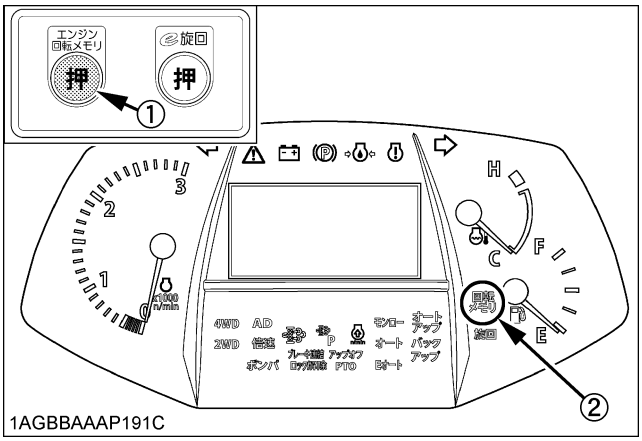
◆ 回転数の設定方法

[設定回転数の変更]

1. シャトルレバーを**【中立】**位置にします。
2. 各変速レバーを**【中立】**位置にします。
3. エンジンを始動します。
4. エンジン回転メモリスイッチが**【切】**の状態（メータパネル内のランプが消灯）であることを確認します。

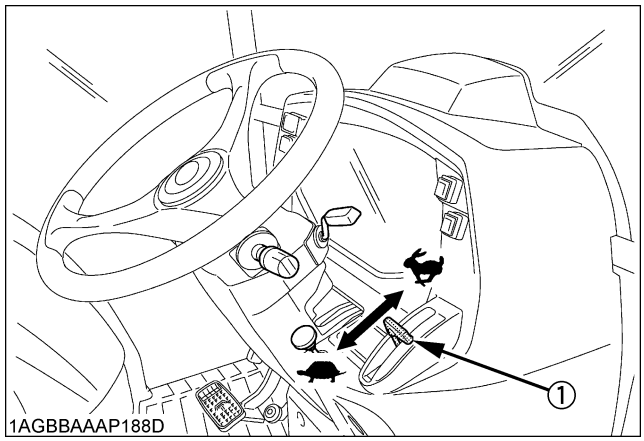
補　足

＊ ハイスピード仕様の場合は，クリープレバーを**【高速走行】**位置以外の位置にしてください。



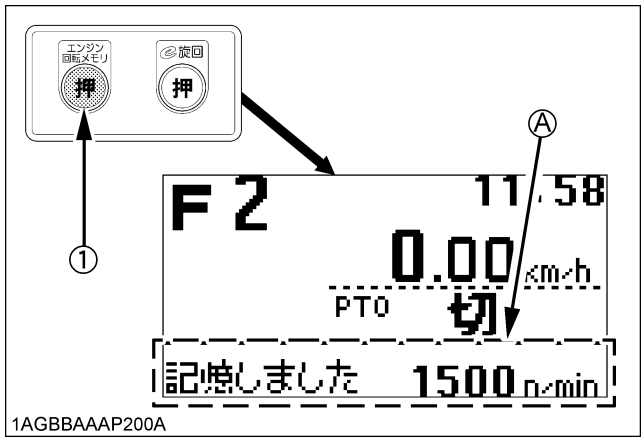
①エンジン回転メモリスイッチ
②ランプ

5. アクセルレバーを操作して，設定したいエンジン回転数にセットします。



①アクセルレバー

6. エンジン回転メモリスイッチを長押しします。
7. 液晶モニタに設定回転数が表示され，設定が完了します。



①エンジン回転メモリスイッチ　　Ⓐ設定数値

補　足

＊ キースイッチを**【切】**にしても，設定回転数を記憶しています。

■エンジン回転メモリ操作方法
[エンジン回転メモリスイッチに1500回転をセットした場合]

◆ 設定条件

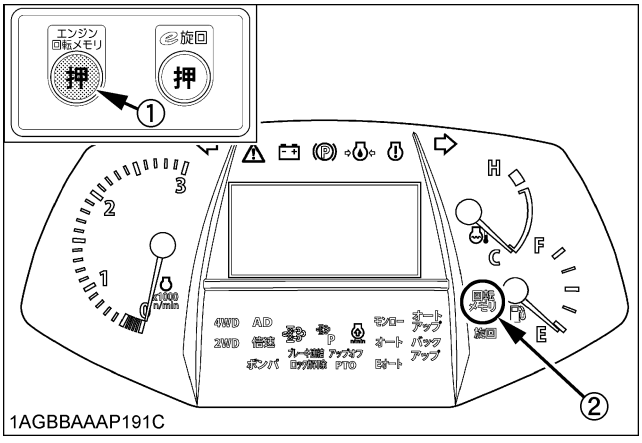
1. エンジンを始動状態にしてください。
2. アクセルレバーはアイドリングより少し高くしてください。アイドリング位置付近では設定できない場合があります。
3. **[ハイスピード（H）仕様の場合]**
   - ハイスピード仕様の場合，クリープレバーを**[高速走行]**位置以外の位置にしてください。

◆ エンジン回転メモリ［入］

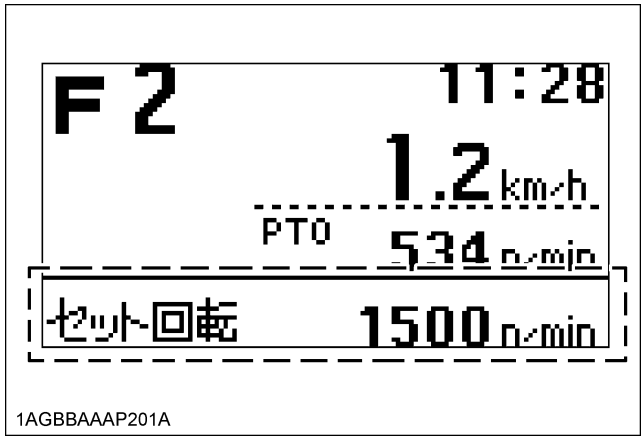
エンジン回転メモリスイッチを押すだけで，自動的に 1500 回転にセットされます（メータパネル内のランプ点灯，液晶モニタに設定回転数が表示）。

補　足

＊ アクセルレバーが設定した回転より高い位置にセットされていると，回転メモリランプが点滅します。
＊ アクセルペダルを踏込んで，設定回転数以上に回転を上げることもできます。
＊ 工場出荷時の設定は 1200 回転です。



①エンジン回転メモリスイッチ
②ランプ



◆ エンジン回転メモリ［切］

エンジン回転メモリスイッチを押すか，アクセルレバーをアイドリング位置にするとメモリが解除されます（メータパネル内のランプ消灯）。

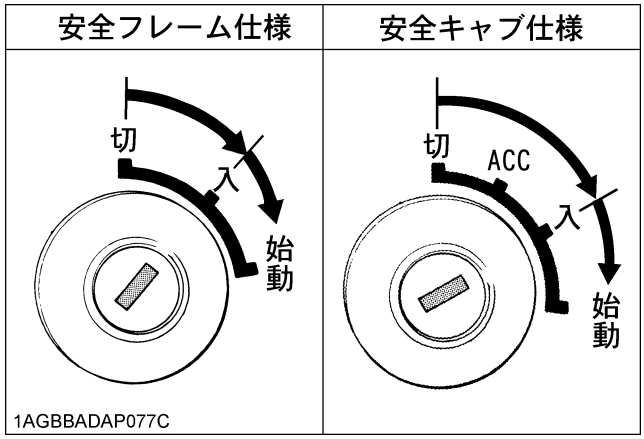
■ e- アシスト旋回

1. e- アシスト旋回は**「エンジン回転メモリ」**を３点リンク昇降と連動させ自動で**[入・切]**する機能です。
2. ポンパ**[下げ]**で作業機を下降させると，エンジン回転数がメモリ設定回転数まで上がります。
   ポンパ**[上げ]**または，オートアップ・バックアップで作業機を上昇させると，エンジン回転数がアクセルレバーまたは，アクセルペダルでの設定回転数まで下がり，低速で旋回が行なえます。

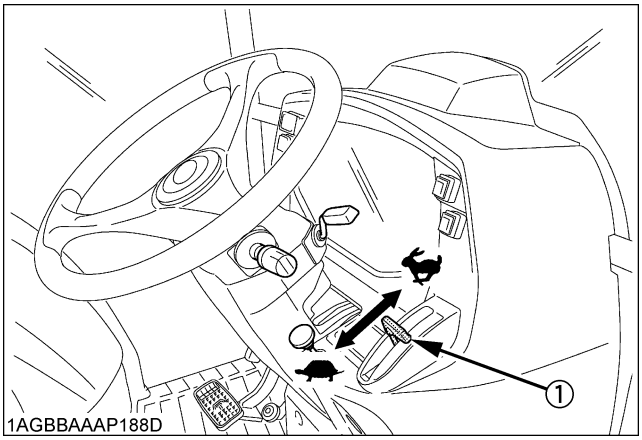
◆ 設定方法

例えば，作業時は 2600 回転，旋回時は 1500 回転に設定したい場合

1. エンジンを始動します。

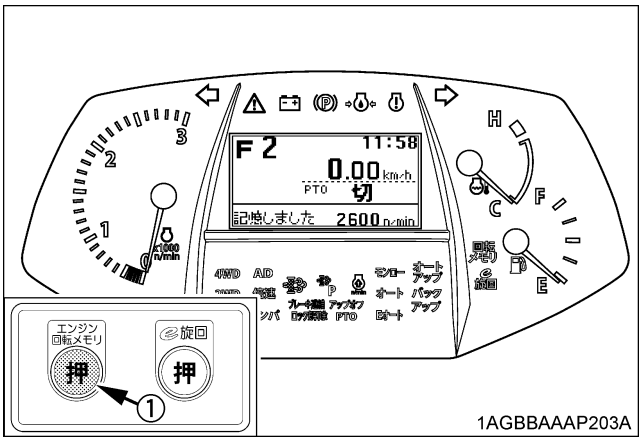


2. アクセルレバーを，作業時設定したい 2600 回転になるように，エンジン回転計を確認しながら調整します。



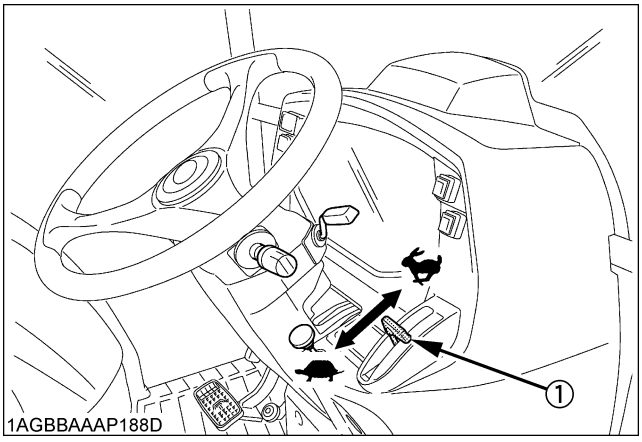
①アクセルレバー

3. エンジン回転メモリスイッチを長押しして，作業時のエンジン回転数（2600 回転）をトラクタに記録させます。
   ＊**「記憶しました」**とメータパネル上に表示されれば正常に記録完了です。



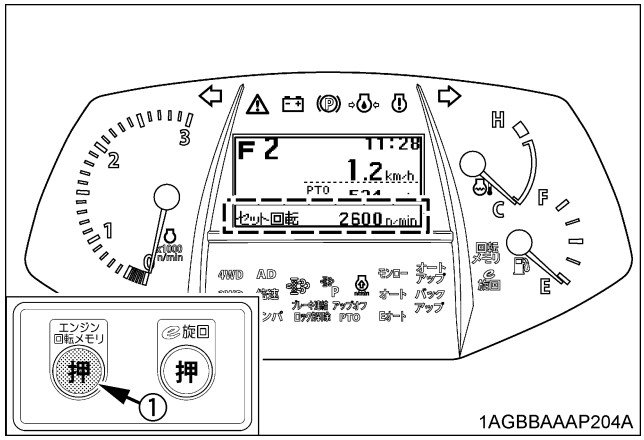
①エンジン回転メモリスイッチ

4. アクセルレバーを，旋回時設定したい 1500 回転になるように調整します。



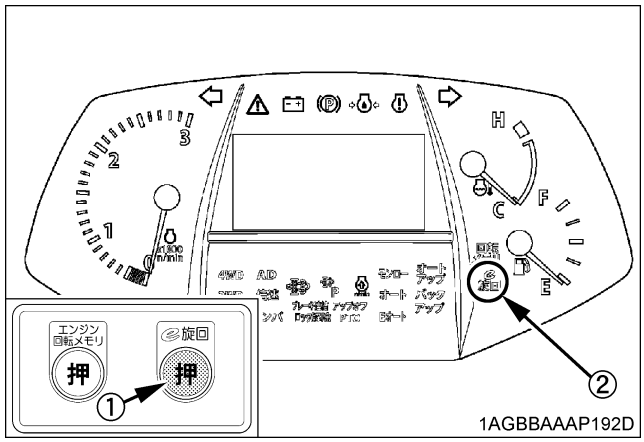
①アクセルレバー

5. エンジン回転メモリスイッチを**【入】**にして、エンジン回転を 2600 回転にします。



①エンジン回転メモリスイッチ

6. e-アシスト旋回スイッチを押して，メータパネル内のランプを点灯させます。



① e-アシスト旋回スイッチ
②ランプ

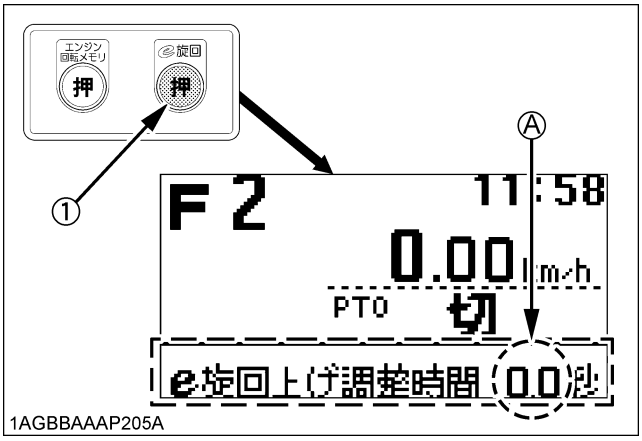
補　足

＊ アクセルレバーをアイドリング状態より少し高くしないと，メモリ回転になりません。
＊ アクセルレバーがアイドリング状態であっても，アクセルペダルを踏込んでいる場合はメモリ回転になりますが，アクセルペダルから足を離すと，メモリ回転は解除されます。
＊ e-アシスト旋回ランプが点滅時，三点リンクの安全ロックを解除してください。
安全ロックを解除すると，e-アシスト旋回ランプが点灯に変わり，e-アシスト旋回モードになります。

◆ e- アシスト旋回の応答時間変更方法

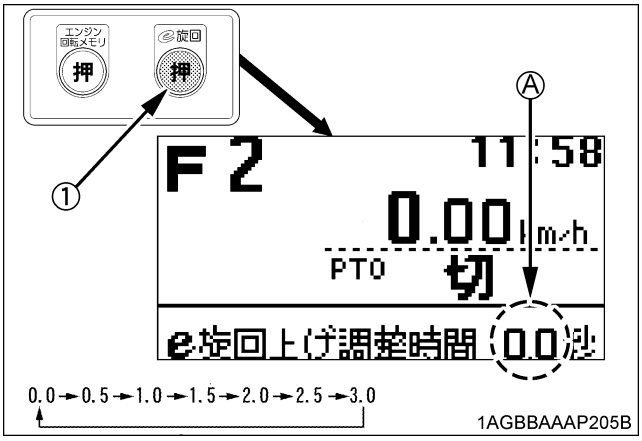
作業や好みによって，ポンパ操作に対するエンジン回転メモリの入切応答時間を変更することができます。
上昇，下降とも応答時間を０～３秒の間で７段階に設定できます。
（例）上昇を 1.5 秒，下降を２秒に設定

1. キースイッチを **【入】** にするか，エンジンを始動します。
2. エンジン回転メモリ切スイッチ及び，e- アシスト旋回スイッチが **【入】** の場合は，**【切】** にします。
3. e- アシスト旋回スイッチを長押し（2 秒以上）すると，ポンパ上昇連動時の設定モードに入り，メータパネルに設定数値が表示されます。



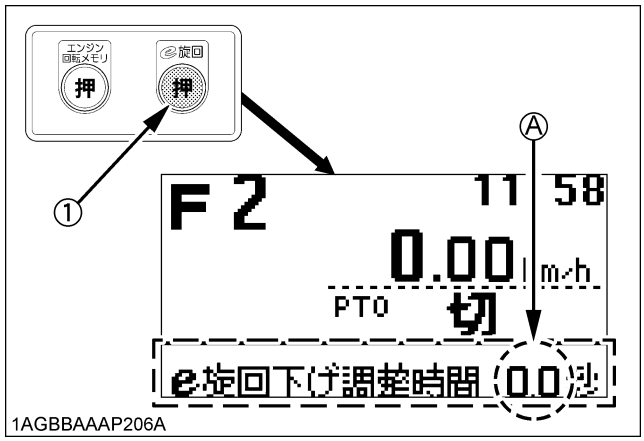
① e- アシスト旋回スイッチ（長押し）　Ⓐ設定数値

4. e- アシスト旋回スイッチを短押しすると，（0.0 秒）の数値が 0.0 から 0.5 刻みで **【0.0 → 0.5 → 1.0 → 1.5…】** と上昇します。（3.0 の次は 0.0 に戻る）**【7 段階：0 秒→ 3 秒】**



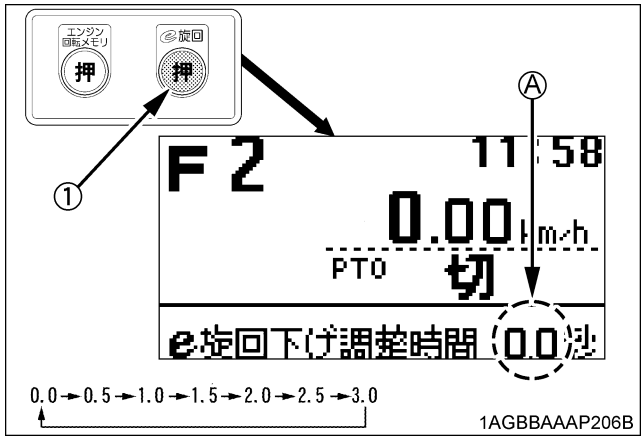
① e- アシスト旋回スイッチ（短押し）　Ⓐ設定数値

5. e- アシスト旋回スイッチを長押し（2 秒以上）すると，ポンパ上昇連動時の設定が確定し，次にポンパ下降連動時の設定モードに入り，メータパネルに設定数値が表示されます。



① e- アシスト旋回スイッチ（長押し）　Ⓐ設定数値

6. e- アシスト旋回スイッチを短押しすると，（0.0 秒）の数値が 0.0 から 0.5 刻みで **【0.0 → 0.5 → 1.0 → 1.5…】** と上昇します。（3.0 の次は 0.0 に戻る）**【7 段階：0 秒→ 3 秒】**



① e- アシスト旋回スイッチ（短押し）　Ⓐ設定数値

7. e- アシスト旋回スイッチを長押し（2 秒以上）すると，ポンパ下降連動時の設定が確定し，メータパネルが元の表示（通常表示）に戻ります。

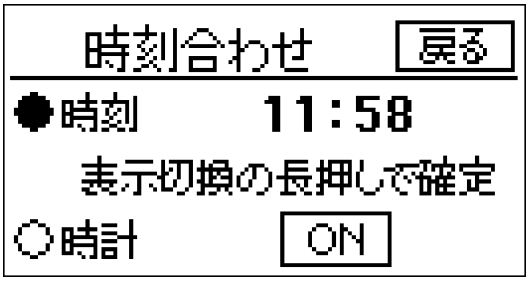
補　足

＊ 工場出荷時の設定は，上昇連動時間は 0 秒，下降連動時間は 0 秒です。
＊ 上昇連動時間を確定した後，下降連動時間を約５秒以上設定しないと，下降連動時間は設定前の連動時間になります。
＊ 上昇連動時間を確定させずに，約５秒経過すると，設定前の連動時間になります。
＊ オートアップ，バックアップ時は上昇連動時間と連動せず，すぐに応答します。

■時刻合わせと表示・非表示の設定

◆ 時刻合わせ

1. 選択画面で**【時刻合わせ】**を選択後，再度表示切換スイッチを長押しで確定させると，下記画面が表示されます。
2. 表示切換スイッチで**【時刻】**に**【●】**を合わせ，再度スイッチを長押しで確定させます。
3. **【時】**表示部が反転します。走行モード切換スイッチで値を選択します。
4. 表示切換スイッチで**【分】**を選択後，走行モード切換スイッチで値を選択します。
5. 表示切換スイッチを長押しで確定させます。



◆ 表示・非表示の切換え

1. 選択画面で**【時刻合わせ】**を選択後，再度表示切換スイッチを長押しで確定させると，上記画面が表示されます。
2. 表示切換スイッチで**【時計】**に**【●】**を合わせ，再度スイッチを長押しで確定させます。確定すると，ON 又は OFF が反転表示します。
3. 走行モード切換スイッチを押し（ON- 表示 / OFF- 非表示）のどちらかを選択します。
4. 表示切換スイッチを長押しで確定させます。

補　足

＊ 設定完了後，キースイッチを切り再度入りにすると，表示 / 非表示が切換わります。

運転中の作動確認

トラクタの運転中は，各部が円滑に作動しているかどうかを，たえず注意してください。

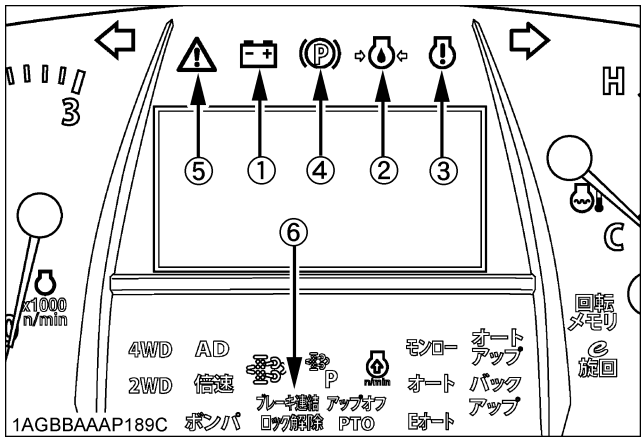
次の場合は，直ちにエンジンを止めてください。

1. 回転が急に下降したり上昇したりする。
2. 突然，異常な音がした。
3. 排気色が急に黒くなった。

運転中，メータ類に異常がないか，またイージーチェッカランプが点灯していないかを，たえず注意してください。

■イージーチェッカ

運転中イージーチェッカ内の下記警告ランプが点灯したとき，速やかにエンジンを止め，点灯した箇所の点検をしてください。もし原因がわからないときは，購入先にご相談ください。



①充電異常警告灯（チャージランプ）
②エンジンオイル油圧警告灯
③エンジン異常警告灯
④駐車ブレーキ警告灯
⑤警告灯
⑥ブレーキ連結ロック解除警告灯

充電異常警告灯（チャージランプ）

充電系統に異常があれば，エンジン回転中にランプが点灯して警告します。

エンジン異常警告灯

エンジン異常警告灯が点灯した場合，いったんエンジンを止め，再始動を行なってください。警告灯が消灯しない場合，購入先へご相談ください。

重　要

警告灯が点灯時，エンジンの故障箇所により下記現象が現れます。

＊ エンジンが突然止まった。
＊ エンジンが再始動できない。または始動してもすぐ止まる。
＊ エンジン出力が充分でない。
＊ エンジン出力は充分あるが，警告灯が点灯する。

エンジン出力が充分でない場合，ただちに作業を中断し，安全な場所にトラクタを移動させ，エンジンを止めてください。

ブレーキ連結ロック解除警告灯

連結解除ペダルロックレバーが解除位置の場合，警告灯が点灯します。
道路走行時などは連結解除ペダルロックレバーをロック位置にして，警告灯の消灯を確認してから走行してください。

Ⓟ駐車ブレーキ警告灯

駐車ブレーキが掛かっているとき，点灯して警告します。
点灯したままのときは，駐車ブレーキが掛かった状態になっていないか確認してください。

エンジンオイル油圧警告灯

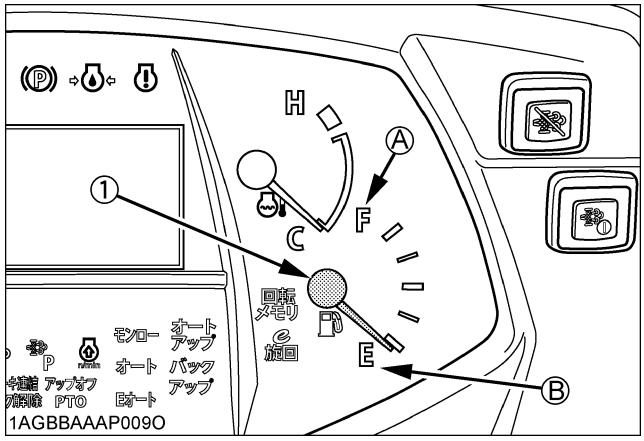
エンジン回転中，潤滑系統が異常のとき点灯して警告します。
点灯したままのときは，直ちにエンジンを止めてエンジンオイル量及び潤滑油系統を点検してください。

警告灯

エンジンのオーバーヒートやエンジン，ミッションなどの制御部品関係に異常が生じるとランプが点滅して警告します。
再始動を行なっても回復しない場合，購入先にご相談ください。

■燃料計

指針が**下方向**に近づいたら早めに燃料を補給してください。
空にすると燃料系統に空気が入るので，空気抜きが必要です。
（**［必要に応じた点検・整備］**の**［燃料の空気抜きのしかた］**の項を参照。）



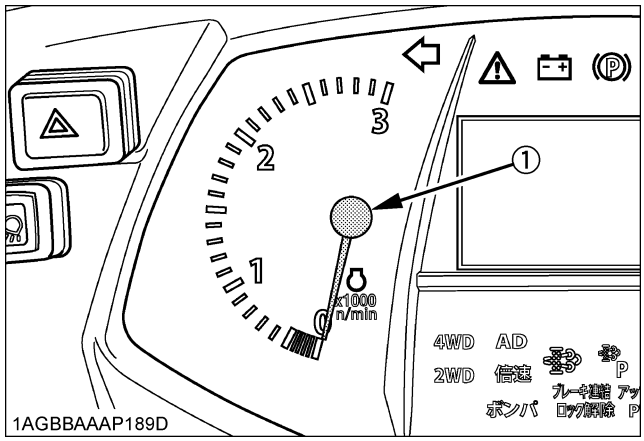
①燃料計　　Ⓐ“満タン”　Ⓑ“空”

補　足

＊ 指針の表示は、指針が早く動く「敏感モード」とゆっくり動く「鈍感モード」を自動で切り替えて表示しています。
給油時等トラクタが停止している時は「敏感モード」に、走行している時は、燃料液面の揺れによる指針への影響を抑えるために「鈍感モード」になります。
条件によっては、燃料液面の揺れにより、液晶に給油メッセージが表示される場合があります。

■エンジン回転計

１分間のエンジン回転数を示します。



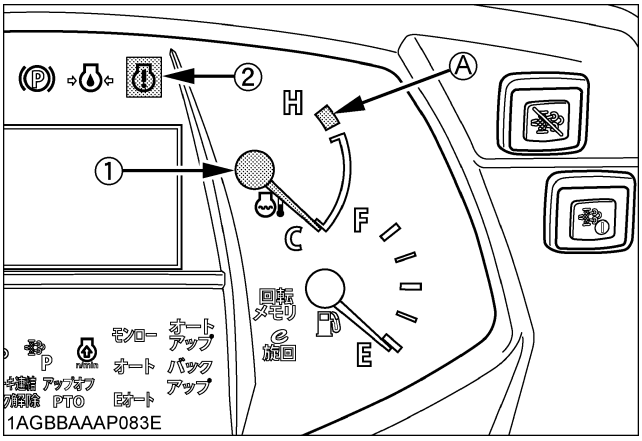
①エンジン回転計

■水温計

警　告

＊ ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出しヤケドをするおそれがあります。停止後 30 分以上たって，冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し，余圧を抜いてからキャップを外してください。

指針が**［レッドゾーン］**を示すときは，オーバーヒート状態であるため下記に従って点検してください。



①水温計　　Ⓐ“レッドゾーン”
②エンジン異常警告灯

◆ **オーバーヒートしたときの処置**

オーバーヒート（水温計の針が**［レッドゾーン］**を示し，**［エンジン異常警告灯］**が点灯）したときは，

1. 作業を中止し，
2. エンジンを約 5 分間アイドリング回転にしてから，
3. エンジンを停止し，停止後 30 分以上たって冷えてから，次の点検・整備をしてください。
   (1) リザーブタンク，ラジエータの冷却水の量（不足），及び水もれがないか。
   (2) フロントグリル，防虫網及びラジエータフィンとチューブの間に，泥やごみが付着していないか。
   (3) ファンベルトのゆるみがないか。

重　要

＊ ラジエータのオーバフローパイプから蒸気が噴き出たら，前記**［オーバーヒートしたときの処置］**を行なってください。

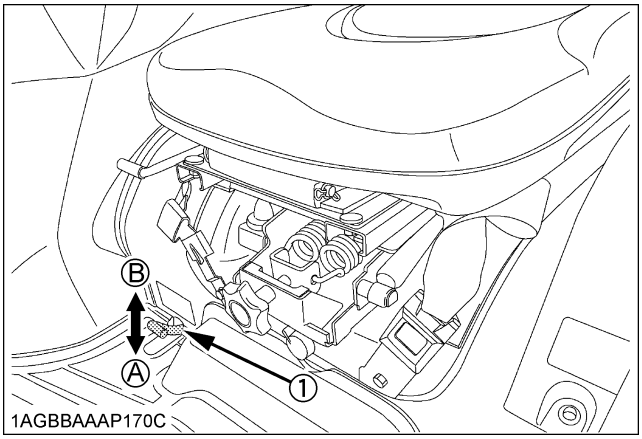
状況に応じた操作

■デフロックの使い方

◆ **デフロックペダル**

左右の後輪が同じ回転速度で駆動される装置で，スリップ防止に効果があります。

ペダルを踏込む …… ロックされる。
ペダルから足を離す … 自動的に外れる。



①デフロックペダル　　Ⓐ“踏む（ロック）”
Ⓑ“離す（解除）”

◆デフロックの使い方

警　告

＊ デフロックを入れたままで旋回できません。旋回の前に必ず解除してください。
＊ 道路走行時には絶対にデフロックを使用しないでください。ハンドル操作ができなくなります。

デフロックは，下記のような場合に役立ちます。

1. 農場への出入りやフロントローダ作業時など，片車輪がスリップして直進できないとき。
2. 農場の一部軟弱なところに片車輪が入り込み，スリップして走行がしにくくなったとき。
3. プラウ作業などけん引力を必要とする作業で，片側車輪がスリップしたとき。

重　要

＊ デフロックを入れるときは，エンジン回転を下げてから行なってください。
＊ 抜けにくいときは，ブレーキペダルを左右交互に軽く踏んでください。
＊ 使用しないときは，足をペダルにのせないでください。

■旋回のしかた

警　告

＊ 高速で旋回すると，横転するおそれがあります。デフロックペダルの解除を確認して，できるだけエンジン回転を落とし，ゆっくりと旋回してください。

■坂道での運転

警　告

＊ 必ず連結解除ペダルロックレバーを［ロック］位置にするとともに，デフロックの解除を確認してください。
＊ 坂道では変速を［中立］にしたり，クラッチを切ったりして惰性で走行しないでください。
＊ 急な坂では途中で変速しないでください。あらかじめ安全な車速に変速してから走行してください。

1. 坂道状況に応じた安全なスピードで，エンジンにできるだけ負担をかけないように走行しましょう。
2. 登り坂ではノッキングさせないように早めに遅い変速位置にしましょう。
3. 下り坂ではエンジンブレーキを活用しましょう。車速を下げるほどエンジンブレーキはよくききます。

■ほ場への出入り時の注意

警　告

＊ 必ず連結解除ペダルロックレバーを［ロック］位置にするとともに，デフロックの解除を確認してください。
＊ ほ場への出入りは，高低差が大きいと危険です。
あゆみ板などを利用してください。
＊ ほ場への出入りは，あぜと直角に行なってください。
＊ ほ場への出入りの際は，あらかじめ遅い車速で運転し，途中で変速しないでください。

警　告

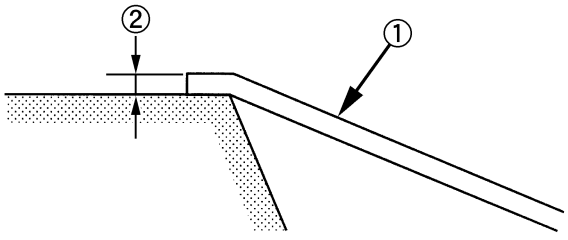
＊ 走行モード切換スイッチは［2WD］又は［4WD］にしてください。

1. 作業機を下げて進むと，前輪が浮き上がりません。常に前・後輪のバランスを考えながら操作してください。
2. あぜを上がるとき，４輪駆動の特色を生かして，バックで上がると格段に上がる能力が増します。

◆ パワクロ仕様の場合

警　告

＊ クローラの片側だけが段差に引っかかり乗りあがらない状態になった場合，いったん車両を元に戻し，あゆみ板をかけ直してはじめからやり直してください。



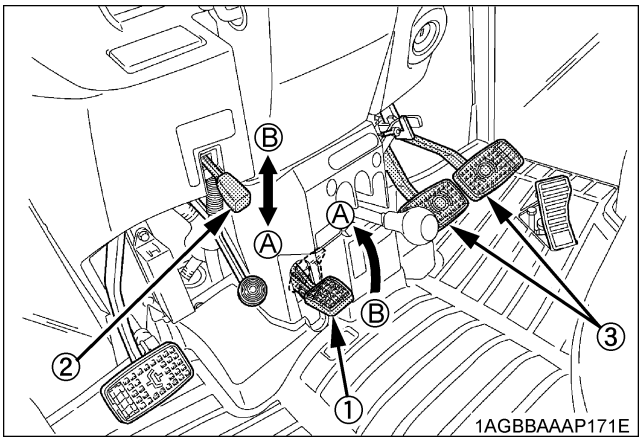
1AGACBUAP002C

①あゆみ板
②段差

■道路走行中の注意

警　告

＊ 道路を走行するときは，連結解除ペダルロックレバーを下げ，連結解除ペダルが踏めないことを確認してください。
連結しないと，ブレーキが片ぎきになり，車体が急旋回して，転倒・転落・衝突などの事故を引起こすおそれがあります。



①連結解除ペダル　　Ⓐ“ロック（格納）”
②連結解除ペダルロックレバー　Ⓑ“ロック解除”
③ブレーキペダル

警　告

＊ 道路を走行するときは，関係法規を守り安全運転をしてください。
＊ 運転者のほかは乗せないようにしてください。
転落事故の原因になります。
＊ 溝のある農道や両側が傾斜している農道を通るときは，特に路肩に注意してください。
＊ トラクタは，ロータリなどの作業機を装着して公道を走行できません。
［道路運送車両法の保安基準］
＊ 道路走行時にはモンロー･オートスイッチを必ず［切］にして走行してください。
＊ ポンパランプの消灯を確認してください。
＊ 信号待ちなどの一時停止時はブレーキペダルを踏んだままにしてください。

1. 公道走行中進路方向を変えるときは，方向指示器で進路方向を他の自動車に知らせてください。
2. 夜間走行中，対向車とすれちがうときは，ヘッドライトを下向き照射にし，対向車の妨害にならないように注意しましょう。
3. 踏切では，必ずいったん停止し，左右の確認をしてから，速やかに渡ってください。
4. 公道走行中は作業灯を消灯してください。

補　足

＊ 作業灯は**［道路運送車両法の保安基準］**第 42 条（灯火の色等の制限）において，**［走行中に使用しない灯火］**とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。

電子メータメッセージ

＊ 走行中下記のメッセージが表示されたときは，すみやかにトラクタを止め，メッセージに従って処置してください。
メッセージは車速が 10km/h を超えたとき表示されます。また，表示要因が 2 個以上の場合は，交互に表示されます。

◆ 連結解除ロックレバーがロックされていないとき



◆ あんしん PTO スイッチが［切］でないとき



◆ ポンパで作業機を持ち上げているとき



＊ 下記のメッセージは車速が 0.1km/h を超えたとき表示されます。

◆ 駐車ブレーキが解除されていないとき



■トラックへの積み・降ろし

警　告

＊ あゆみ板は，十分な強度・幅・長さ（傾斜が 15 度以下になる長さ：トラック荷台高さの 4 倍以上）のあるすべり止め付きのものを使用し，トラクタの重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。
＊ 積み・降ろしはあらかじめ遅い車速で運転し，途中での変速はしないでください。

◆ ホイル仕様の場合

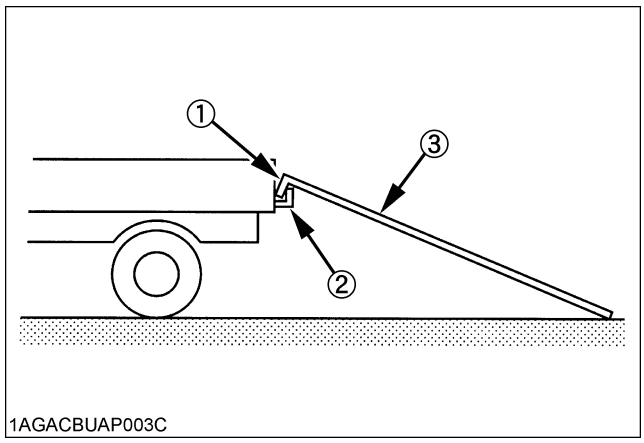
トラックへの積込みは，必ず左右のブレーキペダルを**［連結］**しバックで行なってください。
万一，途中でエンストした場合は，すぐブレーキペダルを踏込み，その後徐々にブレーキをゆるめ，いったん道路まで降ろし，あらためてエンジンを始動してから行なってください。

◆ パワクロ仕様の場合

警　告

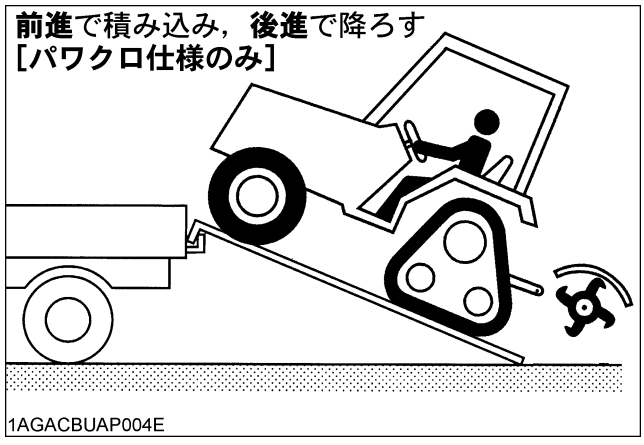
＊ トラックは荷台後部にあゆみ板の爪を掛けるフックが付いたものを使用してください。
＊ トラックへの積み・降ろしは，必ず左右のブレーキペダルを［連結］し，［前進］で積み込み，［後進］で降ろしてください。前進で降りると，クローラがあゆみ板の段差ですべり，前輪が浮いて車体が旋回し，転倒事故につながるおそれがあります。

万一，途中でエンストした場合は，すぐブレーキペダルを踏込み，その後徐々にブレーキをゆるめ，いったん道路まで降ろし，あらためてエンジンを始動してから行なってください。



1AGACBUAP003C

①爪
②フック
③あゆみ板



1AGACBUAP004E

■パワーステアリングの取扱い

警　告

＊ パワーステアリングはエンジン運転中，ハンドル操作が大変軽くなりますので，走行は慎重に行なってください。

重　要

＊ パワーステアリングは，エンジン運転中だけ作動します。ただし，エンジン回転が低速のときは多少ハンドルが重くなります。なお，エンジン停止時は，ハンドルの遊びが大きくなりますが，機能上問題はありません。
＊ ローダなどの前部装着作業機を使用し，トラクタを止めたままハンドルを操作すると，途中重くなることがあります。このときは，低速でトラクタを移動させながらハンドルを操作してください。
＊ ハンドルをいっぱい切ると，安全弁の作動音（リリーフ音）が出ます。この音が鳴ったまま使用しないでください。（短い時間ではかまいません。）また，ハンドルのフル回転状態での連続使用は，できるだけ避けてください。
＊ 不必要なハンドルのスエ切り（走行しないでハンドルを切る）は，タイヤ及びリムなどの損耗を早めるので避けてください。
＊ 冬期は暖機運転をじゅうぶん行なってから使用してください。

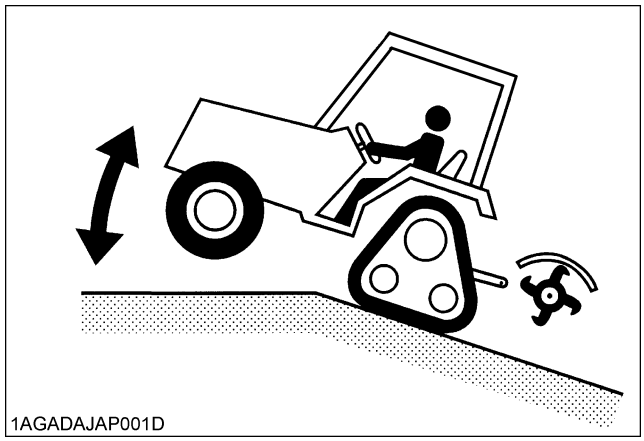
■パワクロ仕様の運転のしかた

パワクロ仕様の特別な運転のしかたを記載しています。これ以外の取扱い操作はホイル仕様のトラクタと同じです。

◆ 運転操作

警　告

＊ 凹凸やカーブの多い所では絶対に高速走行をしないでください。ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。
＊ クローラ部が凸部を乗越えるときは，急に姿勢が変わりますので十分注意してください。



1. 走行速度は，ホイル仕様とは異なります。**［付表］**の**［走行速度表］**を確認してください。
2. ほ場での旋回は速度を下げ，ハンドルとブレーキ（片ブレーキ）を併用してください。片側クローラをロックしての急旋回は，ほ場を荒らしますので，切返しでの旋回をお奨めします。

補　足

＊ パワクロは直進性に優れる分，旋回半径は大きくなります。ほ場での作業中は，必要に応じ旋回する側のブレーキを操作すれば，小さい旋回半径で旋回できます。

重　要

＊ プラウ作業など片側のクローラを溝に落として行なう作業の場合は，クローラの張りを確認してください。また段差から無理に出ようとしないでください。
＊ 溝引きプラウ作業ではクローラが完全に溝から上がった状態で旋回してください。
片側のクローラが溝に落ちた状態で旋回すると、ゴムクローラが外れる可能性があります。
＊ あぜごえはあぜに対して垂直方向に走行し，途中で旋回しないでください。ゴムクローラが外れるおそれがあります。
＊ 道路走行でカーブを曲がったり，右左折する場合は速度を落してください。
クローラは直進性が優れるために，曲がりきれなくなる場合があります。
＊ 標準パワクロにて，うねや排水溝があるほ場を耕うんする場合は，うねの上を走行しながら耕うんしてください。溝を走行すると，クローラを傷める場合があります。

補　足

＊ 長距離の移動の際には，前輪タイヤ及びゴムクローラの早期摩耗防止のためにトラックやトレーラに積んで運搬することをお奨めします。
＊ クローラ部分に土がたまらないよう，定期的に清掃してください。
固まった土が遊輪，転輪のシールをいためる可能性があります。

◆ あゆみ板の使用

警　告

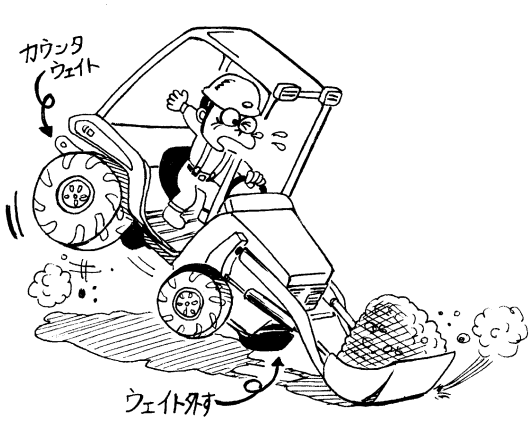
＊ あゆみ板は左右の先端をそろえ，前後にずれないように確実に固定してください。
＊ あゆみ板とあゆみ板をかけた面との段差が大きい場合，運転には特に注意してください。
＊ 途中で変速すると危険ですので，あらかじめ安全な遅い変速位置に入れて低速で運転してください。
＊ あゆみ板は，十分な強度・幅・長さ（傾斜が15度以下になる長さ：トラックの荷台高さ，あるいはほ場乗入れ部高さの4倍以上）のあるすべり止め及び爪付きのものを使用し，パワクロの重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。

■ローダ作業

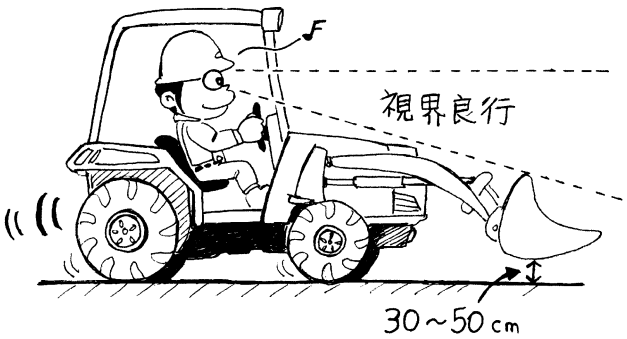
ローダ作業を安全に行なうために！

ローダ作業時の転倒事故を防止するために，次のことがらを必ず守ってください。

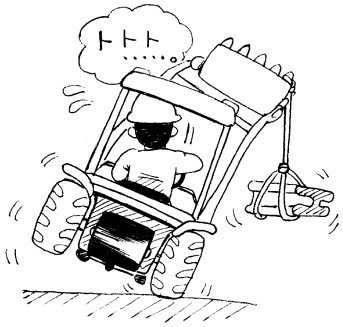
1.トラクタ後部にカウンタウエイトを取付ける！
トラクタの後部に，三点リンクを利用して適正量のカウンタウエイトを取付け，前後のバランスを保つようにしてください。



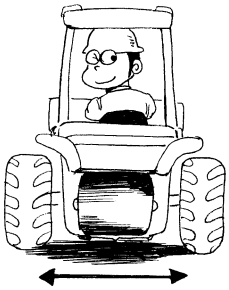
2.運搬はローダを低く下げてゆっくり走行する！
運搬・走行するときは，積荷の高さを地上から30～50cmにし，速度も５km/時以下で走行してください。特に傾斜地・悪路では，速度をひかえめに慎重に走行してください。



3.片持ち作業をしない！
片持ち作業はトラクタ横転の原因になりますので，荷物は左・右片寄らないようにバランスよく載せてください。



4.後輪トレッドはできるだけ広げる！
作業時はトラクタの安全性を増すため，後輪トレッドはできるだけ広げてください。



5.フロントローダ作業中はADや倍速ターンを絶対に使用しないでください。

★以上，ローダ作業での転倒事故を未然に防いでいただくために，主だった注意事項を挙げました。これ以外にもローダの［**取扱説明書**］をよく読んで安全に作業をしてください。

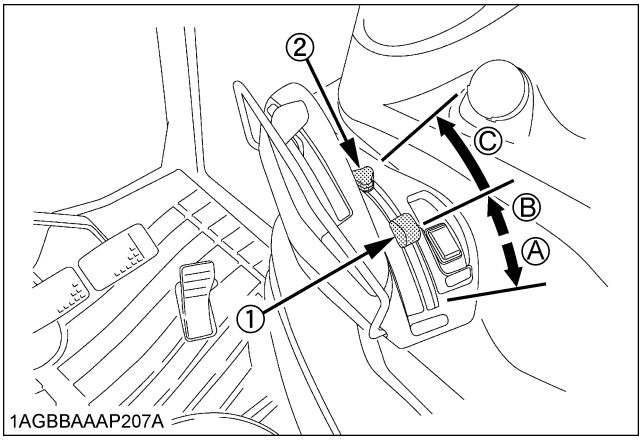
作業のしかた

作業機昇降装置

油圧装置は，クラッチの断続に関係なくエンジン回転中は常に作動します。

■油圧（ポジションコントロール）レバー

1. ポジション範囲Ⓐ，Ⓑでは，作業機が任意の位置に保たれます。
2. フローティング範囲Ⓒでは，作業機がいっぱいに下がります。



①油圧レバー
②レバーストッパ
Ⓐ“上がる”
Ⓑ“下がる”
Ⓒ“フローティング”

◆ レバーストッパ（下降側）の使い方

1. 油圧レバーで，希望する作業位置を決めます。
2. その位置にレバーストッパを固定します。
3. その後は，油圧レバーをレバーストッパに当たるまで動かすことにより，同一の作業位置が得られます。

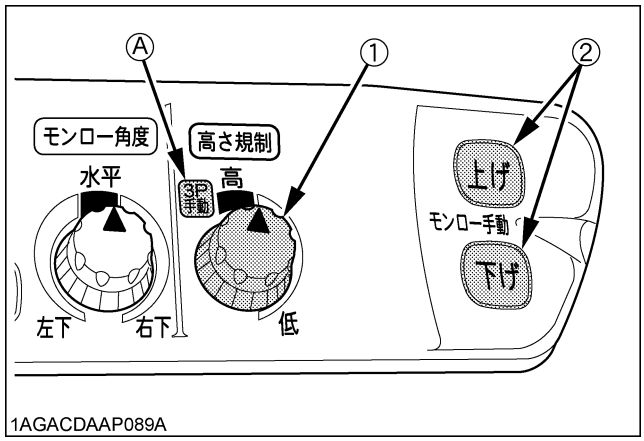
◆ 油圧レバーの取扱い特性

1. エンジン停止後，キースイッチを**【入】**にして，油圧レバーを**【前方に倒す】**と，作業機が下降します。(ポンパランプ点滅時は下がりません。電子メータメッセージに従って油圧レバーを操作し，ポンパランプの点滅を解除してください。)
2. 三点リンク高さ規制ダイヤルで上昇上限位置を規制している時は，制限位置までしか上昇しません。

■三点リンク高さ規制ダイヤル

三点リンクの上昇上限位置を変えるときに使用します。

1. ダイヤルを**【高】**にすると，三点リンクの上昇上限位置が高くなります。
2. ダイヤルを**【低】**方向に回すと，三点リンクの上昇上限位置が低くなります。



①三点リンク高さ規制ダイヤル
②モンロー手動スイッチ
Ⓐ“３Ｐ手動”

補　足

＊ 三点リンク高さ規制ダイヤルにより，ポンパレバー，油圧レバー，オートアップ及びバックアップでの上げ位置を任意の高さに規制できます。

◆ 3P 手動の使い方

ダイヤルを**【3P 手動】**にすると各種制御に関係なく，モンロー手動スイッチにて作業機を上げ下げできます。

1. ポンパレバー又は，油圧レバーで三点リンクを最上位置にし，モンローマチックを**【平行停止】**させます。
2. 三点リンク高さ規制ダイヤルを**【3P 手動】**位置にします。
3. 三点リンクの**【上げ－下げ】**は，モンロー手動スイッチで行ないます。

電子メータメッセージ

＊ エンジンを始動後，三点リンク高さ規制ダイヤルを**【3P 手動】**位置にすると，下記のメッセージが表示されます。



＊ 3P 手動作業終了後は，**【3P 手動】**を解除し，上記メッセージの消灯を確認してください。

補　足

＊ 三点リンク高さ規制ダイヤルを**【3P 手動】**位置にすると，**モンロー，オート，E オート，ポンパ，バックアップ，オートアップ**の各ランプが消灯します。
＊ **【3P 手動】**位置では，油圧レバー，ポンパレバー，モンローマチックオート，バックアップ，オートアップ，E オートは作動しません。
＊ **【3P 手動】**位置でエンジンを停止し，再度**【3P 手動】**作業を行なう場合は，エンジン始動後，**【3P 手動】**を解除し（ダイヤルを**【3P 手動】**位置から**【高】**又は**【低】**の方向へ回す），再度**【3P 手動】**位置にしてください。
＊ 3P 手動作業の終了後は，**【3P 手動】**を解除してください。

■ポンパレバー / ポンパスイッチ(安全キャブ仕様のみ)

警　告

＊ ほ場内作業以外では，ポンパレバー・ポンパスイッチを使用しないでください。
＊ ポンパアップ状態で道路走行しないでください。ほ場外（移動など）では油圧レバーを使用してください。

◆ ポンパレバー

レバーのワンタッチ操作で作業機を上下させる装置です。ほ場内での旋回操作が便利になります。
レバー上げる(ポンパランプ点灯)… 作業機上昇
レバー下げる(ポンパランプ消灯)… 作業機下降
ポンパレバーで作業機上昇後，油圧レバーを最上位置にすると，ポンパ制御が解除され（ポンパランプ消灯），ポジション制御になります。

◆ ポンパスイッチ

ポンパスイッチのワンタッチ操作で作業機を上下させる装置です。ほ場内での旋回操作が便利になります。

- スイッチ**【上げ】**側を押す
  （ポンパランプ点灯）… 作業機上昇
- スイッチ**【下げ】**側を押す
  （ポンパランプ消灯）… 作業機下降

ポンパスイッチで作業機上昇後，油圧レバーを最上位置にすると，ポンパ制御が解除され（ポンパランプ消灯），ポジション制御になります。

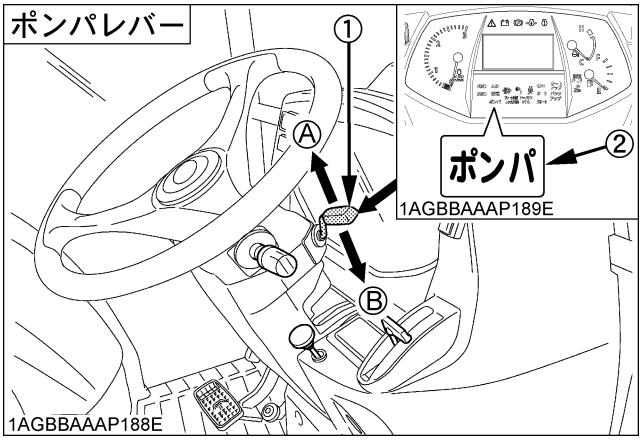
補　足

＊ ポンパレバーはスイッチですので軽い操作力で作動します。無理な力を加えないでください。
＊ 新しい作業機を装着したときは，ポンパレバー・ポンパスイッチではなく，油圧レバーを使って作業機を上げて，作業機がトラクタに当らないことを確認してください。
＊ ポンパレバー･ポンパスイッチ操作時，ブザー音が１回鳴ります。

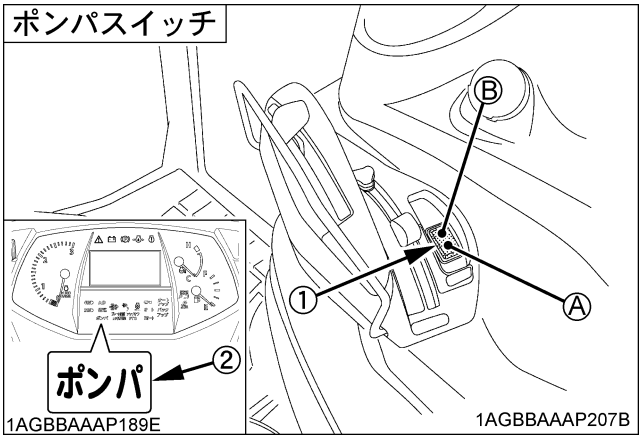
◆ ポンパレバー・ポンパスイッチの上手な使い方

ポンパレバー・ポンパスイッチを解除したときの下降位置は油圧レバーで設定した位置になります。

例えば代かきハローなど，作業機の位置を固定して昇降させる場合，油圧レバー位置をセットしたまま，ポンパレバー・ポンパスイッチにより昇降させることができます。**［耕深位置制御］**



①ポンパレバー　　Ⓐ“上げる”
②ポンパランプ　　Ⓑ“下げる”



①ポンパスイッチ　　Ⓐ“上げる”
②ポンパランプ　　Ⓑ“下げる”

補　足

＊ ポンパランプが点滅している場合，油圧レバー又はポンパレバー・ポンパスイッチを操作し，ポンパランプの**［点滅を解除］**してから使用してください。

＊ あぜぎわなどほ場が平たんではないところでポンパを使用すると，ロータリなどの作業機に衝撃がかかり損傷するおそれがあります。このような場合は油圧レバーでゆっくりと作業機を下降させてください。

◆ 三点リンクの安全ロック機能

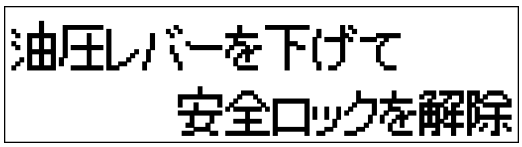
下記状態でエンジンを始動すると，安全ロックが作動し作業機は昇降しなくなります。

1. 作業機の高さと油圧レバー位置（エンジン停止時の位置）が異なっているとき。
2. 三点リンク高さ規制ダイヤルが**［3P 手動］**位置になっているとき。

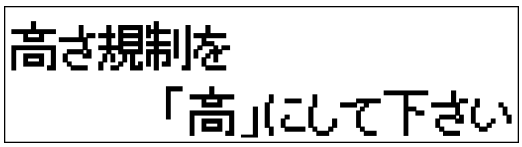
安全ロックが作動すると，ポンパランプが点滅状態となり，解除方法は 電子メータメッセージとして表示されます。

電子メータメッセージ

＊ 安全ロックの解除は，下記の表示メッセージに従って解除してください。
安全ロック解除時，ブザー音が２回鳴ります。







（三点リンク高さ規制ダイヤルを**［3P 手動］**位置から**［高］**に戻す。）

補　足

＊ 安全ロックは，ポンパレバーで作業機を上げても解除できます。

＊ 電子メータメッセージの「油圧レバー下げて解除」は，車速が約 10㎞/h 以上のときは表示されません。

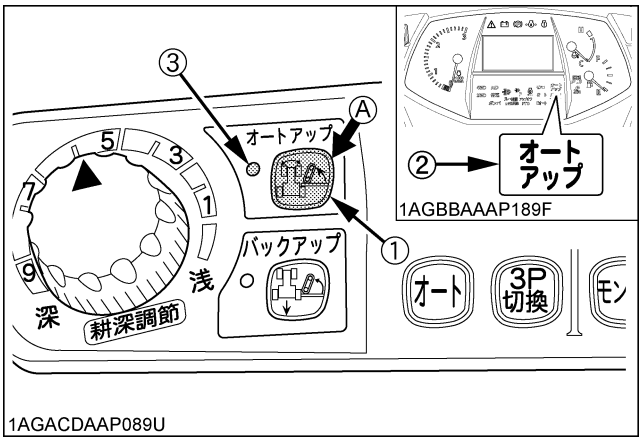
■オートアップスイッチ

警　告

- **危険防止のため，オートアップの使用は，ほ場内作業のみにしてください。**
- **オートアップで作業する場合は，ランプが点灯していることを確認してください。ランプが消灯しているときは，作業機は自動で上昇しません。この状態で旋回すると，作業機を引きずり，障害事故を引起すおそれがあります。**
- **スイッチの操作はエンジンを始動したあとに行なってください。エンジン始動によりバッテリ電圧が一瞬下がりますので，スイッチの操作が無効になる場合があります。**

◆ オートアップの使い方

1. オートアップスイッチを押し**［入］**にします。オートアップ**［入］**のとき，メータパネルのオートアップランプが点灯します。
2. 隣接耕うん作業での旋回時，ステアリングハンドルを回すと，作業機が自動で上昇し，ほ場内での旋回操作が簡単にできます。（上昇時ブザー音が１回鳴ります。）
3. 作業機を下げるときは，ポンパレバー又は油圧レバーで行なってください。
4. オートアップスイッチを再度押すと，オートアップが**［切］**となります（オートアップランプ消灯）。



①オートアップスイッチ　　**Ⓐ“押す”**
②オートアップランプ
③スイッチランプ
（オートアップ入時点灯）

補　足

- オートアップが点灯中でもシャトルレバーが**［中立］**,**［後進］**及びあんしん PTO スイッチが**［切］**の場合，オートアップは作動しません。
- 隣接耕うん作業以外では，オートアップスイッチを**［切］**にしてください。
- オートアップが作動するステアリングハンドルの操作角度は，条件により異なります。ハンドル操作の速さ，車速などからマイコンが判断し，適切に制御しています。

■バックアップスイッチ

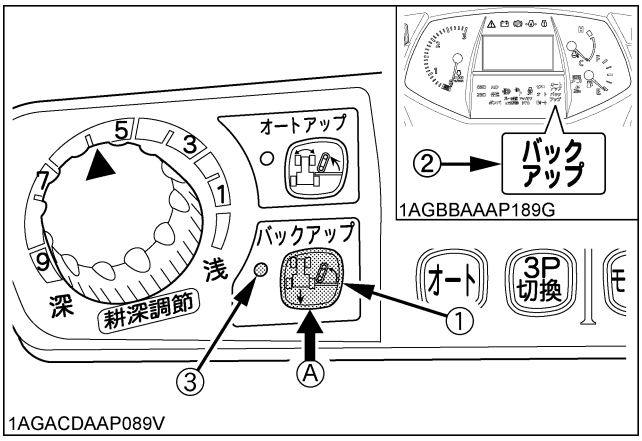
バックアップを**［入］**にしておくと，後進時，作業機が自動的に上昇し，**［うっかりバック］**からの作業機の損傷を防ぎます。

注　意

＊ スイッチの操作はエンジンを始動した後に行なってください。エンジン始動によりバッテリ電圧が一瞬下がりますので，スイッチの操作が無効になる場合があります。

◆ バックアップの使い方

1. バックアップスイッチを押し，**［入］**にします。バックアップ**［入］**のとき，メータパネルのバックアップランプが点灯します。
2. シャトルレバーを**［後進］**に入れると，作業機が自動で上昇します。
3. 作業機を下げるときは，ポンパレバー又は油圧レバーで行なってください。
4. バックアップスイッチを再度押すと，バックアップが**［切］**となります（バックアップランプ消灯）。



①バックアップスイッチ
②バックアップランプ
③スイッチランプ
（バックアップ入時点灯）

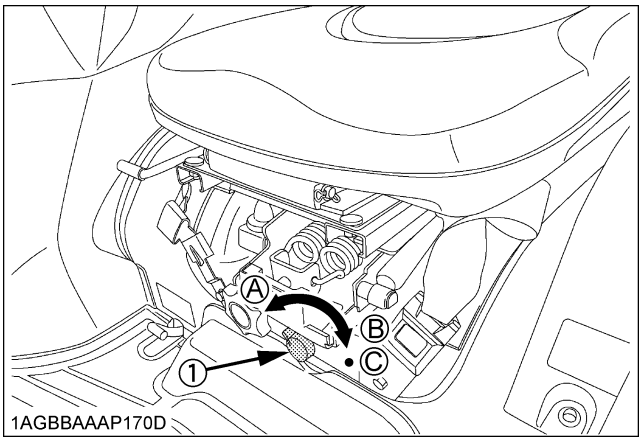
Ⓐ“ 押す ”

■作業機落下速度の調整

警　告

＊ ロータリなど作業機を点検する場合は，必ず落下速度調整グリップで，作業機が落下しないようにロック（停止）してください。
＊ 落下速度調整グリップでロックした後，油圧レバーを［前方に倒して］，作業機が落下しないことを必ず確認してください。
＊ ロックするとともに適切なジャッキ又はブロックで歯止めをし，落下防止を行なってください。

落下速度調整グリップを回すことにより作業機落下速度が調整できます。（回転角 90°）



①落下速度調整グリップ

Ⓐ“ 速 ”
Ⓑ“ 遅 ”
Ⓒ“ 停止 ”

［速］方向に回す：　油圧回路が開き，作業機の落下速度が速くなります。

［遅］方向に回す：　油圧回路が閉じ，作業機の落下速度が遅くなります。

（**［停止］**位置まで回すと，油圧がロック（停止）します。）

ロータリの落下速度は，上昇位置から接地するまで１～２秒が適当です。
特にオート耕うん時，落下速度が速すぎると滑らかな耕うんができない場合があります。

重　要

＊ グリップは軽く回すだけで油圧がロックされますので無理に回さないでください。
（回転角 90°）

◆ 油圧ロックの取扱い

1. トラクタの格納は，作業機を降ろした状態で保管してください。
   作業機を上げた状態で長時間保管すると，油圧ロックしていても下降することがあります。
2. 作業機を上げた状態で保管する場合は，次の要領で行なってください。
   (1) エンジンをかけた状態で落下速度調整グリップを**【停止】**位置まで回してください。
   (2) 油圧レバーを前方に倒し，作業機が下がらないことを確認してください。
   この操作を行うことで，油圧ロックの作動がより確実になります。
   (3) エンジンを停止してください。
   (4) 再度油圧レバーを上げてください。

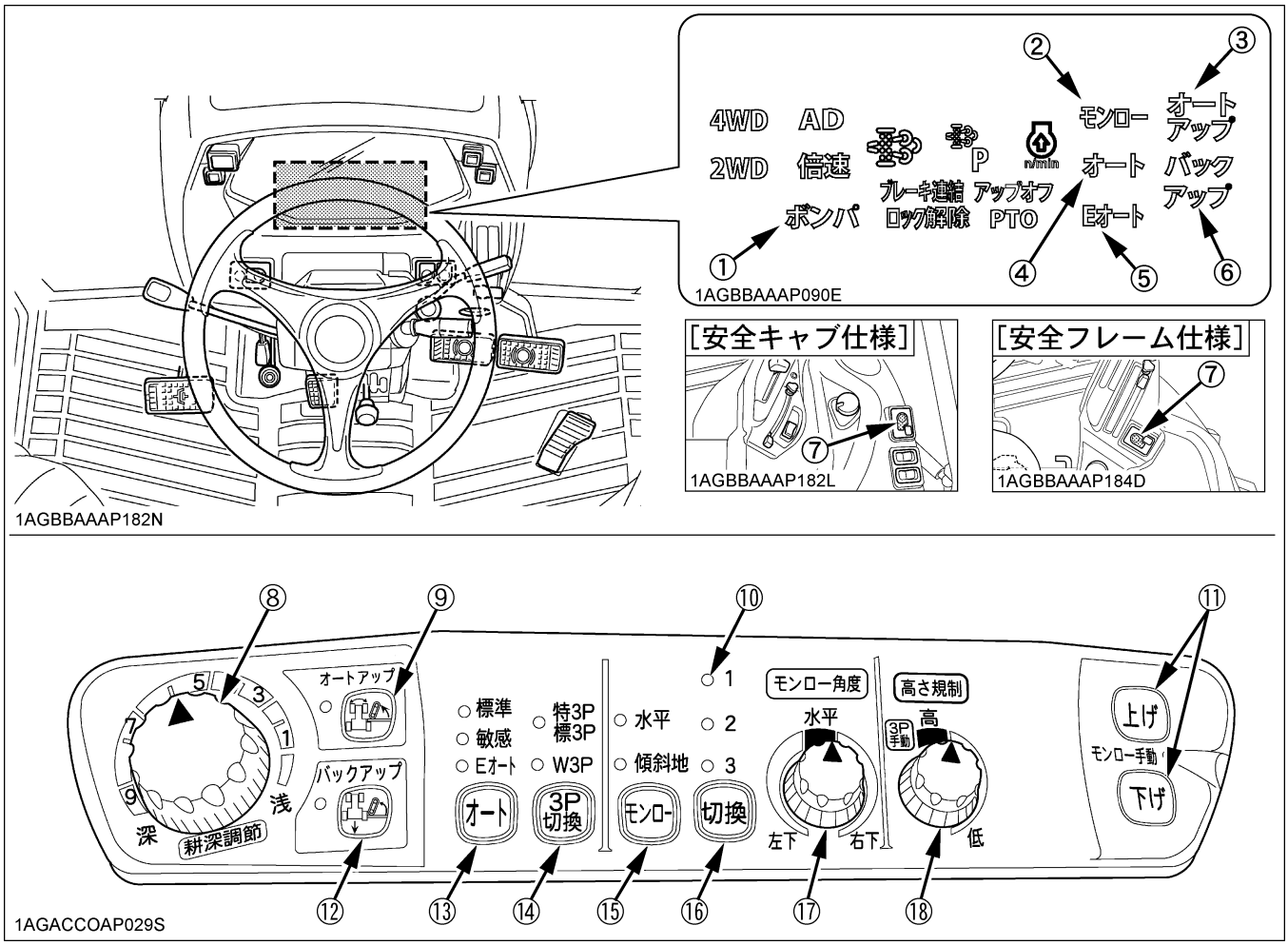
モンローマチック・オート

注 意

**＊ 各スイッチの操作はエンジンを始動した後に行なってください。
エンジンの始動によりバッテリ電圧が一瞬下がりますので，スイッチ操作が無効になる場合があります。**

■各部の名称

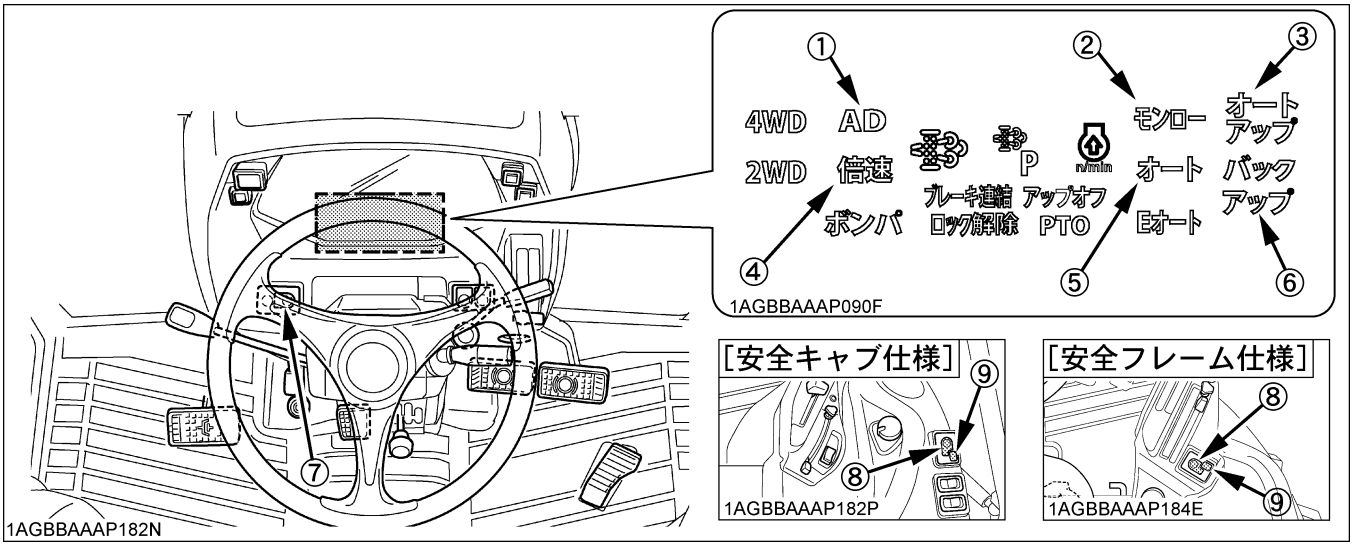
各操作スイッチには，スイッチ上部を指先で軽く押すごとにモードが切り換わるタッチ式スイッチを用いています。また，スイッチでの選択状態を，メータパネル内のモニタランプと各スイッチランプで表示します。



①ポンパランプ
②モンローランプ
③オートアップランプ
④オートランプ
⑤Ｅオートランプ
⑥バックアップランプ
⑦ワンタッチ耕うんモードスイッチ
⑧耕深調節ダイヤル
⑨オートアップスイッチ
⑩スイッチランプ
⑪モンロー手動スイッチ
⑫バックアップスイッチ
⑬オートスイッチ
⑭３Ｐ切換スイッチ
⑮モンロースイッチ
⑯切換スイッチ
⑰モンロー角度調節ダイヤル
⑱三点リンク高さ規制ダイヤル

■ワンタッチ耕うんモードスイッチ

1. ワンタッチ耕うんモードスイッチを押すとスイッチランプが点灯し，一般的なほ場で耕うん作業を行なう標準的な設定**［モンロー水平］［オート標準］［オートアップ入り］［バックアップ入り］［AD倍速］**になります。
2. 作業終了後，再度スイッチを押すとスイッチランプが消灯し，自動装置はすべて**【切】**となり**【2WD】**の状態となります。
3. ワンタッチ耕うんモードの設定は，以下のように任意変更も行なえます。



① AD 倍速ランプ
②モンローランプ
③オートアップランプ
④倍速ランプ
⑤オートランプ
⑥バックアップランプ
⑦走行モード切換スイッチ
⑧ワンタッチ耕うんモードスイッチ
⑨スイッチランプ（選択時点灯）

◆ ワンタッチ耕うんモードの任意変更

1. 作業に応じ各操作スイッチで，下表に示す自動装置の設定変更ができます。
   設定を変更すると，ワンタッチ耕うんモードスイッチのランプが消灯します。
2. 初期設定状態に戻したいときは，ワンタッチ耕うんモードスイッチを押してください。

	操作スイッチ	操作方法
片ブレーキをかけたくない。 倍速を効かせたくない。	走行モード切換スイッチ	希望の状態に切換える。
オートを使用しない。	オートスイッチ	**【切】**にする。
オートを敏感にしたい。	オートスイッチ	**【敏感】**に切換える。
カバーを上げて耕うんしたい。	オートスイッチ	**【E オート】**に切換える。
モンローを使用しない。	モンロースイッチ	**【切】**にする。
傾斜地モンローを使用する。	モンロースイッチ	**【傾斜地】**に切換える。
オートアップ不要のとき。	オートアップスイッチ	**【切】**にする。
バックアップ不要のとき。	バックアップスイッチ	**【切】**にする。

補　足

＊ 作業後または作業中にエンジンを停止しても，停止前の状態を記憶しています。

◆ ワンタッチ耕うんモードの設定変更方法

よく使用する設定をワンタッチ耕うんモードとして記憶させることができます。

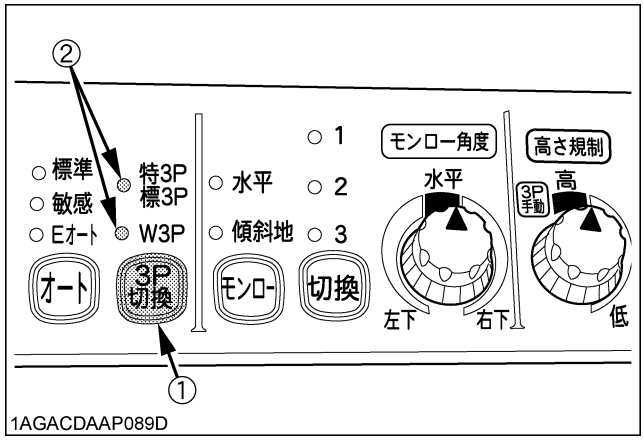
1. ワンタッチ耕うんモードスイッチを押し，スイッチランプを**［点灯］**状態にします。
2. ワンタッチ耕うんモードの設定を変更します。(例えばバックアップが不要な場合はバックアップスイッチを押して**［切］**にします。)
3. ワンタッチ耕うんモードスイッチを５秒間長押しします。
   ５秒後メータから「ピ」音が鳴れば設定が記憶されます。
4. ワンタッチ耕うんモードの設定を工場出荷設定に戻したい場合：
   (1) ワンタッチ耕うんモードスイッチを押し，スイッチランプを**［点灯］**状態にします。
   (2) スイッチを約５秒間押すと「ピ」音が鳴ります。
   (3) 更にスイッチを押し続けると約５秒後，２回目の「ピ」音が鳴り，初期設定の状態に戻ります。

■ 3P 切換スイッチ

スイッチを押すごとに
[特 3P・標 3P ⇒ W3P ⇒特 3P・標 3P]
に切換わります。
作業機装着時，下記を参考にスイッチを切換えてください。

特殊 3P 用オートヒッチフレーム付作業機
標準 3P 用作業機（含むインプルメントメーカ製オートヒッチフレーム付）
…… 特 3P・標 3P を選択

W3P 用オートヒッチフレーム付作業機
……W3P を選択



① 3P 切換スイッチ
②スイッチランプ（選択時点灯）

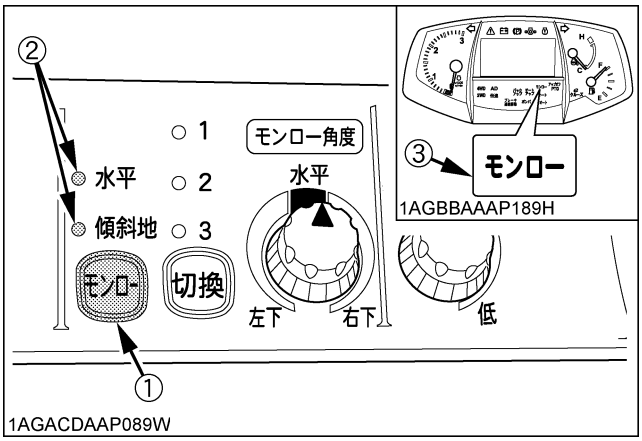
補　足

＊ W3P 仕様で，オートヒッチフレーム付き標準三点リンク式作業機を装着時，ジョイントの取付け位置やトップリンク長さなどを変更してください。(**ロータリ**の**［取扱説明書］**参照)
＊ モンロー及びオートを**［切］**にすると，3P 切換スイッチは操作できません。(スイッチランプも消灯。)

■モンロースイッチ

スイッチを押すごとに
[水平⇒傾斜地⇒切（手動）⇒水平]
の順に切換わります。
次にあげた作業に応じ，いずれかを選択してください。

メータパネル
水平・傾斜地選択時 …… モンローランプ点灯
切（手動）選択時 …… モンローランプ消灯



①モンロースイッチ
②スイッチランプ（水平・傾斜地選択時点灯，切時消灯）
③モンローランプ

◆ 水平

トラクタ本体の傾きにかかわらず作業機を常に水平または地面に対し一定の角度に保ちたいとき使用します。

1. モンロー角度調節ダイヤルが**[水平]**位置の場合
   （作業機は常に水平に保たれます。）
＊ 水田でのあぜ際耕うん，枕地，凸凹地での均平耕うん
＊ 整地板・代かきロータリなどによる均平作業
＊ 畑での畝立て，畝崩し作業その他
2. モンロー角度調節ダイヤルが**[水平]**位置以外の場合
   （作業機は水平面に対して常に一定の角度に保たれます。）
＊ 広幅畝立て，その他

補　足

＊ モンロースイッチが**[水平]**の場合，作業機を上端付近まで上げたときは，作業機の姿勢は本機に平行に保持されます。
＊ 左右のオフセット量が大きく，左右の重量バランスが悪い作業機の場合は，モンロースイッチ**[切]**で使用してください。

◆ 傾斜地

傾斜のあるほ場で，作業機を常にほ場面と平行に保ちたいとき使用します。

＊適応作業： 傾斜のある畑の耕うん・仕上げ作業（マルチ・リッジャなど）

補　足

＊ モンロースイッチが**[傾斜地]**の場合，作業機を上端付近まで上げたときは，作業機の姿勢は本機に平行に保持されます。
＊ **[傾斜地]**選択時，凹凸の激しいほ場で十分な精度が得られない場合は**[切]**（手動）で使用してください。
＊ **[傾斜地]**選択時，斜面と作業機の傾きの差が著しく大きいときは，モンロー手動スイッチにより，傾きの差が小さくなるように補正できます。トラクタが水平状態にあるときは調整できません。調整幅いっぱいまで動かしても傾きの差が大きいときは，**[切]**又は**[水平]**で使用してください。エンジンを再始動すると，補正量は標準値に戻ります。
＊ 左右のオフセット量が大きく，左右の重量バランスが悪い作業機の場合は，モンロースイッチ**[切]**で使用してください。

◆ 切（手動）

モンローマチックの**[自動制御が解除]**され，**[位置制御]**になります。

補　足

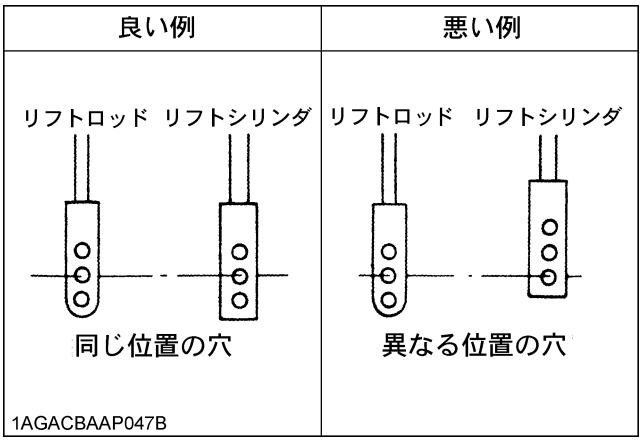
＊ モンロースイッチが**[切]**（手動）では，作業機を上端付近まで上げても，作業機の姿勢は本機と平行にはなりません。
従って，取付けている作業機を上げるときは注意してください。
＊ **位置制御**とは：
このモードは，プラウ作業などで，常にリフトシリンダの位置（長さ）を一定に保ちたい場合に使用します。**モンロースイッチ**を**[切]**（手動）にすると，リフトシリンダの長さを**モンロー手動スイッチ**で設定した長さに保つ制御をします。したがって，車体が傾いても長さは，変化しません。
リバーシブルプラウでの口開け作業などでは，リフトシリンダを**モンロー手動スイッチ**で適当な長さに合せて，耕起します。通常に耕起する場合には，**モンロースイッチ**を**[水平]**に入れ，油圧レバーを上げると，リバーシブルプラウは車体と平行になります。その状態で**モンロースイッチ**を**[切]**にしてください。

＊ モンロースイッチを**［切］**（手動）でエンジンを停止させた場合，トラクタはそのときの作業機の傾きを記憶しており，次のエンジン始動時に，記憶した作業機の傾きに戻ります。

重　要

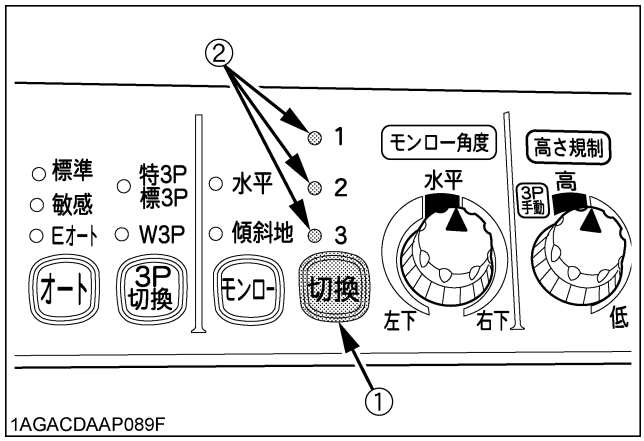
＊ モンローマチックが不要の場合（フロントローダ作業などの場合）には，**［切］**で作業してください。
＊ **［手動］**で作業機を傾斜させているとき，作業機を上端に上げると，ジョイントからの騒音が大きくなる場合がありますので注意してください。
＊ チェックチェーンを張りすぎますと，モンローマチック作動時に三点リンクに無理な力が加わりますので，チェックチェーンは手で軽く締める程度にしてください。

リフトロッドとリフトシリンダ先端部の取付け穴は，左右対称になるようにしてください。



■切換スイッチ

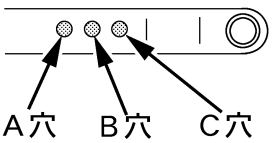
スイッチを押すごとに，**［1⇒2⇒3⇒1］**の順に切換わります。
作業機によって定まる三点リンクの取り付け状態（ロアリンク幅及びロアリンク穴）に応じて，下表を参考にスイッチを切換えてください。
選択状態はスイッチランプにより表示されます。



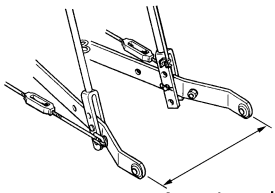
①切換スイッチ
②スイッチランプ（選択時点灯）

切換スイッチ	ロアリンク	ロアリンク穴位置	作業機例
1	広	B 穴	オートヒッチフレーム付きロータリ（特殊 3P 仕様）
		B 穴又は C 穴	－
2	広	A 穴	－
3	狭	A 穴	－

ロアーリンク穴



1AGACBRAP014A



ロアーリンクの幅
［広］…718㎜ (JIS)
［狭］…590㎜ (参考)

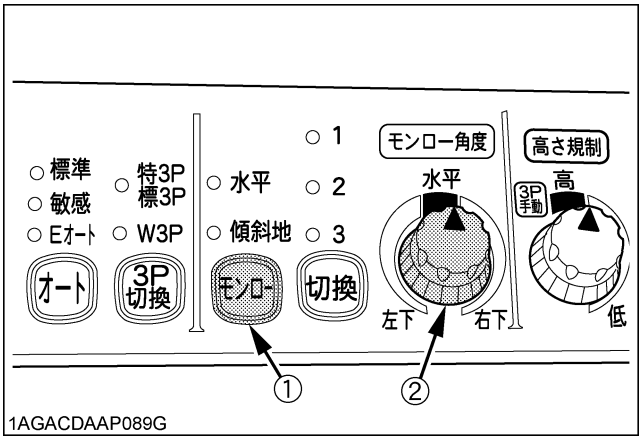
1AGACBRAP015A

補　足

＊ 3P 切換スイッチが**［W3P］**を選択時，自動的に**［1～3］**のいずれかのランプが点灯します。
　このとき，切換スイッチを押しても切換えできません。
＊ モンロー**［切］**のとき，切換スイッチは，操作できません。（スイッチランプ消灯）

■モンロー角度調節ダイヤル

モンロースイッチが**［水平］**の場合，作業機の姿勢を調節するときにモンロー角度調節ダイヤルを使用します。



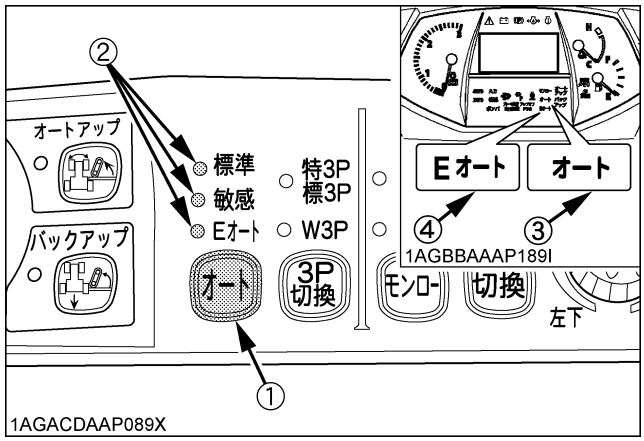
①モンロースイッチ
②モンロー角度調節ダイヤル

1. ダイヤルを**［水平］**位置にすると，作業機は水平に保持されます。
2. ダイヤルを**［左下］**方向に回すと，作業機が左下りに保持されます。
3. ダイヤルを**［右下］**方向に回すと，作業機が右下りに保持されます。

■オートスイッチ

スイッチを押すごとに
［標準⇒敏感⇒Eオート⇒切⇒標準］
の順に切換わります。
次にあげた作業に応じ，いずれかを選択してください。

	メータパネル
標準・敏感選択時 ……	**［オート］**ランプ点灯
Eオート選択時 ……	**［Eオート］**ランプ点灯
切 選択時 ……	**［オート］**，**［Eオート］**ランプ消灯



①オートスイッチ
②スイッチランプ（選択時点灯，切時消灯）
③オートランプ
④Eオートランプ

◆ 標準
浅起しから深起しまで，一般的な作業に使用します。

◆ 敏感
湿田での作業，代かき作業，その他仕上がりに応じて使用します。

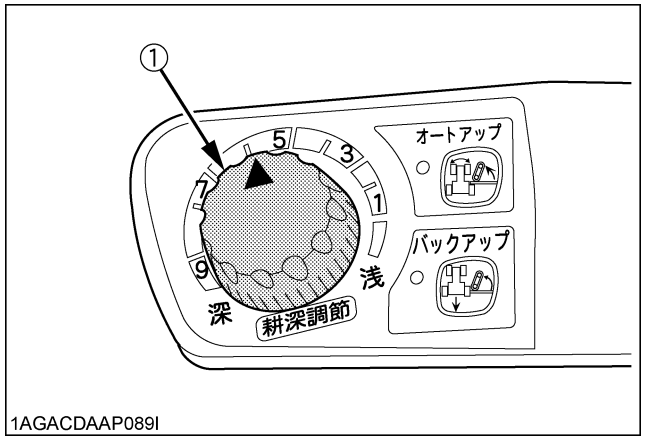
◆ Eオート
ロータリカバーを上げたまま荒起こしなどの作業を後２輪なしで行なうオート作業に使用します。

◆ 切
オートの自動制御が解除されます。

補 足

＊ ロータリカバーを上げて作業するときは，**［Eオート］**または**［切］**にしてください。
＊ **［標準］［敏感］**選択時でも，ロータリなどの作業機が付いていない場合は，オートランプは消灯します。

■耕深調節ダイヤル



1AGACDAAP089I

①耕深調節ダイヤル

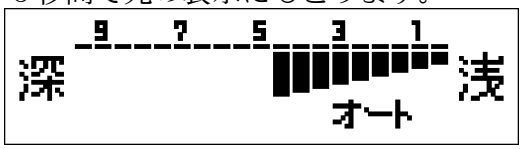
オートスイッチが，**［標準・敏感・E オート］**の場合，浅起しから深起しまで希望の耕深になるよう，このダイヤルで設定してください。

補　足

＊ **［浅］**から**［1］**付近まで作業機を吊り上げる制御となります。湿田や代かき作業に利用してください。
＊ ほ場内で，部分的にタイヤの沈下量が大きく変わり，耕深が変化する場合は，ダイヤルで調節してください。

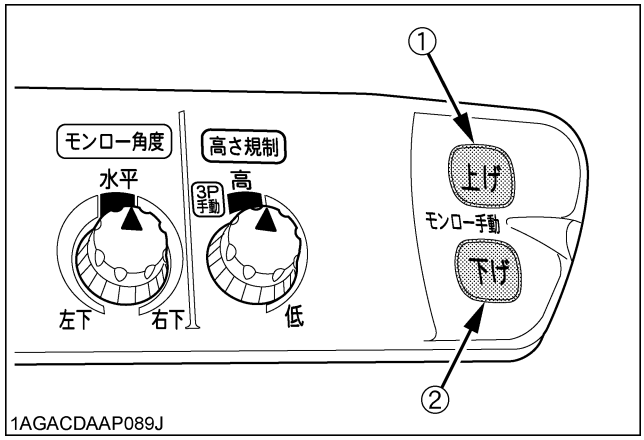
電子メータメッセージ

＊ 耕深調節ダイヤルで耕深を変更したとき，ブザーが鳴りダイヤル調節に応じて下記メッセージが表示されます。操作終了後，約５秒間で元の表示にもどります。



■モンロー手動スイッチ

モンロースイッチが**［切（手動）］**の場合，作業機を左右に傾斜させるときに使用します。



1AGACDAAP089J

①モンロー手動スイッチ（上げ）
②モンロー手動スイッチ（下げ）

1. **［上げ］**スイッチを押している間，作業機の右側が上がります。
2. **［下げ］**スイッチを押している間，作業機の右側が下がります。

補　足

＊ モンロースイッチが**［傾斜地］**の場合，このスイッチにより斜面と作業機の傾きの差を補正できます。

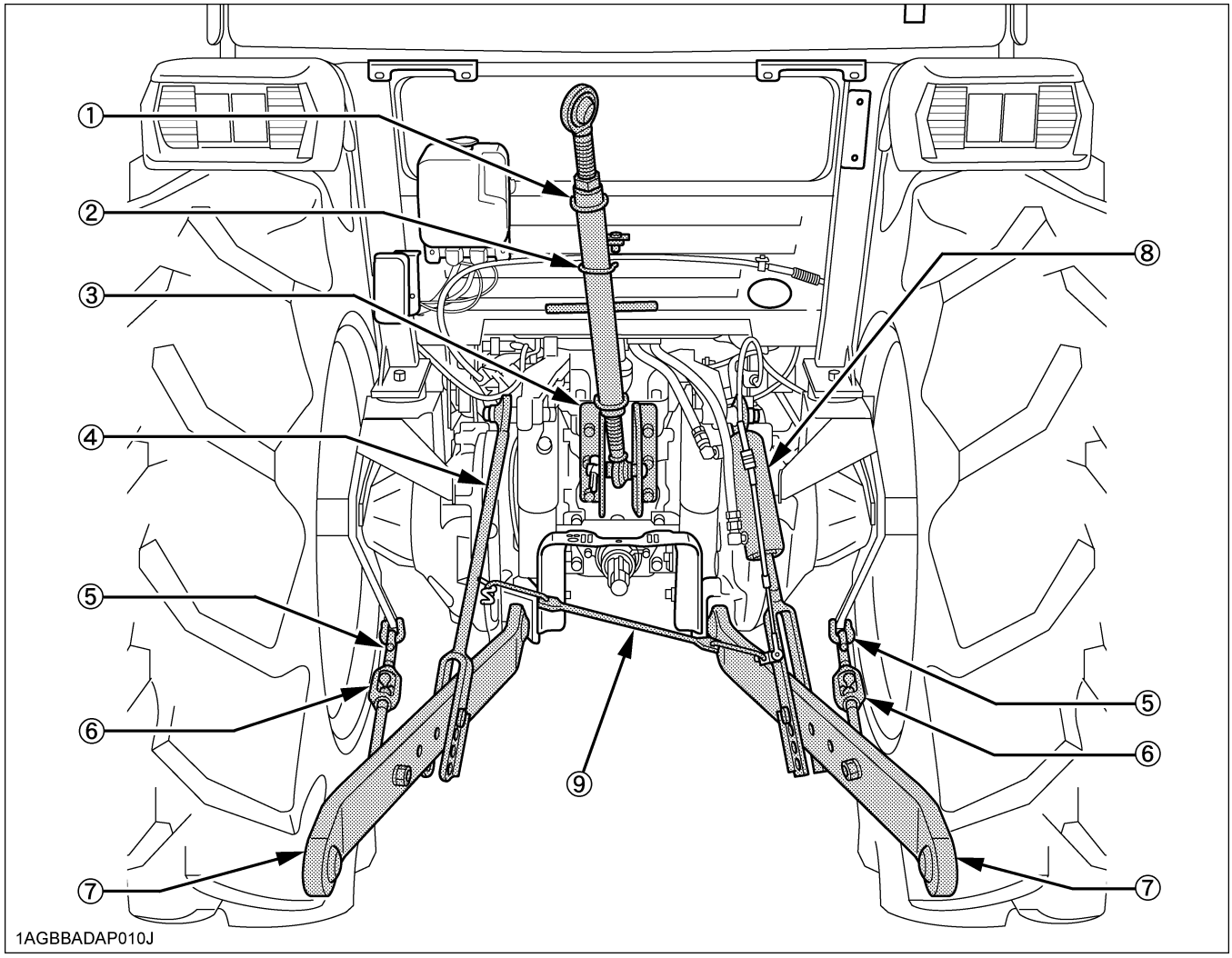
■作業機の取扱い

◆ リフトシリンダを取付け，取外しする場合

購入先にご相談ください。

三点リンク

■各部の名称



①トップリンク
②トップリンクフック
③トップリンクブラケット
④リフトロッド左
⑤チェックチェーン
⑥ターンバックル
⑦ロアリンク
⑧リフトシリンダ
⑨振止めゴム

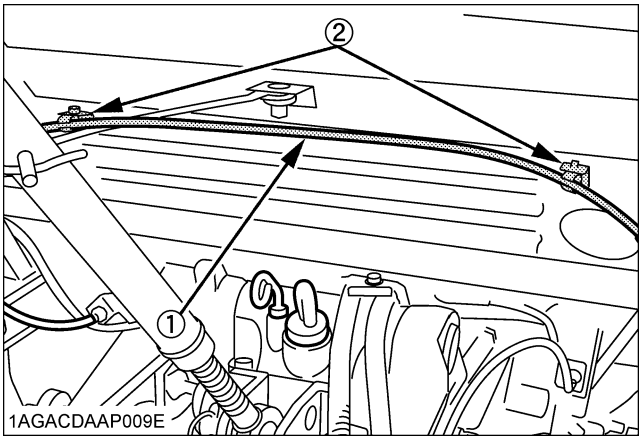
1. 三点リンクは，JIS 1形です。
2. 三点リンク用作業機を装着したとき，チェックチェーンやロアリンクがタイヤと接触するおそれのある場合は，後輪輪距を広げてください。（**［作業のしかた］**の章の**［輪距の調整］**の項を参照。）

1. インプルメント取付け前の準備

■オートワイヤ

◆ 格納

オートワイヤを外している時は, 外したワイヤを下図のように格納してください。



①オートワイヤ
②ホルダ

■ロアリンク取付け穴の選択

下表を参考に正しい取付け穴を選択してください。

[GJE33(H) (S 仕様含む)]

	ロアリンク穴位置
オートヒッチフレーム無しのとき (一般作業機装着時)	A 穴
特殊三点リンク用オートヒッチフレーム付きのとき (ロータリ)	B 穴 (播種機装着時必要に応じ C 穴)
W3P 用オートヒッチフレーム付きのとき [W3P 仕様] (ロータリ)	A 穴

[GJE33K(H)]

	ロアリンク穴位置
オートヒッチフレーム無しのとき (一般作業機装着時)	A 穴
特殊三点リンク用オートヒッチフレーム付きのとき (ロータリ)	B 穴
W3P 用オートヒッチフレーム付きのとき [W3P 仕様] (ロータリ)	B 穴

補 足

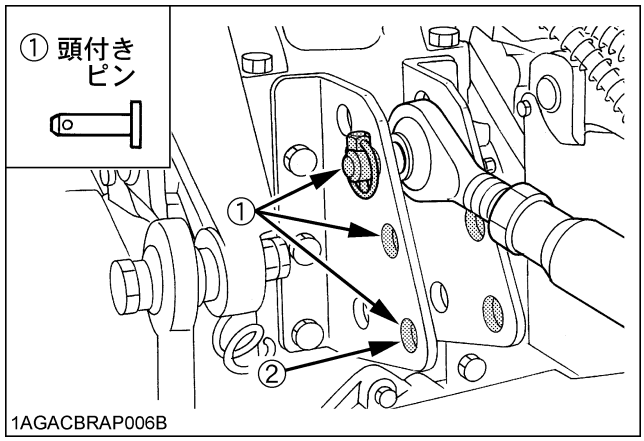
* ロータリを使用する場合のリフトロッド穴位置は**ロータリ**の**［取扱説明書］**を参照してください。
* 他社インプルメントを使用する場合のリフトロッド穴位置は購入先に相談してください。

2. 作業機の着脱

■トップリンク

◆ 取付け穴の選択

使用する作業機によって取付け穴を選択してください。指定された取付け穴以外は使用しないでください。



①トップリンク取付け穴（頭付きピン使用）
② W3P 用オートヒッチフレーム使用時取付け穴

◆ トップリンク長さの調整

伸縮させて，作業機の傾きを調整してください。調整後はトップリンクナットでロックしてください。

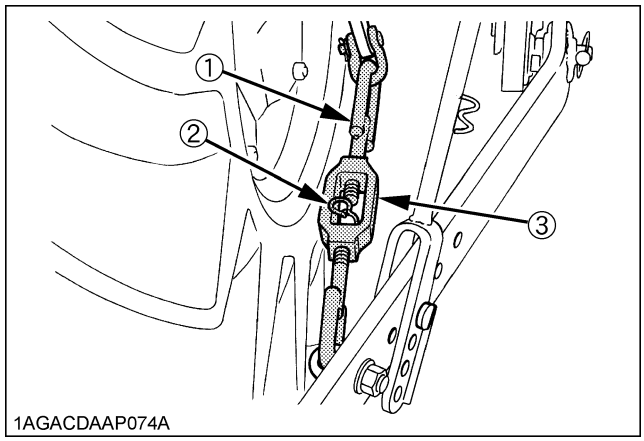
補　足

＊ トップリンクの取付け穴及び長さは，取付ける作業機の**［取扱説明書］**をご覧ください。

■チェックチェーン

スナップピンを抜き，ターンバックルを回して，作業機の横振れを制限してください。
調整後はスナップピンで，ターンバックルを固定してください。

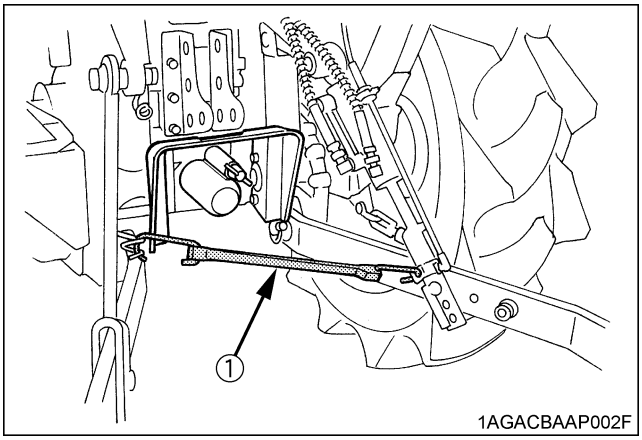
作業機	チェーンの張り具合
ロータリ	ロータリが横方向に１～２ cm 動く程度
プラウ， ハロー， サブソイラ， ディガー	ゆるめる 作業機が横方向に５～６ cm 動く程度（ロアリンク，リフトロッドなどがタイヤと接触しないことを確認してください。）
モーア， ヘイレーキ， テッダ， リッジャ， カルチベータ	軽く締める



①チェックチェーン
②スナップピン
③ターンバックル

■作業機を取付けないときの注意

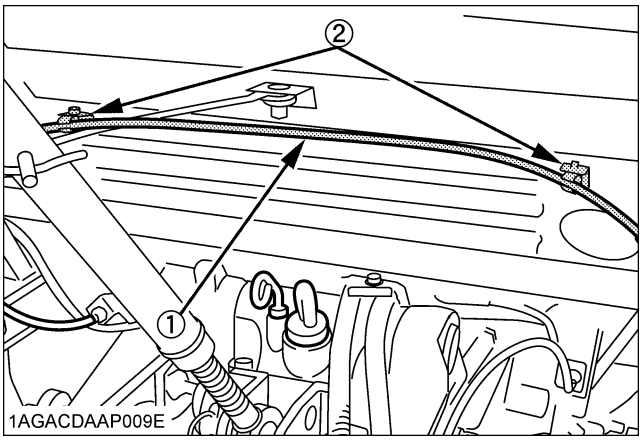
作業機を取付けないときは，ロアリンクが後輪に当らないように，左右振止めゴムをしてください。



①振止めゴム

◆ オートワイヤの格納

オートワイヤを外している時は，外したワイヤを下図のように格納してください。



①オートワイヤ
②ホルダ

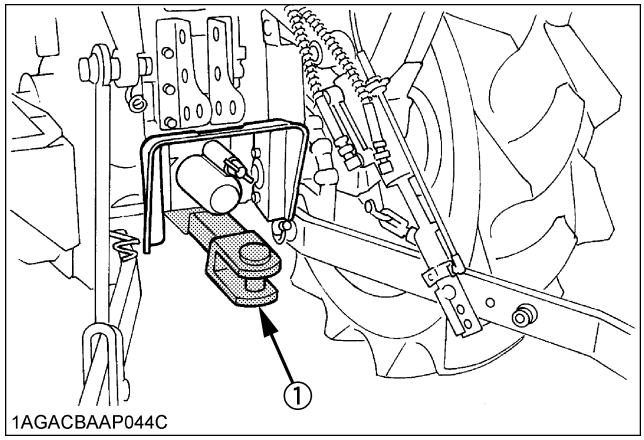
けん引ヒッチ（別売）

警　告

＊ けん引作業をするときは，必ずけん引ヒッチ（別売）を使用し，トップリンクブラケットや車軸などで引張らないようにしてください。転倒事故を引起こすおそれがあります。

＊ 三点リンクに取付け，PTO 軸からユニバーサルジョイントで動力を取出すインプルメント（ロータリ，ブロードキャスタなど）を使用するときは，けん引ヒッチを外してください。そうしないと，ユニバーサルジョイントがけん引ヒッチにあたって破損し，事故を起こすおそれがあります。

けん引は，このトラクタ用に採用しているインプルメントのみにしてください。
他の物をけん引する場合は，必ず購入先にご相談ください。

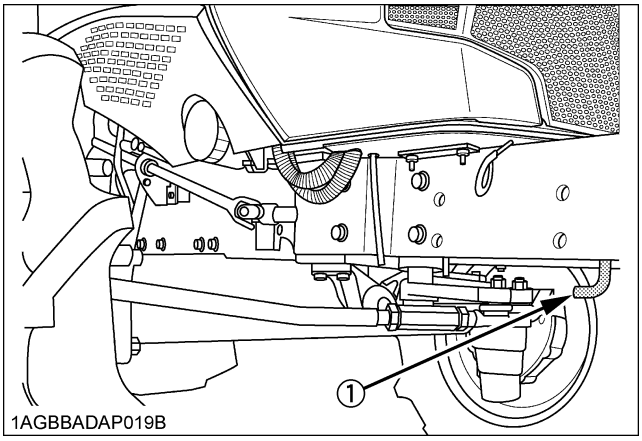


①けん引ヒッチ

■けん引フック

注　意

＊ けん引フックは，横方向へは絶対に引かないようにしてください。
横に引張ると，外れやすくフレームが曲るおそれがあります。



①けん引フック

PTO

■あんしん PTO スイッチ

警　告

＊ 巻き込まれによる死傷事故を防ぐため，あんしん PTO スイッチが［入］のときは作業機に近づかないでください。
＊ アップオフ PTO モードは，ほ場作業以外のときは［切］にしてください。
＊ アップオフ PTO モードは，ロータリ，ハロー作業のみで使用してください。
＊ アップオフ PTO モードをロータリ，ハロー以外の作業に使うと作業機の破損，思わぬトラブルが起こるおそれがあるので使わないでください。
（ハーベスタの草わらつまり，バイブロサブソイラの地中でのロックなど。）
＊ あんしん PTO スイッチが［入］のときは，PTO 軸には触れないでください。レバー操作などで PTO 軸が回転し巻込まれによる傷害事故を引起こすおそれがあります。
＊ ［油圧レバー下げで回転］のメッセージが表示されているときは，作業機の昇降操作（ポンパ含む）で PTO が回転します。周囲の確認を十分に行なって作業をしてください。

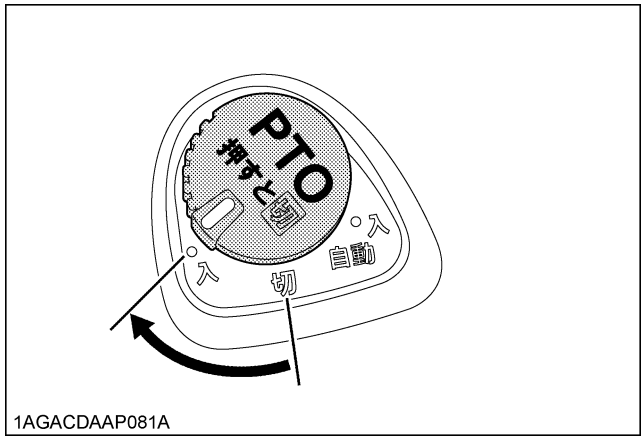
補　足

＊ あんしん PTO スイッチが**［切］**の位置でないとエンジンは始動できません。
＊ 走行クラッチを踏むと PTO は停止します。PTO を止めずに走行を停止したい場合は，クラッチを踏まずにシャトルレバーを操作してください。

◆ あんしん PTO スイッチの操作

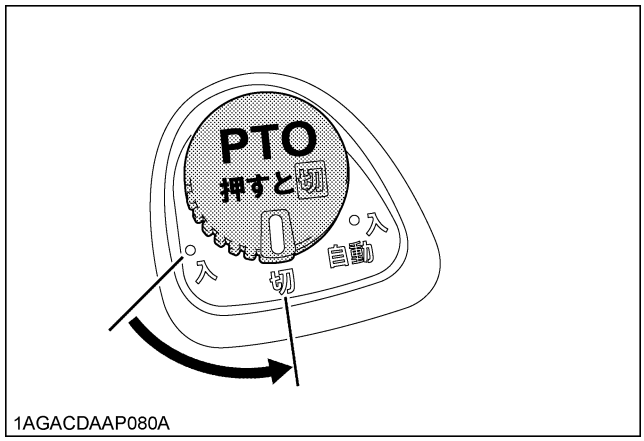
[PTO　－［入]]

1. スイッチを押しながら**[入]**方向に回すと PTO が**[入]**になります。



1AGACDAAP081A

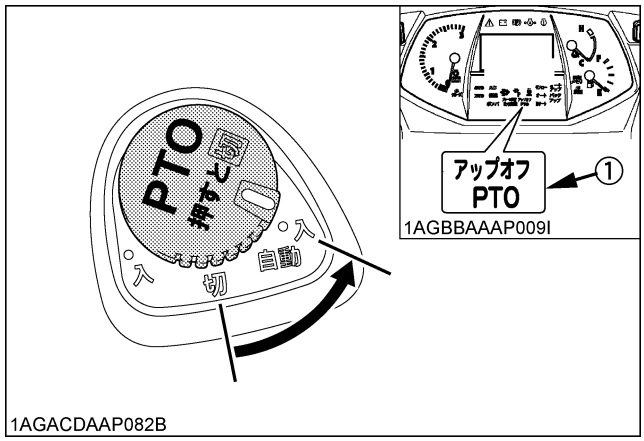
2. スイッチを押すと**[切]**に戻ります。



1AGACDAAP080A

[アップオフ PTO モード　－［入]]

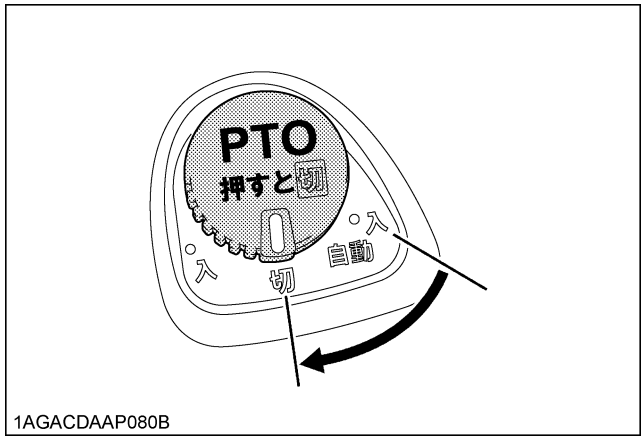
1. スイッチを押しながら**[入　自動]**方向に回すとアップオフ PTO モードが**[入]**になり，メータのアップオフ PTO ランプが点灯します。



1AGACDAAP082B

①アップオフ PTO ランプ

2. スイッチを押すと**[切]**に戻ります。



1AGACDAAP080B

◆ アップオフ PTO モード

ポンパレバー又は油圧レバーの**[上げ]**操作により PTO 回転が自動停止し，ロータリ，ハロー作業での旋回時における泥，ほこりの飛散，うっかりミスによる障害物の破損を軽減させることができます。
また，ポンパレバー又は油圧レバーの**[下げ]**操作により PTO 回転が始まります。

電子メータメッセージ

＊ アップオフ PTO 機能により PTO 回転が停止している間は，下記メッセージが表示されるとともに，ブザーが鳴り続けます。



＊ ポンパレバー又は油圧レバー**[下げ]**操作により，PTO 回転が始まります。

補　足

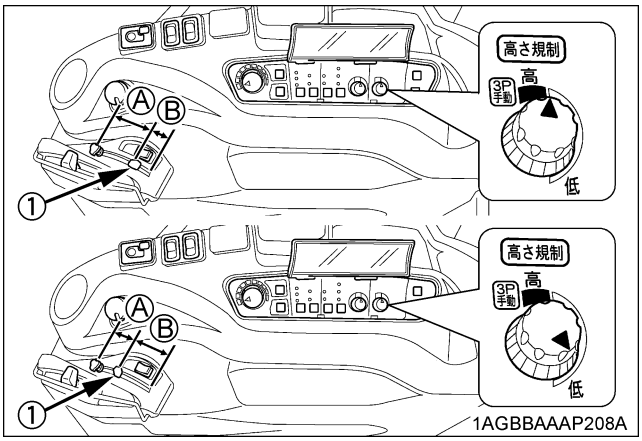
＊ 油圧レバーの位置によってはポンパレバーによる PTO の停止・回転が行なえない場合があります。

重　要

＊ アップオフ PTO モードが**[入]**で油圧ロックをしている場合，ポンパレバー又は油圧レバーの**[下げ]**操作により作業機が下がらなくても，PTO は回転します。(**[作業のしかた]**の章の**[作業機落下速度の調整]**の項を参照)
＊ アップオフ PTO の動作タイミングは，高さ規制ダイヤルにより下記のように変化します。

油圧レバーが図のように**[PTO 回転]**位置にあるときのみポンパレバーの**[上げ]**操作により PTO 回転が停止し，**[下げ]**操作により PTO 回転が始まります。

エンジン始動後，アップオフ PTO モードを**［入］**にしたときに PTO が回転するか停止するかは，エンジン始動時の三点リンクの高さで決まります。



①油圧レバー　　**Ⓐ“PTO 回転”**
Ⓑ“PTO 停止”

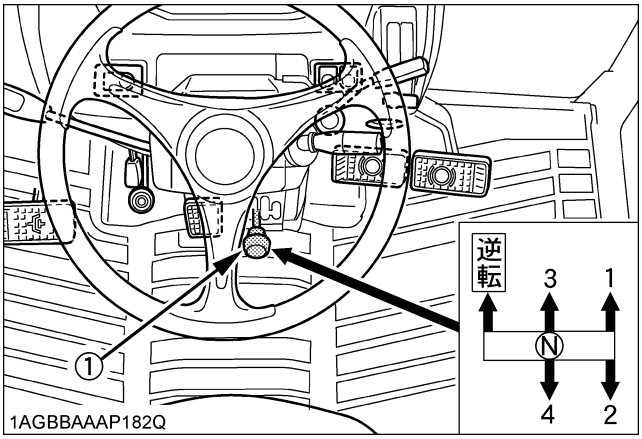
（高さ規制ダイヤルを**［低］**にすると，PTO 回転が始まる油圧レバー高さも低くなります。）

■ PTO 変速レバー

警　告

＊ 作業機に指定された PTO 回転速度を厳守してください。低速回転で使用すべき作業機を，高速回転で使用しないでください。

PTO 軸（動力取出し軸）の回転速度は，正転４段・逆転１段に変速できます。
変速操作は，必ずクラッチペダルをいっぱい踏込んでから行なってください。



① PTO 変速レバー

◆ PTO［逆転］の使い方

1. 使用できる作業機
＊ メーカ指定のロータリに限ります。

重　要

＊ メーカ指定以外のロータリ・インプルメントで使用すると，作業機の故障の原因になります。

2. 使用できる作業
＊ 土寄せ作業
＊ 草やわらなどの巻きつきをほぐすとき

重　要

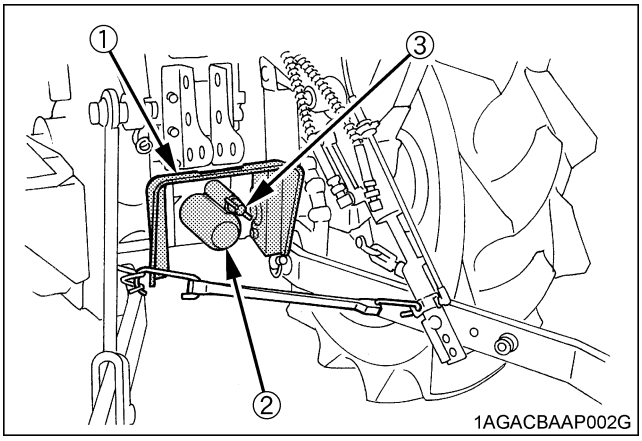
＊ オートスイッチは**［切］**にして油圧（ポジションコントロール）レバーで作業してください。（**［作業のしかた］**の章の**［モンローマチックオートの取扱い］**の項を参照）

3. 使用できない作業
＊ 未耕地での耕うん作業
＊ ロータリの爪を逆に取付けて行なう耕うん作業

■ PTO 軸カバー，PTO 軸キャップ

警 告

＊ PTO 軸を使わないときは，PTO 軸にグリースを塗布した後，PTO 軸キャップを取付けておいてください。そうしないと，巻込まれによる傷害事故を引起こすおそれがあります。
＊ PTO 軸キャップを使用しないときは，PTO 軸キャップを紛失しないように大切に保管してください。
＊ PTO 軸カバーは常に取付けておいてください。
＊ PTO 軸カバーの上に乗らないでください。



① PTO 軸カバー
② PTO 軸キャップ
③蝶ボルト

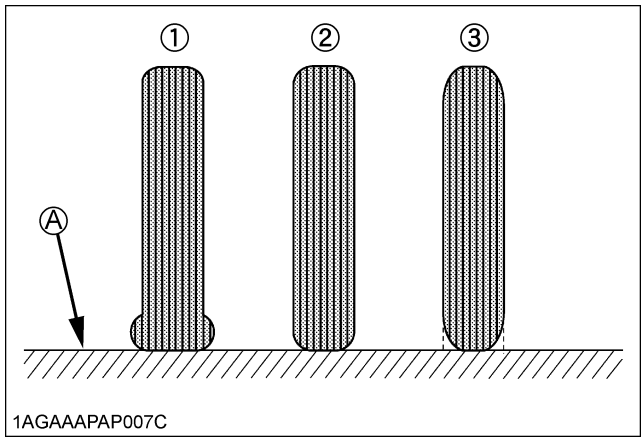
タイヤ

警 告

＊ タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。空気の入れ過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引起こす原因になります。
＊ タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は，使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。
＊ タイヤ，チューブ，リムなどの交換，修理は，必ず購入先にご相談ください。（特別教育を受けた人が行なうように，法で決められています。）

■タイヤの空気圧

前輪・後輪の空気圧が適正であるかを調べます。
外観から判断する目安は次のとおりです。



①空気が不足　　**Ⓐ“ 接地面 ”**
②標準
③空気が多い

◆ 標準空気圧

[　]内はフロントローダ装着時

	空気圧 kPa(kgf/cm²)
前輪	157(1.6)　[196(2.0)]
後輪	GJE33(H)：98 (1.0) GJE33(H) [S 仕様]：118 (1.2)

輪距の調整

警　告

＊ けん引作業・傾斜地作業・フロントローダ作業などの場合は，左右の安定を良くするため，支障のない範囲で輪距を広くして使用してください。

■前輪

前輪の輪距は変更できません。

■後輪

リムとディスクの取付け位置変更により，輪距の調整が行なえます。（タイヤの仕様により異なります。）

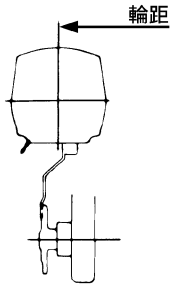
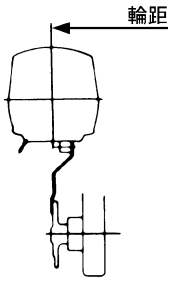
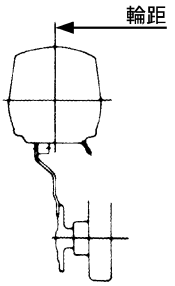
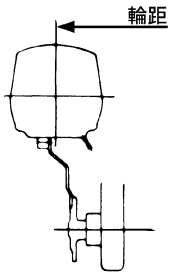
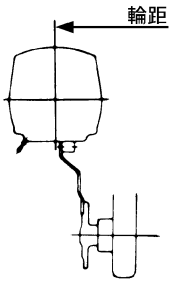
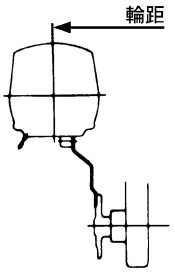
重　要

＊ 決められた輪距以外では使用しないでください。
＊ 道路走行時は，出荷状態に戻してください。

補　足

＊ タイヤは，側面の矢印が前進時の回転方向に合うように取付けてください。
＊ ストレークは，最小輪距のときだけ取付けられます。
＊ 後輪ウエイトは，すべての輪距で取付けられます。

■後輪輪距

型　式 (標準タイヤ)						
GJE33(H) (13.6-24)	1110mm (出荷状態)	―	―	1330mm	―	―
GJE33(H) [S仕様] (13.6-24)	1090mm (出荷状態)	―	―	1350mm	―	―

S 仕様：小径タイヤ仕様

補　足

＊ 輪距によりディスクの組換えもあわせて行なってください。

ウエイト（オプション）

警　告

＊ トラクタ後部用作業機を装備したとき，かじ取り車輪（前輪）にかかる荷重が総重量の 20%以上になるようにバランスウエイトを装備し，使用してください。
＊ 装着可能な最大ウエイトを装備してもかじ取り車輪（前輪）にかかる荷重が総重量の20%以上を確保できない作業機は装着しないでください。
前部が軽くなりすぎると，操縦が難しくなり転倒事故のおそれもあります。
＊ フロントローダを使用するときは，安定性を高めるためトラクタ後部に作業機や適切なウエイトを装着してください。
（詳細は購入先にご相談ください。）

■前部ウエイト（オプション）

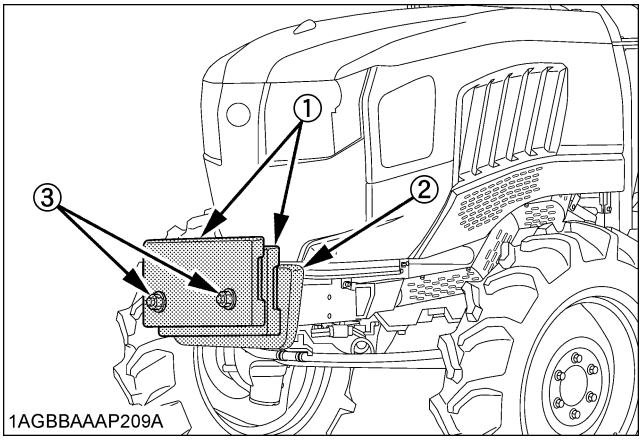
ウエイトの必要枚数は使用するインプルメントの取扱説明書や購入先にご相談ください。

◆ 前部ウエイトの取付け方法

トラクタのフロントバンパに付属のボルト，ナットで固定します。

[GJE33(H)（S 仕様含む)]

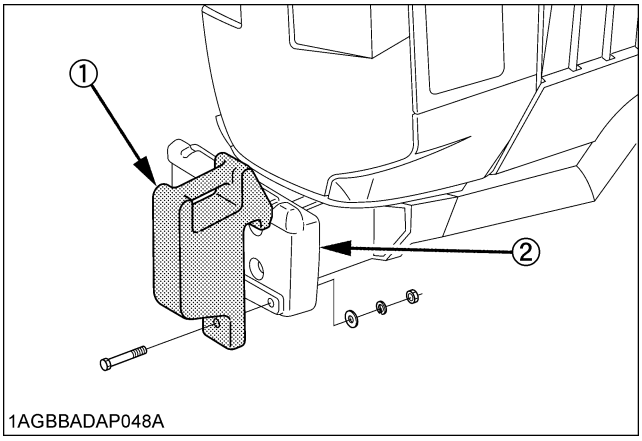
ウエイト１枚の重量は 28kg で１～３枚取付けできます。



①前部ウエイト　　③ボルト・ナット・座金
②フロントバンパ

[GJE33K(H)]

ウエイト１枚の重量は 25kg で１～４枚取付けできます。



①ハンガウエイト
（3218212010… ウエイト，キット）
②フロントバンパ

ハンガウエイト（3218212010… ウエイト，キット）を GJE33(H)（S 仕様含む）に取付けるには以下の部品が必要です。

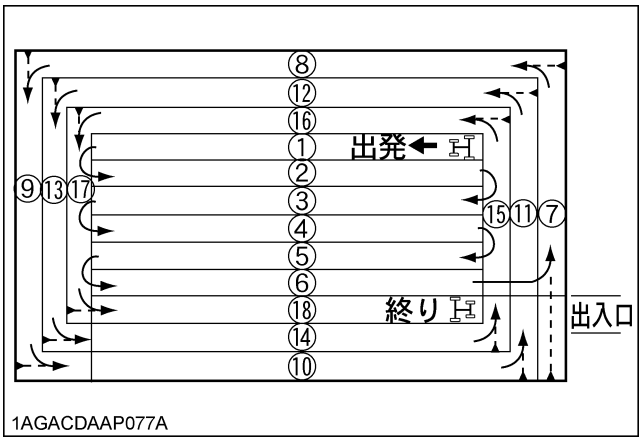
フロントバンパ（20）	95340000800
フロントバンパ 取付け用ボルト（４個）	99580000210
フロントバンパ 取付け用ナット（４個）	99660001670

一般的な耕うん要領

■隣接耕うんのしかた

作業条件により，車速及びPTO回転速度を決めて耕うんを始めます。

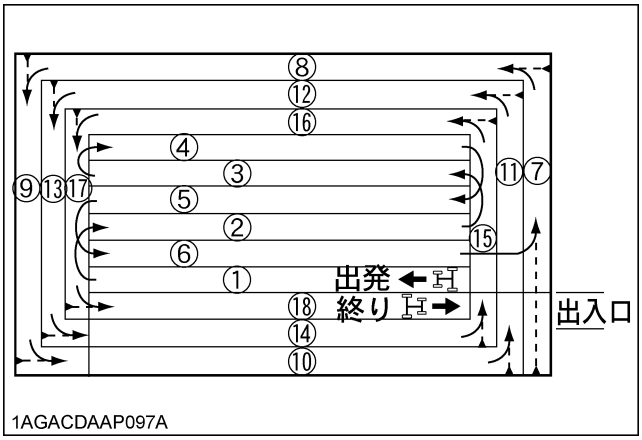
1. 図の長方形部分１枚が，直進１回で耕うんされる耕作地を示しています。
2. 図のような順序をとるのは，１度耕うんしたところを後輪タイヤで押えないための最善の方法です。
3. 枕地耕うんの開始点⑦は，トラクタが最後に外に出る出入口場所によって決まります。
4. 直進が終って，次の直進に移るまでは，ロータリを上げて旋回します。
5. サイドドライブロータリは，サイドフレーム側があぜぎわになるようにして，あぜぎわ耕うんを行ないます。



1AGACDAAP077A

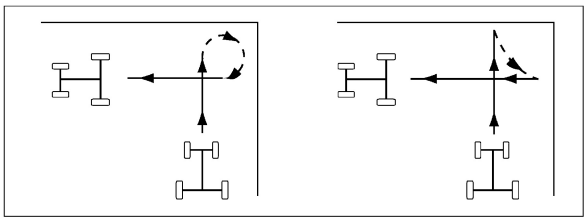
■一うねおき耕うんのしかた

一うねおき耕うんは，小回りの難しい場所に用いる方法で，その他は隣接耕うんと同じです。



1AGACDAAP097A

■トラクタの方向転換のしかた



1AGACCBAP036A

安全キャブ装備品の取扱い

ドア・窓の開閉とロック

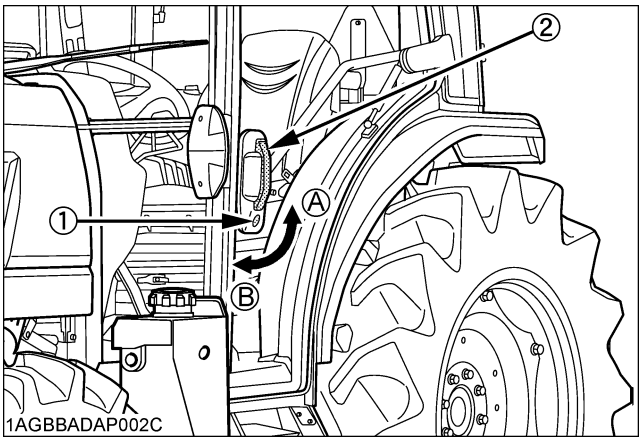
警　告

＊ リヤウインド後方で作業機を着脱・調整する場合は，リヤウインドの開閉に注意してください。（開放時頭などを打つおそれがあります。）
＊ ガラスを破損させるおそれがありますので安全キャブ内には物を載せないでください。
＊ ガラスの取扱いはていねいに行なってください。

■ドア

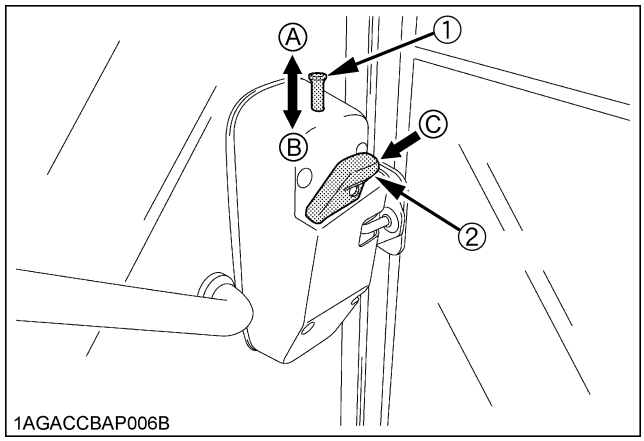
◆ ドアの開閉とロック

車外から …… キーを回すと **[施錠] [解錠]** されます。ドアアウタハンドルを引き，開けます。

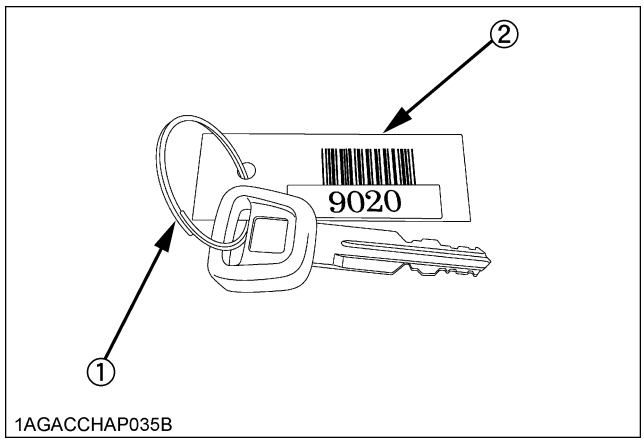


①ドアキー　　**Ⓐ“施錠”**
②ドアアウタハンドル　　**Ⓑ“解錠”**

車内から …… ロックノブを下げると **[施錠]**，上げると **[解錠]** されます。インナハンドルを引き，開けます。



①ロックノブ　　**Ⓐ“解錠”**
②インナハンドル　　**Ⓑ“施錠”**
Ⓒ“開く”



①キーリング
②キーナンバー票

重　要

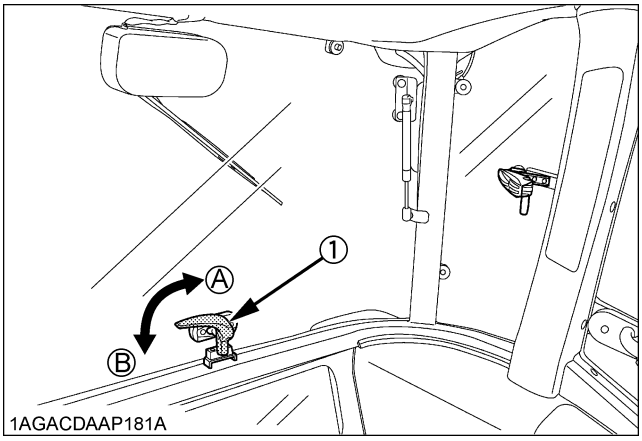
＊ キーリングに付属しているキーナンバー票は，キーを紛失した際必要となります。キーナンバーを裏表紙のおぼえに記入し控えておくか，キーナンバー票を大切に保管してください。

補　足

＊ ドアにぶらさがったり，作動範囲以上に無理に押し開かないでください。

■リヤウインド

リヤウインドハンドルを時計方向に回し，そのまま押すと，ダンパの作用で容易に開くことができます。



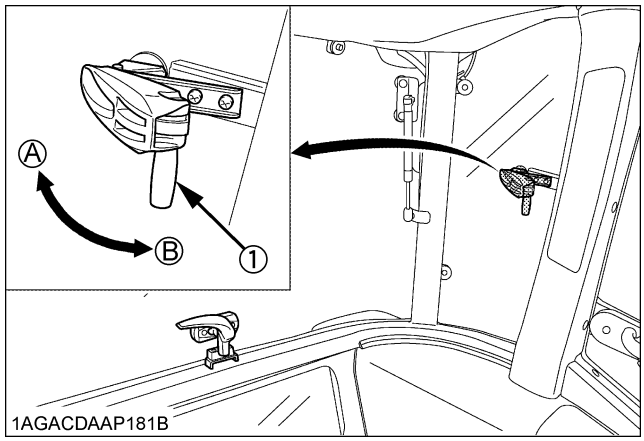
①リヤウインドハンドル　　Ⓐ“開”
Ⓑ“閉”

重　要

＊ 作業機によってはリヤウインドの開閉ができない場合がありますので，開閉するときにはじゅうぶん確認して行なってください。
＊ リヤウインドを開放したままで，作業機を上げるとリヤウインドを破損するおそれがありますので，作業機を上げるときには安全をじゅうぶん確認してください。
＊ リヤウインドを開放したままで，高速走行や悪路走行をしないでください。

■クォータウインド

ハンドル部を矢印方向に回し，窓を開閉してください。



①ハンドル　　Ⓐ“開”
Ⓑ“閉”

重　要

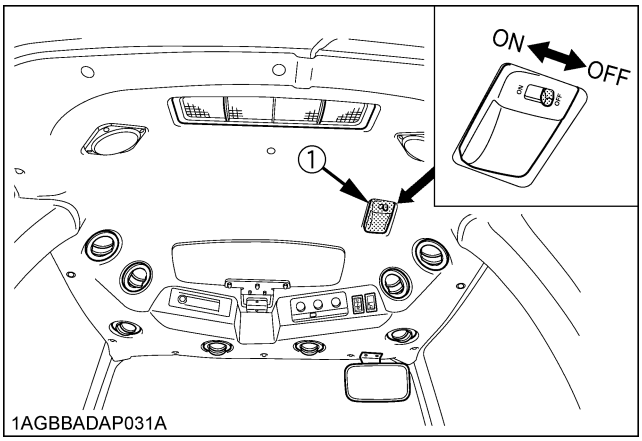
＊ クォータウインドを開放したままで，悪路走行をしないでください。

ルームランプ

■ルームランプ

ルームランプのスイッチを【ON】にすると点灯します。

【OFF】… ドアの開閉に関係なく，ランプは点灯しません。
【ON】… ドアの開閉に関係なく，ランプが点灯します。



①ルームランプ

重　要

＊ バッテリあがりの原因になりますので，キースイッチ【切】のとき，ルームランプのスイッチが【OFF】の位置にあるか確認してください。

ワイパ

■フロントワイパ・ウォッシャスイッチ

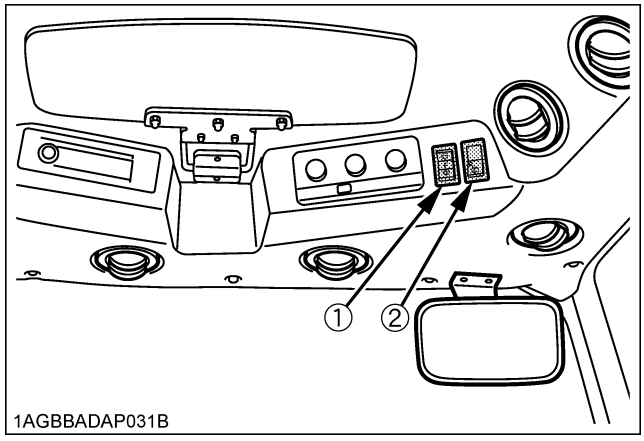
1. スイッチの下側を１段押すとワイパが作動します。さらに２段目を押すと，押している間のみ，ワイパが作動したままウォッシャ液が噴射します。
2. スイッチの上側を１段押すと，間欠ワイパが作動します。（少雨時使用）
   さらに２段目を押すと，押している間のみワイパが作動したまま，ウォッシャ液が噴射します。

■リヤワイパ・ウォッシャスイッチ

1. スイッチの下側を１段押すとワイパが作動します。
   さらに２段目を押すと，押している間のみ，ワイパが作動したままウォッシャ液が噴射します。
2. スイッチの上側を押込むと，ウォッシャ液が噴射します。

重　要

＊ からぶきはガラスを傷つけることがあります。
   必ずウォッシャ液を噴射してからワイパを作動させてください。



①フロントワイパ・ウォッシャスイッチ
②リヤワイパ・ウォッシャスイッチ

■寒冷時のワイパの使用

1. 寒冷時には，ワイパブレードを立ててガラスとの氷着をさけてください。
2. ガラスに雪が積もっているときには，雪を取除いてからワイパを使用してください。
3. ワイパブレードがガラスに氷着して作動しなかったときは，必ずキースイッチを**［切］**にしてブレード部の氷を取除いてから再度起動させてください。
4. 市販の寒冷地用ワイパブレードを使用する際は，標準装着品と同サイズか，それ以下のサイズのものを使用してください。

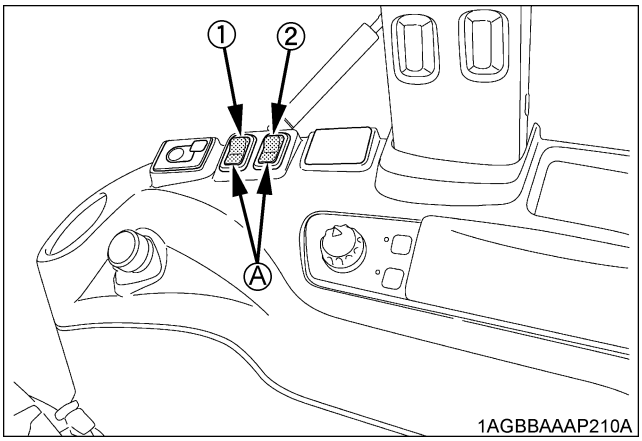
重　要

＊ 寒冷時には，ワイパブレード及びワイパモータに過大な負担がかかることがあります。そのため，ワイパブレード及びワイパモータの故障につながるおそれがあります。このようなことをなくすため，上記のことを必ず守ってください。

作業灯

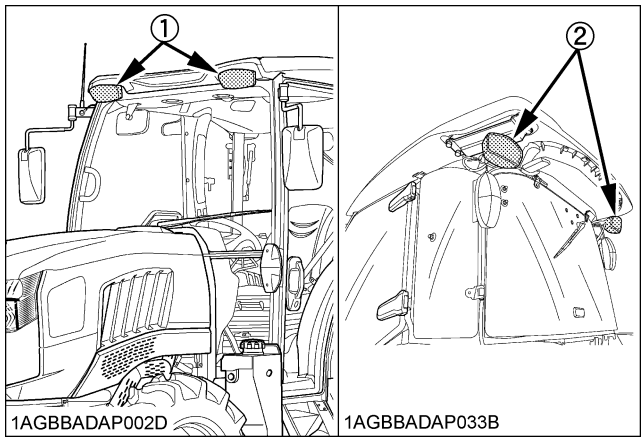
■作業灯スイッチ

作業灯スイッチの上側を押すと作業灯が点灯し，スイッチの下側を押すと消灯します。
またスイッチには，作業灯の点灯を示すインジケータランプが内蔵されています。



①作業灯（前）スイッチ　　Ⓐインジケータランプ
②作業灯（後）スイッチ

■作業灯



①作業灯（前）
②作業灯（後）

重　要

＊ バッテリがあがりますので，ヒータ・作業灯・ヘッドライトなど電装品を使用する場合は，エンジン回転を1800rpm以上にしてください。

補　足

＊ 作業灯は**［道路運送車両法の保安基準］**第42条（灯火の色等の制限）において，**［走行中に使用しない灯火］**とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。

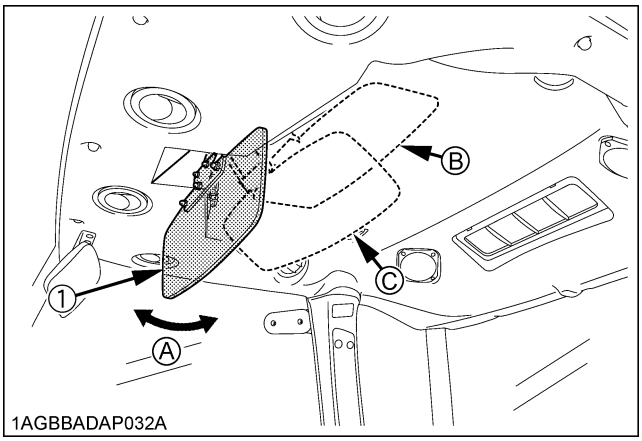
その他のアクセサリ

■サンバイザ［ハイスピード (H) 仕様のみ］

注　意

＊ サンバイザを適切な位置で使用しないと，前方視界がさえぎられたり，頭にあたったりするおそれがあります。
＊ サンバイザと天井の間に物をはさまないでください。発進・停止時に物が落ちるおそれがあります。

直射日光などでまぶしいときに使用します。
サンバイザは，収納位置より前へ押し下げて使用してください。
中間位置Ⓒでは頭に当るおそれがあるので使用しないでください。

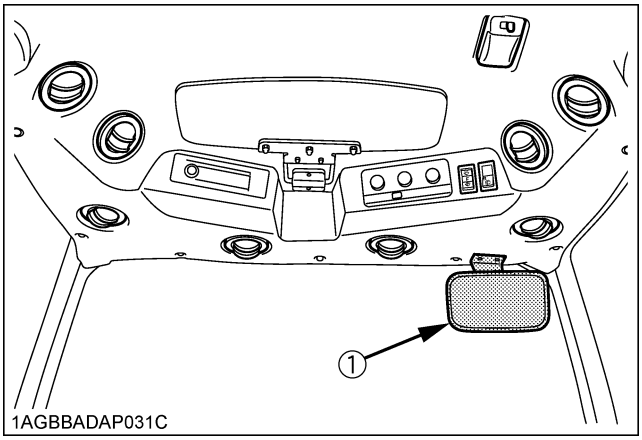


①サンバイザ

Ⓐ“使用位置”
Ⓑ“収納位置”
Ⓒ“中間位置”

■ルームミラー[ハイスピード (H) 仕様のみ]

ルームミラー全体を動かして，後方視界を確認しながら調節してください。
ルームミラーの調節は，必ずトラクタを運転する前に行ない，走行中には行なわないでください。



①ルームミラー

オートエアコン

このエアコンは，マイコン制御により風量調整，温度調整を自動的に行ないます。コントロールパネルのファンスイッチを【AUTO】位置に回すだけの操作でオールシーズン車内を快適に保ちます。

◆ フロンの取扱いの注意

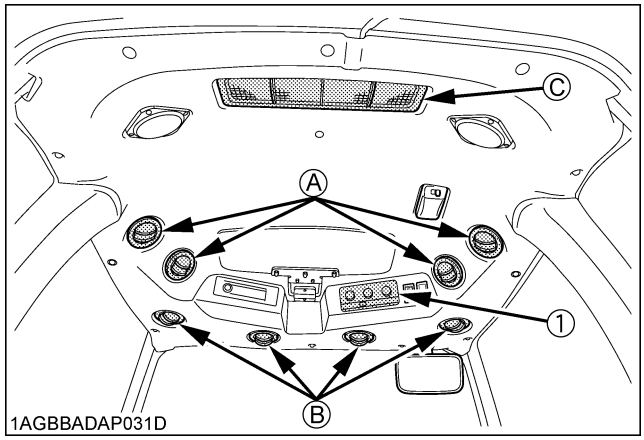
このエアコンは，フロン排出抑制法に定める第一種特定製品です。

1. フロン類をみだりに大気中に放出することは禁じられています。
2. この製品を廃棄・整備をする場合には，フロン類の回収が必要となります。
3. 冷媒の種類及び数量

種類	冷媒番号	GWP 値	数量（kg）
HFC	R134a	1430	0.8

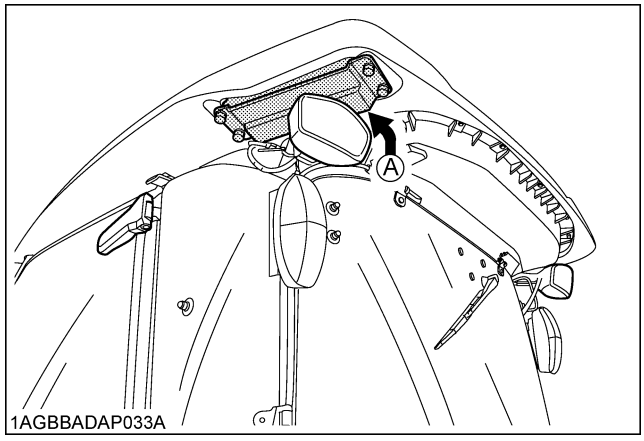
■空気の流れ

安全キャブ内の空気の流れは下図の通りです。
８カ所の吹出口の調節により，最適のコンディションが得られます。



①コントロールパネル

Ⓐ“サイド吹出口（顔面）”
Ⓑ“フロント吹出口”
Ⓒ“内気循環導入口”



Ⓐ“外気導入口”

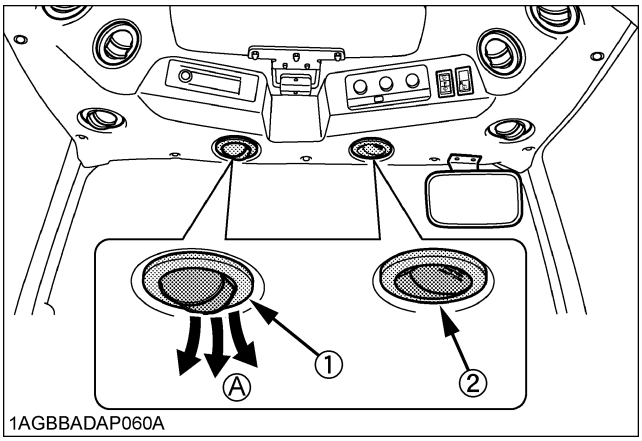
重　要

＊ 洗車時は外気導入口に，直接放水しないでください。

■風向調整

◆ フロント吹出口

1. 風の方向は，吹出口により自由に調整できます。
   デフロスタ（フロントガラスの曇り及び凍結除去）として使用する場合，吹出し口をフロントガラスの方向に向けてください。
2. サイド吹出口からの風量を増したいときは，**［閉］**にしてください。



1AGBBADAP060A

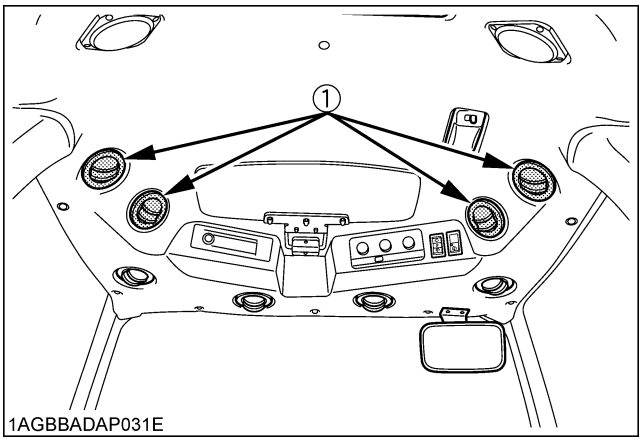
①フロント吹出口［開］　　**Ⓐ“フロントガラス(足元)”**
②フロント吹出口［閉］

補　足

＊ フロント吹出口からの冷風がメータパネルに当たると，メータパネルが曇ることがあります。そのときは，フロント吹出口の向きを変えて，メータパネルに冷風が当たらない様にしてください。

◆ サイド吹出口

風の方向は，吹出口により自由に調整できます。



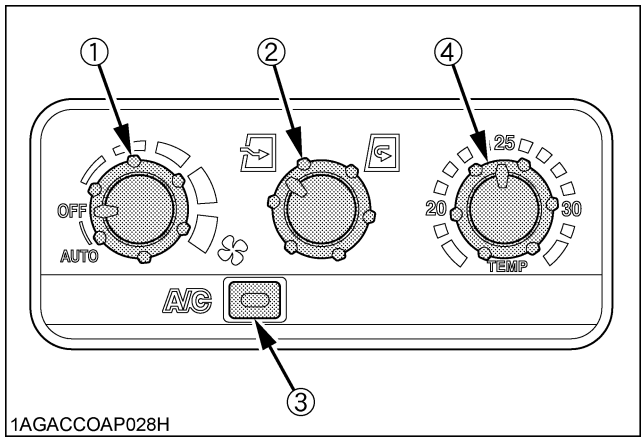
1AGBBADAP031E

①サイド吹出口

重　要

＊ ドアの曇り止めのため，ドアへの風量を増したいときは，サイド吹出口（顔面，背面）をドアガラスに向けてください。

■コントロールパネル



1AGACCOAP028H

①ファンスイッチ
②内外気切換スイッチ
③エアコンスイッチ（インジケータランプ付）
④温度コントロールつまみ

◆ 内外気切換えスイッチ

外気導入 …　スイッチを**［外気］**位置にすると，安全キャブ室内に外気が入ってきます。
ほこりが多い作業やガラスが曇る場合に使用します。


1AGACCOAP028C

内気循環 …　スイッチを**［内気］**位置にすると，外気は入りません。
早く冷暖房をきかせたいときや強くきかせたいときに使用します。


1AGACCOAP028D

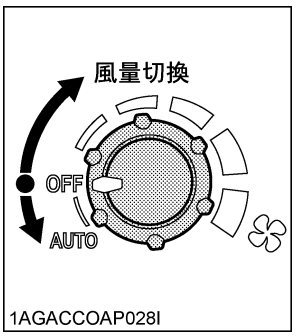
補　足

＊ 内気循環での長時間暖房は避けてください。ガラスが曇りやすくなります。
＊ ほこりが多発する作業では，外気導入で使用してください。外気を採り入れることにより室内の圧力が上昇し，安全キャブ室内にほこりが入りにくくなります。

◆ 温度コントロールつまみ

温度を調節するためのつまみです。好みの位置にセットして適宜調節します。
設定温度は１℃刻みで調節できます。

◆ ファンスイッチ



【AUTO】位置：
オートエアコンが作動します。
【風量切換】位置：
風量を５段階に調節できます。
右端は最も風量の多い位置です。

補　足

＊ **【AUTO】**位置で暖房の際，エンジンが冷えているときは冷風が出るのを防ぐため，しばらくの間ファンが作動しないことがあります。

◆ A/C エアコンスイッチ

エアコンを使うときは，このスイッチを押して**【入】**にします。**【入】**のとき，インジケータランプが点灯します。

重　要

＊ トラクタを１週間以上，長期放置後にエアコンを使うときは，エンジン回転をアイドリングにしてA/Cエアコンスイッチを**【入】**にし，１分間運転してください。
エンジン回転が高いままで，A/Cエアコンスイッチを**【入】**にするとコンプレッサが故障するおそれがあります。

◆ 暖房・冷房・除湿暖房

1. 内外気切換えスイッチを**【外気】**位置にします。早く冷暖房にしたいときは**【内気】**位置にします。
2. エアコンスイッチを押し**【入】**にします。
3. ファンスイッチを**【AUTO】**にします。
4. 温度コントロールつまみを調節し，快適な温度にします。

◆ デフロスト

フロントガラスの曇り及び凍結除去するときは，

1. フロント吹出口を開き，フロントガラスの方向に向けます。
2. 必要に応じサイド吹出口を閉じます。
3. 内外気切換えスイッチを**【外気】**位置にします。
4. ファンスイッチを**右端**，温度コントロールつまみを**右端**にします。

■ヒータ使用上の注意

警　告

＊ ウォータホース及びヒータユニットに直接ふれないようにしてください。ヤケドなどの傷害事故につながります。
＊ 異常を認めたとき，修理をおこたるとヤケドなどの傷害事故やエンジンの焼付などの重大な故障につながります。

1. 冬期は外気温に適した濃度の不凍液を使用してください。
また，有効期限の切れた不凍液を使用しないでください。
2. 冬期において不凍液を使用しない場合は，運転終了時トラクタ本体から冷却水を排水してください。
(**【トラクタの簡単な手入れと処置】**の章の**【２年ごとの点検・整備】**の**【冷却水の交換】**の項を参照)
3. ウォータホースは２シーズンごとに交換を受けてください。
4. 日常点検
次のような異常を認めたときは速やかに修理を受けてください。
(ヤケドなどの傷害事故やエンジンの焼付などの重大な故障につながります。)

＊ ウォータホースの傷付き，ひびわれ，ふくらみ
＊ ウォータホースジョイント部の水漏れ
＊ ウォータホースの保護ブッシュ及びグロメットの外れ，破損
＊ 本体取付けボルトの緩み，ブラケットの破損

CD/MP3 プレーヤの取扱いについて［安全キャブ仕様のみ］

別冊の CD/MP3 プレーヤの取扱説明書をよくお読みのうえ，正しくお使いください。

警 告

＊ 安全のため，運転中はプレーヤ操作をしないでください。
＊ 安全のため、運転中は車外の音が聞こえる音量にしてください。

重 要

＊ プレーヤ機器を本機から取外したり，分解・改造したりすると保証の対象外となりますのでご注意ください。

補 足

＊ プレーヤ機器の付属品については，別冊の CD/MP3 プレーヤの取扱説明書に記載している内容とは異なる場合があります。

■お問合せについて

プレーヤ機器の修理故障に関しては，本機をお買上げいただいた購入先にご相談ください。
また，プレーヤ機器の取扱いに関するお問合せは，メーカー窓口でもご相談いただけます。

◆ クラリオン（株） お客様相談室

電話番号	0120-112-140
受付時間	AM9:30 ～ 12：00 PM1:00 ～ 5：00 （土・日・祝を除く）

■プレーヤ機器の電源が入らない時の対応

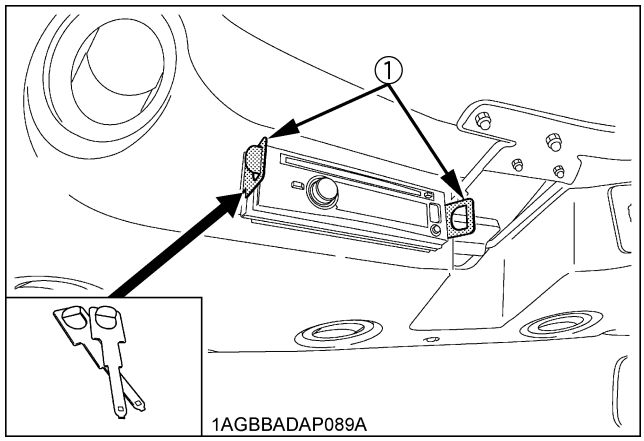
本機のヒューズボックスの中に，ACC 用ヒューズがあります。
このヒューズが切れていないか確認してください。
切れている場合はヒューズを交換してください。
（詳細は，ヒューズの交換（143 ページ）を参照）
本機のヒューズが切れておらず，プレーヤ機器の電源が入らない場合，本機をお買上げいただいた購入先にご相談ください。

■本機で利用できないプレーヤ機器の機能について

本機の仕様上，別冊の CD/MP3 プレーヤの取扱説明書に記載している機能の一部にはご利用頂けない機能がありますので，あらかじめご了承ください。
その他，ご不明点がありましたら，本機をお買上げいただいた購入先もしくは，メーカー窓口へご相談ください。

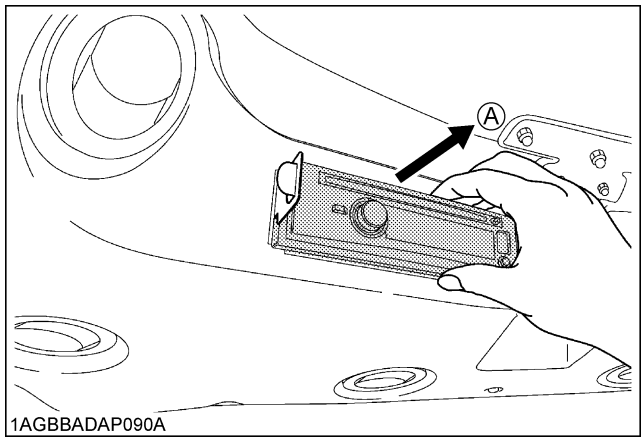
■プレーヤ機器本体の外し方

1. キースイッチのキーを**［切］**の位置にします。
2. 下図のようにCDプレーヤ本体横に取外し金具を差込みます。



① CD プレーヤ取外し金具

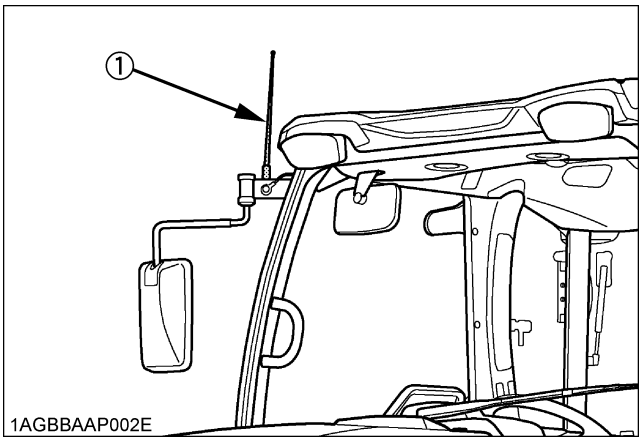
3. 取外し金具を差込んだ状態で，落とさないようしっかりと握って取り外します。



Ⓐ“ 取外す ”

■アンテナ

ラジオを聴く際は必ずアンテナを立ててください。



①アンテナ

重　要

＊ アンテナは角度調節ができませんので動かさないでください。

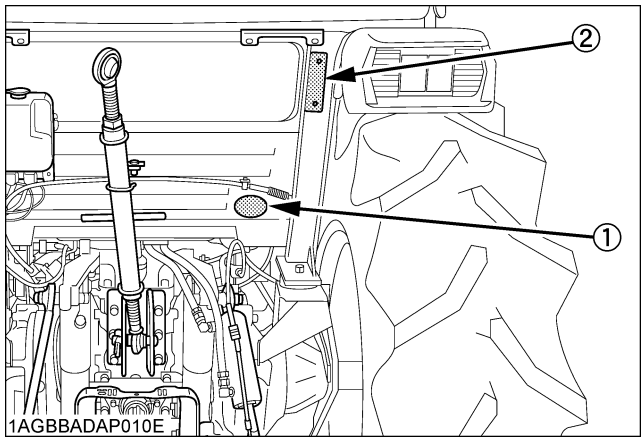
作業機の装着

■作業機用操作ボックスの取付

注　意

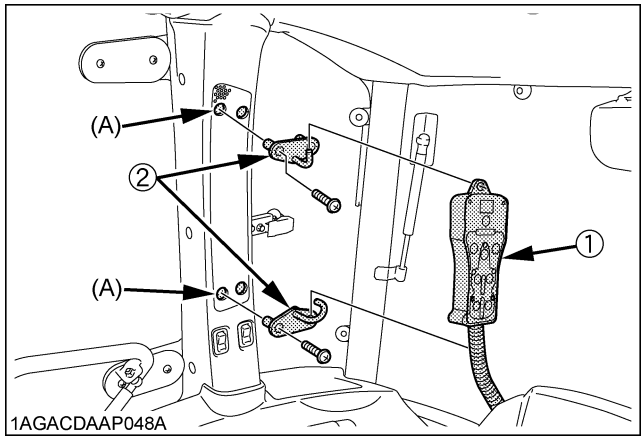
＊ コントローラを装着しない場合は，掛け金具を外してください。

ゴムキャップに穴又は切り込みを開けます。作業機用操作コードなどを安全キャブ室内に導入してください。



①ゴムキャップ
②外部取出し油圧バルブ取付け位置

(A) 部に操作ボックスなどを取付ける場合は，樹脂キャップを取外して，掛け金具を取付けます。作業機のコントローラなどを装着することができます。



①コントローラ
②掛け金具

トラクタの簡単な手入れと処置

警　告

給油及び点検整備するときは
1. トラクタを平たんな広い場所に置き
2. 作業機を降ろし
3. 駐車ブレーキをかけ
4. エンジンを止め
5. キーを抜き，安全を確認してから行なってください。
そうしないと死傷事故を引起すおそれがあります。

廃棄物の処理について

警　告

廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。
廃棄物を処理するときは
＊ 機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。
＊ 地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。
＊ 廃油，燃料，冷却水（不凍液），尿素水（AdBlue），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者等に相談して，所定の規則に従って処理してください。

洗車時の注意

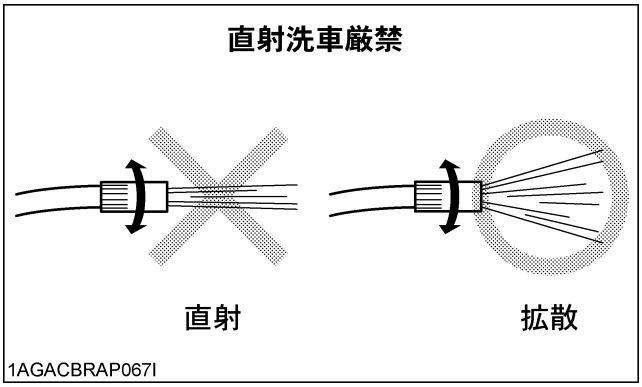
高圧洗車機の使用方法を誤ると人を怪我させたり，機械を破損・損傷・故障させることがありますので，高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って，正しく使用してください。

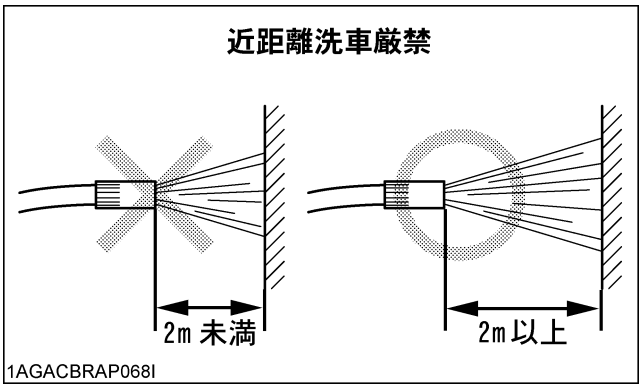
注　意

洗浄ノズルを拡散にし，2m 以上離して洗車してください。
もし，直射にしたり，不適切に近距離から洗車すると，
1. 電気配線部被覆の損傷・断線により，火災を引き起こすおそれがあります。
2. 油圧ホースの破損により，高圧の油が噴出して傷害を負うおそれがあります。

重　要

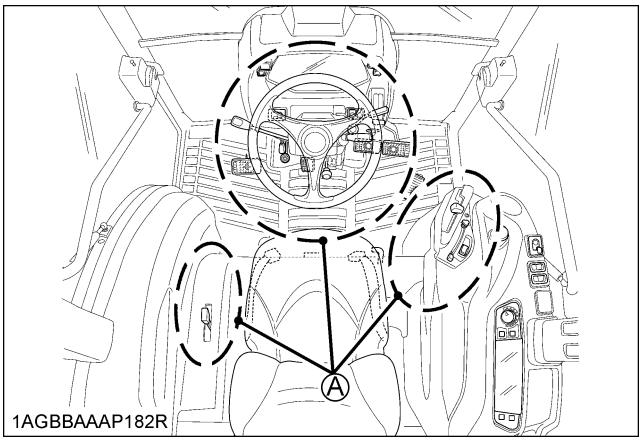
＊ 洗車のしかたが不適切な場合，以下のような機械の破損・損傷・故障の原因になります。
［例］
(1) シール・ラベルの剥がれ
(2) 電子部品，エンジン・トランスミッション室内，安全キャブ室内等への浸入による故障
(3) クローラ，タイヤ，オイルシール等のゴム類，化粧カバー等の樹脂部品，ガラス等の破損
(4) 塗装，メッキ面の皮膜剥がれ





重　要

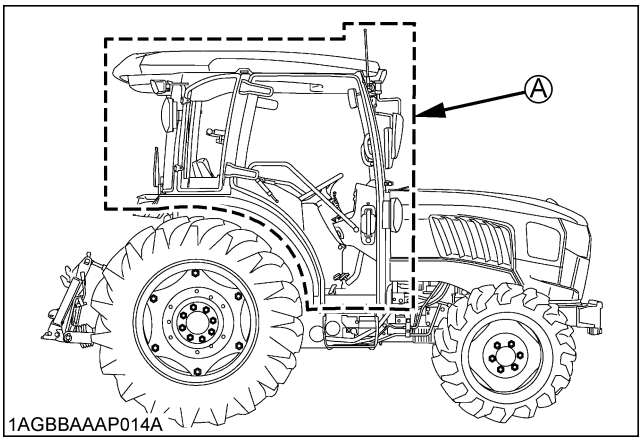
＊ 高圧洗車機などによる洗車の際には，メータパネル，ステアリングポスト周り，ポンパレバー，ホーンボタン周り，バッテリ，エンジン周りの電気配線・電装品（および電子油圧操作部）には，圧力水をかけないでください。電気部品の故障の原因になります。



Ⓐ“高圧洗車禁止”

重　要

＊ 安全キャブのガラス部，ルーフ部の洗車の際には，圧力水をかけないでください。(圧力を下げるか水流を広げてください。)
安全キャブ室内の水もれ，電気部品の故障の原因になります。



Ⓐ“高圧洗車禁止”

補　足

＊ 市販のワックスを樹脂部品に使用すると樹脂の変形，割れ，曇りが発生する場合があります。特に電子メータなどの透明樹脂部にはワックスを使用しないでください。

定期点検箇所一覧表

重　要

＊ ◎はならし運転の 50 時間後又は 100 時間後に必ず行なってください。
＊ バッテリ電解液は年間使用時間が 100 時間以内の場合，１年ごとに点検を行なってください。

次の定期点検箇所に従って，定期点検を実施しましょう。

No.	時期		アワーメータ表示時間														それ以降	参照ページ
	項目		50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700		
1	エンジンオイル	交換	◎				○				○				○		200 時間ごと	130
2	エンジンオイル フィルタ	交換	◎				○				○				○		200 時間ごと	131
3	トランスミッション オイルフィルタ	交換	◎				○				○				○		200 時間ごと	133
4	ミッションオイル	交換	◎								○						400 時間ごと	137
5	前車軸ケースオイル	交換						○						○			300 時間ごと	136
6	グリースの注入	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	122
7	エンジン始動システム	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	123
8	タイヤ取付ボルト	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	123
9	クラッチハウジングの水抜き	排水	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	124
10	パワーステアリング ホース	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	124
		交換															２年ごと	142
11	燃料ホース	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	125
		交換															２年ごと	142
12	クラッチペダル	調整	◎		○		○		○		○		○		○		100 時間ごと	129
13	ファンベルト	調整		○		○		○		○		○		○		○	100 時間ごと	128
14	ブレーキペダル	調整		○		○		○		○		○		○		○	100 時間ごと	129
15	エキゾーストパイプ 及びマフラの状態	点検		○		○		○		○		○		○		○	100 時間ごと	129
16	バッテリ電解液	点検		○		○		○		○		○		○		○	100 時間ごと	126
17	エアクリーナ エレメント	清掃		○		○		○		○		○		○		○	100 時間ごと	128
		交換															１年ごと	140
18	ステアリング ジョイント部	点検				○				○				○			200 時間ごと	133
19	ラジエータホース	点検				○				○				○			200 時間ごと	131
		交換															２年ごと	142
20	オイルクーラホース	点検				○				○				○			200 時間ごと	132
		交換															２年ごと	142
21	吸気ホース	点検				○				○				○			200 時間ごと	132
		交換															２年ごと	142
22	トーイン，タイロッド	点検				○				○				○			200 時間ごと	133
23	燃料フィルタ カートリッジ	交換								○							400 時間ごと	138
24	セパレータ	清掃								○							400 時間ごと	138
25	前部デフケース 前後遊び	調整												○			600 時間ごと	139
26	エンジンバルブ クリアランス	点検															800 時間ごと	139

No.	時期		アワーメータ表示時間														それ以降	参照ページ
	項目		50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700		
27	インジェクタ	点検															1500 時間ごと	139
28	オイルセパレータ エレメント	交換															1500 時間ごと	139
29	EGR クーラー	点検 清掃															1500 時間ごと	139
30	サプライポンプ	点検															3000 時間ごと	140
31	EGR システム	点検 清掃															3000 時間ごと	140
32	DPF マフラ	清掃															3000 時間ごと	140
33	エキゾースト マニフォールド	点検															１年ごと	140
34	DPF 差圧センサパイプ	点検															１年ごと	140
35	EGR パイプ	点検															１年ごと	140
36	ラジエータ (クーリングシステム)	洗浄															２年ごと	142
37	冷却水	交換															２年ごと	141
38	メインシリンダホース	交換															２年ごと	142
39	モンローシリンダ ホース	交換															２年ごと	142
40	オイルセパレータ ホース	点検				○				○				○			200 時間ごと	132
		交換															２年ごと	142
41	DPF 差圧センサホース	交換															２年ごと	142
42	ブーストセンサホース	交換															２年ごと	142
43	燃料の空気抜きの しかた	―															必要に応じて	143
44	ヒューズ類	交換															必要に応じて	143, 144
45	ランプ類	交換															必要に応じて	144, 145
46	ホーン接点の グリース塗布	―															必要に応じて	145

＊ 専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは，購入先にご相談ください。

[安全キャブ仕様]

No.	時期		アワーメータ表示時間														それ以降	参照ページ
	項目		50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700		
1	内気フィルタの詰まり	清掃				○				○				○			200 時間ごと	134
2	外気フィルタの詰まり	清掃				○				○				○			200 時間ごと	134
3	コンデンサの詰まり	清掃				○				○				○			200 時間ごと	135
4	エアコンベルトの張り	調整				○				○				○			200 時間ごと	136
5	エアコンの簡易点検	点検															３ヵ月ごと	140
6	ヒータ配管，ホース	点検															１年ごと	140
7	エアコン配管，ホース	点検															１年ごと	140
8	ウォッシャ液	補充															必要に応じて	145
9	各部への注油	－															必要に応じて	145
10	冷媒（ガス）量	点検															必要に応じて	146

[パワクロ仕様]

No.	時期		アワーメータ表示時間														それ以降	参照ページ
	項目		50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700		
1	揺動軸部のグリース注入	－	30 時間ごと															121
2	転輪・遊輪のグリース注入	－	30 時間ごと															121
3	クローラガイド	点検	◎			○				○				○			200 時間ごと	136
4	転輪・遊輪	点検	◎			○				○				○			200 時間ごと	136
5	スプロケット	点検	◎			○				○				○			200 時間ごと	136
6	ゴムクローラ	点検	◎			○				○				○			200 時間ごと	136

＊ 日常点検と併せて，3 ～ 6 項目について上記時間でディーラ点検をお願いします。必要に応じて部品交換をお願いします。

＊ 専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは，購入先にご相談ください。

給油（水）一覧表

■トラクタの給油（水）

No.	給油（水）項目	容　　量（L）	備　　考
1	燃　　料	40	超低硫黄ディーゼル軽油 （サルファーフリー軽油）
2	冷　却　水	5.5 リザーブタンク：1.0	清水（不凍液を入れた場合は，その量だけ少なく清水を入れてください。）
3	エンジンオイル	4.5〔5.7〕	指定オイル （詳細は次ページ参照）
4	ミッションオイル （油圧オイル）	ホイル仕様：32 パワクロ仕様：42	指定オイル スーパー UDT-2
5	前車軸ケース	5.5	
6	各操作レバー ・ペダル支点	注　　油	
7	三点リンク	注入・塗布	極圧（万能）グリース
8	バッテリターミナル	塗　　布	
9	油圧シリンダ	注　　入	
10	ウォッシャ液 **［安全キャブ仕様］**	2	自動車用ウォッシャ液

〔　〕内は分解・修理した場合の給油量です。

［パワクロ仕様］

下表以外の給油（水）は，同じエンジン出力のタイヤ仕様機種と同じです。

No.	給油項目	容　　量（L）	備　　考
1	転輪	注入	極圧（万能）グリース
2	前遊輪		
3	後遊輪		

推奨オイル・グリース一覧表

必ず下記の指定オイルを使ってください。

■エンジンオイル・ミッションオイル

型式名	エンジンオイル	ミッションオイル・前車軸ケースオイル・各操作レバー支点
GJE33(H)	指定オイル (DPF 搭載機専用ディーゼルエンジンオイル) **D10W-30 DH-2**	指定オイル　スーパー UDT-2

★エンジンオイルについて
DPF 搭載のディーゼルエンジンには,指定ディーゼルエンジンオイル **D10W-30 DH-2** を必ず使用してください。他のオイルを使用するとオイルに含まれる金属系添加剤の燃え残り（灰分）が DPF に堆積してフィルタの詰まりが助長され，DPF が機能しなくなるまでの時間が極端に早まります。

■グリース

極圧（万能）グリース	推奨グリースNo.2 ★入手できない場合は下記メーカ製品または JCMAS GK 規格品をご使用ください。 ・ENEOS：エピノックグリース AP2 ・コスモ石油ルブリカンツ：ダイナマックスNo.2 ・出光興産：ダフニーエポネックス SR2
ホーン接点用グリース	協同油脂　マルテンプ PS2

ボンネットの開閉及びサイドカバーの外し方

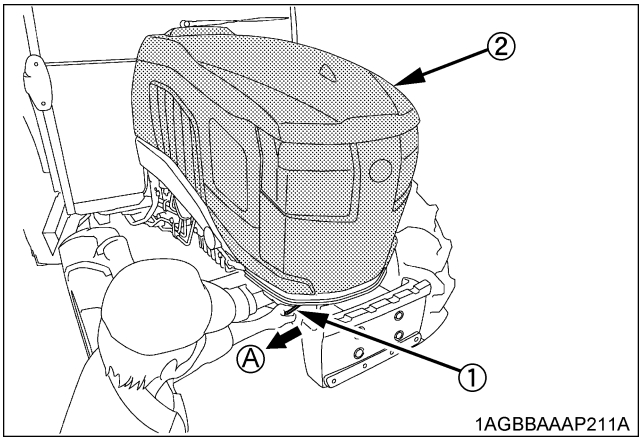
警　告

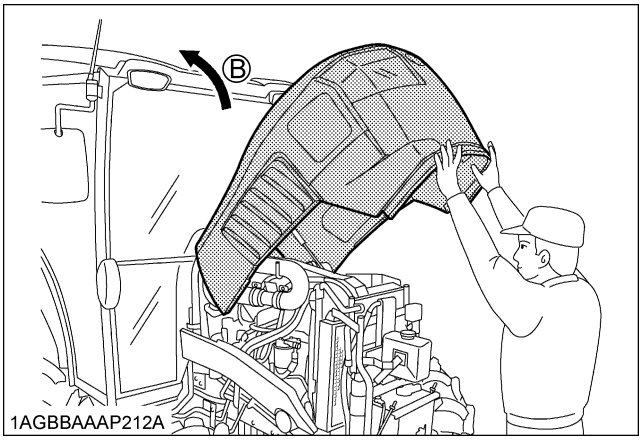
＊ エンジン回転中は絶対にボンネットを開けないでください。
＊ マフラが熱いときはさわらないでください。ヤケドすることがあります。

■ボンネットの開閉

◆ ボンネットの開け方

1. ロック解除レバーを引きロックを解除します。
2. 両手でボンネットを持上げます。

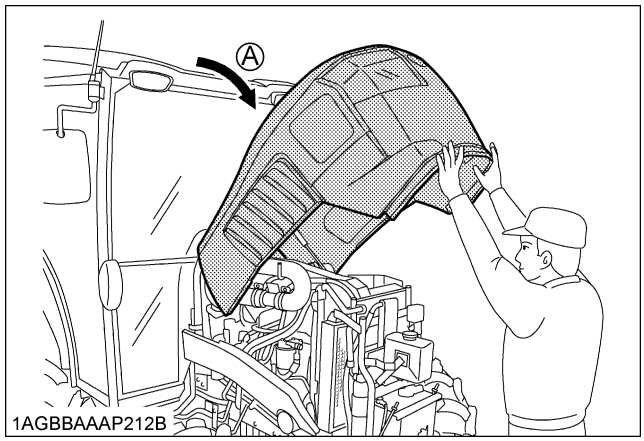




①解除レバー　　Ⓐ“引く”
②ボンネット　　Ⓑ“上げる”

◆ ボンネットの閉め方

1. ボンネットを閉め，両手でボンネットを上から押え，ロックします。
2. ボンネットを持ち上げロックされているか確認します。

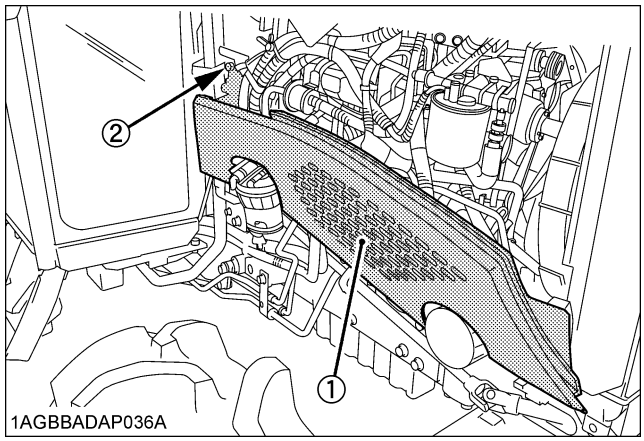


Ⓐ“下げる”

■サイドカバーの取り外し

◆ 右側

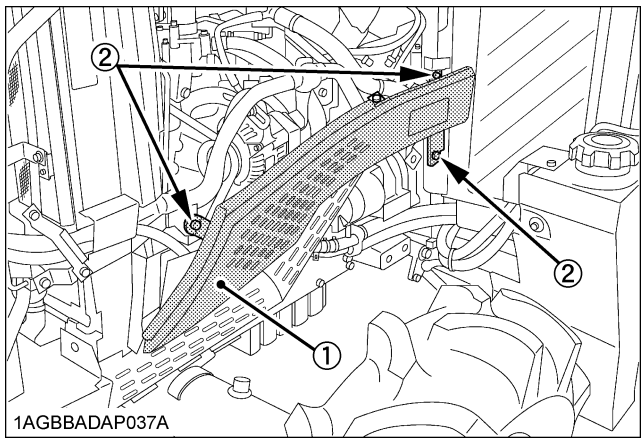
図で示す蝶ボルトをゆるめてカバーを取外してください。



①サイドカバー
②蝶ボルト

◆ 左側

図で示すボルトを外してカバーを取外してください。



①サイドカバー
②ボルト

日常点検

警　告

＊ 火気厳禁
＊ 点検をするときは，必ず作業機を降ろしエンジンを停止してから行なってください。
＊ 燃料・オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊ トラクタは常に清掃しておいてください。バッテリ，配線，マフラやエンジン周辺部にごみや燃料の付着などがあると，火災の原因になります。
＊ 運転中及び停止直後は，ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。熱湯が噴出してヤケドをすることがあります。
＊ エンジン周囲のカバー類を開けて点検・整備するときは，内部がじゅうぶんに冷え，ヤケドのおそれがないことを確認してから行なってください。

■前日の異常箇所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば，使用前に支障がないか点検してください。

■トラクタの周りを歩いて

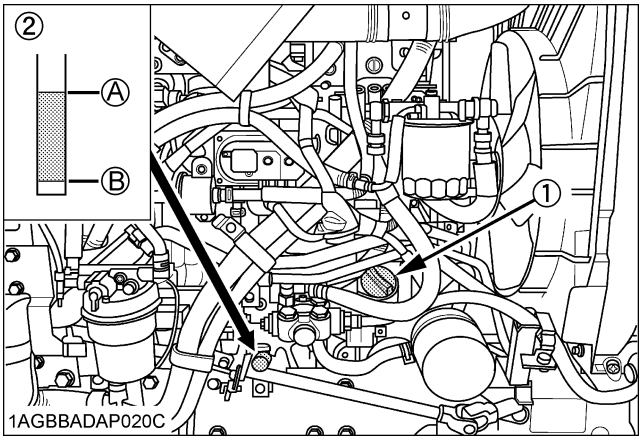
1. ボルトやナットのゆるみ及び作業機取付けピンの脱落
2. 車体各部の変形や損傷
3. 油や水もれなど異常がないか，点検してください。

■エンジンオイルの量及び汚れ

警　告

＊ 点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

1. オイルゲージを抜いて先端をきれいにふき，差込んでから再び抜き**［下限と上限の間］**にオイルがあるかを調べます。
2. **［下限］**以下の場合は補給してください。ただし，**［上限］**以上には入れないでください。エンジンオイルの入れすぎは出力不足につながります。



①給油口　　**Ⓐ“上限”**
②オイルゲージ　　**Ⓑ“下限”**

重　要

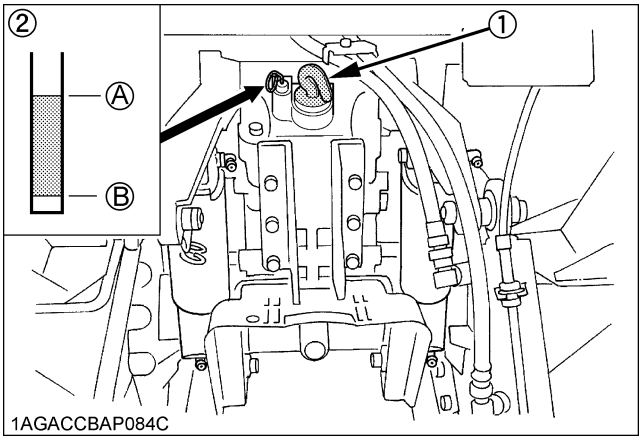
＊ 点検するときは，トラクタを水平な場所に置いてください。傾いていると正確な量が示されません。
＊ オイル量はエンジン始動前か，エンジンを止めてから約５分以上たってから点検してください。そうでないと，オイルがまだエンジン各部に残っており正確なオイル量は測れません。

■ミッションオイルの量及び汚れ

警　告

＊ 点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

1. オイルゲージを抜いて先端をきれいにふき，差込んでから再び抜き**［下限と上限の間］**にオイルがあるかを調べます。作業機（ロータリ）付の場合は，作業機（ロータリ）を下げて確認してください。
2. **［下限］**以下の場合は補給してください。ただし，**［上限］**以上には入れないでください。



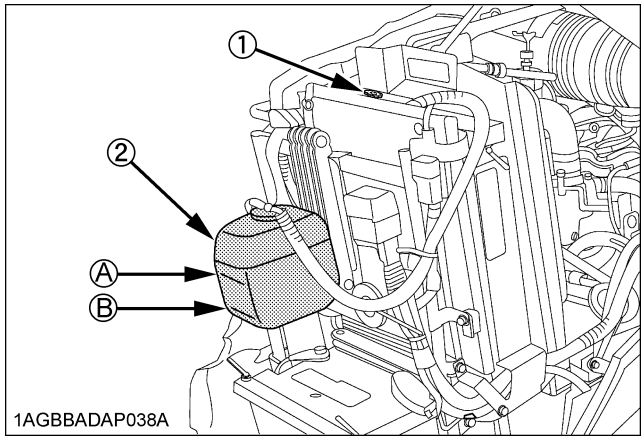
①給油口　　**Ⓐ“ 上限 ”**
②オイルゲージ　　**Ⓑ“ 下限 ”**

■冷却水の量

警　告

＊ ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出しヤケドをすることがあります。停止後 30 分以上たって，冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し，余圧を抜いてからキャップを外してください。

ラジエータには，リザーブタンクが付いており，ラジエータ内の冷却水が少なくなると，リザーブタンクから自動的に補給される構造になっています。
冷却水の量はリザーブタンク内の量を点検してください。**［FULL から LOW の範囲］**であれば正常です。冷却水が LOW 以下の場合は，FULL のレベルまで補給してください。FULL 以上は入れないでください。
リザーブタンクの量が LOW 以下の場合は，ラジエータキャップを外してその口元まで冷却水が入っているか確認してください。少ない場合は口元まで補給してください。



①ラジエータキャップ　　**Ⓐ“ 上限 ” ［FULL］**
②リザーブタンク　　**Ⓑ“ 下限 ” ［LOW］**

補　足

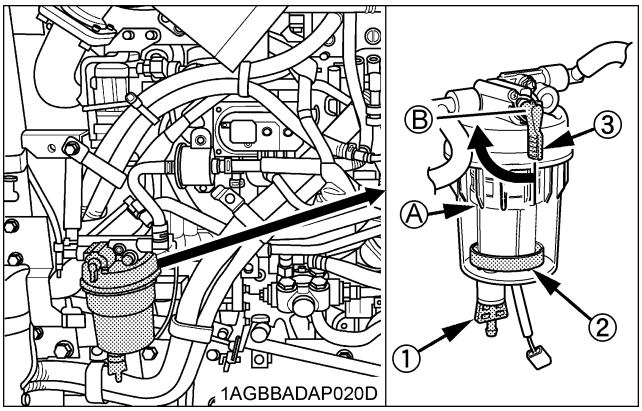
＊ ラジエータ本体のキャップは，冷却水点検及び交換するとき以外開けないでください。

■セパレータの確認

セパレータに水がたまっている場合は，水を排出してください。
（**［セパレータの水の排出］**の項参照）

■ウォータセパレータの水の排出

分離された水がたまると赤色のフロート（浮き輪）が浮き上がります。水がたまっている場合は，燃料コックを閉め下部のドレーンプラグをゆるめて水を排出してください。
排出後は必ず空気抜きをしてください。
（**［必要に応じた点検・整備］**の**［燃料の空気抜きのしかた］**の項を参照）



①ドレーンプラグ　③燃料コック　Ⓐ“排出レベル”
②フロート　Ⓑ“閉”

重　要

電子メータメッセージ

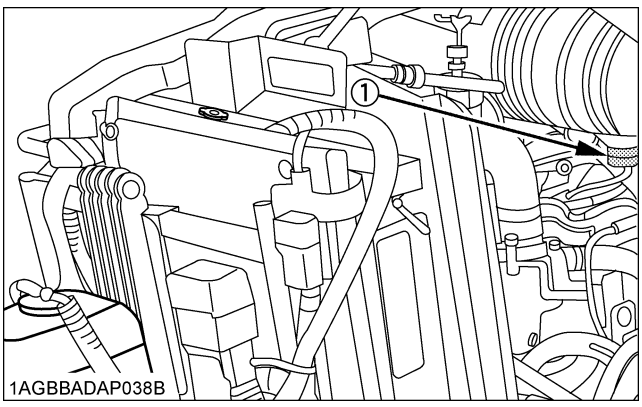
＊ フロートが排出レベルに達すると，液晶表示部に下記メッセージが表示されるとともに，ブザーが鳴り続けます。

セパレータの水を抜いて下さい

＊ ブザーが鳴ったときは，直ちにエンジンを止めて，セパレータの水の排出，燃料の空気抜きをしてください。
＊ エンジンを始動させたとき液晶表示メッセージと警告ブザーが消えれば処置は完了です。

■バキュエータバルブの清掃

バキュエータバルブを開き，ごみを取除いてください。水分があるときは，エアクリーナを掃除してください。



①バキュエータバルブ

■ワイヤハーネス，バッテリ（＋）コードの点検・交換

警　告

＊ 配線の端子や接続部のゆるみ及び配線の損傷は，電気部品の性能を損なうだけでなく，ショート（短絡）・漏電の原因となり，火災事故になるおそれがあり大変危険です。傷んだ配線は，早めに交換・修理してください。
ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，針金などで代用せず，購入先に点検・整備を依頼してください。
＊ また，本機の配線は，防水性などじゅうぶん考慮して配線してありますのでむやみに修理して使用せず，購入先に点検・整備を依頼してください。
＊ バッテリ及び電気配線の周辺部は，マフラやエンジン周辺部と同様，ワラくず・ごみ・燃料の付着があると火災の原因になるので，毎日作業前に清掃してください。

下記項目を点検してください。

1. 配線の損傷がないこと。配線被覆が破れているときは，購入先に点検・整備を依頼してください。
2. 配線のクランプのゆるみが無いこと。配線がクランプより外れているときは，所定のクランプに配線をセットしてください。
3. ターミナル（端子），カプラ（ソケット）の接続部のゆるみがないこと。
4. 各スイッチ，メータが確実に作動すること。

重　要

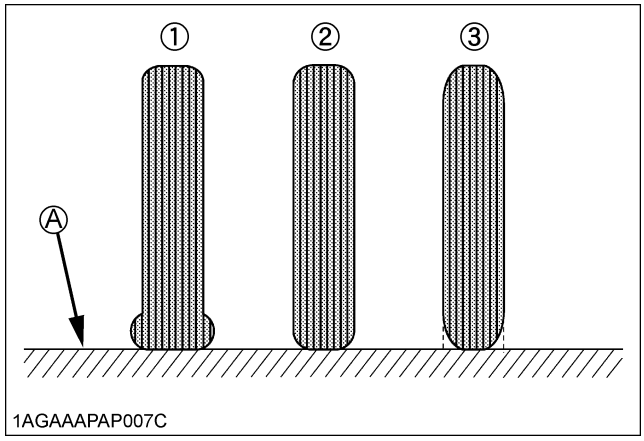
＊ 高圧洗車機などによる洗車の際には，メータパネル，ステアリングポスト周り，ポンパレバー，ホーンボタン周り，バッテリ，エンジン周りの電気配線・電装品（および電子油圧操作部）には，圧力水をかけないでください。電気部品の故障の原因になります。
＊ １年に１回は，購入先で定期点検を受けてください。
＊ スローブローヒューズの点検，交換は必ず購入先で行なってください。

■タイヤの空気圧，及び摩耗，損傷

警　告

＊ タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。空気の入れ過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引起こす原因になります。
＊ タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は，使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。
＊ タイヤ，チューブ，リムなどの交換，修理は，必ず購入先にご相談ください。（特別教育を受けた人が行なうように，法で決められています。）

前輪・後輪の空気圧が適正であるかを調べます。
外観から判断する目安はつぎのとおりです。



①空気が不足
②標準
③空気が多い
Ⓐ“接地面”

◆ 標準空気圧

［　］内はフロントローダ装着時

	空気圧 MPa(kgf/cm²)
前輪	157 (1.6)　[196(2.0)]
後輪	GJE33(H)：98 (1.0) GJE33(H) [S 仕様]：118 (1.2)

■防虫網の清掃

警　告

＊ エンジンを必ず停止して清掃してください。
＊ エアコン使用時コンデンサやレシーバは熱くなります。じゅうぶん冷えてから点検・清掃を行なってください。

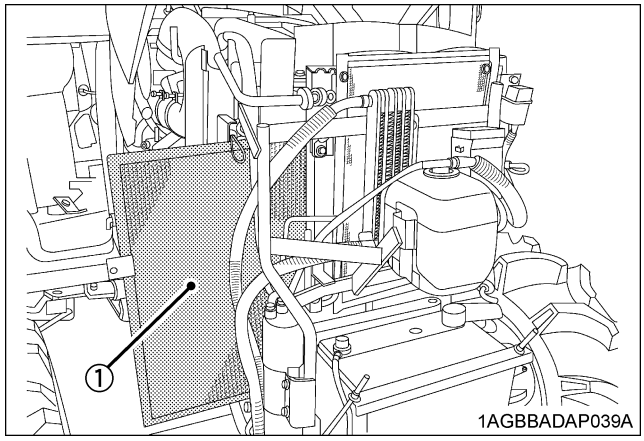
水田や夜間作業に使用すると，防虫網に実や昆虫が付着し詰まることがあります。
目詰まりがないよう点検，清掃してください。
また，防虫網を外したとき，ラジエータ，コンデンサ等のフィンにゴミが詰まっていれば，エアブロー又は水道水などで取除いてください。

重　要

＊ 高圧洗車機を使用する場合には，コンデンサ・ラジエータ・オイルクーラのフィンを損傷させないように，注意してください。

◆ ラジエータ用防虫網

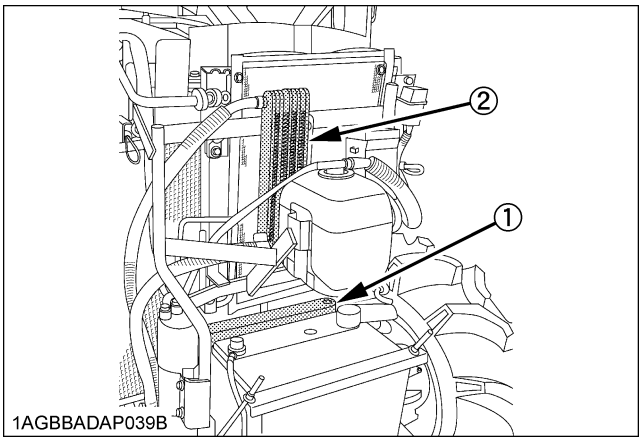
取外して清掃してください。
又，ゴミが詰まっていれば水道水などで取除いてください。



①防虫網

◆ エアコンコンデンサ用防虫網
◆ 燃料クーラ

目詰まりがないよう点検清掃してください。
又，ごみが詰まっていれば水道水などで取除いてください。



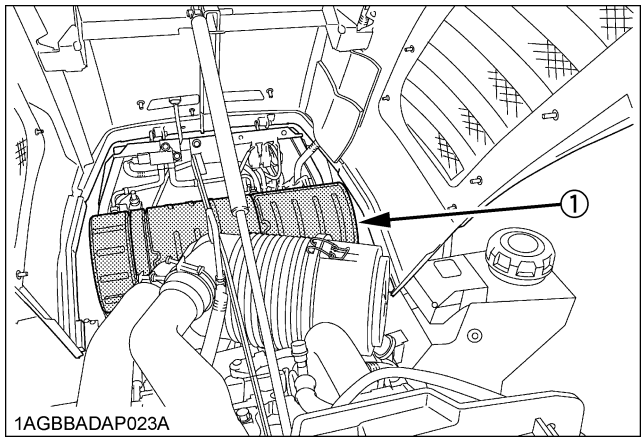
①防虫網（コンデンサ用）［安全キャブ仕様］
②燃料クーラ

■ DPF の点検

警 告

＊ 点検・清掃を行なうときは，必ずエンジンを停止してじゅうぶん冷えてから行なってください。

DPF マフラの周辺に可燃物が堆積していないか点検してください。可燃物が堆積すると火災のおそれがあります。



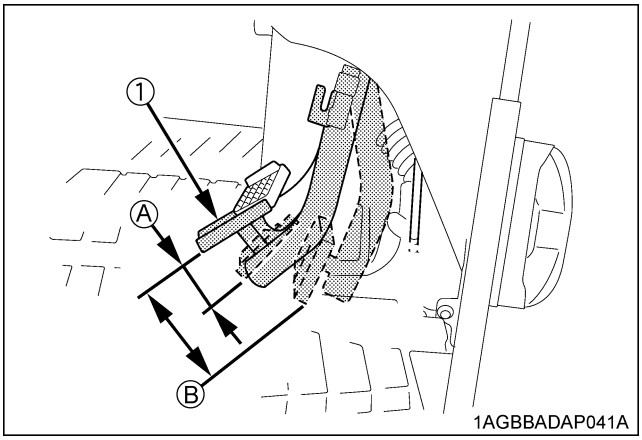
① DPF マフラ

■ブレーキペダルの遊び・点検

警　告

＊ ブレーキの調整が悪いと，人身事故にもつながります。常に作動状態に注意してください。

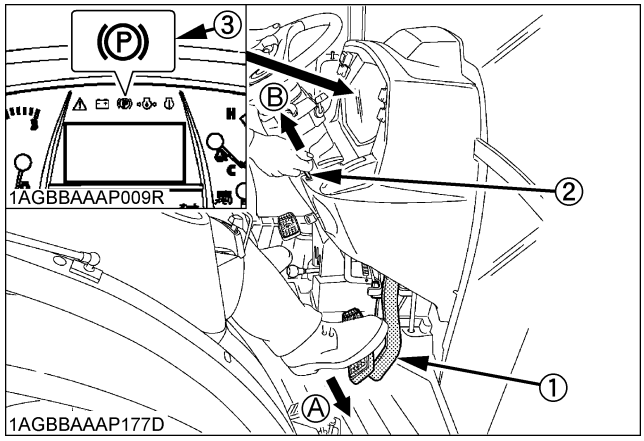
ペダルを踏んで遊び量が**［15 ～ 20 mm］**かどうか，また左右ブレーキの踏込み量の差が**5 mm 以内**かどうかを調べます。
（**［トラクタの簡単な手入れと処置］**の章の**［100 時間ごとの点検・整備］**の**［ブレーキペダルの点検・調整］**の項を参照。）



①ブレーキペダル　　Ⓐ“ 遊び ”
Ⓑ“ この位置での左右差 5mm 以内 ”（踏込み量）

■駐車ブレーキの作動点検

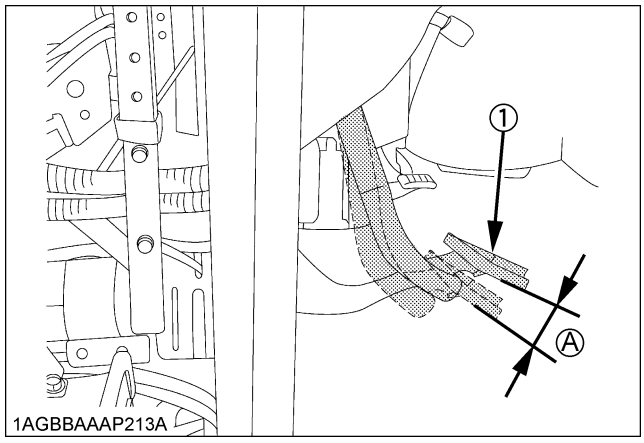
ブレーキペダルを左右連結して踏込み，グリップを**［引い］**たまま足をはなすと駐車ブレーキがかかります。キースイッチ**［入］**時，駐車ブレーキを掛けると，メータパネル内の（Ⓟ）ランプが点灯します。
外すときは，ペダルを踏込めば外れます。



①ブレーキペダル　　Ⓐ“ 踏込む ”
②駐車ブレーキグリップ　　Ⓑ“ 引く ”
③駐車ブレーキランプ

■クラッチペダルの遊び・点検

ペダルの遊び量が**［20 ～ 30 mm］**あるか確認してください。
（**［トラクタの簡単な手入れと処置］**の章の**［100 時間ごとの点検・整備］**の**［クラッチペダルの点検・調整］**の項を参照。）



①クラッチペダル　　Ⓐ“ 遊び ”

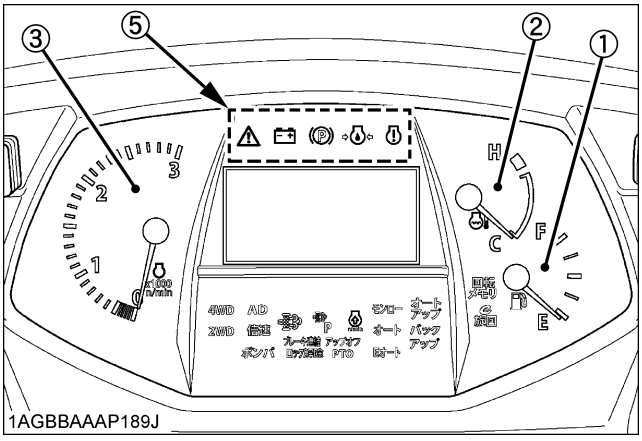
重　要

＊ クラッチの調整が悪いと，クラッチ切れ不良，すべりを起し損傷につながります。

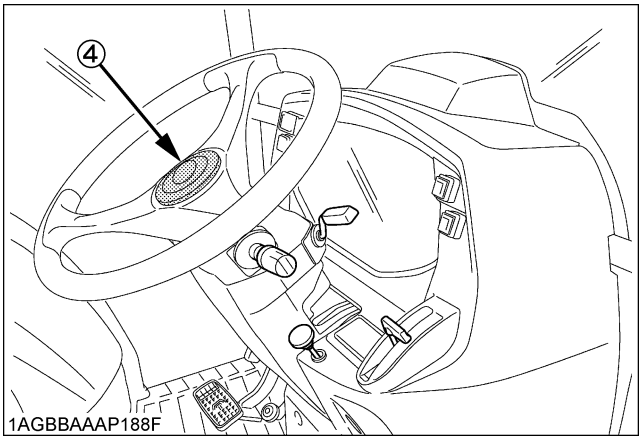
■メータ・ランプ類の作動

下記メータ及びランプ類が正しく作動するか点検してください。

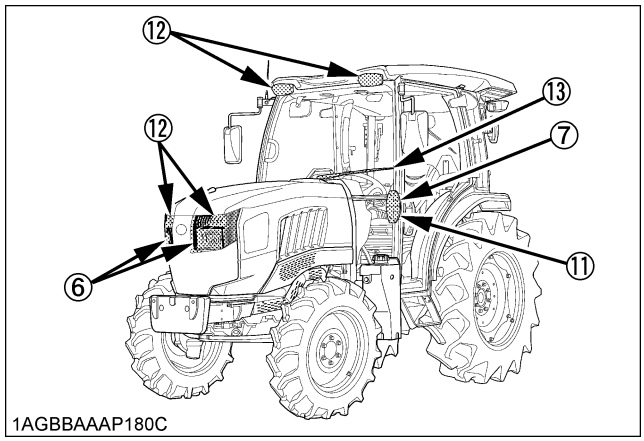
① 燃料計
② 水温計
③ エンジン回転計
④ ホーン
⑤ イージーチェッカ
⑥ ヘッドライト
⑦ ウインカ（前・後）
⑧ バックランプ
⑨ 尾灯
⑩ ブレーキランプ
⑪ 車幅灯
⑫ 作業灯
⑬ ワイパ
⑭ ウォッシャ



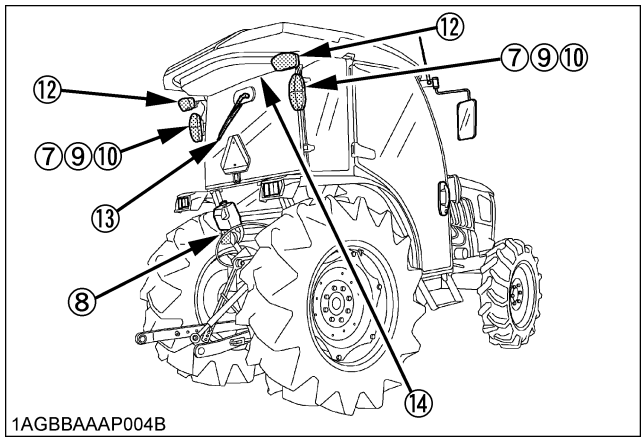
1AGBBAAAP189J



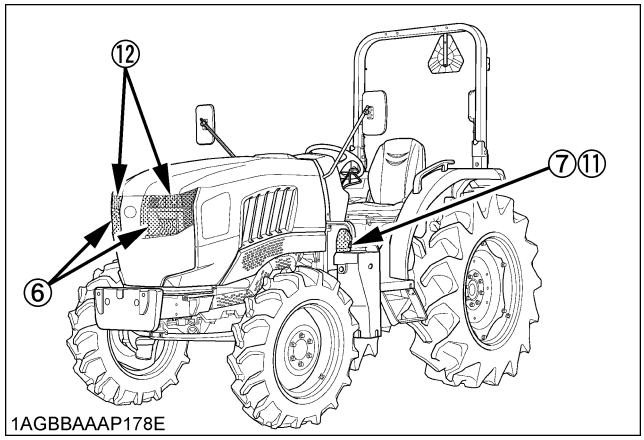
1AGBBAAAP188F



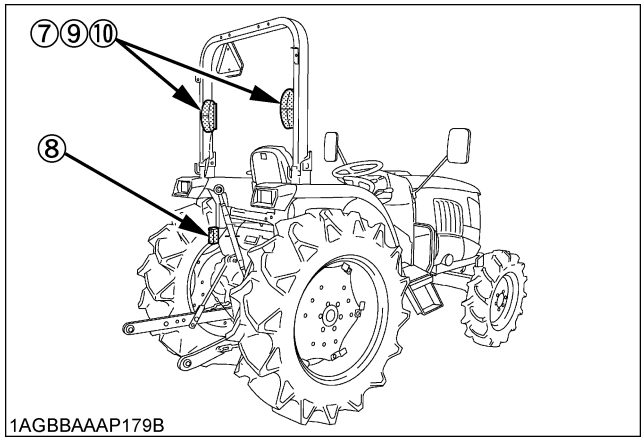
1AGBBAAAP180C



1AGBBAAAP004B



1AGBBAAAP178E



1AGBBAAAP179B

■燃料の補給

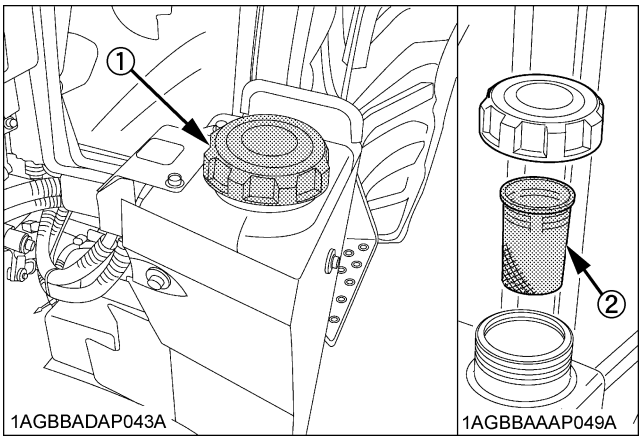
警　告

＊ 燃料を補給するときは，エンジンを必ず停止してください。
＊ 火気厳禁。

燃料には，**[超低硫黄ディーゼル軽油（サルファーフリー軽油）]** を使用してください。
ディーゼル軽油には下表の種類があります。地域・季節に見合ったものを使用してください。

種　類	ディーゼル軽油の流動点（℃）
特１号	＋５以下
１　号	-2.5 以下
２　号	-7.5 以下
３　号	-20 以下
特３号	-30 以下

流動点付近以下の温度になると燃料の流動性が悪くなり，始動が困難になります。



①燃料給油口
②こし網

重　要

＊ コモンレール仕様エンジンの燃料噴射部品は超精密仕上げになっています。これらの部品の作動不良を防ぐため，ドラム缶やホームタンクなどから燃料を補給される場合，水や砂など異物が混入しないよう充分注意してください。
　また補給時は，こし網を外さないでください。
＊ 燃料キャップが締まっているか確認してください。

■エンジンの始動確認

エンジンを始動し，かかり具合，異音がないかを確認してください。

アクセルペダルを操作し，加速・減速がスムーズか確認してください。

■エンジンの排気の状態

エンジンを始動し，排気色に異常がないか確認してください。
（**[トラクタの簡単な手入れと処置]** の章の **[エンジンの不調と処置]** の項を参照）

燃料給油時の便利な機能と装置

■満タンお知らせブザーの取扱い

燃料給油時，ブザーが下記のように作動します。

1. キースイッチを **[入]** にします。
　（エンジンは始動しないでください。）
2. 燃料を給油すると給油を検知して「ピ … ピ …」と電子メータパネルから断続音が作動します。
3. 燃料が満タンに近づくにつれ，断続音の間隔が短くなり，満タンになると「ピー」という連続音に変わるので給油を停止してください。

補　足

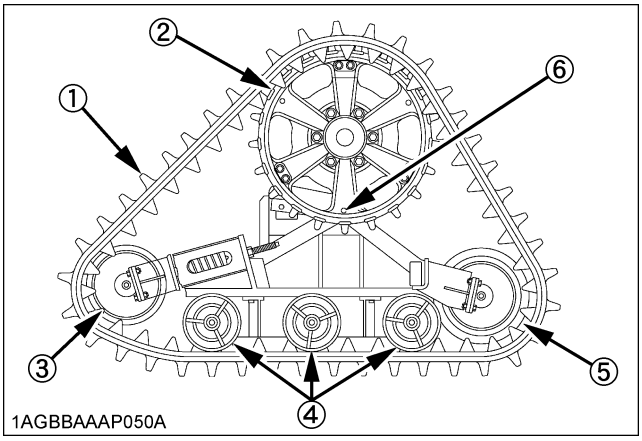
＊ オーバーフローを防ぐため，満タン警報ブザーは満タンの手前で作動するように設定しています。

日常点検［パワクロ仕様］

メンテナンスを行なうことで，パワクロ機の寿命アップと当用機のトラブルを未然に防ぐことができます。下表に従ってメンテナンスを実施してください。
交換要領の詳細についてや，不具合があれば，購入先にご連絡ください。
また，パワクロ機を安心してご使用いただくため，１年に１度の入庫定期点検をおすすめします。

■日常点検箇所一覧

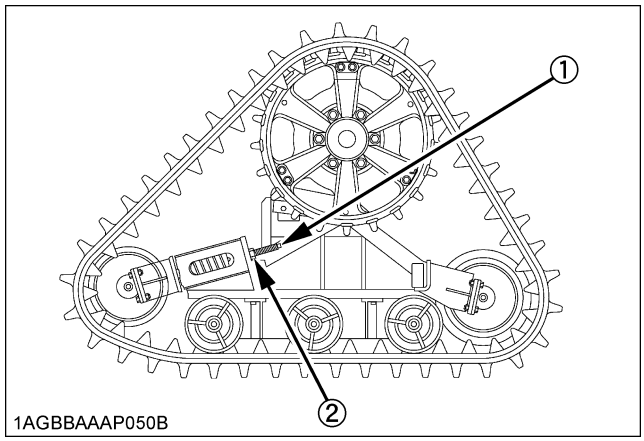
点検箇所	点検内容
転輪	● グリースアップを適宜行なってください。 (目安：30 時間使用ごと及びシーズン終了後) ● 草の巻付き，石のかみこみ，泥の付着はありませんか。
遊輪	● 極端な摩耗，偏摩耗はしていませんか。 ● グリースアップを適宜行なってください。 (目安：30 時間使用ごと及びシーズン終了後)
スプロケット	● 草の巻付き，石のかみこみ，泥の付着はありませんか。
ゴムクローラ	● クローラに大きな損傷はありませんか。 ● クローラの張りは適正ですか。
揺動軸部	● グリースアップを適宜行なってください。 (目安：30 時間使用ごと及びシーズン終了後)

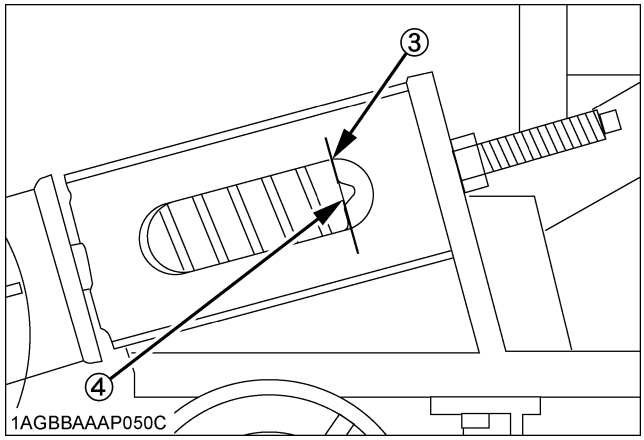


①ゴムクローラ　③前遊輪　⑤後遊輪
②スプロケット　④転輪　⑥揺動軸

■ゴムクローラの張り調整

1. ゴムクローラがゆるんだままで使用すると，走行中にクローラが外れるおそれがありますので，定期的に点検を行なってください。
2. 上記ゴムクローラの張り調整は，調整ボルトを回してスプリング端がインジケータに一致するように調整してください。調整後は確実にロックナットで固定してください。



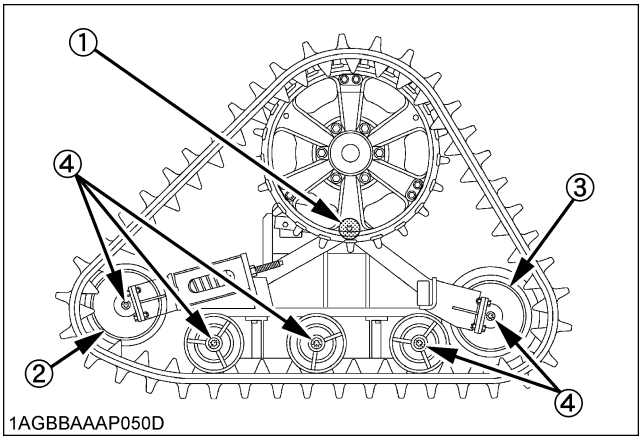


①調整ボルト
②ロックナット
③インジケータ
④スプリング端

30 時間ごとの点検・整備

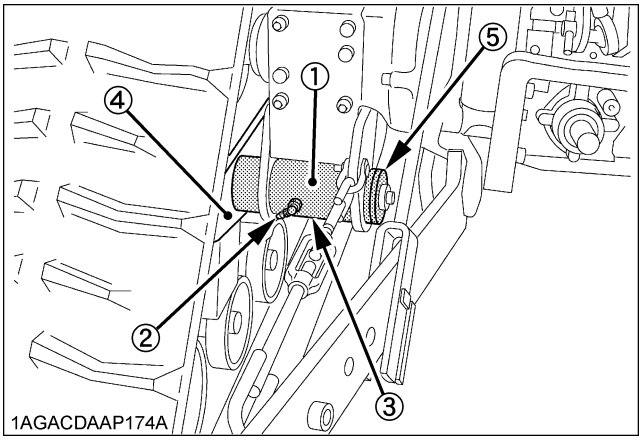
■グリースの注入

1. 代かき作業などで泥水の中に入ったときは，１日の作業が終ったあと必ずグリースアップをしておきましょう。グリースは，**［推奨グリース］**を使用してください。
2. 転輪及び遊輪部はフクロナットを外すとグリースニップルがあります。

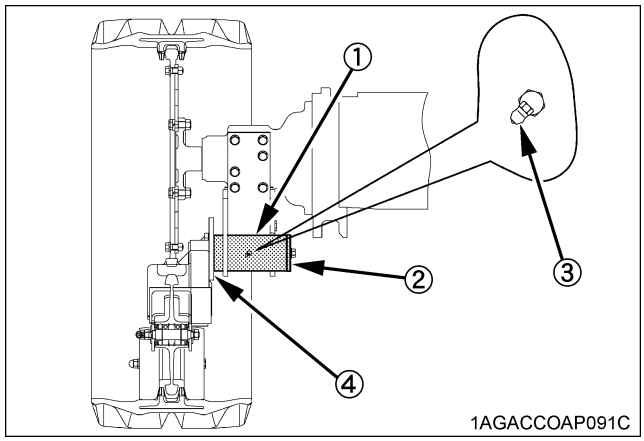


①揺動軸
②前遊輪
③後遊輪
④フクロナット（グリースニップル）

3. 揺動軸のグリースの注入は，パイプとフレームあるいはパイプとザガネのすきまからグリースが出るまで行なってください。



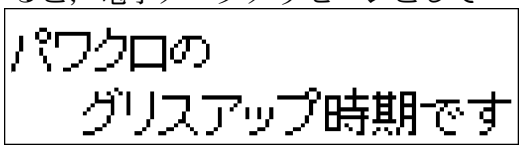
①揺動軸
②グリースニップル
③パイプ
④フレーム
⑤座金



①パイプ
②ザガネ
③グリースニップル
④フレーム

◆ 電子メータメッセージのリセットについて

グリスアップ時，電子メータメッセージのグリスアップ後時間をゼロにリセットしてください。
リセットしておくと，次回のグリスアップ時間に達すると，電子メータメッセージとして

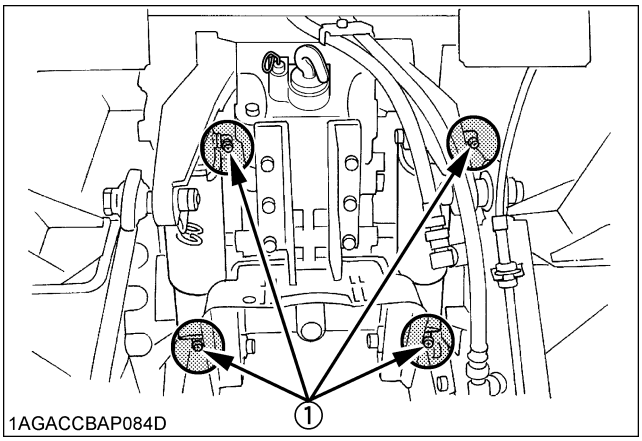


が表示されます。
また，リセットしないと，エンジン始動後５秒間，上記メッセージが表示されます。
（**［運転のしかた］**の章の**［電子メータパネル］**の**［電子メータメッセージのリセット法］**の項参照）

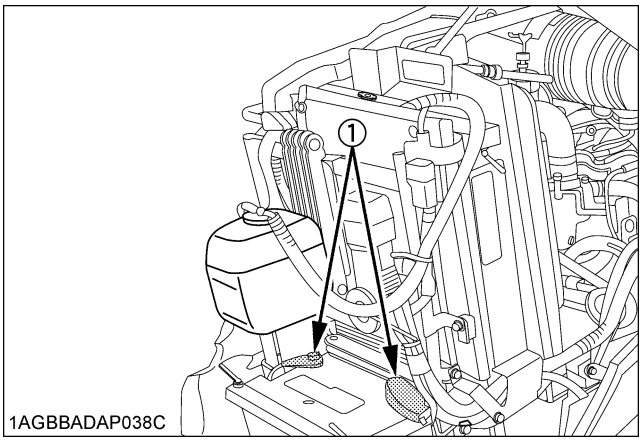
50 時間ごとの点検・整備

■グリースの注入

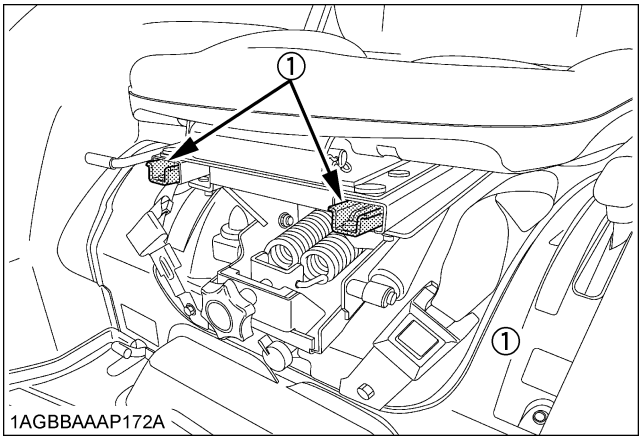
代かき作業などで泥水の中に入ったときは，1 日の作業が終ったあと必ずグリースアップをしておきましょう。
グリースは，**［推奨グリース］**を使用してください。
グリースポンプは手動のハンドガン式のものを使用してください。高圧のエアーポンプ式のものは使用しないでください。
1. 図で示された場所にグリースを注入します。



①油圧シリンダ

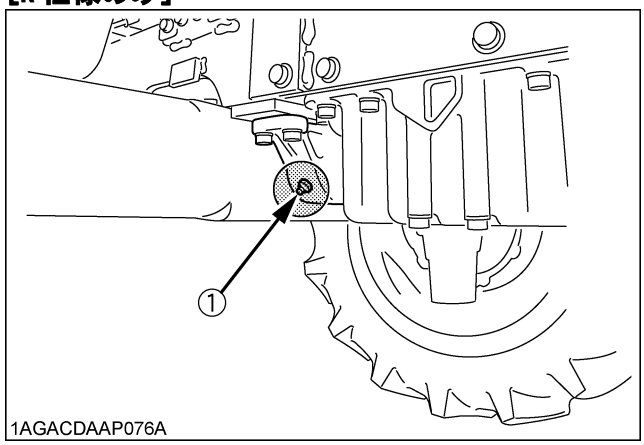


①バッテリターミナル



①スライド部

［K 仕様のみ］



①前車軸受（後）

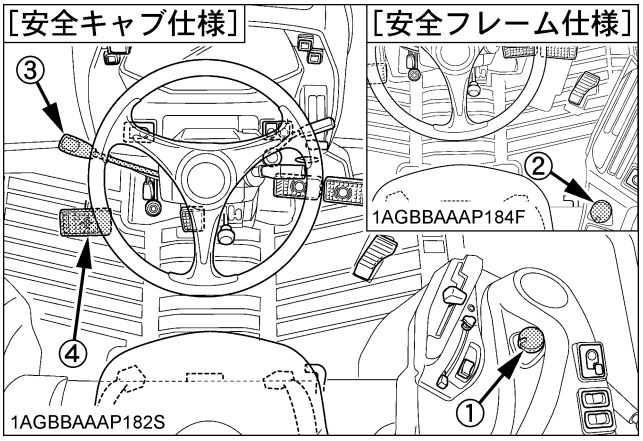
■エンジン始動システムの点検

警　告

＊ 点検中，トラクタに人を近づけないようにしてください。
＊ 装置に異常があれば必ず整備をした後，ご使用ください。

◆ 点検

1. 運転席に座り，シャトルレバーを**［中立］(N)**，あんしん PTO スイッチを**［切］**にします。
2. 駐車ブレーキを掛け，エンジンを停止します。
3. アクセルレバーを**［最低速］**位置にします。
4. クラッチペダルを一杯踏込み，キースイッチを瞬時**［始動］**位置に回します。
   この時，エンジンが回れば正常です。
5. 次に，シャトルレバーを**［前進］(F)** 又は**［後進］(R)** 又はあんしん PTO スイッチを**［入］**にし，キースイッチを瞬時**［始動］**位置に回します。
   このとき，エンジンが回らなければ正常です。
6. もし，不良の場合は，購入先へご相談ください。

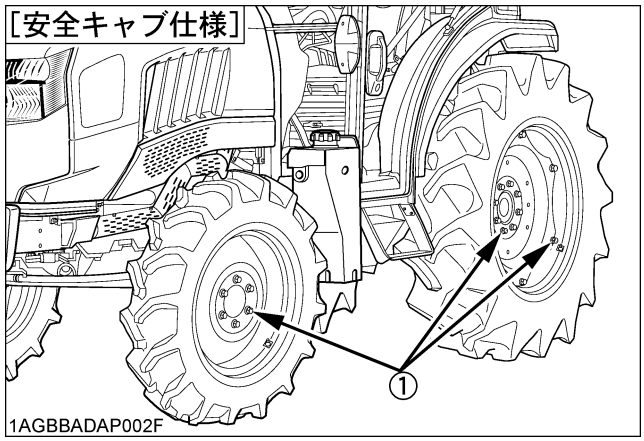


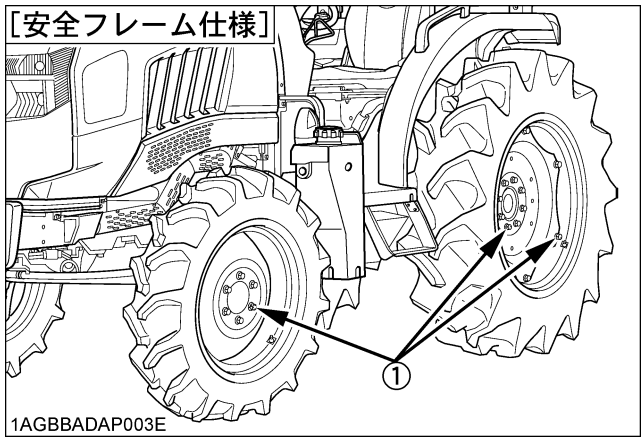
①あんしん PTO スイッチ（安全キャブ仕様）
②あんしん PTO スイッチ（安全フレーム仕様）
③シャトルレバー
④クラッチペダル

■タイヤ取付けボルトの点検

警　告

＊ タイヤ取付けボルトやナットがゆるんだ状態でトラクタを運転しないでください。ゆるんだまま走行すると，死傷事故を引起こすおそれがあります。

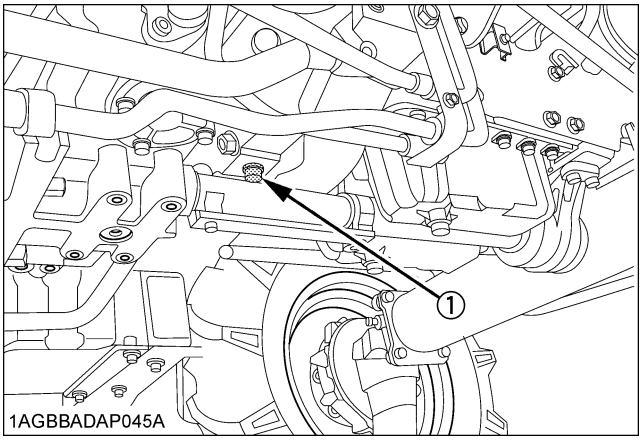




①ボルト，ナット

■クラッチハウジングの水抜き

代かき作業・洗車・雨降りなどで，クラッチハウジングに多量の水がかかった場合，又は 50 時間使用ごとにクラッチハウジング底のドレーンプラグを外して，水の浸入がないことを確認してください。もし水が入っていれば，完全に抜いて，内部をよく乾燥してください。



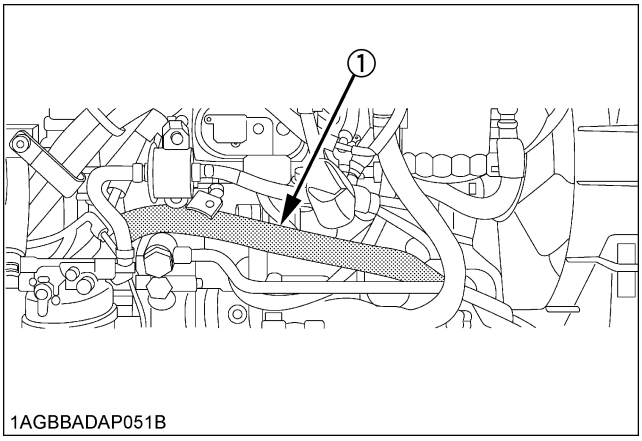
①ドレーンプラグ

■パワーステアリングホースの点検

警　告

＊ ホースの傷みは，必ず点検しましょう。ホースが破損しハンドル操作ができなくなり，傷害事故を引起こすおそれがあります。

パワーステアリングホースは，使わなくても劣化する消耗品です。2 年ごとに又は傷んだときには新品と交換する必要があります。
ホースが傷んでいないか常に注意してください。交換する場合は，購入先で交換及び点検をしてもらってください。



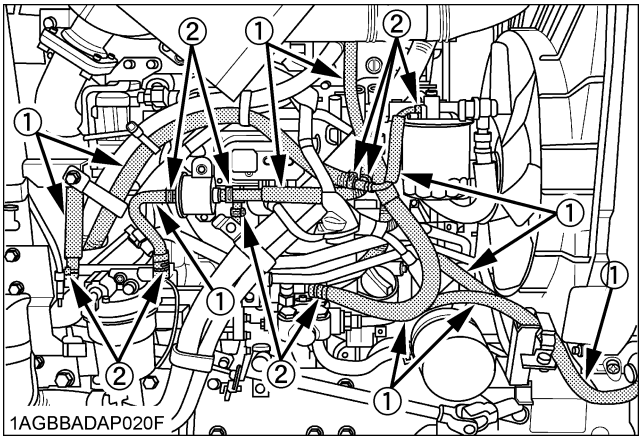
①パワーステアリングホース

■燃料ホースの点検

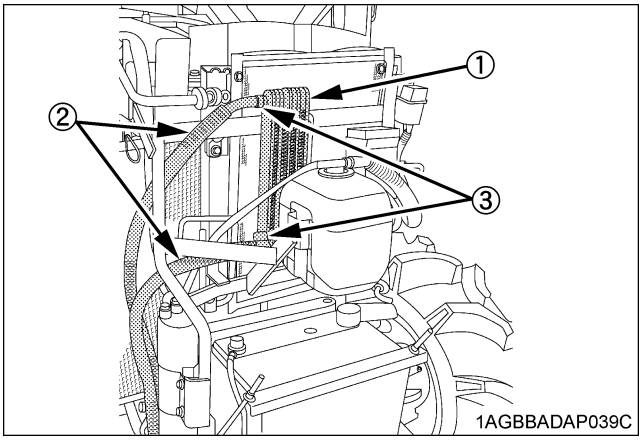
警　告

＊ ホース類の傷みや締付けバンドのゆるみは，必ず点検してください。異常があれば交換・整備を行なってください。
燃料もれなどによる火災や傷害事故などの原因になります。

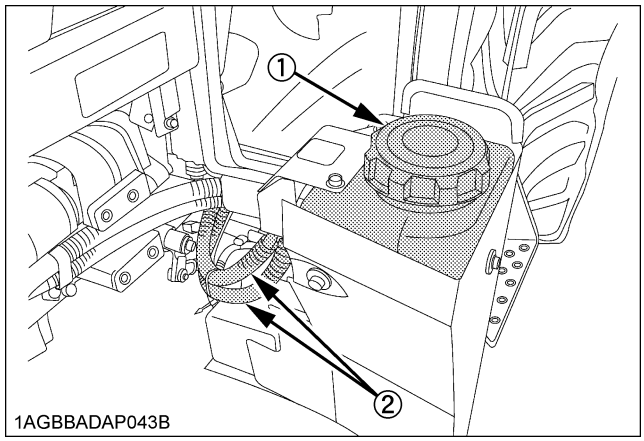
燃料ホースなどのゴム製品は，使わなくても劣化する消耗品です。締付けバンドと共に２年ごとに又は傷んだときには新品と交換する必要があります。
ホース類や締付けバンドがゆるんだり，傷んでいないか常に注意してください。
交換する場合は，購入先で交換及び点検をしてもらってください。



①燃料ホース
②締付けバンド



①燃料クーラ
②燃料ホース
③締付けバンド



①燃料タンク
②燃料ホース

100 時間ごとの点検・整備

■バッテリ電解液の点検

危　険

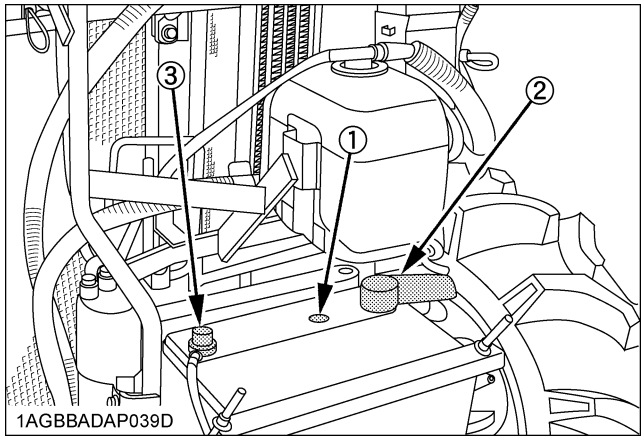
＊ バッテリには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリの２種類があります。補水が必要なバッテリについては，以下の事を守ってください。
＊ バッテリは液面が LOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。LOWER 以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。すぐに UPPER LEVEL と LOWER LEVEL の間に補水してください。

警　告

＊ バッテリ液は希硫酸なので扱いにはじゅうぶん注意し，身体や衣服に付けないようにしてください。もし付着した場合は，すぐに水で洗い流してください。状況により医師の診断を受けてください。
＊ バッテリの点検及び取外し時は，エンジンを必ず停止し，キースイッチを［切］位置にしておいてください。
＊ バッテリを取外すときは，短絡（ショート）事故を防ぐため，最初にバッテリ（−）コードを外し，接続するときは，最後にバッテリ（−）コードを接続してください。
＊ バッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり火を近づけないでください。バッテリは充電中，可燃性ガスが発生し，引火爆発のおそれがあります。

◆ バッテリ液の点検

バッテリは補水不要のタイプを使用しています。上面のインジケータの表示状態により補充電してください。



①インジケータ
②（+）コード
③（−）コード

◆ インジケータの見方

インジケータ表示状態	緑	電解液比重，電解液量共に良好です。
	黒	要充電です。 ６～７ A の普通充電電流で補充充電を行なってください。
	白	交換が必要です。

◆ バッテリの取付け，取外し

警　告

＊ バッテリを取外すときは，バッテリ（−）コードを最初に外し，次に（+）コードを外してください。
＊ 取付けるときは，必ず（+）側から取付けます。逆にすると，工具が当たった場合にショートします。

重　要

＊ バッテリ液が不足するとバッテリを傷め，多過ぎると液がこぼれて車体の金属部を腐食させます。
＊ 新品のバッテリと交換する場合には必ず指定した型式のバッテリを使用してください。

バッテリ型式	80D26R

＊ バッテリを外し，再度取付けるときにはバッテリの（+），（−）のコードを元どおりに配線し，まわりに接触しないように締付けてください。

◆ 補充電のしかた

警　告

＊ バッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり火を近づけないでください。バッテリは充電中，可燃性ガスが発生し，引火爆発のおそれがあります。

1. バッテリは必ず車体から取外して充電してください。電装品の損傷の他に配線などを傷めることがあります。なお急速充電は行なわないでください。
2. バッテリコードを接続するときは，（+）と（−）をまちがえないようにしてください。まちがえるとバッテリと電気系統が故障します。
3. 充電は，バッテリの（+）を充電器の（+）に，バッテリの（−）を充電器の（−）にそれぞれ接続して行なってください。コードの接続をまちがえないように注意してください。

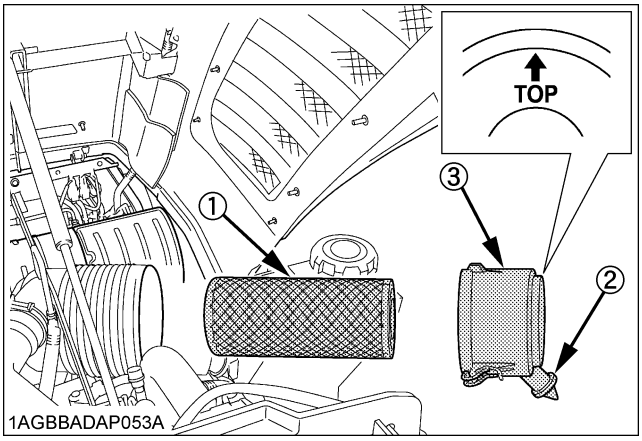
■エアクリーナエレメントの清掃

◆ エレメントの清掃

乾いたちりやほこりの場合は，エレメントを傷めないように注意しながら，エアで吹き飛ばしてください。（エアの圧力は 205 kPa（2.1 kgf/cm²）を越えないように注意し，ノズルとエレメントの間は適当にあけてください。）
エレメントがカーボンや油分で汚れている場合は，中性洗浄剤をご使用ください。

◆ エレメントの交換

エレメントの交換は 1 年間使用後，又は 6 回掃除ごとに交換が必要です。



①エレメント
②バキュエータバルブ
③ダストカップ

重　要

＊ エレメントは，清掃・交換以外は不必要にさわらないでください。
＊ 乾式エレメントを使用していますので，オイルを使用しないでください。
＊ 清掃時，エレメントをたたいて変形させないでください。変形するとほこりがエンジンに侵入し，エンジンを損傷することがあります。変形したときは，すぐに新しいエレメントと交換してください。
＊ ダストカップの（⬆ マーク）を必ず上向きになるように取付けてください。

◆ バキュエータバルブの清掃

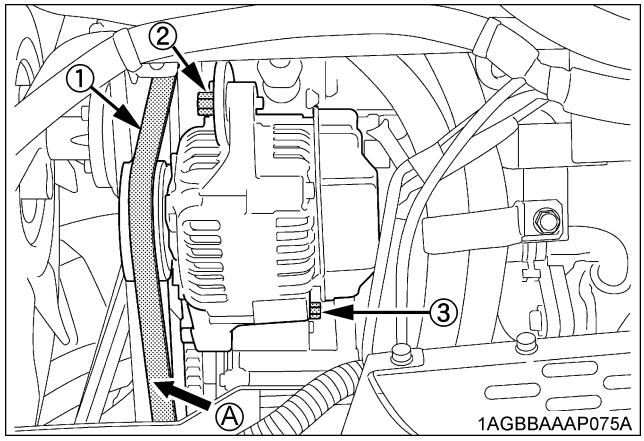
1. 清掃，交換をするときは必ずエンジンを止めて，じゅうぶんに冷えてから行なってください。
2. バキュエータバルブを開き，大きなごみを取除いてください。

■ファンベルトの点検・調整

適正張り強さ	ベルトの中央部を指先で約 69 N（7 kgf）の力で押さえて，約 12 mm たわむ程度

◆ 調整方法

1. オルタネータを取付けているボルトをゆるめて，オルタネータの取付位置を動かして調整します。
2. 調整後はボルトを確実に締付けてください。



①ファンベルト
②ボルト
③ボルト・ナット
Ⓐ“押す”

重　要

＊ ベルトの張りがゆるいと，オーバーヒートや充電不足の原因になります。
＊ き裂やはがれがあれば交換してください。

■ブレーキペダルの点検・調整

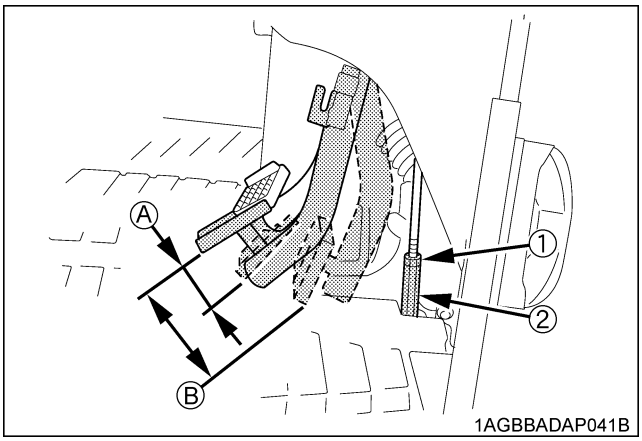
警　告

＊ 点検・調整をするときは，必ずエンジンを止めて行なってください。
＊ ブレーキの調整が悪いと，人身事故にもつながります。常に作動状態に注意してください。
＊ 調整時左右のペダルの踏込み量の差を必ず［5 mm 以内］にしてください。差が大きいとブレーキが片ぎきになります。ブレーキが片ぎきになると，傷害事故を引起こすおそれがあります。

適正遊び量	ペダルで 15 ～ 20 mm

◆ 調整方法

1. 駐車ブレーキを解除します。
2. ロックナットをゆるめターンバックルを回して，ペダルの遊びを調整します。調整後はロックナットを確実に締付けておいてください。
3. ブレーキペダルを踏込んだとき，駐車ブレーキレバーが確実に作動するか確認してください。



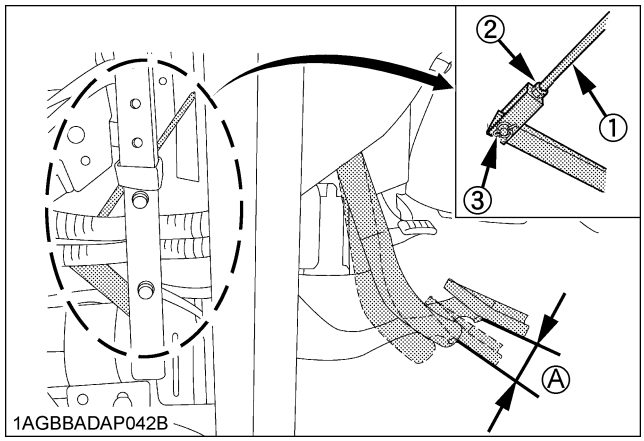
①ロックナット　　**Ⓐ“遊び”**
②ターンバックル　　**Ⓑ“この位置でのペダルの左右差 5 mm 以内”（踏込み量）**

■クラッチペダルの点検・調整

適正遊び量	ペダルで 20 ～ 30 mm

◆ 調整方法

1. ロックナットをゆるめ頭付きピンを外してクラッチロッドで，ペダルの遊びを調整します。
2. 調整後はロックナットを確実に締付け，更に割ピンは確実に折り曲げてください。



①クラッチロッド　　**Ⓐ“遊び”**
②ロックナット
③頭付きピン

重　要

＊ クラッチの調整が悪いと，クラッチ切れ不良，スリップを起こし損傷につながります。

■エキゾーストパイプ及びマフラの状態

エキゾーストパイプ，マフラに破損，取付ボルトのゆるみなどがないか確認してください。
排気音に異常がないか確認してください。

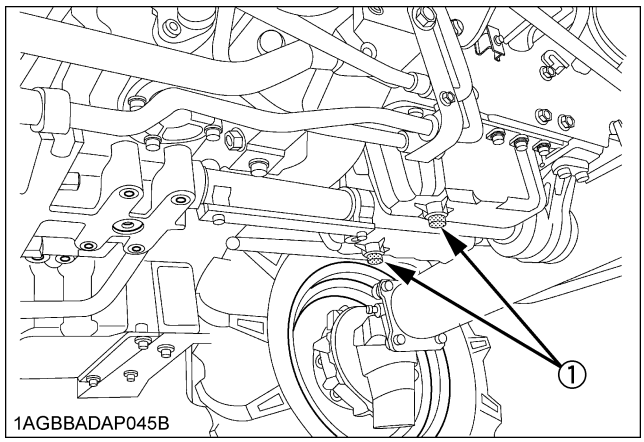
200 時間ごとの点検・整備

■エンジンオイルの交換

警　告

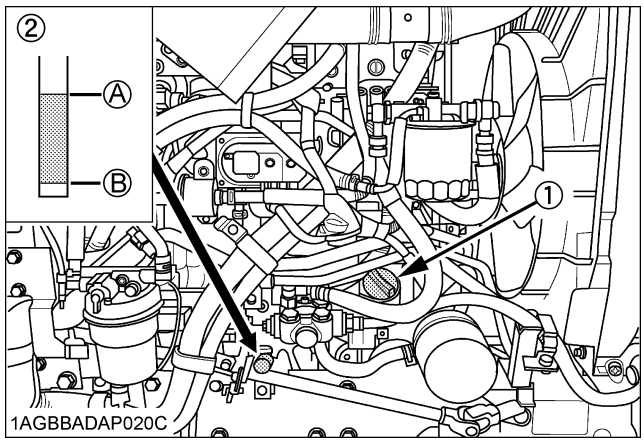
＊ 交換をするときは，必ずエンジンを止めてじゅうぶん冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

1. 床面に容器を置き，ドレーンプラグを外してオイルを排出します。
2. エンジンオイルの排出後は確実にドレーンプラグを締めてください。



①ドレーンプラグ

3. エンジンオイルを給油口から，規定量まで入れてください。
   このときオイルをこぼさないように注意してください。



①給油口　　**Ⓐ“上限”**
②オイルゲージ　　**Ⓑ“下限”**

重　要

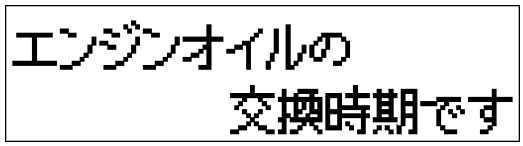
＊ 今まで使用していたオイルと異なるメーカ，あるいは粘度 NO. の異なるものを使用する場合は，オイルを全部排出してから，新しいオイルと交換してください。
注ぎ足し使用は絶対しないでください。
＊ オイルは下記純正オイルを使用してください。

D10W-30 DH-2（DPF 搭載コモンレールエンジン）

＊ 点検するときは，トラクタを水平な場所に置いてください。傾いていると正確な量が示されません。
＊ オイル量はエンジン始動前か，エンジンを止めてから約５分以上たってから点検してください。そうでないと，オイルがまだエンジン各部に残っており正確なオイル量は測れません。

◆ 電子メータメッセージのリセットについて

エンジンオイル交換時，電子メータメッセージのエンジンオイル交換後時間をゼロにリセットしてください。
リセットしておくと，次回のエンジンオイル交換時間に達すると，電子メータメッセージとして



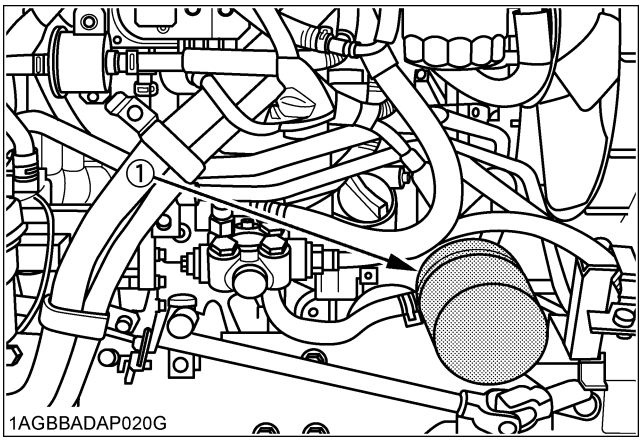
が表示されます。
また，リセットしないと，エンジン始動後５秒間，上記メッセージが表示されます。
（**［運転のしかた］**の章の**［電子メータパネル］**の**［電子メータメッセージのリセット法］**の項を参照。）

■エンジンオイルフィルタカートリッジの交換

警　告

＊ 交換をするときは，必ずエンジンを止めてじゅうぶん冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

1. フィルタレンチでフィルタを取外します。
2. 新しいカートリッジのＯリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で確実に締付けます。
3. エンジンオイルを規定量まで補給します。
4. 約５分間運転し，オイルランプの作動に異常がないか又，油漏れがないか確認してからエンジンを止めます。
5. 再びオイルゲージで油量を確認し，不足していれば補給してください。



①エンジンオイルフィルタカートリッジ

補　足

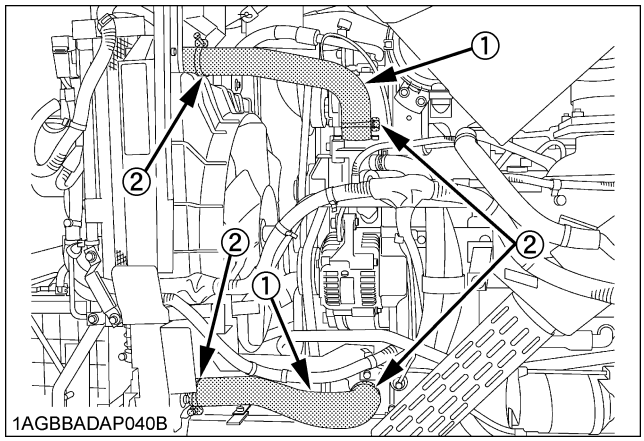
＊ オイルフィルタは，カートリッジタイプです。このオイルフィルタが詰まると，バイパスバルブが作動して，オイル系統からこのオイルフィルタを通らずに送油されるので，ろ過されないオイルで潤滑が行なわれます。これを防ぐため，オイルフィルタの詰まりがないように，規定時間で，新しい純正部品のカートリッジと交換してください。

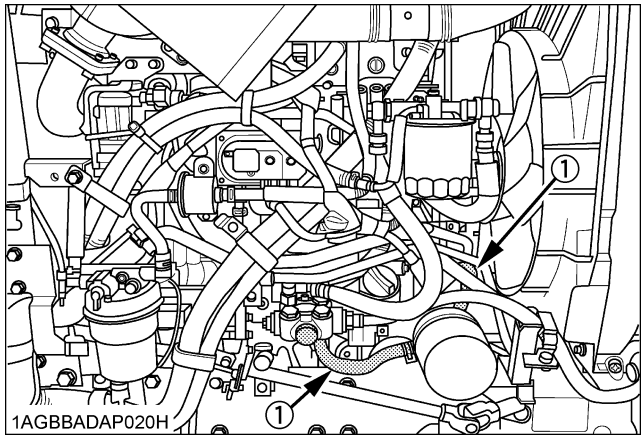
■ラジエータホースの点検

警　告

＊ ラジエータホースの傷みや締付けバンドのゆるみがないか点検してください。異常があれば交換・整備を行なってください。熱湯もれによるヤケドなどの原因になります。

ラジエータホースなどのゴム製品は，使わなくても劣化する消耗品です。締付けバンドと共に２年ごとに又は傷んだときには新品と交換する必要があります。
交換する場合は，購入先で交換及び点検をしてもらってください。

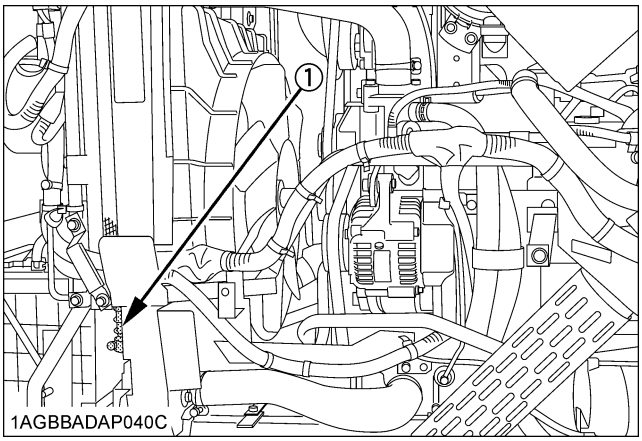




①ラジエータホース
②締付けバンド

■オイルクーラホースの点検

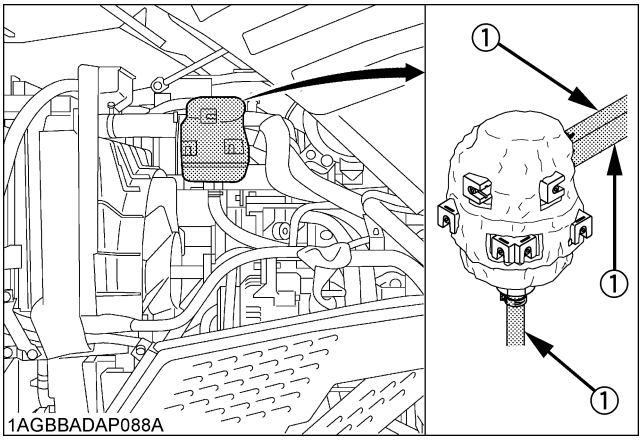
オイルクーラホースなどのゴム製品は，使わなくても劣化する消耗品です。締付けバンドと共に2年ごとに又は傷んだときには新品と交換する必要があります。
ホースが傷んでないか常に注意してください。
交換する場合は，購入先で交換及び点検をしてもらってください。



①オイルクーラホース

■オイルセパレータホースの点検

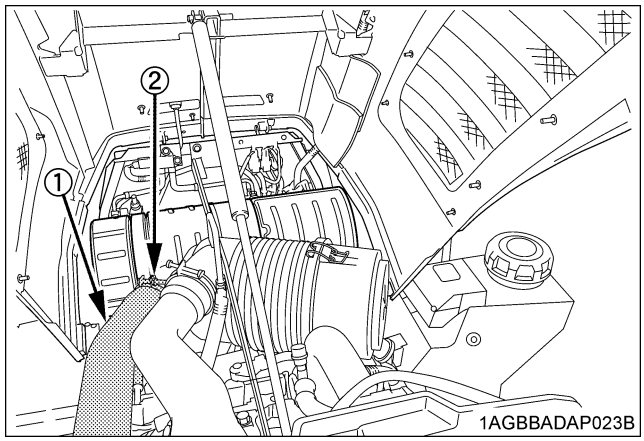
オイルセパレータホースに傷みや締付けバンドのゆるみがないか点検してください。異常があれば交換・整備を行なってください。
交換する場合は，購入先で交換及び点検をしてもらってください。

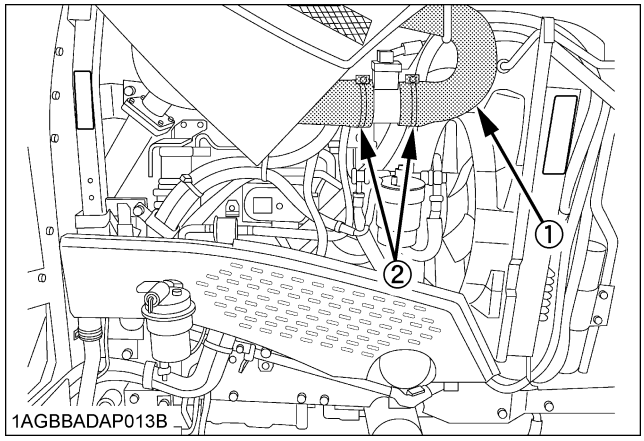


①オイルセパレータホース

■吸気ホースの点検

吸気ホースに傷みや締付けバンドのゆるみがないか点検してください。異常があれば交換・整備を行なってください。
交換する場合は，購入先で交換及び点検をしてもらってください。





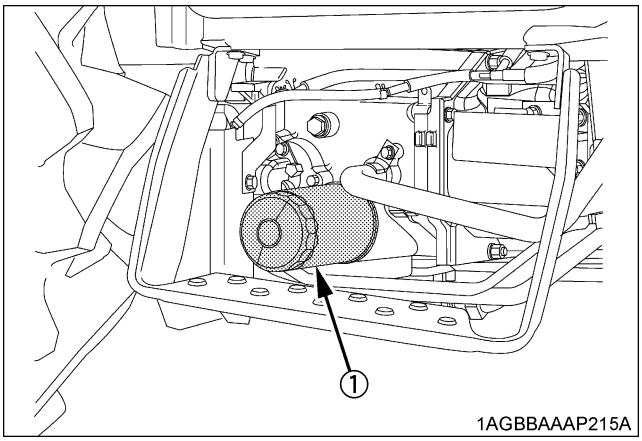
①吸気ホース
②締付けバンド

■トランスミッションオイルフィルタカートリッジの交換

警　告

＊ 交換をするときは，必ずエンジンを止めてじゅうぶん冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

純正部品のカートリッジと交換してください。



①トランスミッションオイルフィルタカートリッジ

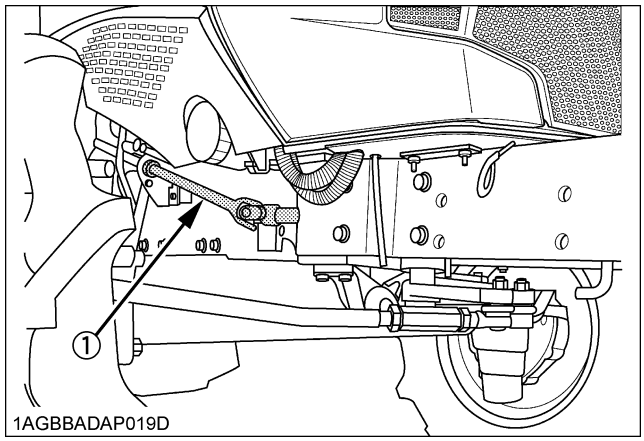
1. オイルフィルタの下部にオイルパン（容器）を受けます。
2. フィルタレンチでフィルタを取外します。（間違って油圧オイルフィルタを外さないでください。外すとトランスミッションオイルが流出します。）
3. 新しいカートリッジのＯリングにオイルを薄く塗布します。
4. フィルタのＯリングが取付け面に接した位置から，フィルタレンチで更に約 3/5 回転増締めします。
5. エンジンを始動し，フィルタ取付け部より油漏れがないか確認してください。
6. エンジンを止め，オイルゲージで油面を確認し，不足していれば補給してください。（**［トラクタの簡単な手入れと処置］**の章の**［400 時間ごとの点検・整備］**の**［ミッションオイルの交換］**の項を参照）

重　要

＊ ミッションオイルやフィルタ交換後，すぐに走行しないでください。数分間低速でエンジンを回し，各部にオイルが行き渡ってから発進してください。

■ステアリングジョイント部の点検

エンジンを停止して，ステアリングジョイントを手でさわって，ステアリングジョイントにガタや変形がないか点検してください。
もし，異常があれば購入先へ点検整備依頼してください。



①ステアリングジョイント

■トーイン調整・タイロッドの点検

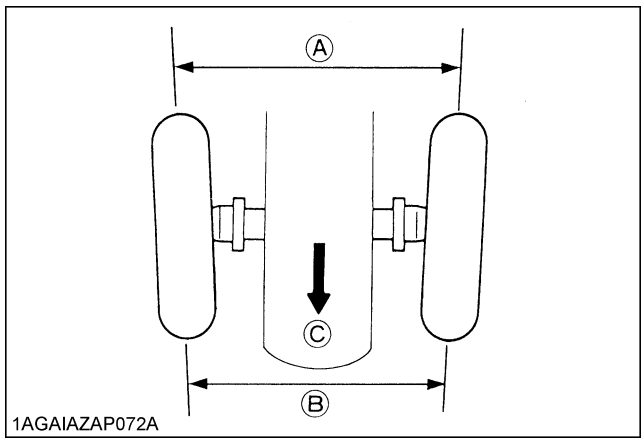
警　告

＊ トーインの調整が悪いと，ハンドルを取られたり，異常に振れることがあります。

◆ 点検

前輪の前幅Ⓑと後幅Ⓐを測り，Ⓐ－Ⓑ＝下記基準値になっているかを調べます。

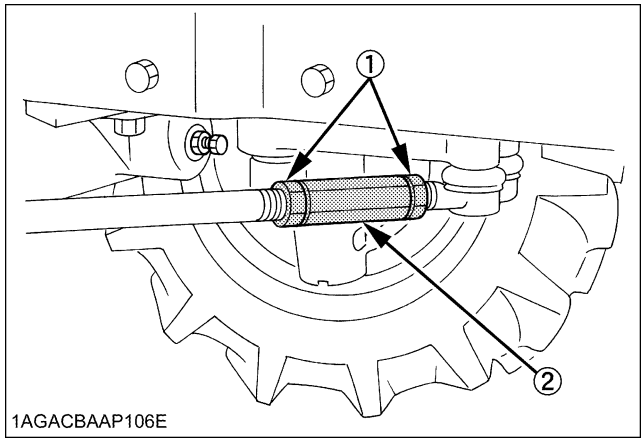
2～8 ㎜



Ⓐ後幅
Ⓑ前幅
Ⓒ前

◆ 調整方法

1. ロックナットをゆるめ，ターンバックルを回して (C) (D)-(A) (B)=2 ～ 8mm
   になるように調整します。
2. 調整後はロックナットを確実に締付けてください。



①ロックナット
②ターンバックル

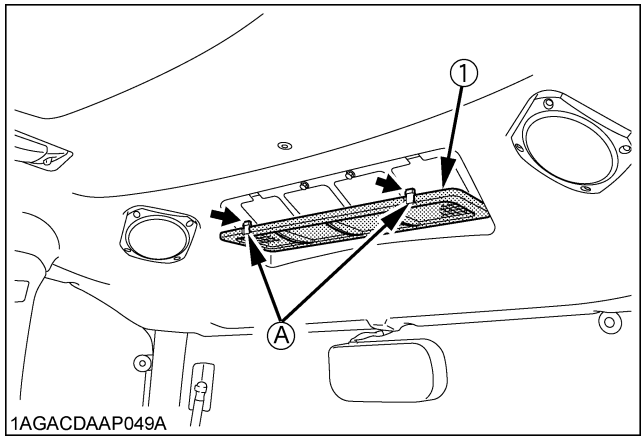
補　足

＊ トーインの点検・調整時，タイロッドエンド(関節球)やリンクに摩耗や変形がないか調べてください。
＊ 標準空気圧で，トーインの点検・調整を行なってください。
＊ 測定はタイヤ高さの 1/2，タイヤ幅の中央部間を測ります。

以下は安全キャブ仕様のみの点検項目です。

■内気フィルタの清掃

フィルタが目詰まりするとエアコンの効率が低下します。フィルタの網目を損傷させないように清掃をしてください。



①内気フィルタ　　Ⓐ“くぼみ”

◆ 内気フィルタの取付け，取外し

●「外し方」

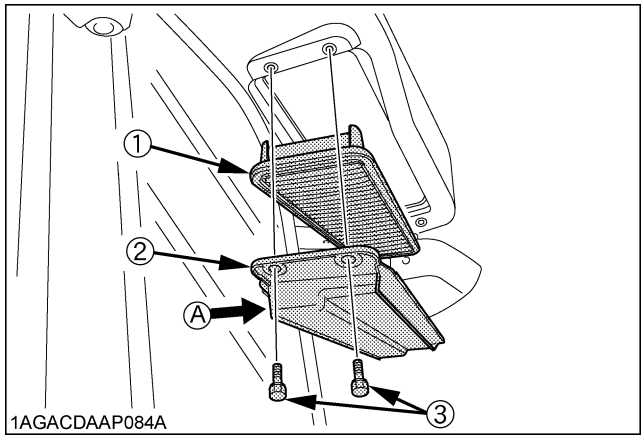
内気フィルタのくぼみを矢印方向に押さえながら外します。

●「取付け方」

差込むとワンタッチで取付けできます。

■外気フィルタの清掃

ノブボルトを外し，カバーとフィルタをいっしょに外します。



①外気フィルタ　　Ⓐ“空気導入口”
②カバー
③ノブボルト

補　足

＊ カバーの空気導入口を内側に向けて組付けてください。

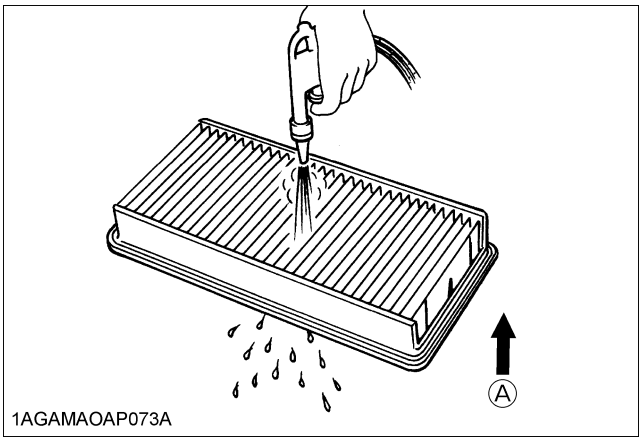
◆ 清掃法

●「通常」

風の流れ方向の逆方向よりエアブローしてください。(エアの圧力は 205kPa (2.1kgf/cm²) を越えないように注意し，ノズルとエレメントの間は適当にあけてください。)

重　要

＊ エレメントをたたかないでください。
エレメントが変形すると，エアコンユニットにほこりが浸入し，エアコンを損傷する場合があります。



Ⓐ“ 風の流れ ”

●「汚れが著しいとき」

家庭用中性洗剤を溶かしたぬるま湯につけて上下左右に動かしながら洗浄し，清水でよくすすいだ後，完全に自然乾燥させてください。

重　要

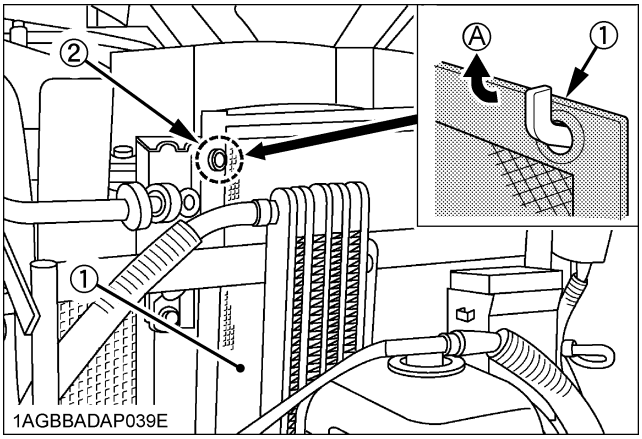
＊ 洗浄にガソリン，シンナなどを使用しないでください。

■エアコンコンデンサの詰まり

警　告

＊ 点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。
＊ エアコン使用時コンデンサやレシーバは熱くなります。じゅうぶん冷えてから点検・清掃を行なってください。

防虫網を外しコンデンサフィンにごみが詰まっていればエアブロー又は水道水などで取除いてください。



①防虫網
②コンデンサ
Ⓐ“ 外す ”

重　要

＊ 高圧洗車機を使用する場合には，コンデンサのフィンを損傷させないように，注意してください。

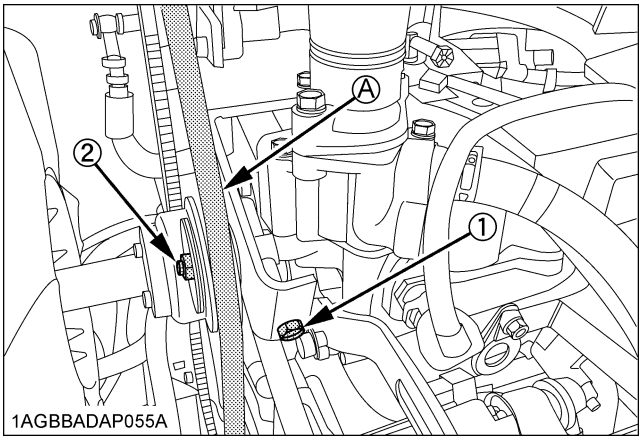
■エアコンベルトの張り

警　告

＊ 点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

適正張り強さ	ベルトの中央部を指先で約 98 N（10 kgf）の力で押えて，10 ～ 12 mm たわむ程度

調整はナットをゆるめ，調整ボルトで張ります。



①調整ボルト　　**Ⓐ“押す”**
②テンションプーリ取付けナット

以下はパワクロ仕様のみの項目です。

■クローラガイドの点検
購入先で点検及び交換をしてもらってください。

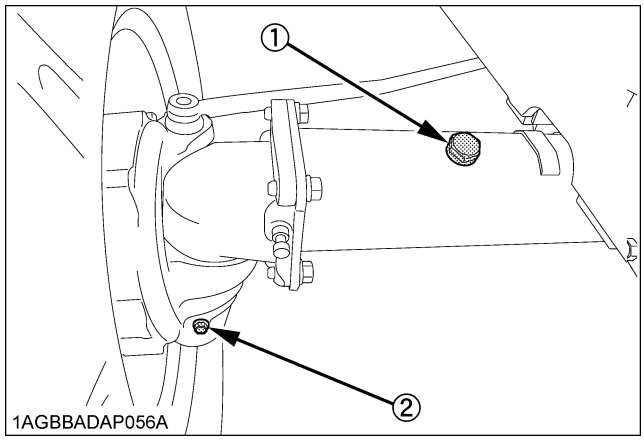
■転輪・遊輪の点検
購入先で点検及び交換をしてもらってください。

■スプロケットの点検
購入先で点検及び交換をしてもらってください。

■ゴムクローラの点検
購入先で点検及び交換をしてもらってください。

300 時間ごとの点検・整備

■前車軸ケースオイルの交換
1. 床面に容器を置き，給油プラグとドレーンプラグを外してオイルを排出します。



①給油口
②ドレーンプラグ

2. ドレーンプラグを締めます。
3. 給油口から新しいオイルを入れてください。
4. 給油プラグを締めます。

補　足

＊ 給油プラグを外さないと空気が入らないので，オイルの排出に時間がかかります。

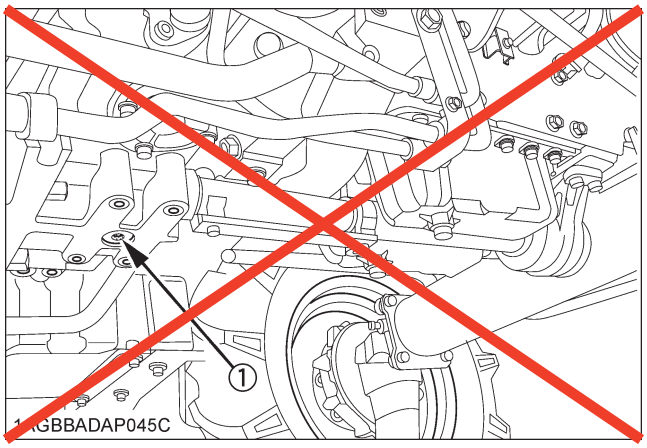
400 時間ごとの点検・整備

■ミッションオイルの交換

警　告

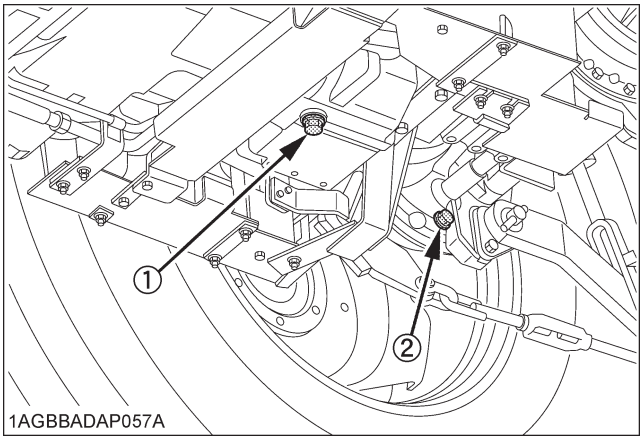
＊ 交換をするときは，必ずエンジンを止めてじゅうぶん冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

1. 床面に容器を置き，給油プラグとドレーンプラグを外してオイルを排出します。
2. ミッションオイルの排出後は確実にドレーンプラグを締めてください。



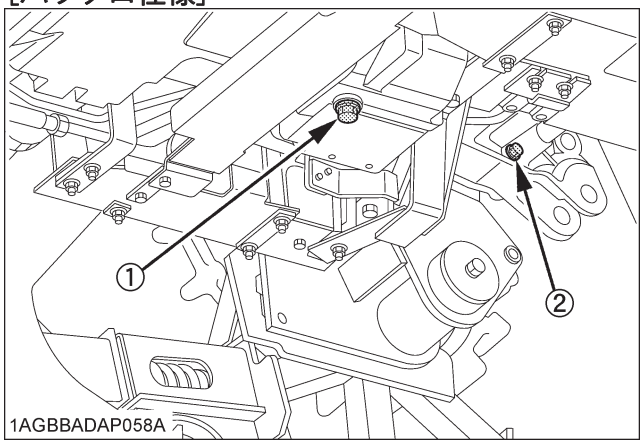
①ドレーンプラグ

[ホイル仕様]



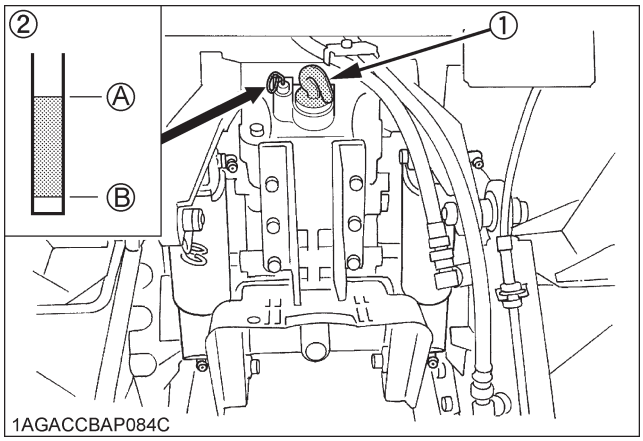
①ドレーンプラグ
②ドレーンプラグ（左右）

[パワクロ仕様]



①ドレーンプラグ
②ドレーンプラグ（左右）

3. ミッションオイルを給油口から，規定量入れてください。



①給油口
②オイルゲージ
Ⓐ" 上限 "
Ⓑ" 下限 "

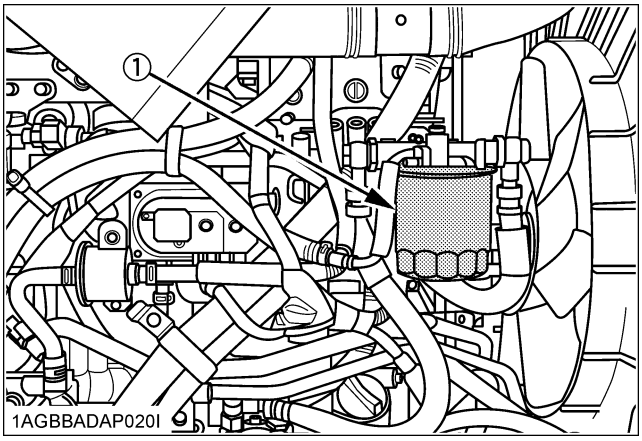
4. エンジンを始動して２～３分運転してから止め，再度油量を点検して規定量まで補給してください。
5. 一度オイルゲージの油をふき取り再びオイルゲージで油面を確認し，不足していれば補給します。作業機（ロータリ）付の場合は，作業機（ロータリ）を下げて確認してください。

重　要

＊ ミッションオイルやフィルタ交換後，すぐに走行しないでください。数分間低速でエンジンを回し，各部にオイルが行き渡ってから発進してください。

■燃料フィルタカートリッジの交換

1. フィルタレンチでフィルタを外してください。
2. 組付けはパッキンに燃料を薄く塗布してからフィルタレンチを使用せず手で確実に締付けてください。
3. 空気抜きを行なってください。
（詳細は**［必要に応じた点検・整備］**の**［燃料の空気抜きのしかた］**の項を参照してください）



①燃料フィルタカートリッジ

重　要

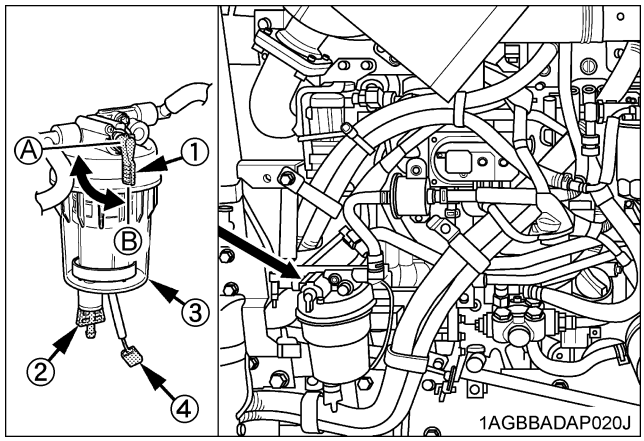
＊ 組付けるときは，チリやホコリが付着しないように注意しましょう。
＊ カートリッジ交換後は，必ず空気抜きをしてください。（詳細は**［必要に応じた点検・整備］**の**［燃料の空気抜きのしかた］**の項を参照してください）

■セパレータの清掃

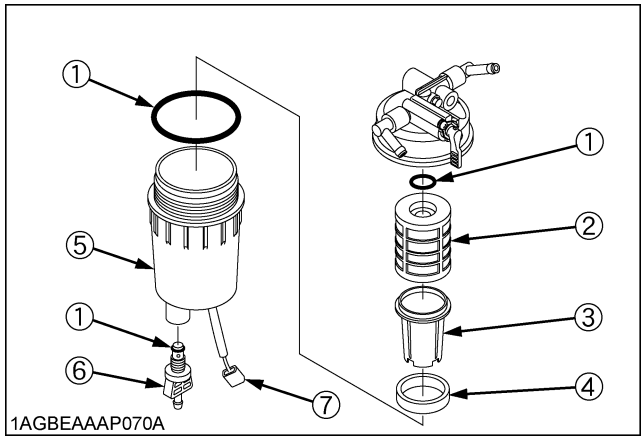
1. 水位センサのコネクタを外してください。
2. 燃料コックを**［閉］**にしてください。
3. 下部ドレーンプラグをゆるめて燃料を排出後カップを外します。
4. カップやエレメントなどを軽油で洗浄します。
5. 下図を参考に元通りに組付けてください。
6. 水位センサのコネクタを取付けてください。
7. 燃料コックを**［開］**にしてください。

重　要

＊ 組付けるときは，チリやホコリが付着しないようにほ場などでは実施せず，きれいな場所で行なってください。
＊ 組付け後コックを**［開］**にし，必ず空気抜きをしてください。
（**［必要に応じた点検・整備］**の**［燃料の空気抜きのしかた］**の項を参照）



①燃料コック
②ドレーンプラグ
③カップ
④水位センサのコネクタ
Ⓐ“閉”
Ⓑ“開”



①Ｏリング
②エレメント
③エレメントカップ
④赤フロート
⑤カップ
⑥ドレーンプラグ
⑦水位センサのコネクタ

600 時間ごとの点検・整備

■前部デフケースの前後遊びの調整

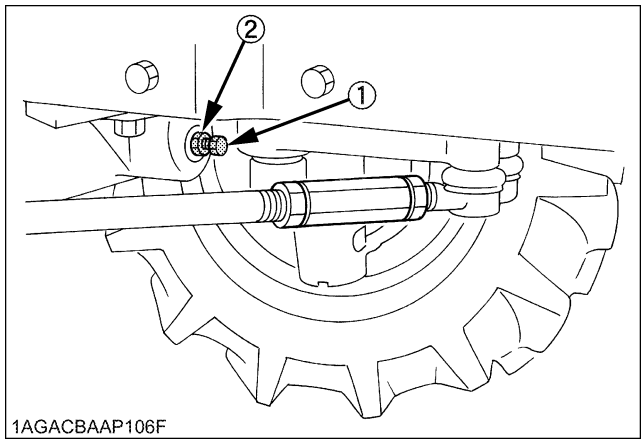
前部デフケース支持部の調整が悪いと，前輪が著しく振れたり，ハンドルに振動が伝わってきます。

◆ 点検

前後方向のガタを点検し，ガタがあれば調整します。

◆ 調整

前輪タイヤ（両輪）を持上げて，ロックナットをゆるめ，調整ボルトを締込みガタを調整します。



①調整ボルト
②ロックナット

800 時間ごとの点検・整備

■エンジンバルブクリアランスの点検

購入先で点検及び交換をしてもらってください。

1500 時間ごとの点検・整備

■燃料インジェクタの点検

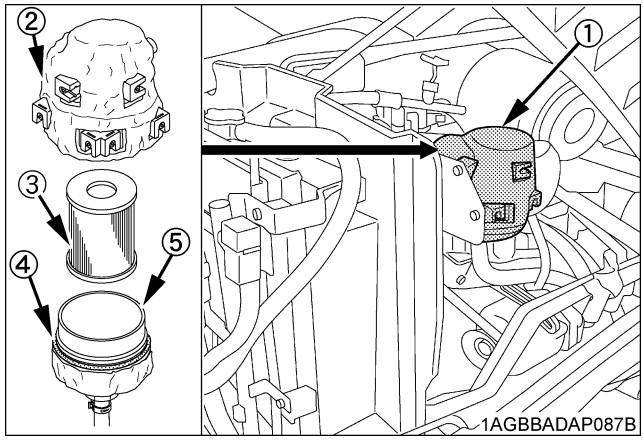
購入先で点検及び交換をしてもらってください。

■オイルセパレータエレメントの交換

警 告

＊ 点検をするときは，必ずエンジンを止めてじゅうぶん冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

1. オイルセパレータエレメントを外し，きれいな布でケース内の油や汚れを拭いてください。
2. 新しいオイルセパレータエレメントを取付けてください。
3. カバーを取付けてください。



①オイルセパレータ
②本体
③オイルセパレータエレメント
④ガスケット
⑤カバー

■ EGR クーラの点検・清掃

購入先で点検及び交換をしてもらってください。

3000 時間ごとの点検・整備

■サプライポンプの点検
購入先で点検及び交換をしてもらってください。

■ EGR システムの点検・清掃
購入先で点検及び交換をしてもらってください。

■ DPF マフラの清掃
◆ 灰（燃えカス）の除去
DPF には灰（燃えカス）が堆積していきます。堆積した灰は DPF の性能を低下させます。購入先で DPF の清掃をしてもらってください。

重　要

＊ DPF は専用機での洗浄が必要です。分解したりせず購入先で専用機による洗浄をしてもらってください。

3 ヵ月ごとの点検・整備

■エアコン機器の簡易点検
当機搭載のエアコン機器は，フロン排出抑制法により３ヵ月に１回以上の簡易点検が義務付けられています。点検を行ない，その記録を残してください。点検記録は，当機を廃棄するまで保存してください。当機を譲渡する場合は，譲渡先に点検記録を渡してください。
冷媒（ガス）の漏えいを発見した場合は，速やかに購入先に漏えい箇所の修理を依頼してください。

1 年ごとの点検・整備

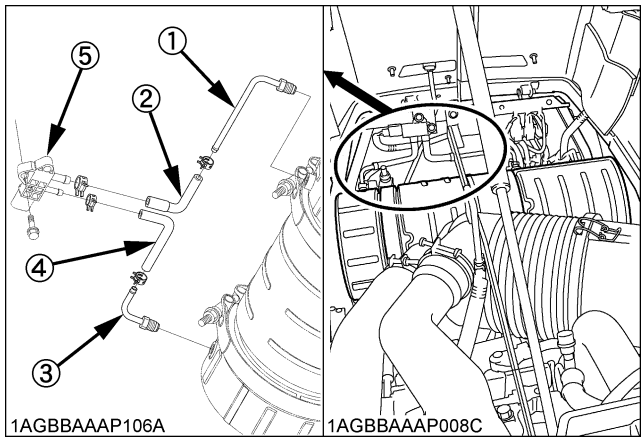
■エアクリーナエレメントの交換
エレメントの交換は１年間使用後，又は６回掃除ごとに交換が必要です。
（**［100 時間ごとの点検・整備］**の**［エアクリーナエレメントの清掃］**の項を参照。）

■ヒータ配管，ウォータホースの点検
各配管及びホースの損傷を点検してください。

■エアコン配管，ホースの点検
各配管及びホースの損傷を点検してください。

■エキゾーストマニフォールドの点検
購入先で点検及び交換をしてもらってください。

■ DPF 差圧センサパイプの点検
購入先で点検及び交換をしてもらってください。



① DPF 差圧センサパイプ１（DPF 入口側）
② DPF 差圧センサホース１（DPF 入口側）
③ DPF 差圧センサパイプ２（DPF 出口側）
④ DPF 差圧センサホース２（DPF 出口側）
⑤ DPF 差圧センサ

■ EGR パイプの点検
購入先で点検及び交換をしてもらってください。

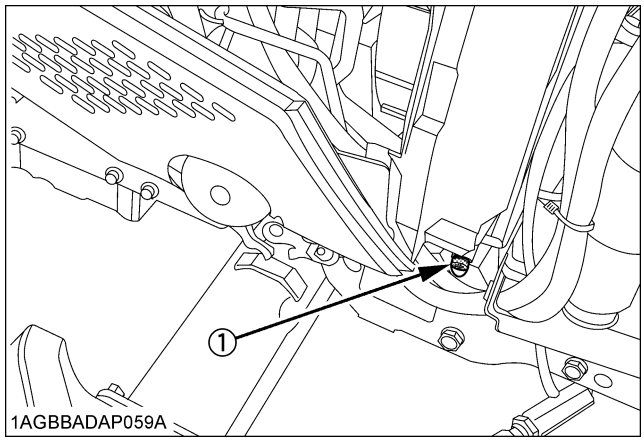
2年ごとの点検・整備

■冷却水の交換

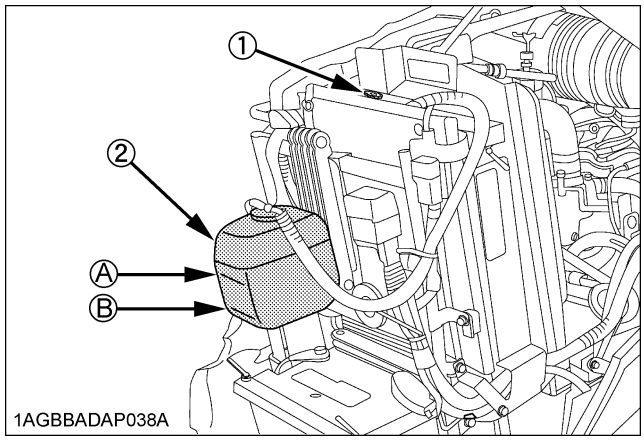
警　告

＊ ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出しヤケドをすることがあります。停止後 30 分以上たって，冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し，余圧を抜いてからキャップを外してください。

1. 容器を置き，ラジエータの排水コックとラジエータキャップを開き，冷却水を全部出します。
2. ポンプなどを用いリザーブタンクより排水します。
3. 水道の水でラジエータ内を洗浄し，排水コックを取付けます。
4. ラジエータ及びリザーブタンクに冷却水を注入したのち，ラジエータキャップを確実に閉めてください。
5. 安全キャブ仕様はヒータに冷却水が循環するため，冷却水が約 1.5L ヒータ部に必要となります。
   冷却水を交換した場合，冷却水をリザーブタンクの注入口まで一杯にし，ヒータ**【ON】**［温度コントロールつまみを**【WARM】**（右端）に回す］にして，しばらくエンジンを回し，冷却水を暖め，エンジンを止めてください。このとき吹出口より温風が出ることを確認してください。温風が出ない場合は購入先にご相談ください。
   冷却水が冷えると，リザーブタンクの冷却水が吸込まれ，リザーブタンクの冷却水が適量になります。



①排水コック



①ラジエータキャップ　　**Ⓐ“上限”**
②リザーブタンク　　**Ⓑ“下限”**

重　要

＊ 冷却水補給後エンジンを運転し，リザーブタンク内の量及びラジエータの給水口のすぐ下まで冷却水があることを確認してください。そうでないと，冷却水の量が不足しエンジンの破損につながるおそれがあります。
＊ 冷却水交換作業では，エアかみをおこす可能性があります。交換時は，購入先にご相談ください。

◆ 不凍液の使い方

不凍液は水の凍結温度を下げる効果をもっており，冷却水凍結によるシリンダやラジエータの損傷を防ぎます。冬期気温が 0 ℃以下になるようなときは，必ず不凍液（ロングライフクーラント）を清水と混合しラジエータ及びリザーブタンクに補給するか又は，冷却水を完全に排水してください。（工場出荷時は，不凍液（ロングライフクーラント）が入っています。）

重　要

＊ 冷却水には，不凍液（ロングライフクーラント）を 50％入れ，よく水と混ぜ合せてからお使いください。
＊ 不凍液の混合比を誤ると，冬期には冷却水の凍結，夏期にはオーバーヒートの原因になります。
＊ 不凍液を使用する場合は，ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので，保浄剤を混入すると沈積物が生成することがあり，エンジン部品に悪影響を与えます。
＊ 不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は２年間です。必ず２年で交換してください。

不凍液の保証不凍結温度

原液混合比（%）	15	20	25	30	35	40	45	50	55
保証不凍結温度（℃）	-5	-8	-11.5	-15	-20	-25	-30	-35	-43

■ラジエータの洗浄

洗浄には，ラジエータ洗浄剤を使用すれば，水アカなどきれいに洗浄できます。
＊ ２年使用ごと
＊ 不凍液を混入するとき
＊ 不凍液混入から水だけに変えるときなどに使用してください。

■ラジエータホースの交換

購入先で交換及び点検をしてもらってください。

■パワーステアリングホースの交換

購入先で交換及び点検をしてもらってください。

■吸気ホースの交換

購入先で交換及び点検をしてもらってください。

■燃料ホースの交換

購入先で交換及び点検をしてもらってください。

■モンローシリンダホースの交換

購入先で交換及び点検をしてもらってください。

■メインシリンダホースの交換

購入先で交換及び点検をしてもらってください。

■オイルクーラホースの交換

購入先で交換及び点検をしてもらってください。

■オイルセパレータホースの交換

購入先で交換及び点検をしてもらってください。

■ DPF 差圧センサホースの交換

購入先で交換及び点検をしてもらってください。

■ブーストセンサホースの交換

購入先で交換及び点検をしてもらってください。

必要に応じた点検・整備

■燃料の空気抜きのしかた

燃料の空気抜きは，次のようなときに行なう必要があります。

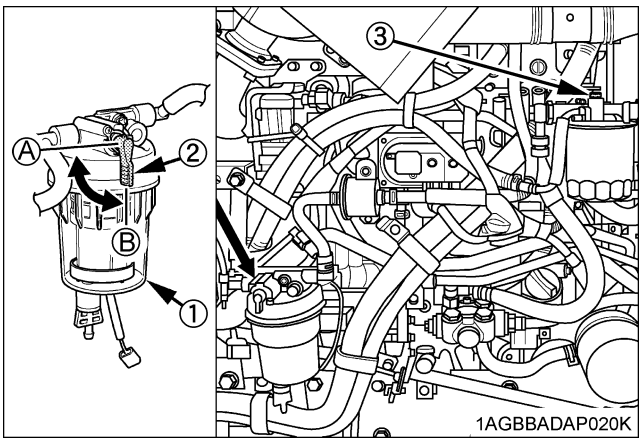
- セパレータより排水及び分解洗浄したとき
- 燃料フィルタ及び配管を取外したとき
- 燃料切れが起きたとき
- トラクタを長時間使用しなかったとき

◆ 空気抜き手順は下表を参考に行なってください。

セパレータより排水及び分解洗浄時 燃料切れによるエンスト及び燃料パイプ類を外したとき トラクタを長時間使用しなかったとき	手順１～７の順に行なう
燃料フィルタ交換時	

◆ 空気抜き手順

1. タンクに燃料を満たし，燃料コックを**【開】**にします。
2. 燃料フィルタの空気抜きプラグを約２回転ゆるめます。



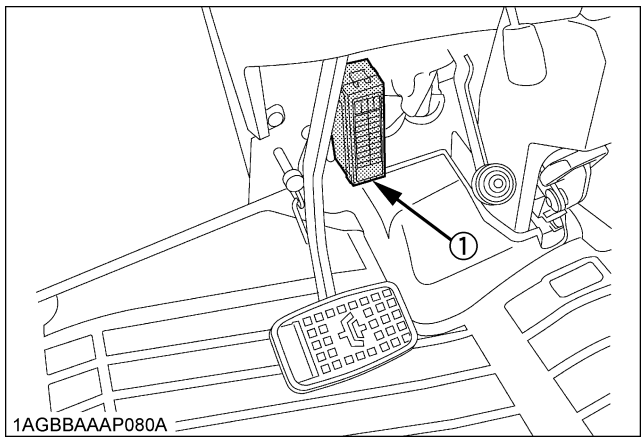
①ウォータセパレータ
②燃料コック
③空気抜きプラグ
Ⓐ“閉”
Ⓑ“開”

3. キースイッチにキーを差込み**【入】**位置にして，約１分間待ってください。
4. 燃料フィルタの空気抜きプラグを締めます。
5. アクセルレバーを低速回転位置でエンジンを始動します。
   （スタータを連続 10 秒間回しても始動しない場合は，30 秒間休み，この操作を再度１～２回繰返します。）
6. 燃料系に残された空気を取出すために，エンジン回転数を上げてください。
7. 以上の操作後，まだ空気が抜けずにエンストする場合は，再度空気抜きを行ないます。

重　要

＊ 燃料フィルタの空気抜きプラグをゆるめないで，空気抜きの操作を行なわないでください。

■ヒューズの交換



①ヒューズボックス

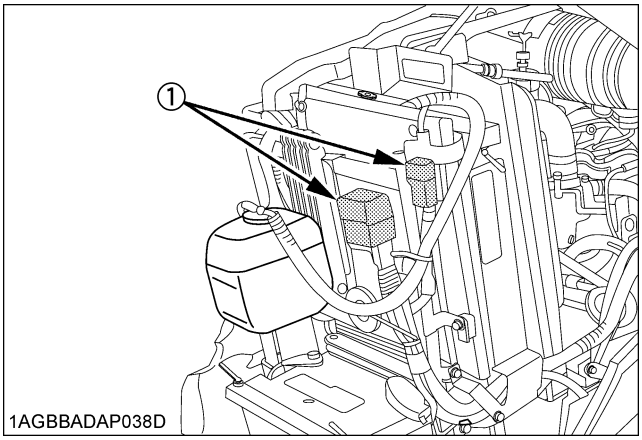
1. ヒューズボックスのふたを外す。
2. ヒューズを外す。
3. 切れたものと同容量のヒューズと交換する。

重　要

＊ ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，針金や銀紙などで代用せず，購入先で点検，修理してください。

■スローブローヒューズの交換

スローブローヒューズは，配線を保護するためのものです。もし切れた場合は，購入先で点検，修理してください。



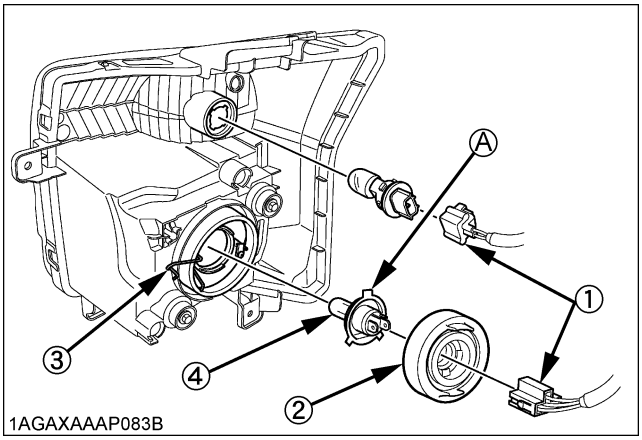
①スローブローヒューズ

■ヘッドランプの交換

警 告

＊ 電球を落としたり，キズをつけたりしないでください。破損した場合，ガラス片が飛散しケガの原因となります。
特にハロゲン電球は，ガラス内部の圧力が高いため，注意してください。
＊ 電球を交換する時は，じゅうぶん冷えてから行なってください。
ヤケドの原因となることがあります。

1. コネクタを抜き，ゴムブーツを外します。
2. 電球固定金具を解除し，電球を外します。



①コネクタ
②ゴムブーツ
③固定金具
④電球

Ⓐ “幅の広い突起部を上側に向け組み付ける”

重 要

＊ ワット数の大きい電球を取付けないでください。
＊ 素手でガラス面を触らないでください。指紋や油脂が付着すると電球が破損するおそれがあります。

■ランプ一覧

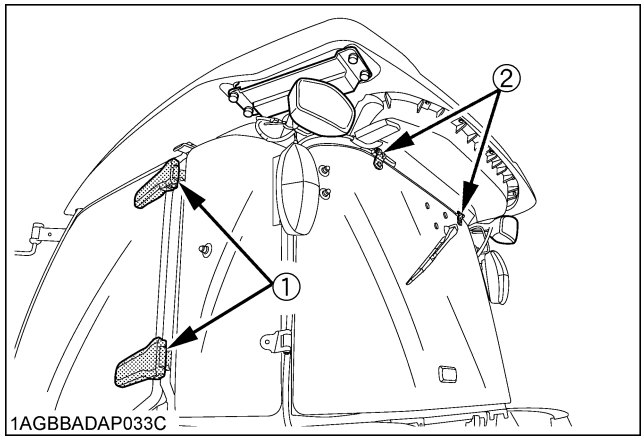
ヘッドランプ	60/55W	作業灯	35W
ウインカランプ(前)	21W	作業灯(ヘッドライト横)	21W
ウインカランプ(後)	21W	尾灯 / ブレーキランプ	5W/21W
車幅灯	5W	バックランプ	21W

■ホーン接点のグリース塗布

ハンドルのホーン接点用グリースが切れると，ハンドルを回したときに音が鳴ります。もし音が鳴っている場合は，購入先で点検及びグリースを塗布してもらってください。

以下は安全キャブ仕様のみの点検項目です。

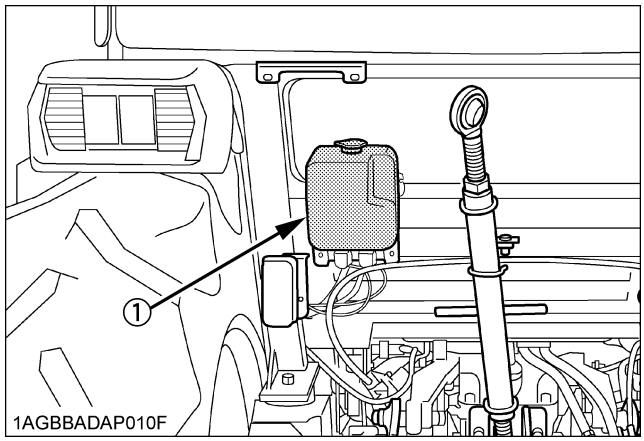
■注油



①ドアヒンジ部
②リヤウインドヒンジ部

■ウォッシャ液の補充

自動車用ウォッシャ液を適量補充してください。



①ウォッシャタンク

重　要

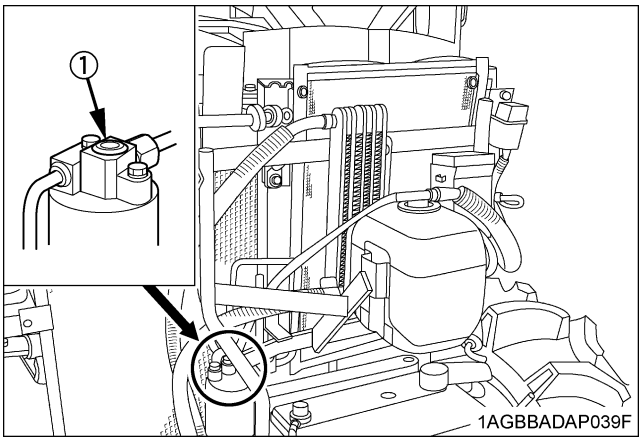
* 凍結を避けるため，清水のみの使用はしないでください。
* 空回しはポンプを損傷させる原因となりますので空運転をしないでください。
* ウォッシャノズルの詰まりを防ぐために，ごみが入らないようにしてください。

■冷媒（ガス）量の点検

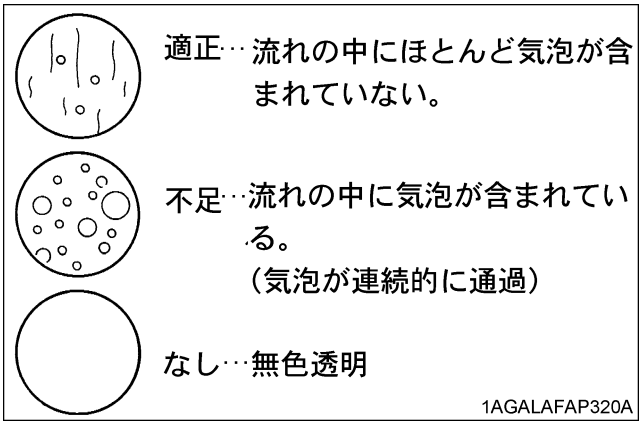
冷媒が不足するとエアコンの冷えが悪くなります。
下記要領で点検し，冷媒が不足しているときは，速やかに購入先に漏えい箇所の修理を依頼してください。

◆ 点検方法

1. エアコンを以下の条件で運転します。
＊ ドアの全開
＊ 周囲の空気温度　　：30 ～ 35 ℃
＊ エンジン回転数　　：約 1500rpm
＊ 温度コントロール　　：最強冷位置（左端）
＊ ファンスイッチ　　：最強風
＊ 内外気切換え　　：内気循環
＊ エアコンスイッチ　　：入（ランプ点灯）
2. サイトグラスにより，冷凍サイクルを流れている冷媒の状態を確認する。



①サイトグラス



以下はパワクロ仕様のみの項目です。

■スプロケットの交換

購入先に連絡して交換してください。

■ゴムクローラの交換

購入先に連絡して交換してください。

補　足

＊ ゴムクローラ交換後，ゴムがなじむまでの間ゴムクローラの張りがゆるみやすくなるので，必要に応じてクローラの張りの点検と調整を行なってください。
＊ オイル，オイルシール，クローラガイド，スプロケット及びゴムクローラ交換要領の詳細については，購入先にご相談ください。

格納

■長期格納時の手入れ

警　告

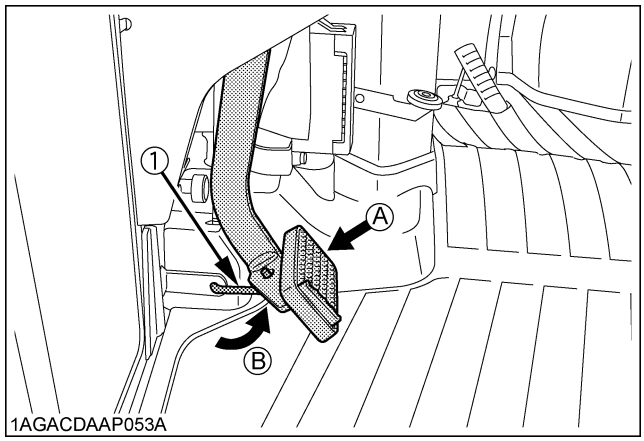
＊ 長期格納時は，クラッチ固着防止のため，クラッチ［切］に固定してください。クラッチが固着するとエンジン始動と同時に車体が動くことがあります。
＊ シートをかける場合は，マフラやエンジン自体の冷却状態を確認してからにしてください。火災を起こす原因になります。

トラクタを長い間使用しない場合は，次の要領で整備してから格納しましょう。

1. 不具合箇所は整備してください。
2. エンジンオイルを交換し，2000 rpm 以上で 10 ～ 15 分間の防錆運転をし，各部にオイルをゆきわたらせてください。
   その後も１～２か月ごとに同様に防錆運転をしてください。
3. 定期点検一覧表の項目を確認するようにしてください。
4. 車体のさびやすい部分には，グリースかオイルを塗っておいてください。
5. 周囲の安全を確認した後エンジンを始動させ，各油圧シリンダの防錆運転を１～２ヶ月ごとに行なってください。
   (1) ステアリングハンドルを左右にパワーステアリングシリンダがストロークエンドに達するまで１～２回まわす。
   (2) 油圧（ポジション）レバーで三点リンク(作業機)を最上昇位置まで１～２回上下させる。
   (3) モンロー手動スイッチ又は角度調整ダイヤルで，リフトシリンダ（右）を１～２回全ストローク伸縮させる。(作業機が装着されているときは作業機を上げてから行なってください)
6. 燃料コックを**［閉］**にしておいてください。
7. 冷却水は抜いておいてください。但し，オールシーズンタイプのクーラントであれば抜かなくても構いません。
8. クラッチペダルは，クラッチ板のさび付きによりクラッチが切れなくなる場合がありますので，クラッチを踏込んだ状態で必ずロックしてください。
9. クラッチハウジング底のドレーンプラグを外して，水が浸入していないことを確認してください。
10. タイヤの空気圧は，標準より少し多めにしてください。
11. バッテリを本機から取外し風通しの良い冷暗所に保管してください。またトラクタに取付けたまま保管するときは必ずアース側(－側)を外してください。
12. ウエイトは取外し，作業機は，外すか地面に降ろした状態にしてください。
13. 後輪の前後に車止めをしておいてください。
14. 各部の配線・バッテリコード・燃料配管などのキレツ・被覆の破れ・コードクランプの外れは，確実に点検・整備してください。
15. 格納中バッテリは，１か月に１回充電器で完全充電するようにしましょう。
16. 格納場所は，周囲にわらなど燃えやすいものがない雨のかからない乾燥した場所を選定し，シートをかけるようにしましょう。
17. 燃料は満タンにしてください。空にしておくと水滴ができ，燃料系統の故障の原因になります。

◆ クラッチ［切］保持の方法

(1) クラッチペダルをいっぱい踏込み，**［ロック］**します。
(2) ロックしたまま，クラッチペダルから足を離します。これでクラッチは，**［切］**の状態で保持されます。
(3) 使用するときは，クラッチペダルをいっぱい踏込めば，**［ロック］**が外れ，**［切］**保持の状態が解除されます。



①ロック金具　　**Ⓐ“踏む”**
Ⓑ“ロック”

重　要

＊ クラッチペダルをロックせずに長期保管した場合，クラッチ板のさび付きにより，クラッチが切れなくなるだけでなくクラッチが損傷する場合があります。
＊ 洗車するときは，以下の点に注意して行なってください。
(1) エンジンを止めてから行なってください。もしエンジンをかけて行なうときはエアクリーナの吸入口から水が入らないよう注意してください。もし水が入ると故障の原因となります。
(2) 灯火類は消灯した状態で行なってください。もし点灯した灯火類に直接水がかかるとランプのバルブが切れるおそれがあります。
(3) 高圧洗車機を使用するときは，ノズルの先端をドア，リヤウインドなどに近づけすぎないでください。近づけすぎると水圧が高いため，室内に水が入るおそれがあります。**[安全キャブ仕様]**
＊ 格納時は，必ず**[切]**の位置でキーを抜いておいてください。
＊ バッテリの取付けの際には，(+)と(−)をよく確認し，絶対に逆に接続しないでください。逆に接続すると，トラクタの電子機器類が破損する場合があります。

■作業機を装着しているトラクタの保管について

警　告

＊ トラクタ保管の際は，作業機を取外すか必ず地面に降ろした状態で保管してください。作業機の自然落下などによる挟まれのおそれがあります。

重　要

＊ 作業機を装着している場合は，作業機を取外すか必ず地面に降ろした状態で保管してください。落下による器物破損やトラクタ作業機昇降装置の故障の原因となります。

■長期格納後の運転

◆ エアコン

重　要

＊ オートエアコン付トラクタで長期放置（１ヶ月以上）後，オートエアコンを使用する場合は，コンプレッサ保護のため，必ず**エンジンアイドリング**にて風量切替スイッチ**[LO]**，A/C スイッチ**[ON]**にし，５分以上 A/C を作動させてください。
(AUTO スイッチでの起動ではコンプレッサが作動しない場合があります。)

不調と処置

■エンジンの不調と処置

もしエンジンの調子が悪い場合があれば，次の表により診断し，適切な処置をしてください。

現　象	原　因	処　置
始動困難な場合	1. 燃料が流れない。	● 燃料タンクを点検し，沈殿している不純物や水分を除く。 ● 燃料フィルタを点検し，汚れていれば交換する。
	2. 燃料送油系統に，空気や水が混入している。	● ホース・プラグ・袋ナット及び締付けバンドを点検し，ゆるみがあれば締め，損傷があれば新品と交換又は補修しておく。 ● 空気抜きをする。 （**［トラクタの簡単な手入れと処置］**の章の**［燃料の空気抜きのしかた］**の項を参照）
	3. 寒冷時にオイル粘度が高く，エンジン自体の回転が重い	● ラジエータに熱湯をそそぐ。
	4. バッテリがあがり気味で，回転力が弱くなって圧縮を越す勢いがない。	● バッテリを充電する。
出力不足の場合	1. 燃料不足	● 燃料を補給する。 ● 燃料系統を調べる。（特に空気混入に注意）
	2. 燃料の流れ不足	● 燃料フィルタの清掃をする。
	3. エアクリーナの目詰まり	● エレメントを清掃する。
突然停止した場合	1. 燃料不足	● 燃料を補給する。 ● 燃料系統を調べる。（特に空気混入に注意）
	2. 燃料が流れない	● 燃料フィルタを点検し，汚れていれば交換する。
排気色が異常に黒い場合	1. 燃料が悪い。	● 良質の燃料に交換する。
	2. エンジンオイルの入り過ぎ	● 正規のオイル量にする。
	3. エアクリーナの目詰まり	● エレメントを清掃，又は交換する。
水温計がＨ付近を示すとき	1. 冷却水が 125 ℃付近になったため。	● 冷却水の量（不足）及び水もれの点検 ● ファンベルトの張り（ゆるみ）の点検 ● フロントグリル，ラジエータの防虫網にごみの詰まりがないか点検する。
始動時青白煙が消えない。	1. 前の作業が長時間にわたるアイドリング運転で終わっている場合，又は冷機時アイドリング運転の繰返しであった場合，マフラ内部に湿りが残っている。	● 負荷をかけてマフラをじゅうぶんに加熱する。冷機時アイドリング運転の繰返し，及び，長時間にわたるアイドリング運転は極力避ける。
	2. インジェクタ不良	● インジェクタを点検する。
	3. 燃料不良	● 良質の燃料に交換する。

現　象	原　因	処　置
エンジン異常警告灯が点灯する	—	● いったんエンジンを止め，再始動を行なってください。 ● エンジンが再始動できない場合や警告灯が消灯しない場合，購入先へご相談ください。 ● 警告灯が点灯時，エンジンの故障箇所により下記現象が現れます。 ＊ エンジンが突然止まった。 ＊ エンジンが再始動できない。または始動してもすぐ止まる。 ＊ エンジン出力が充分でない。 ＊ エンジン出力は充分あるが，警告灯が点灯する。 ＊ エンジン回転がアイドリングから上がらない。

☆わからない場合は，購入先にご相談ください。

■トラクタの故障と処置

異常が生じた場合，電子メータに異常箇所を示す下記メッセージが表示されます。
もし表示された場合，すぐ購入先に連絡して点検・整備を受けてください。
なお，故障箇所によっては緊急避難処置として一部使用制限をした使い方ができる場合もあります。詳細はメッセージと処置の欄を確認してください。

[エンジン]

電子メータメッセージの表示	原　因	処　置
エンジン停止します　レール圧確認 購入先へ連絡して下さい	レール圧の異常	[回転制限] 3 分後エンジン停止します。すみやかに停車し,購入先に連絡してください。
エンジン　水温センサ確認 購入先へ連絡して下さい	水温センサの異常	[回転制限] EGR 停止します。購入先に連絡してください。
エンジン停止します レール圧センサ確認 購入先へ連絡して下さい	レール圧センサの異常	[回転制限] 3 分後エンジン停止します。すみやかに停車し,購入先に連絡してください。
エンジン　インジェクタ確認 購入先へ連絡して下さい	インジェクタの異常	[回転制限･レール圧制限(出力制限)（故障状態によって3 分後エンジン停止)] すみやかに停車し,購入先に連絡してください。
エンジン　グローリレー確認 購入先へ連絡して下さい	グローリレーの異常	[グロー常時通電] 購入先に連絡してください。
エンジン EGR バルブ確認 購入先へ連絡して下さい	EGR バルブの異常 EGR DC モーターの異常 EGR リフトセンサの異常	[回転制限･レール圧制限(出力制限)] 購入先に連絡してください。
バッテリ電圧確認 高電圧を検出	バッテリ電圧の異常	[回転制限･レール圧制限(出力制限)・EGR 停止] 購入先に連絡してください。
エンジン ECU 確認 購入先へ連絡して下さい	エンジン ECU の異常 エンジン ECU の通信異常	[回転制限，またはエンジン停止] すみやかに停車し,購入先に連絡してください。
エンジン停止します エンジン SCV 確認 購入先へ連絡して下さい	SCV の異常	[エンジン停止] すみやかに停車し,購入先に連絡してください。
エンジン メインリレー確認 購入先へ連絡して下さい	エンジンメインリレーの異常	購入先に連絡してください。

電子メータメッセージの表示	原　因	処　置
エンジン　レール PLV 確認 購入先へ連絡して下さい	レール PLV の異常	[エンジン停止] すみやかに停車し,購入先に連絡してください。
エンジン　排気温センサ確認 購入先へ連絡して下さい	排気温センサの異常	[出力制限またはエンジン停止] すみやかに停車し,購入先に連絡してください。
エンジン　フィルタ差圧センサ確認 購入先へ連絡して下さい	フィルタ差圧センサの異常	[出力制限] 購入先に連絡してください。
エンジン 吸気スロットルバルブ確認 購入先へ連絡して下さい	吸気スロットルバルブの異常 吸気スロットルセンサの異常	[出力制限] 購入先に連絡してください。
エンジン MAF センサ確認 購入先へ連絡して下さい	MAF センサの異常	[出力制限] 購入先に連絡してください。
エンジン　NE センサ確認 購入先へ連絡して下さい	NE センサの異常	[出力制限] 購入先に連絡してください。
エンジン　センサ電源線確認 購入先へ連絡して下さい	エンジンセンサ電源ラインの異常	[出力制限] 購入先に連絡してください。
フィルタ目詰まり警告 購入先へ連絡して下さい	PM蓄積量が再生レベル４又は５を超えた時	[出力制限] すみやかに停車し,購入先に連絡してください。

[標準仕様（前進 24 段仕様）トランスミッション]

電子メータメッセージの表示	原　因	処　置
主変速レバーセンサ確認 購入先へ連絡して下さい	変速レバーセンサの異常	エンジン停止までは変速を保持します。すみやかに停車し，購入先に連絡してください。
シフトソレノイド１確認 １，２，９速不可	ソレノイド１の異常	シフトソレノイド異常が発生すると，変速レバー位置はそのままでも自動的に使用可能な変速段，あるいはニュートラルに変速します。自動的に変速した変速段を表示しますので，変速段表示に注意して使用し，すみやかに購入先に連絡してください。
シフトソレノイド２確認 ３，４，10 速不可	ソレノイド２の異常	
シフトソレノイド３確認 ５，６，11 速不可	ソレノイド３の異常	
シフトソレノイド４確認 ７，８，12 速不可	ソレノイド４の異常	
副変速ソレノイド確認 １～８速不可	副変速ソレノイドの異常	
H/L ソレノイド確認 １，３，５，７速不可	Hi-Lo ソレノイドの異常	
バルブ（GST，PRO）確認 購入先へ連絡して下さい	U シフト圧力バルブの異常	購入先に連絡してください。

[ハイスピード仕様（前進 30 段仕様）トランスミッション]

電子メータメッセージの表示	原　因	処　置
主変速レバーセンサ確認 購入先へ連絡して下さい	変速レバーセンサの異常	エンジン停止までは変速を保持します。すみやかに停車し，購入先に連絡してください。
シフトソレノイド１確認 １，２，９速不可	ソレノイド１の異常	シフトソレノイド異常が発生すると，変速レバー位置はそのままでも自動的に使用可能な変速段，あるいはニュートラルに変速します。自動的に変速した変速段を表示しますので，変速段表示に注意して使用し，すみやかに購入先に連絡してください。
シフトソレノイド２確認 ３，４，10 速不可	ソレノイド２の異常	
シフトソレノイド３確認 ５，６，11 速不可	ソレノイド３の異常	
シフトソレノイド４確認 ７，８，12 速不可	ソレノイド４の異常	
副変速ソレノイド確認 １～８速不可	副変速ソレノイドの異常	
H/L ソレノイド確認 １，３，５，７速不可	Hi-Lo ソレノイドの異常	
OD ソレノイド確認 ９～ 12 速不可	OD ソレノイドの異常	
H/L ソレノイド確認 ３，５速不可	Hi-Lo ソレノイドの異常	
シフトソレノイド１確認 １速不可	ソレノイド１の異常	
シフトソレノイド２確認 ２速不可	ソレノイド２の異常	
シフトソレノイド３確認 ３，４速不可	ソレノイド３の異常	
シフトソレノイド４確認 ５，６速不可	ソレノイド４の異常	
バルブ（GST，PRO）確認 購入先へ連絡して下さい	U シフト圧力バルブの異常	購入先に連絡してください。

[モンローオート]

電子メータメッセージの表示	原　因	処　置
スイッチボックス確認 購入先へ連絡して下さい	MAスイッチボックス信号の異常	購入先に連絡。
リフトアームセンサ確認 3P 手動モードで操作できます	リフトアームセンサの異常	高さ規制ダイヤルを**[3P 手動]**にし，モンロー手動スイッチで作業機を操作する。
ポジションセンサ確認 3P 手動モードで操作できます	ポジションセンサの異常	
ストロークセンサ確認 モンロー手動スイッチで操作できます	ストロークセンサの異常	モンロースイッチを**[切]**にし，モンロー手動スイッチで作業機を平行にする。
カバーセンサ確認 E オートで使用できます	カバーセンサの異常	オートスイッチを**[E オート]**に切換えて使用する。
オートソレノイド確認 購入先へ連絡して下さい	3P ソレノイドの異常	購入先に連絡。 (作業機が昇降できない)
モンローソレノイド確認 購入先へ連絡して下さい	モンローソレノイドの異常	モンロースイッチを**[切]**にして使用する。
耕深調節確認 油圧レバーで操作できます	耕深調節の異常	オートスイッチを**[切]**にし，油圧レバーで作業機を操作する。
モンロー角度調節確認 モンロー手動スイッチで操作できます	モンロー角度調節の異常	モンロースイッチを**[切]**にし，モンロー手動スイッチで作業機を平行にする。
ST センサ確認 購入先へ連絡して下さい	ST センサの異常	モンロースイッチを**[切]**にし，モンロー手動スイッチで作業機を平行にする。
高さ規制確認 購入先へ連絡して下さい	高さ規制の異常	購入先に連絡。
ポンパスイッチ確認 油圧レバーで操作できます	ポンパの異常	油圧レバーで作業機を操作する。
PTO スイッチ確認 購入先へ連絡して下さい	PTO スイッチの異常	購入先に連絡。

[AD 倍速]

電子メータメッセージの表示	原　因	処　置
切れ角センサ確認 AD倍速･オートアップが使用できません	切れ角センサの異常	走行モード切換スイッチを**[2WD 又は 4WD]**に切換える。オートアップスイッチを**[切]**にする。
2WD ソレノイド確認 2WD・倍速が使用できません	2WD ソレノイドの異常	走行モード切換スイッチを**[4WD]**に切換える。
倍速ソレノイド確認 倍速が使用できません	倍速ソレノイドの異常	走行モード切換スイッチを**[2WD 又は 4WD]**に切換える。
AD ソレノイド（右）確認 AD（右）が使用できません	AD ソレノイド（R）の異常	走行モード切換スイッチを**[2WD, 4WD 又は倍速]**に切換える。
AD ソレノイド（左）確認 AD（左）が使用できません	AD ソレノイド（L）の異常	

[その他]

電子メータメッセージの表示	原　因	処　置
PTO ソレノイド確認 購入先へ連絡して下さい	PTO 圧力バルブの異常	購入先に連絡。
通信確認 購入先へ連絡して下さい	通信回線の異常	表示切換スイッチで表示モードを切換える。購入先に連絡。
ハーネス（赤白線）確認 購入先へ連絡して下さい	センサ電源ラインの異常	購入先に連絡。 (アイドリングになります)
ECU 確認 購入先へ連絡して下さい	ECU の異常	購入先に連絡。
スタータリレー確認 購入先へ連絡して下さい	スタータリレーの異常	購入先に連絡。
シャトルスイッチ確認 購入先へ連絡して下さい	シャトルの異常	購入先に連絡。
アクセルセンサ確認 購入先へ連絡して下さい	アクセルセンサの異常	購入先に連絡。 (アイドリングになります)

付表

主要諸元

■トラクタの主要諸元

型式				GJE33	GJE33H
仕様				標準仕様	ハイスピード仕様
駆動方式				４輪駆動	
機体寸法	全長		mm	3190	
	全幅		mm	〈1390〉 1445	
	全高		mm	[1980]〈1955〉 2185	
	軸距		mm	1745	
	輪距	前輪	mm	1130	
		後輪	mm	〈1090, 1350〉 1110, 1330	
	最低地上高		mm	〈300〉 330	
質量(重量)			kg	[1415]〈1360〉 1590	[1425]〈1370〉 1600
エンジン	機関型式			D1803-CR-E4	
	形式			水冷４サイクル３気筒立形ディーゼル	
	総排気量		L	1.826	
	出力／回転速度		kW(PS)/rpm	24.3(33)/2600	
	使用燃料			ディーゼル軽油	
	燃料タンク容量		L	40	
	始動方式			セルモータ式（グロープラグ式）	
	バッテリ			80D26R	
タイヤ	前輪			〈7-16〉 8-16	
	後輪			〈12.4-24〉 13.6-24	
車体	クラッチ方式			乾式単板	
	制動装置			一系統左右独立（連結装置付），湿式ディスクブレーキ（機械式）	
	かじ取り方式			ボールスクリュ式（インテグラルパワーステアリング）	
	差動方式			４ピニオンかさ歯車式（デフロック付）	
	変速方式			主・副変速：シンクロメッシュ クリープ：コンスタントメッシュ	
変速段数（段）				前進 24 段，後進 16 段	前進 30 段，後進 20 段
走行速度（km/h）			前進	〈0.17 ～ 14.01〉 0.18 ～ 14.65	〈0.17 ～ 28.46〉 0.18 ～ 29.75
			後進	〈0.18 ～ 12.56〉 0.19 ～ 13.13	〈0.18 ～ 25.51〉 0.19 ～ 26.66
最小旋回半径(ブレーキ使用時)			m	〈2.2〉 2.2	
PTO	回転速度／エンジン回転速度		rpm 正転	549,775,960,1280/2600	
			逆転	960/2600	
	軸寸法		mm	JIS 35	
作業機昇降装置			制御方式	ポジションコントロール	
			装着方式	三点リンク　JIS　1形	

[ ]は安全フレーム仕様，〈 〉は小径タイヤ仕様

※ この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。

型式				GJE33K	GJE33KH
仕様				標準仕様	ハイスピード仕様
駆動方式				４輪駆動	
機体寸法	全長		mm	3190	
	全幅		mm	1550	
	全高		mm	[2050] 2255	
	軸距		mm	1730	
	輪距	前輪	mm	1170	
		後輪	mm	1150	
	最低地上高		mm	375	
質量(重量)			kg	[1710] 1885	[1715] 1890
エンジン	機関型式			D1803-CR-E4	
	形式			水冷４サイクル３気筒立形ディーゼル	
	総排気量		L	1.826	
	出力／回転速度		kW(PS)/rpm	24.3(33)/2600	
	使用燃料			ディーゼル軽油	
	燃料タンク容量		L	40	
	始動方式			セルモータ式（グロープラグ式）	
	バッテリ			80D26R	
タイヤ	前輪			8-18	
	後輪			クローラタイプ	
車体	クラッチ方式			乾式単板	
	制動装置			一系統左右独立（連結装置付），湿式ディスクブレーキ（機械式）	
	かじ取り方式			ボールスクリュ式（インテグラルパワーステアリング）	
	差動方式			４ピニオンかさ歯車式（デフロック付）	
	変速方式			主・副変速：シンクロメッシュ クリープ：コンスタントメッシュ	
変速段数（段）				前進 24 段，後進 16 段	前進 30 段，後進 20 段
走行速度（km/h）			前進	0.17 ～ 14.21	0.17 ～ 21.82
			後進	0.18 ～ 12.74	0.18 ～ 19.55
クローラ	幅 × 接地長		mm	400×910	
	リンク数 × ピッチ		mm	38×90	
	接地面積		cm²	7280	
	接地圧		kPa(kgf/cm²)	[12.5 (0.13)] 14.1 (0.14)	
	緩衝方式			揺動式（± ９ ° ）	
	遊輪／転輪			２ / ３	
PTO	回転速度／ エンジン回転速度		rpm	正転	549,775,960,1280/2600
				逆転	960/2600
	軸寸法		mm	JIS 35	
作業機昇降装置				制御方式	ポジションコントロール
				装着方式	三点リンク　JIS　1形

[ ] は安全フレーム仕様
1. 接地面積＝接地長（前遊輪と後遊輪の中心間距離）× ゴムクローラ幅とする。
2. 後輪距はゴムクローラ中心間距離とする。
3. 揺動角度は車体に対する揺動角度とする。(車体の左側から見て時計回り方向を＋，反時計回り方向を－)

※ この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。

付表

■走行速度表

(km/h)

		GJE33		GJE33H		GJE33S	
主変速レバー	クリープレバー	前進	後進	前進	後進	前進	後進
1	低	0.18	0.19	0.18	0.19	0.17	0.18
2		0.21	0.26	0.21	0.26	0.20	0.25
3		0.25	0.33	0.25	0.33	0.24	0.31
4		0.30	0.45	0.30	0.45	0.28	0.43
5		0.31	0.61	0.31	0.61	0.29	0.59
6		0.37	0.86	0.37	0.86	0.35	0.83
7		0.42	1.07	0.42	1.07	0.40	1.02
8		0.50	1.47	0.50	1.47	0.48	1.41
9		0.68	―	0.68	―	0.65	―
10		0.96		0.96		0.92	
11		1.19		1.19		1.14	
12		1.64		1.64		1.57	
1	高	1.56	1.67	1.56	1.67	1.49	1.60
2		1.86	2.36	1.86	2.36	1.78	2.25
3		2.20	2.92	2.20	2.92	2.10	2.79
4		2.63	4.02	2.63	4.02	2.52	3.84
5		2.72	5.46	2.72	5.46	2.61	5.22
6		3.26	7.70	3.26	7.70	3.12	7.36
7		3.75	9.54	3.75	9.54	3.59	9.12
8		4.48	13.13	4.48	13.13	4.29	12.56
9		6.09	―	6.09	―	5.83	―
10		8.59		8.59		8.22	
11		10.64		10.64		10.18	
12		14.65		14.65		14.01	
1	高速走行	―	―	12.37	11.09	―	―
2				17.45	15.64		
3				18.08	19.37		
4				21.62	26.66		
5				24.88	―		
6				29.75			

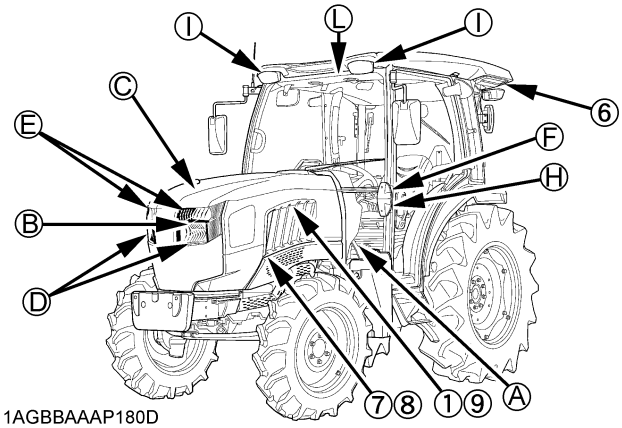
(km/h)

		GJE33HS		GJE33K		GJE33KH	
主変速レバー	クリープレバー	前進	後進	前進	後進	前進	後進
1	低	0.17	0.18	0.17	0.18	0.17	0.18
2		0.20	0.25	0.20	0.26	0.20	0.26
3		0.24	0.31	0.24	0.32	0.24	0.32
4		0.28	0.43	0.29	0.44	0.29	0.44
5		0.29	0.59	0.30	0.59	0.30	0.59
6		0.35	0.83	0.35	0.84	0.35	0.84
7		0.40	1.02	0.41	1.04	0.41	1.04
8		0.48	1.41	0.49	1.43	0.49	1.43
9		0.65	—	0.66	—	0.66	—
10		0.92		0.94		0.94	
11		1.14		1.16		1.16	
12		1.57		1.60		1.60	
1	高	1.49	1.60	1.51	1.62	1.51	1.62
2		1.78	2.25	1.81	2.29	1.81	2.29
3		2.10	2.79	2.13	2.83	2.13	2.83
4		2.52	3.84	2.55	3.90	2.55	3.90
5		2.61	5.22	2.64	5.30	2.64	5.30
6		3.12	7.36	3.16	7.47	3.16	7.47
7		3.59	9.12	3.64	9.25	3.64	9.25
8		4.29	12.56	4.35	12.74	4.35	12.74
9		5.83	—	5.91	—	5.91	—
10		8.22		8.34		8.34	
11		10.18		10.33		10.33	
12		14.01		14.21		14.21	
1	高速走行	11.84	10.61	—	—	9.07	8.13
2		16.69	14.96			12.80	11.47
3		17.30	18.53			13.26	14.21
4		20.68	25.51			15.85	19.55
5		23.80	—			18.25	—
6		28.46				21.82	

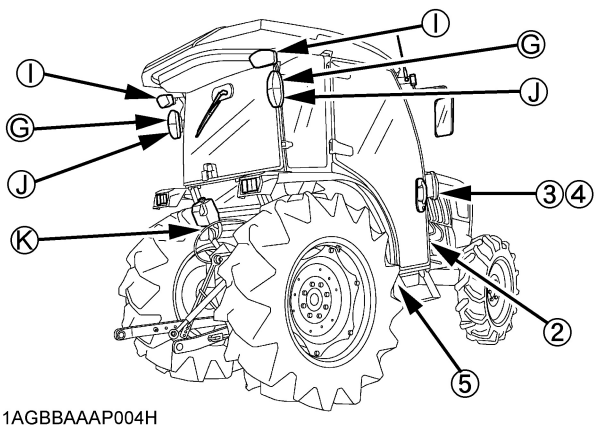
■標準付属品

品　　名	数量 / 台	備　考
メインスイッチキーアッシ	1	
取扱説明書	1	
保証書	1	
PTO 軸キャップ	1	
ボルト	1	PTO 軸キャップ用
取扱いのポイント	1	
省エネ運転ガイド	1	
CD プレーヤ取外し金具	1	安全キャブ仕様のみ（使用方法は 102 ページ参照）
インプルメント操作ボックス固定用金具セット	1	金具上下各１個，取付ネジ４個（安全キャブ仕様のみ）
盗難防止機能操作ガイド	1	
ロータリ爪固定工具セット	1	

主な消耗部品一覧表（純正部品を使いましょう）

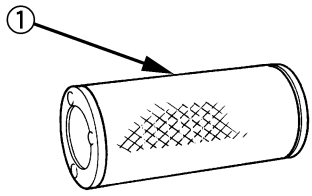


1AGBBAAAP180D



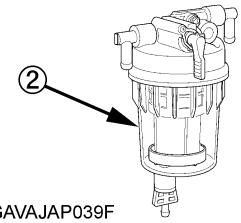
1AGBBAAAP004H

エアクリーナエレメント



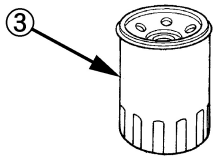
1AGAVAAAP162B

セパレータエレメント



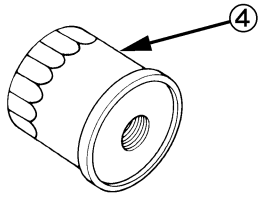
1AGAVAJAP039F

フューエルフィルタ



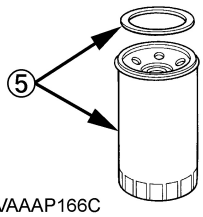
1AGACDAAP168B

エンジンオイルフィルタ



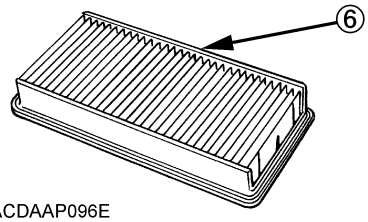
1AGAVAAAP164C

油圧オイルフィルタ



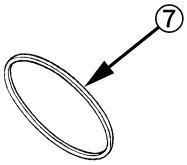
1AGAVAAAP166C

外気フィルタエレメント



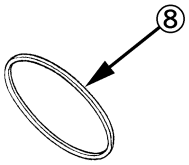
1AGACDAAP096E

ファンベルト



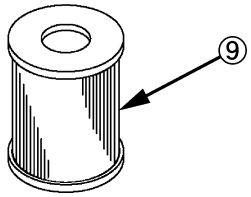
1AGADAPAP088S

エアコンベルト



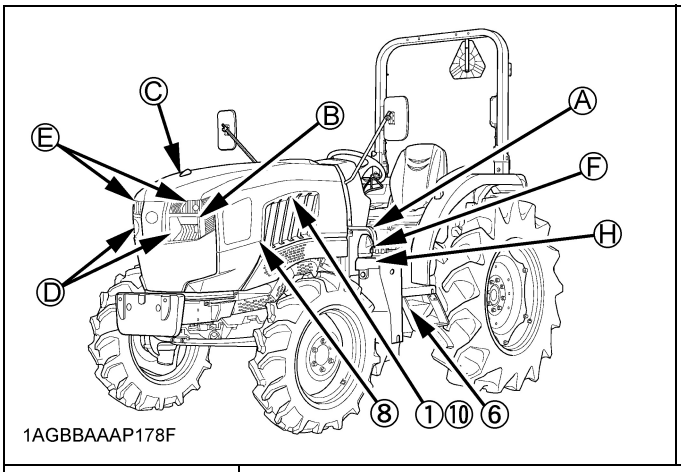
1AGADAPAP088T

オイルセパレータエレメント

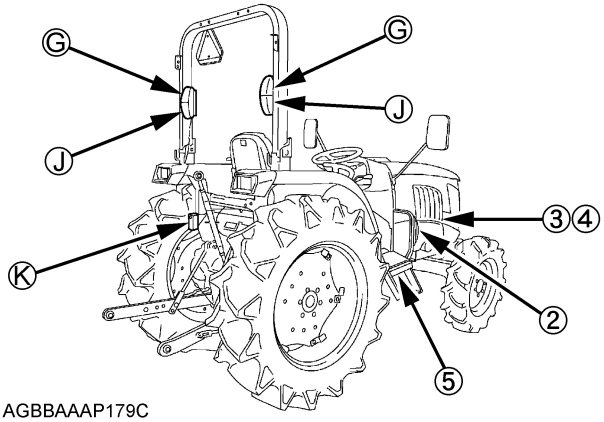


1AGBBACAP015F

図番	品　名	品　番	図番	品　名	品　番
①	エアクリーナエレメント	99740010860	⑥	外気フィルタエレメント ［安全キャブ仕様］	99660029230
②	セパレータエレメント	99930004590			
③	フューエルフィルタ	99930001510	⑦	ファンベルト（44インチ）［安全キャブ仕様］	95340000430
④	エンジンオイルフィルタ	99580001871		ファンベルト（43.5インチ）［安全フレーム仕様］	99740000550
⑤	油圧オイルフィルタ	95340000460	⑧	エアコンベルト	95340000810
			⑨	オイルセパレータエレメント	99820002830

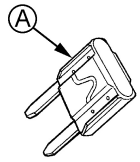


1AGBBAAAP178F



1AGBBAAAP179C

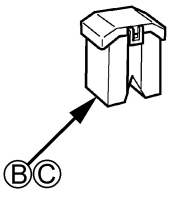
ヒューズ



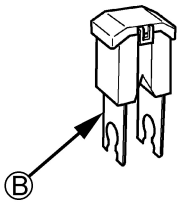
1AQAAAAAP033F

スローブローヒューズ

［プラグインタイプ］



［ネジ止めタイプ］



1AGADAPAP090F

電球



Ⓓ ヘッドライト
Ⓔ 作業灯（ヘッドライト上）
Ⓕ ウインカ前
Ⓖ ウインカ後
Ⓗ 車幅灯
Ⓘ 作業灯
Ⓙ 尾灯，ブレーキランプ
Ⓚ バックランプ
Ⓛ ルームランプ

1AQAAAAAP030O

図番	品　名		品　番	図番	品　名		品　番
Ⓐ	ヒューズ（ミニ 30A）		99790000440	Ⓑ	スローブローヒューズ (60A)（プラグインタイプ）	※2	95340000510
	ヒューズ（ミニ 20A）		97430000380				
	ヒューズ（ミニ 15A）		97430000370		スローブローヒューズ (80A)（ネジ止めタイプ）		99790001320
	ヒューズ（ミニ 10A）		97430000360				
	ヒューズ（ミニ 7.5A）		95340000500	Ⓒ	電源取出ヒューズ (60A)（プラグインタイプ）	※3	95340000510
	ヒューズ（ミニ 5A）		99790001220				
Ⓑ	スローブローヒューズ (60A)（プラグインタイプ）	※1	95340000520	Ⓓ	デンキュウ（H4,12V,60W/55W）		99580005060
				Ⓔ	デンキュウ（21W）		99580005070
	スローブローヒューズ (60A)（ネジ止めタイプ）		95340000440	Ⓕ	デンキュウ（21W）		99660029280
				Ⓖ	デンキュウ（21W）		99660029280
	スローブローヒューズ (80A)（ネジ止めタイプ）		99790001320	Ⓗ	デンキュウ（5W）		99660029310
				Ⓘ	デンキュウ（12V,35W ハロゲン）		95340000530
	スローブローヒューズ (40A)（プラグインタイプ）		95340000450	Ⓙ	デンキュウ（5W/21W）		99660029290
				Ⓚ	デンキュウ（21W）		99660029440
	スローブローヒューズ (40A)（プラグインタイプ）	※2	95340000450	Ⓛ	デンキュウ（5W）		99870003870

補　足

＊ 表内の記号 ※1 ～ ※3 は交換ヒューズに対応するトラクタの仕様を示しています。
※1：安全フレーム仕様
※2：安全キャブ仕様
※3：安全フレーム，安全キャブ仕様

パワクロ仕様足回り交換部品一覧表

品　番	品　名	適応型式	用途・仕様
クローラ			
95340000590	クローラ（ゴム 400*38*90）	GJE33K(H)	PC2 仕様 38 リンク
転輪			
95340000760	トラッククローラ，アッシ（F，S）	GJE33K(H)	中転輪
95340000770	トラッククローラ，アッシ（R，ヒダリ）		後・左転輪，前・右転輪
95340000780	トラッククローラ，アッシ（R，ミギ）		後・右転輪，前・左転輪
遊輪			
95340000630	アイドラ，アッシ（250）	GJE33K(H)	前遊輪
95340000610	アイドラ，アッシ（300）		
スプロケット			
95340000720	スプロケット	GJE33K(H)	
ガイド			
95340000620	ガイド（クローラ）	GJE33K(H)	

付表

アタッチメント一覧表（純正部品を使いましょう）

品　番	品　名	適応型式	用途・仕様	併用アタッチメント
補助車輪				
3218212020	11.2-24 ストレーク取付台	GJE33(H) (S 仕様を含む)	● 片側にストレーク 7 枚取付け用 ● 11.2-24 用	P20, P25, P30, P38 のいずれかを 7 組／台
3218212030	ストレーク取付台 アッシ		● 片側にストレーク 7 枚取付け用 ● 13.6-24 用	P20, P25, P30, P38 のいずれかを 7 組／台
3218212060	P20 反転 ストレークアッシ		シュー幅　20cm ピン式 構成は R, L 各 1 個	前記の取付台アッシ
3218212040	P25 反転 ストレークアッシ		シュー幅　25cm プレート式 構成は R, L 各 1 個	
3218212050	P30 反転 ストレークアッシ		シュー幅　30cm プレート式 構成は R, L 各 1 個	
三点リンク				
95340000470	トップリンクアッシ	GJE33(H) (S 仕様を含む)	一般作業機用	
油圧取出対応キット				
3218211920	KL350-R-AP 油圧取出キット	GJE33(H) (S 仕様を含む)	外部油圧取出を必要とするインプルメントに，油圧を供給するためのキット	
3218211930	KL350-Q-AP 油圧取出キット	GJE33(H)X	外部油圧取出を必要とするインプルメントに，油圧を供給するためのキット	

品　番	品　名	適応型式	用途・仕様	併用アタッチメント
ウエイト				
KT007049800	ウエイト（ホジョ）	GJE33(H)	10kg× ２個 前車軸フレームの前部内側に取付け	99660000360…4 コ (ボルト)
3218212080	前部ウエイト（25kg）	全型式	前部フック式ウエイト	取付台アッシ６，10 必要
3218212090	ウエイト取付台 アッシ６		25kg ウエイト６枚まで	3218212080 前部ウエイト（25kg）
3218212100	ウエイト取付台 アッシ 10		25kg ウエイト 10 枚まで	3218212080 前部ウエイト（25kg）
3218212110	前部ウエイトアッシ	GJE33(H)	28kg バンパの前部に取付け	
99580010490	バンパ（15）		15kg，20kg，30kg，40kg 前車軸フレーム前部に取付けているバンパを取外して装着するウエイトです。	99580011050…2 コ (ボルト) 99660001790…2 コ (ナット)
99580010580	バンパ（20）			
99580010590	バンパ（30）			99580011060…2 コ (ボルト) 99660001610…2 コ (ナット) 99100002600…2 コ (バネザガネ)
99580010510	バンパ（40）			99580011070…2 コ (ボルト) 99660001610…2 コ (ナット) 99100002600…2 コ (バネザガネ)
95340000550	バンパ（20）	全型式	20kg バンパの前部に取付け	ホイル仕様に装着する場合は，前車軸フレーム前部に取付けているバンパを取外して装着します。
3218212120	ウエイト，キット	全型式	25kg ウエイト４枚まで	ホイル仕様には バンパ（20） (95340000550) が 必要です。
3218212130	ウエイト取付台 アッシ（PC6）	全型式	25kg ウエイト６枚まで	3218212120 ウエイト，キット (25kg)
3218212140	ウエイト取付台 アッシ（PC10）	全型式	25kg ウエイト 10 枚まで	3218212120 ウエイト，キット (25kg)

付表

品　番	品　名	適応型式	用途・仕様	併用アタッチメント
その他				
3218212150	作業灯アッシ	全型式	12V27W　1個口 安全キャブ仕様には装着できません。	
3218212160	洗車ポンプ		後部PTOに取付け スーパージョイント付には取付けできません。	
3218212170	ヒッチアッシ		けん引作業時に使用	
3211650330	フード		樹脂製折りたたみ日よけ。 安全キャブ仕様には装着できません。	

インプルメント一覧表

警　告

＊ トラクタ後部用作業機を装着したとき，かじ取り車輪（前輪）にかかる荷重が総重量の 20％以上になるようにバランスウエイトを装着し，使用してください。
＊ 装着可能な最大ウエイトを装着してもかじ取り車輪（前輪）にかかる荷重が総重量の 20％以上を確保できない作業機は装着しないでください。
＊ フロントローダを使用するときは，安定性を高めるためトラクタ後部に作業機や適切なウエイトを装備してください。（詳細は購入先にご相談ください。）

◆ ロータリ・補助ユニット

品　番	品　　名	質量 (kg)	適　応　型　式	
			GJE33(H)	GJE33K(H)
7C077-05044	RZ17SC	299	○	○
7C077-05054	RZ17SWC	299	○	
7C078-05044	RZ18SC	307	○	○
7C078-05054	RZ18SWC	307	○	○
7C079-05044	RZ19SC	320	○	○
－	KGJE-WH （※1）		○	
－	KGJEK-WH （※2）			○

※1：トラクタ ホイル仕様用補助ユニット
※2：トラクタ パワクロ仕様用補助ユニット

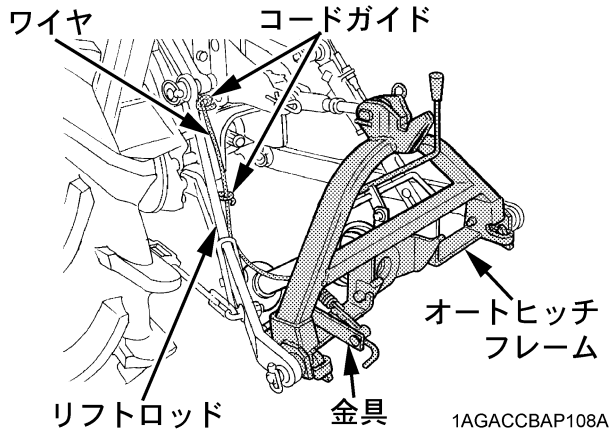
センサリンク取付要領

トラクタの出荷部品に入っているセンサリンクをオートヒッチフレーム及びロータリに取付ける場合は，以下の要領で行なってください。
また，作業機を取付けない時は，オートワイヤを収納してください。(**[作業のしかた]**の章の**[オートワイヤ]** の項を参照)

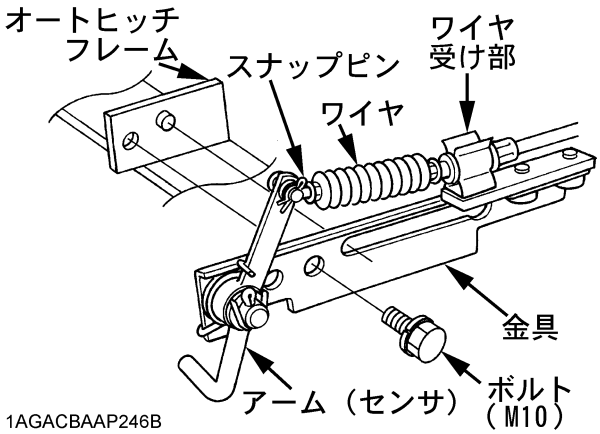
◆ オートヒッチフレーム側

[特殊 3P 仕様]

1. リフトロッドの上下にあるコードガイドにワイヤを通します。
2. 金具をオートヒッチフレームにボルト（M10）で取付けます。
3. 仮付けしてあるスナップピンを外し，ワイヤをアーム（センサ）に取付け，スナップピンでセットします。
4. ワイヤを金具のワイヤ受け部に取付けます。



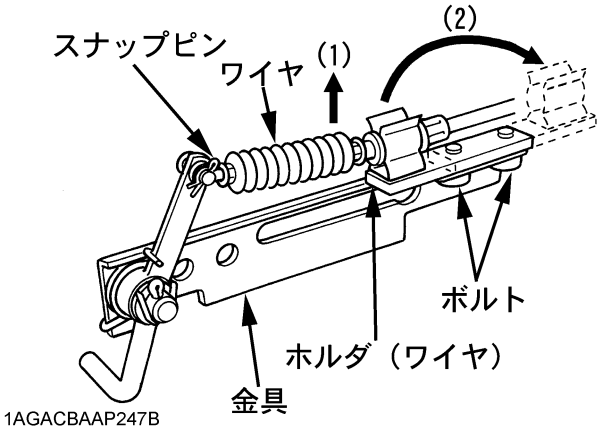
1AGACCBAP108A



1AGACBAAP246B

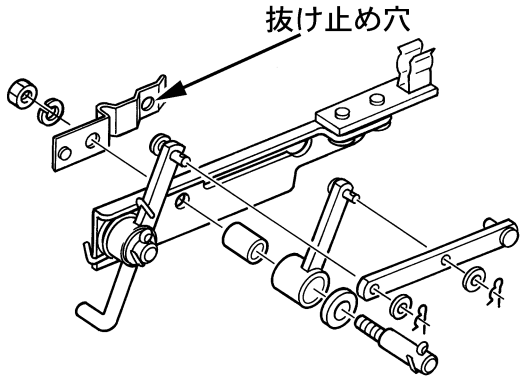
[W3P 仕様]

1. 特殊 3P 仕様の金具を組替えてください。
   (1) スナップピンを外し，金具とホルダ（ワイヤ）からワイヤを取外します。
   (2) ボルトを外しホルダ（ワイヤ）を逆向きに組替えます。



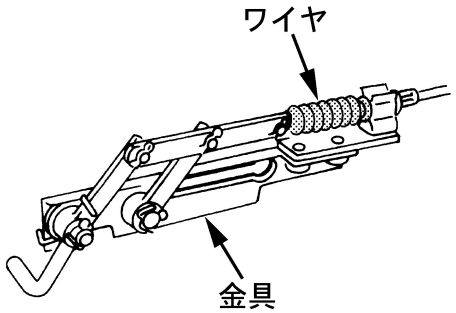
1AGACBAAP247B

2. 付属の部品を下図の様に取付けてください。
(付属の部品は「W3P」用補助ユニットに入っています。)



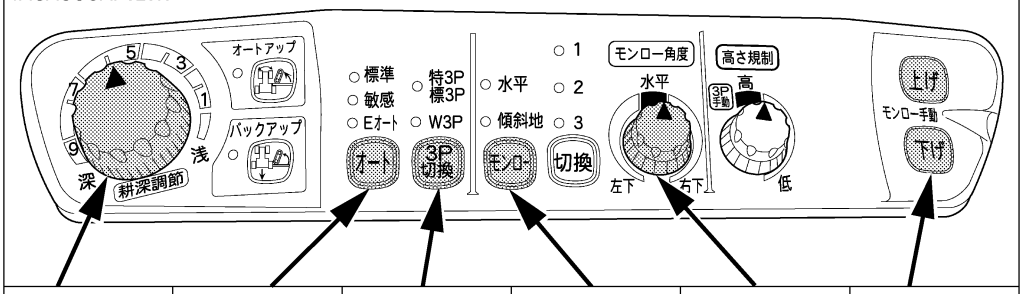
1AHACAEAP034B

3. ワイヤを金具に組付けます。



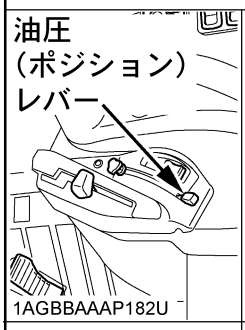
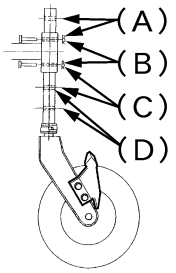
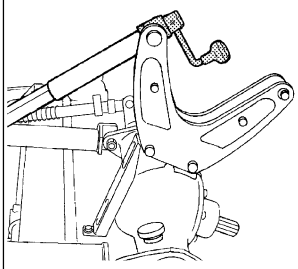
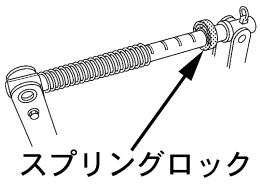
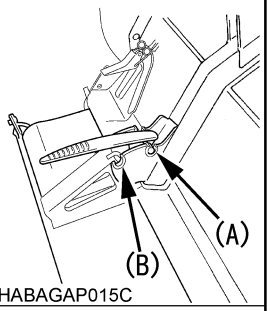
1AGACBAAP249A

作業ごとの一般的な調整要領

作業内容		操作調整箇所 1AGACCOAP029N  					
		耕深調節 ダイヤル	オート スイッチ	３Ｐ切換 スイッチ	モンロー スイッチ	モンロー 角度ダイヤル	モンロー 手動スイッチ
モンロー マチック・ オート **［入］**	浅起こし (5～8cm)	希望耕深になるよう調節	標　準 又は 敏　感	Ｗ３Ｐ仕様は，Ｗ３Ｐ 特３Ｐ仕様は，特３Ｐ 標３Ｐ	水平	水平	－
	一般耕うん (8～15cm)						
	深起こし (15cm以上)						
	代かき 湿　田		敏　感 又は 標　準				
	カバーを上げての耕うん		Ｅオート				
	傾斜地の耕うん		標　準 又は 敏　感		傾斜地		タイヤ沈下量に応じ調整
モンロー マチック・ オート **［切］**	浅起こし (5～8cm)	－	切 （全ランプ消灯）	－	切 （全ランプ消灯）	－	－
	一般耕うん (8～15cm)						
	深起こし (15cm以上)						
	代かき						
	うね立て						
	傾斜地の耕うん						

補　足

＊ ワンタッチ耕うんモードスイッチを**［入］**にすると，モンロー水平，オート標準，AD 倍速，オートアップ，バックアップが**［入］**になります。（**［作業のしかた］**の章の**［ワンタッチ耕うんモードスイッチ］**の項を参照）

<table>
<tr><th colspan="5">操　作　調　整　箇　所</th></tr>
<tr>
<td>
</td>
<td>
</td>
<td>
</td>
<td>
</td>
<td>
</td>
</tr>
<tr><td>油圧(ポジション)
レバー</td><td>後２輪上下調節</td><td>後２輪ハンドル</td><td>スプリングロック</td><td>フラップカバー</td></tr>
<tr><td rowspan="5">最下位置</td><td rowspan="5">後２輪を外す</td><td rowspan="5">－</td><td rowspan="5">ロータリカバー２を下げる
スプリングロックを接地圧条件に合せてセット</td><td>(B)の位置</td></tr>
<tr><td>(A)の位置</td></tr>
<tr><td>(B)の位置</td></tr>
<tr><td>任意調整</td></tr>
<tr><td>耕うん深さに応じ任意調整</td></tr>
<tr><td rowspan="6">最下位置</td><td>(A)又は(B)の位置</td><td rowspan="6">希望耕深になるよう調整

（うね立て時は後２輪ハンドルで，うね高さを調整する）</td><td rowspan="6">ロータリカバー２を下げる
スプリングロックを接地圧条件に合せてセット</td><td>(B)の位置</td></tr>
<tr><td>(B)の位置
(必要に応じて(C)の位置)</td><td>(A)の位置</td></tr>
<tr><td>(D)の位置</td><td rowspan="2">(B)の位置</td></tr>
<tr><td>(A)の位置</td></tr>
<tr><td>後２輪を外す</td><td>フラップカバーを外す</td></tr>
<tr><td>耕うん深さに応じ任意調整</td><td>耕うん深さに応じ任意調整</td></tr>
</table>

補　足

＊ 主な作業ごとの一般的な調整要領を記載しています。土質など作業条件にあわせ適宜調整してください。

＊ 高さ規制・オートアップ・バックアップスイッチなどは，作業に応じて使用してください。

インプルメントの大きさの上限について

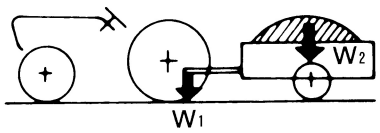
警 告

＊ トラクタの後部にインプルメントを装着する場合，必要に応じトラクタ前部に適正なウエイトを取付けてください。前車軸にかかる重量は総重量の 20％以上になるようにしてください。それ以下になると，前輪のステアリング操作が難しくなったり，前が浮いて転倒事故につながる場合があります。

トラクタに装着するインプルメントは適正な大きさのものを使用してください。大きすぎるインプルメントの使用はトラクタの故障につながります。特にトレーラについては下表にもとづいて適正なインプルメントを選択してください。

インプルメントの大きさの上限

けん引ヒッチ又は ドローバにかけることが できる最大の重量 W1	使用可能なトレーラの 最大積載荷重 W2
500 kg	1500 kg



1AGACBAAP291A

索引

英数字

100 時間ごとの点検・整備 126
1500 時間ごとの点検・整備 139
１年ごとの点検・整備 140
200 時間ごとの点検・整備 130
２年ごとの点検・整備 141
３カ月ごとの点検・整備 140
30 時間ごとの点検・整備 121
3000 時間ごとの点検・整備 140
300 時間ごとの点検・整備 136
3P 切換スイッチ 77
三点リンク 83
三点リンク高さ規制ダイヤル 69
400 時間ごとの点検・整備 137
50 時間ごとの点検・整備 122
600 時間ごとの点検・整備 139
800 時間ごとの点検・整備 139
CD/MP3 プレーヤの取扱いについて［安全キャブ仕様のみ］..... 102
DPF 差圧センサパイプの点検 140
DPF 差圧センサホースの交換 142
DPF の再生に関する豆知識 15
DPF の点検 116
DPF マフラの再生方式 8
DPF マフラの清掃 140
EGR クーラの点検・清掃 139
EGR システムの点検・清掃 140
EGR パイプの点検 140
e-アシスト旋回 57
PM 堆積の警告レベルと必要な処置（再生禁止モード）..... 13
PM 堆積の警告レベルと必要な処置（自動再生モード）..... 11
PTO..... 87
PTO 軸カバー，PTO 軸キャップ 90
PTO 変速レバー 89

あ行

アクセルレバーとアクセルペダル 41
アタッチメント一覧表（純正部品を使いましょう）..... 164
暗証番号の変更方法 53
暗証番号の入力方法 55
あんしん PTO スイッチ 87
安全キャブ・安全フレームとシートベルト . 24
アンテナ 103
イージーチェッカ 60
一般的な耕うん要領 94
インプルメント一覧表 167
インプルメントの大きさの上限について ... 171
ウインカスイッチ 26
ウエイト（オプション）..... 93
ウォータセパレータの水の排出 114
ウォッシャ液の補充 145
運転席周りの調節 23
運転中の作動確認 60
運転前の点検 6
運転免許 5
エアクリーナエレメントの交換 140
エアクリーナエレメントの清掃 128
エアコン機器の簡易点検 140
エアコンコンデンサの詰まり 135
エアコンベルトの張り 136
エアコン配管，ホースの点検 140
液晶表示 44
液晶モニタの表示 7
エキゾーストパイプ及びマフラの状態 129
エキゾーストマニフォールドの点検 140
エンジンオイル・ミッションオイル 110
エンジンオイルの交換 130
エンジンオイルの量及び汚れ 112
エンジンオイルフィルタカートリッジの交換 131
エンジン始動セキュリティ機能 52
エンジン始動セキュリティ機能の［入］/［切］設定方法（工場出荷時：OFF に設定）. 54
エンジン回転メモリ操作方法 57
エンジン回転メモリ設定 56
エンジンの始動と停止 15
エンジンの始動確認 119
エンジンの排気の状態 119
エンジンの不調と処置 149
エンジンバルブクリアランスの点検 139
エンジン回転計 61
エンジン始動システムの点検 123
オイルクーラホースの交換 142
オイルクーラホースの点検 132
オイルセパレータエレメントの交換 139
オイルセパレータホースの交換 142
オイルセパレータホースの点検 132
オートアップスイッチ 72
オートエアコン 99
オートグロー 18
オートスイッチ 81
オートワイヤ 84
お問合わせについて 102
主な消耗部品一覧表（純正部品を使いましょう）..... 161

か行

外気フィルタの清掃 134
外部電源・信号取出端子 28
外部電源取出端子 28
格納 147
各部の名称（三点リンク） 83
各部の名称（モンローマチック・オート） . 75
各変速レバーの取扱い 34
寒冷時のワイパの使用 98
寒冷時の暖機運転 22
キースイッチ 17
吸気ホースの交換 142
吸気ホースの点検 132
給油（水）一覧表 109
切換スイッチ 80
空気の流れ 99
クォータウインド 96
クラッチハウジングの水抜き 124
クラッチペダル 33
クラッチペダルの点検・調整 129
クラッチペダルの遊び・点検 117
グリース 110
グリースの注入（30 時間ごと） 121
グリースの注入（50 時間ごと） 122
クリープレバー 37
クローラガイドの点検 136
けん引ヒッチ（別売） 86
けん引フック 87
耕深調節ダイヤル 82
公道走行時の注意 5
後輪 91
後輪輪距 92
小型特殊自動車としての取扱い 4
小型特殊自動車取得の届出と標識（ナンバープレート）の取付け 4
ご相談窓口 1
ゴムクローラの交換 146
ゴムクローラの点検 136
ゴムクローラの張り調整 120
コントロールパネル 100

さ行

サービスと保証 1
再生操作手順 10
サイドカバーの取り外し 111
坂道での運転 63
作業機の装着 103
作業機の取扱い 82
作業機用操作ボックスの取付 103
作業機落下速度の調整 73
作業機を装置しているトラクタの保管について 148
作業機を取付けないときの注意 86
作業機昇降装置 69
作業機落下速度の調整 73
作業ごとの一般的な調整要領 169
作業条件メモ 51
作業灯 98
作業灯スイッチ 98
サプライポンプの点検 140
サンバイザ［ハイスピード (H) 仕様のみ］.. 98
シート 23
時刻合わせと表示・非表示の設定 60
始動のしかた 16
シャトルレバー 38
車幅灯・尾灯 28
主変速レバー 34
主要諸元 156
省エネ運転のしかた 41
状況に応じた操作 62
水温計 62
推奨オイル・グリース一覧表 110
ステアリングジョイント部の点検 133
スプロケットの交換 146
スプロケットの点検 136
スローブローヒューズの交換 144
セパレータの確認 113
セパレータの清掃 138
旋回のしかた 63
センサリンク取付要領 168
前日の異常箇所 112
前車軸ケースオイルの交換 136
洗車時の注意 104
前部ウエイト（オプション） 93
前部デフケース前後遊びの調整 139
前輪 91
走行モード切換スイッチ 39
走行速度表 158
操作手順 12
その他のアクセサリ 98
損害賠償保険について 5

た行

タイヤ 90
タイヤの空気圧 90
タイヤの空気圧，及び摩耗，損傷 115
タイヤ取付けボルトの点検 123
チェックチェーン 85
駐車ブレーキ 41
駐車ブレーキの作動点検 117
注油 145
長期格納後の運転 148
長期格納時の手入れ 147
チルトステアリングハンドル 25

索引

ディーゼル・パティキュレート・フィルタ（DPF）マフラ 6
定期点検箇所一覧表 106
停止のしかた 21
停車・駐車 31
低速車［SMV］マーク 4
デフロックの使い方 62
電子エンジン制御 56
電子メータ 43
電子メータパネル 43
電子メータパネル（その他表示） 50
電子メータメッセージのリセット法 49
転輪・遊輪の点検 136
ドア 95
ドア・窓の開閉とロック 95
灯火類の操作 26
道路走行中の注意 64
トーイン調整・タイロッドの点検 133
トップリンク 85
トラクタの給油（水） 109
トラクタの故障と処置 151
トラクタの主要諸元 156
トラクタの周りを歩いて 112
トラクタの方向転換のしかた 94
トラックへの積み・降ろし 65
トランスミッションオイルフィルタカートリッジの交換 133
取扱説明書の収納 2
取扱いポイント 7
トレーラカプラ電源 29

な行

内気フィルタの清掃 134
ならし運転（最初の約 50 時間） 23
日常点検 112
日常点検箇所一覧 120
日常点検［パワクロ仕様］ 119
燃料インジェクタの点検 139
燃料給油時の便利な機能と装置 119
燃料計 61
燃料の空気抜きのしかた 143
燃料の補給 119
燃料フィルタカートリッジの交換 138
燃料ホースの交換 142
燃料ホースの点検 125
農機型式一覧表 3

は行

排ガス後処理装置 6
廃棄物の処理について 104
バキュエータバルブの清掃 114
ハザードスイッチ 27
バックアップスイッチ 73
バックミラー 26
バックランプ 28
発進・走行 30
バッテリあがりの処置 23
バッテリ電解液の点検 126
パワーステアリングの取扱い 66
パワーステアリングホースの交換 142
パワーステアリングホースの点検 124
パワクロ仕様足回り交換部品一覧表 163
パワクロ仕様の運転のしかた 66
ヒータ使用上の注意 101
ヒータ配管，ウォータホースの点検 140
必要に応じた点検・整備 143
一うねおき耕うんのしかた 94
ヒューズの交換 143
表示の切替え 47
標準付属品 160
ブーストセンサホースの交換 142
ファンベルトの点検・調整 128
風向調整 100
不調と処置 149
ブレーキペダル 32
ブレーキペダルの点検・調整 129
ブレーキペダルの遊び・点検 117
ブレーキランプ 28
プレーヤ機器の電源が入らない時の対応 102
プレーヤ機器本体の外し方 102
フロントサイド作業灯 27
フロントワイパ・ウォッシャスイッチ 97
ヘッドライトスイッチ 26
ヘッドランプの交換 144
防虫網の清掃 115
ホーンボタン 27
ホーン接点のグリース塗布 145
補修用部品の供給年限について 2
ほ場への出入り時の注意 63
本機で利用できないプレーヤ機器の機能について 102
ボンネットの開閉 111
ボンネットの開閉及びサイドカバーの外し方 111
ポンパレバー / ポンパスイッチ（安全キャブ仕様のみ） 70

ま行

満タンお知らせブザーの取扱い 119
ミッションオイルの交換 137
ミッションオイルの量及び汚れ 113
メインシリンダホースの交換 142
メータ・ランプ類の作動 118
メータパネル表示 41
メンテナンス表示 50
モニタランプ 19

モンローシリンダホースの交換 142
モンローマチックオート 75
モンロースイッチ 78
モンロー角度調節ダイヤル 81
モンロー手動スイッチ 82

や行

油圧（ポジションコントロール）レバー ... 69

ら行

ラジエータの洗浄 142
ラジエータホースの交換 142
ラジエータホースの点検 131
ランプ一覧 145
リヤウインド 96
リヤワイパ・ウォッシャスイッチ 97
輪距 5
輪距の調整 91
隣接耕うんのしかた 94
ルームミラー 99
ルームランプ 97
冷却水の交換 141
冷却水の量 113
冷媒（ガス）量の点検 146
ロアリンク取付け穴の選択 84
ローダ作業 68

わ行

ワイパ 97
ワイヤハーネス，バッテリ (+) コードの
点検・交換 114
ワンタッチ耕うんモードスイッチ 76